

平成23年度  
東海地震についての  
県民意識調査



# 東海地震についての県民意識調査

## 目 次

### 調査の概要と調査結果の要約

1	調査の概要	1
1 - 1	調査目的	1
1 - 2	調査内容	1
1 - 3	調査実施概要	1
1 - 4	標本構成	3
1 - 5	集計・分析におけるパターン分類の説明	4
1 - 6	摘要と標本誤差	5
2	調査結果の要約	6
2 - 1	東海地震について	6
2 - 2	日ごろの防災対策について	6
2 - 3	住宅の耐震補強について	7
2 - 4	自主防災組織・防災訓練について	7
2 - 5	東海地震が突然発生したときの行動について	8
2 - 6	警戒宣言が発せられたときの行動について	8
2 - 7	地震に関する情報について	9
2 - 8	緊急地震速報について	10
2 - 9	東日本大震災に関することについて	10

### 東海地震についての県民意識調査結果

1	東海地震について	11
1 - 1	東海地震への関心度	11
1 - 2	2～3年前に比べての関心度	14
1 - 3	東海地震発生メカニズムの認知と情報の入手先	17
1 - 4	東海地震による家屋の被害程度	22
1 - 5	東海地震発生時の津波の速さの認知	26
1 - 6	東海地震を中心とした情報を定期的に提供する方法	29
2	日ごろの防災対策について	32
2 - 1	非常持出し用食料の備蓄日数	32
2 - 2	飲料水の備蓄日数	38
2 - 3	家具類の固定	44
2 - 4	ブロック塀・門柱などの安全対策	47
2 - 5	東海地震に備えての防災対策	48
2 - 6	東海地震で想定される被害想定	56
3	住宅の耐震補強について	58
3 - 1	家屋の構造と耐震診断	58

3 - 2	プロジェクト「TOUKAI - 0」の認知	62
3 - 3	耐震化に対する行政への要望	66
4	自主防災組織・防災訓練について	70
4 - 1	町内会への加入	70
4 - 2	自主防災組織への加入と活動状況	71
4 - 3	自主防災組織の活性化のための方策	76
4 - 4	地震防災訓練への参加状況	78
4 - 5	指定避難地の認知	84
4 - 6	避難所で避難生活を送る場合の心配ごと	86
5	東海地震が突然発生したときの行動について	87
5 - 1	突然地震が発生したときの行動	87
5 - 2	地震発生後の防災活動への参加	89
5 - 3	突然地震が発生したときの自分自身の安全性	91
5 - 4	突然地震が発生したときの避難行動	94
6	警戒宣言が発せられたときの行動について	96
6 - 1	警戒宣言発令時の行動	96
6 - 2	避難該当地域であるかの認識	98
6 - 3	居宅で警戒宣言が発せられた場合の避難	99
7	地震に関する情報について	102
7 - 1	情報体系の認知	102
7 - 2	東海地震予知の可能性	106
7 - 3	「東海地震に関連する調査情報」認知度について	108
7 - 4	東海地震注意情報発表時の行動	112
7 - 5	東海地震注意情報発表時の行政への要望	113
7 - 6	地震防災情報の入手	115
7 - 7	「自主防災」新聞の配布について	118
8	緊急地震速報について	120
8 - 1	緊急地震速報についての認知	120
8 - 2	緊急地震速報入手時の行動	125
9	東日本大震災に関することについて	127
9 - 1	地震直後の情報入手手段	127
9 - 2	地震直後に入手したい情報	130
9 - 3	地震経験後に新たに実施した準備や行動	133
9 - 4	今後の行政への要望	136
付	調査票（単純集計入り）	142

---

---

## 調査の概要と調査結果の要約

---

---



---

---

# 1 調査の概要

---

---

## 1 - 1 調査目的 .....

静岡県民の東海地震に対する防災対策の実施状況や東海地震注意情報及び警戒宣言発表時の対応・行動等を調査し、その意識の実態や経年的な変化等を把握することにより、地震防災に係る施策を検討するうえでの基礎資料を得るため。

## 1 - 2 調査内容 .....

本調査の質問内容の概要は、以下のとおりである。詳細については巻末の「付・調査票（単純集計入り）」を参照。

- 1 東海地震について
- 2 日ごろの防災対策について
- 3 住宅の耐震補強について
- 4 自主防災組織・防災訓練について
- 5 東海地震が突然発生したときの行動について
- 6 警戒宣言が発せられたときの行動について
- 7 地震に関する情報について
- 8 緊急地震速報について
- 9 東日本大震災に関することについて

## 1 - 3 調査実施概要 .....

本調査は、以下の要領で実施した。

- |          |   |
|----------|---|
| (1) 母集団  | 県内に居住する満20～69歳の男女（抽出時点）   |
| (2) 標本数  | 2,000サンプル   |
| (3) 標本抽出 | 住民基本台帳より無作為2段抽出（平成23年10月1日現在）   |
| (4) 調査地域 | 賀茂地域（3市町）<br>...下田市、東伊豆町、松崎町<br>東部地域（13市町）<br>...沼津市、熱海市、三島市、富士宮市、伊東市、富士市、御殿場市、裾野市、伊豆市、伊豆の国市、函南町、清水町、長泉町<br>中部地域（6市町）<br>...静岡市、島田市、焼津市、藤枝市、牧之原市、吉田町<br>西部地域（8市町）<br>...浜松市、磐田市、掛川市、袋井市、湖西市、御前崎市、菊川市、森町<br>以上30市町 |

( 5 ) 調査期間 平成23年10月24日～11月7日

( 6 ) 調査方法 郵送調査法

( 7 ) 回収状況

地 域	配布数	回収数	回収率
賀茂地域	86	47	54.7%
東部地域	603	322	53.4%
中部地域	614	370	60.3%
西部地域	697	415	59.5%
無 回 答	-	17	-
全 体	2,000	1,171	58.6%

但し、上記回収数は集計対象数。

( 8 ) 調査機関 株式会社e-エントリー



1 - 4 標本構成

《性  
別》

	標本数	男性	女性	無回答
賀茂地域	47	20	26	1
東部地域	322	152	169	1
中部地域	370	172	198	0
西部地域	415	190	225	0
無回答	17	0	1	16
全体	1,171	534	619	18

《年  
代》

	標本数	20 ～ 29 歳	30 ～ 39 歳	40 ～ 49 歳	50 ～ 59 歳	60 歳 以上	無 回 答
賀茂地域	47	6	6	9	11	14	1
東部地域	322	45	49	74	68	86	0
中部地域	370	46	61	75	93	95	0
西部地域	415	71	63	81	91	109	0
無回答	17	0	0	0	1	0	16
全体	1,171	168	179	239	264	04	17

《職  
業》

	標本数	正社員	正社員以外	自営業	農林漁業	学生	無職	その他	無回答
賀茂地域	47	13	11	8	2	1	11	0	1
東部地域	322	133	74	27	3	8	67	10	0
中部地域	370	146	72	47	6	10	81	8	0
西部地域	415	160	83	33	5	16	105	13	0
無回答	17	0	0	0	0	0	1	0	16
全体	1,171	52	240	115	16	5	265	1	17

《居住年数》

	標本数	1 年未 満	1 ～ 10 年未 満	10 年 以上	無 回 答
賀茂地域	47	2	5	39	1
東部地域	322	11	66	245	0
中部地域	370	9	60	301	0
西部地域	415	14	79	322	0
無回答	17	0	1	0	16
全体	1,171	36	211	907	17

1 - 5 集計・分析におけるパターン分類の説明

「防災準備度」については、日ごろの防災対策の準備度に関連する質問を設定し、それぞれに得点を与えてスケール化し、パターン分類を行った。

パターン分類は、以下のとおりである。

1	非常持出し用としての 食料の備蓄日数  問7	1 1日分 } ..... 1点 2 2日分 } 3 3日分 } 4 4日分 } 5 5日分 } ..... 2点 6 6日分 } 7 7日以上 } 8 用意していない ..... 0点
2	飲料水の備蓄日数  問8	1 1日分 } ..... 1点 2 2日分 } 3 3日分 } 4 4日分 } ..... 2点 5 5日以上 } 6 備蓄していない ..... 0点
3	家具類の固定 問9	1 大部分固定している ..... 2点 2 一部固定している ..... 1点 3 固定していない ..... 0点
4	東海地震に対する防災対策 問11	1~14の記入合計が 1~3個 ... 1点 4~7個 ... 2点 8~12個 ... 3点 13~15個 ... 4点 1~14の記入がない場合 } 15 特に備えていない } ..... 0点
5	耐震診断の実施 問13-3	1 ある ..... 1点 2 検討中 } ..... 0点 3 ない }
6	自主防災組織への加入 問17	1 入っている ..... 1点 2 入っていない } 3 自主防災組織はない } ..... 0点 4 わからない }
7	地震防災訓練への参加 問19	1 参加した(1~3) ..... 各1点(計3点) 4 機会がなかった(訓練はなかった) } 5 参加しなかった } ..... 0点
合 計		15点

上表の質問について、それぞれの回答の得点を加算し、防災準備度を次のように

「高」「中」「低」に分類した。

得点合計が「11~15点」の者・・・防災準備度「高」

「6~10点」の者・・・防災準備度「中」

「0~5点」の者・・・防災準備度「低」

- (1) 図中の「N」は、回答総数 (Number) を示し、「M.A.」は、複数回答可 (Multi Answer) を示す。
- (2) すべての集計は、小数点第2位を四捨五入して算出した。したがって、回答比率を合計しても、100%にならず、1%の範囲で増減することがある。
- (3) 回答比率 (%) は、その設問の回答者数を基数 (N) として算出した。したがって、複数回答の設問はすべての比率を合計すると100%を超える。
- (4) 標本誤差 (サンプル誤差) はおおよそ下表のとおりである。

$$= 2 \sqrt{\frac{P(1-P)}{n}}$$

: 標本誤差  
n : 標本の大きさ  
P : 回答比率

回答比率	基数	標本誤差	信頼範囲
10% (90%)	1,171	±1.8	8.2 ~ 11.8 (88.2 ~ 91.8)
20% (80%)	1,171	±2.3	17.7 ~ 22.3 (77.7 ~ 82.3)
30% (70%)	1,171	±2.7	27.3 ~ 32.7 (67.3 ~ 72.7)
40% (60%)	1,171	±2.9	37.1 ~ 42.9 (57.1 ~ 62.9)
50%	1,171	±3.0	47.0 ~ 53.0

この表の見方は次のとおりである。

「ある設問の回答者が1,171人であり、その設問中の選択肢の回答率が60%であった場合、その回答比率の誤差の範囲は最高でも±2.9である。」

- (5) 選択肢において、「その他」の具体的記述欄に同じ内容の回答が多数あった場合は、グラフ中で新たな回答項目として整理し、比較している。

---

---

## 2 調査結果の要約

---

---

### 2 - 1 東海地震について .....

東海地震についての関心度については、「非常に興味がある」（63.8%）と「多少興味がある」（33.6%）を合わせた97.4%が関心を示している。「非常に興味がある」は、平成21年度調査（以下「前回」と表記する）より14.0ポイント上回っている。

2～3年前に比べての関心度の変化については、「2～3年前よりも関心を持つようになった」（79.2%）が、前回より21.2ポイント上回っている。また、「変わらない」（19.1%）が前回より18.9ポイント下回っている。

東海地震発生メカニズムについては、「よく知っている」（8.2%）と「ある程度知っている」（61.6%）を合わせた69.8%がメカニズムを認知している。女性（63.5%）より男性（77.3%）の認知率が高くなっている。

東海地震発生メカニズムに関する情報の入手先については、「テレビ・ラジオ」（89.1%）が9割近くを占め、次いで「新聞」（55.1%）、「県・市町の広報誌・手引書・パンフレット等」（19.0%）、「雑誌・本」（18.7%）の順となっている。性・年代別でみると、「新聞」は年代が上がるにつれて高くなる傾向が見られる。

東海地震による家屋の被害程度については、「家の一部が壊れる」（40.1%）と「家のほとんどが壊れる」（28.9%）を合わせた69.0%が何らかの被害があると予想している。

東海地震発生時の津波の速さの認知については、「5分以内」（41.4%）が、前回より8.3ポイント低下している。

東海地震を中心とした情報を定期的に提供する方法については、「テレビによる報道」（68.3%）が7割近くを占めている。

### 2 - 2 日ごろの防災対策について .....

非常持出し用食料の備蓄日数については、「3日分」以上用意している家庭が39.6%で、平均備蓄日数は2.1日となっている。「3日分」以上の備蓄率を経年比較すると、この数年では増加している。

食料を備蓄していない人の食料確保の手段については、「考えていない」（41.9%）、「東海地震注意情報発表や警戒宣言が発せられた後に準備する」（17.3%）の割合が高くなっている。

飲料水の備蓄日数については、「3日分」以上用意している家庭が37.2%で、平均備蓄日数は2.1日となっている。「3日分」以上の備蓄率を経年比較すると前回より4.1ポイント上回っている。

飲料水を備蓄していない人の飲料水確保の手段については、「考えていない」（40.6%）、「東海地震注意情報発表や警戒宣言が発せられた後に準備する」（18.8%）の割合が高くなっている。

家具類の固定については、「大部分固定している」（14.4%）と「一部固定している」（55.4%）を合わせた69.8%が固定を実施している。固定実施率を経年比較すると少しずつ高くなっている。

家具を固定していない理由については、「手間がかかるから」（19.2%）、「固定をしても被害は出ると思うから」（18.3%）と固定しない理由は分散している。

ブロック塀や門柱などの安全対策の実施状況については、「点検した」が18.5%で、点検結果は「安全」が64.5%となっている。

ブロック塀や門柱を所有しながらも点検していない理由については、「点検方法が分からないから」(32.5%)、「点検しなくても大丈夫だと思うから」(18.8%)が主な理由としてあげられている。

東海地震に備えての防災対策については、「非常持出品を用意している」(50.8%)が最も高く、次いで「警戒宣言が発せられた時や突発地震の時に避難する場所を決めている」(40.2%)、「消火器などを用意している」(39.8%)、「家族との連絡方法を決めている」(28.4%)の順となっている。

用意している非常持出品の品目については、「懐中電灯」(90.8%)が最も高く、次いで「飲料水」(76.1%)、「非常食」(75.0%)、「携帯ラジオ」(66.4%)の順となっており、平均準備品目数は9.6品となっている。

東海地震で想定される被害については、「津波危険予想地域」(31.3%)が最も高く、次いで「特にない」(23.2%)、「わからない」(22.9%)の順となっている。

## 2 - 3 住宅の耐震補強について .....

家屋の構造については、「木造住宅」(77.6%)が最も高く、次いで「鉄骨造住宅」(14.7%)、「鉄筋コンクリート造住宅」(5.2%)の順となっている。

「木造住宅」の建築時期については、「昭和56年5月以前」(37.6%)が3割を超えており、「昭和56年5月以前」に建築された木造住宅の無料耐震診断の認知度については、「知っている」(63.2%)が6割以上を占めている。

「木造住宅」の耐震診断の実施率については、「ない」(67.0%)が6割を超えており、「ある」は25.4%である。

木造住宅の耐震診断の結果については、「補強が必要」(77.0%)が7割を超えており、補強の実施の有無については、「した」(43.3%)と「検討中」(25.4%)を合わせた68.7%が補強に積極的である。

補強を行わない理由については、「費用がかかるから」(71.4%)が最も高くなっている。

プロジェクト「TOUKAI-0」の認知については、「内容までよく知っている」(4.4%)と「一部知っている」(30.6%)を合わせた35.0%がある程度内容まで認知している。

認知経路については、「県や市町の広報誌」(48.2%)が最も高く、次いで「新聞記事」、「テレビ・ラジオ」(いずれも31.3%)の順となっている。

知ってからの行動については、「専門家による耐震診断を実施した」(11.5%)、「今後、自宅の耐震補強をしたいと考えている」(7.8%)、「簡易耐震診断を自分で行った」(7.6%)がそれぞれ1割程度であるのに対し、「自宅は木造住宅であるが、特に何もしていない」(32.0%)が3割以上と高くなっている。

耐震化に対する行政への要望については、「耐震補強工事に対する助成制度の拡充」(54.2%)が最も高く、次いで「相談窓口の設置」(33.5%)、「なぜ危険なのかを示した詳細な説明パンフレット」(29.8%)の順となっている。

## 2 - 4 自主防災組織・防災訓練について .....

町内会への加入については、「入っている」(92.4%)が9割を超えている。

自主防災組織への加入については、「入っている」(69.1%)が約7割となっている。活動状況は、「活発である」(13.3%)と「まあまあ活動している」(60.4%)を合わせた73.7%が活動は活発だと認めている。

自主防災組織の活性化のための方策については、「自主防災組織の活動内容をもっと住民にP

Rする」(61.0%)が6割を占めており、次いで「消防団・近隣事務所など、他の消防関係機関との連携を進める」(35.9%)、「助けが必要な人に関する情報を自主防災組織に伝える」(33.6%)となっている。

過去1年間における何らかの地震防災訓練への参加率は58.2%である。性別でみると、女性(54.3%)より男性(62.4%)の参加率が高くなっている。

地震防災訓練に参加しなかった理由については、「仕事や用事があったから」(59.7%)が最も高く、次いで「訓練実施を知らなかったから」(9.7%)、「毎回同じ訓練内容だから」(7.7%)、「面倒だったから」(4.9%)の順となっている。性・年代別でみると、「仕事や用事があったから」が男性40代(76.2%)、次いで男性20代(70.0%)、女性50代(69.2%)で特に高くなっている。

指定避難地の認知については、「どこが避難地であるか知っている」(71.5%)が7割を超えているが、居住年数別でみると、「1年未満」では61.1%と低くなっている。

避難所で避難生活を送る場合の心配ごとについては、心配あり(「非常に心配」と「ある程度心配」の数字を合わせた項目)と答えた上位6項目では、「離ればなれになった家族や親戚などの安否確認が気になる」(92.3%)、「トイレの問題」(92.2%)、「自分や家族が病気になったときの医療問題」(91.2%)が9割以上となっている。次いで「食料や水の問題」(89.5%)、「洗濯や入浴の問題」(87.6%)、「日用品(毛布や下着など)の問題」(86.9%)の順となっており、いずれも8割以上となっている。

## 2 - 5 東海地震が突然発生したときの行動について .....

突然地震が発生したときの行動でまず最初にするのは、「テレビやラジオで正確な情報を得る」(48.3%)が最も高く、次いで「家の中の整理や火の始末をする」(13.7%)、「家族の安否を確認する(災害用伝言ダイヤルや携帯電話メール等)」(12.2%)の順となっている。

次にすることについては、「家族の安否を確認する(災害用伝言ダイヤルや携帯電話メール等)」(51.6%)が最も高く、次いで「非常持出品の準備をしたり、身軽な服装に着替える」(48.0%)、「テレビやラジオで正確な情報を得る」(39.5%)の順となっている。

突発地震時、警戒宣言発令時、注意情報発表時の行動比較は88ページを参照。

地震発生後の防災活動への参加については、「わからない」(53.5%)が最も高く、次いで「参加する」(36.9%)となっている。

突然地震が発生したときの自分自身の安全性については、「軽いけがぐらいはするかもしれない」(41.8%)が最も高く、次いで「死ぬ恐れもあると思う」(25.9%)、「まず無事だと思う」(15.7%)、「大けがをする危険があると思う」(13.5%)の順となっている。

突然地震が発生したときの避難行動については、「市町が指定した避難地」(44.8%)が最も高く、次いで「避難しない」(29.5%)、「自宅周辺の広場など指定された避難地以外の場所」(17.8%)の順となっている。

## 2 - 6 警戒宣言が発せられたときの行動について .....

警戒宣言発令時の行動でまず最初にするのは、「テレビやラジオで正確な情報を得る」(57.6%)が最も高く、6割近くを占めている。次いで「家の中の整理や火の始末をする」(8.0%)、「家族と電話で連絡をとる」(7.5%)の順となっている。

次にすることについては、「非常持出品の準備をしたり、身軽な服装に着替える」(53.7%)が最も高く、次いで「家族と電話で連絡をとる」(50.6%)、「家の中の整理や火の始末をする」(35.4%)の順となっている。

突発地震時、警戒宣言発令時、注意情報発表時の行動比較は88ページを参照。

警戒宣言が発せられたとき、避難が必要な地域に住んでいるかについては、「わからない」(43.6%)が4割を超えている。

警戒宣言時の避難場所については、「市町で指定した避難地」(49.1%)が最も高く、次いで「自宅にいる」(34.8%)、「指定された避難地以外の安全な場所」(10.8%)の順となっている。

避難するときの交通手段については、「徒歩」(75.7%)が7割を超えている。また、避難時に「自家用車」を使用すると答えた人は12.1%で、自家用車で避難する理由については、「子どもや高齢者がいるから」(36.4%)が最も高くなっている。

避難地における生活については、「体育館や学校校舎など屋内での生活になると思う」(67.8%)が6割を超えている。

市町で指定した避難地へ避難しない理由については、「避難地自体が安全だと思わないから」(20.0%)、「避難の際、住民の間でパニックなどの混乱が予想されるから」(9.8%)、「高齢者や病人がいるから」(9.6%)などとなっている。

## 2 - 7 地震に関する情報について .....

情報体系の認知については、「情報名は知っているが内容までは知らない」(58.4%)が過半数を超えている。

東海地震の予知の可能性については、「全くできないとは思わないが、予知は難しいと思う」(58.8%)が6割弱を占め、予知への期待はあまり高くない。経年比較でみると、平成13年度の調査以降、「5割くらいの確率で予知できると思う」の割合が低下傾向にあり、「全くできないとは思わないが、予知は難しいと思う」の割合が上昇傾向にある。

東海地震に関連する情報の認知度については、「全く知らなかった」(68.1%)が7割近くである。

東海地震注意情報発表時の行動でまず最初にすることは、「テレビやラジオで正確な情報を得る」(64.3%)が最も高く、6割を超えている。次いで「非常持出品の準備をしたり、身軽な服装に着替える」(7.4%)、「家族と電話で連絡をとる」(6.7%)の順となっている。

次にすることについては、「非常持出品の準備をしたり、身軽な服装に着替える」(60.8%)が最も高く、次いで「家族と電話で連絡をとる」(46.7%)、「家の中の整理や火の始末をする」(36.6%)、「飲料水の用意や風呂に水をためる」(34.0%)の順となっている。

突発地震時、警戒宣言発令時、注意情報発表時の行動比較は88ページを参照。

東海地震注意情報発表時の行政への要望については、「緊急物資(食料・飲料水・医薬品等)を準備してほしい」(50.7%)が最も高く、次いで「情報発表後に予想される社会的混乱(交通・通信・物価等)を防止してほしい」(45.1%)、「地震発生までの県民のとるべき行動の広報・啓発をしてほしい」(36.7%)の順となっている。

地震防災に関する情報の入手について19項目を「はい」「いいえ」で聞いたところ、「災害用伝言ダイヤル「171」や携帯電話のメールサービス「災害伝言板」を知っている」(75.2%)が前回よりも12.5ポイント上昇し、「町内の防災倉庫がある場所を知っている」(70.5%)、「地震防災に関するパンフレットを読んだことがある」(66.0%)、「「自主防災」新聞を読んだことがある」(52.1%)、「市町が避難対象地区の指定をしていることを知っている」(50.6%)、「避難誘導板、海拔表示板、津波警告板を見たことがある」(50.3%)で5割以上となっているが、半数以上の人「はい」と回答したものは、全19項目中6項目であり、全体的に「はい」と答えた項目が少ない傾向が見られる。

「自主防災」新聞の配布については、「全戸配布してほしい」（59.8%）が過半数を超えている。

## 2 - 8 緊急地震速報について .....

緊急地震速報の認知については、「名前も内容も知っていた」（71.0%）が7割を超えている。緊急地震速報の精度の誤差については、「知っている」（72.6%）が7割を超えており、「知らない」（17.7%）は2割を切っている。

緊急地震速報を受け取った時の行動を考えたことがあるかについては、「考えたことがある」（73.6%）が7割を超え、「考えたことがない」（20.3%）を大きく上回っている。

緊急地震速報入手時の行動については、「その場で身の安全を図る」（77.2%）が最も高く、次いで「屋外に避難する」（17.4%）、「何もしない」（2.1%）の順となっている。

## 2 - 9 東日本大震災に関することについて .....

地震直後の地震情報の入手手段としては、「テレビ」（81.0%）が大半を占めている。

地震直後に入手したい情報については、「今回の地震が東海地震に結びつくかどうか」（68.3%）次いで「今回の地震についての、震源地や規模など」（60.4%）が6割を超えている。

震災後に新たに実施した防災対策として、「食料・飲料水を備蓄した」（44.0%）、「非常持出品を用意した」（39.6%）、「地震の時に避難する場所を決めた」（30.6%）が3割を超えた。

1年以内にあらためて実施しようと考えている防災対策としては、「家具が倒れないように固定した」（19.4%）、「非常持出品を用意した」（19.2%）、「食料・飲料水を備蓄した」（18.9%）、「家族が離ればなれになったとき落ち合う場所を決めた」（18.5%）、「家族との連絡方法を決めた」（18.4%）などとなっている。

今後の行政への要望については、「地震や津波でも壊れない避難所となる安全な公共施設の整備」（51.7%）が最も高く、次いで「ハザードマップの作成、配布」（44.4%）、「津波から一時避難するための高台の整備」（41.9%）、「避難通路の安全性確保（障害物撤去、夜間照明の設置など）」（37.1%）、「津波避難ビル、避難タワーの設置」（36.9%）の順となっている。



---

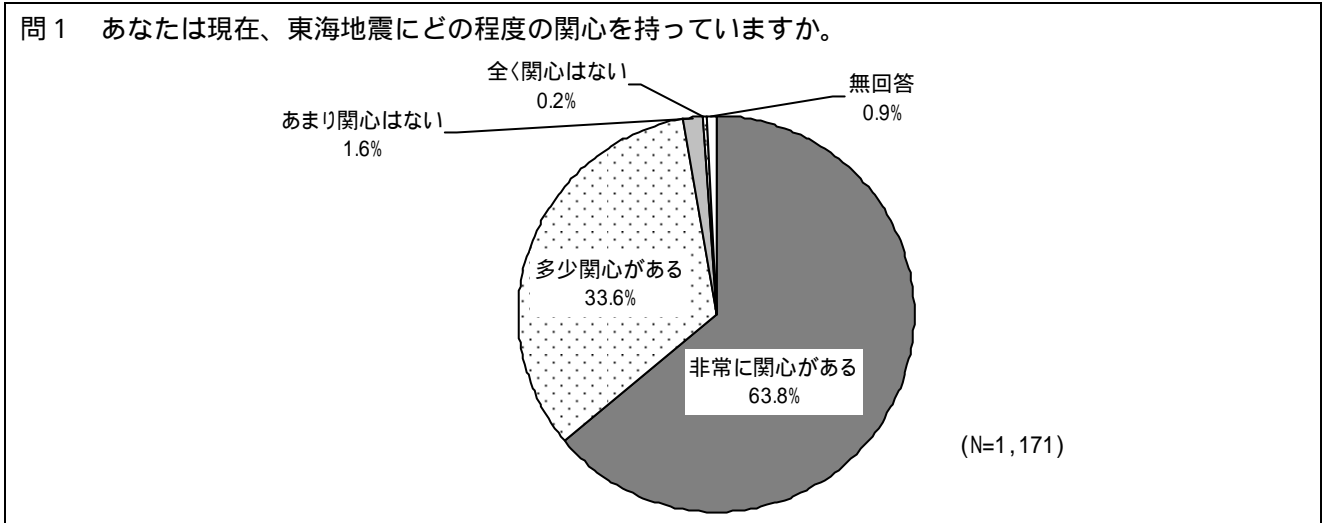
# 東海地震についての県民意識調査結果

---



# 1 東海地震について

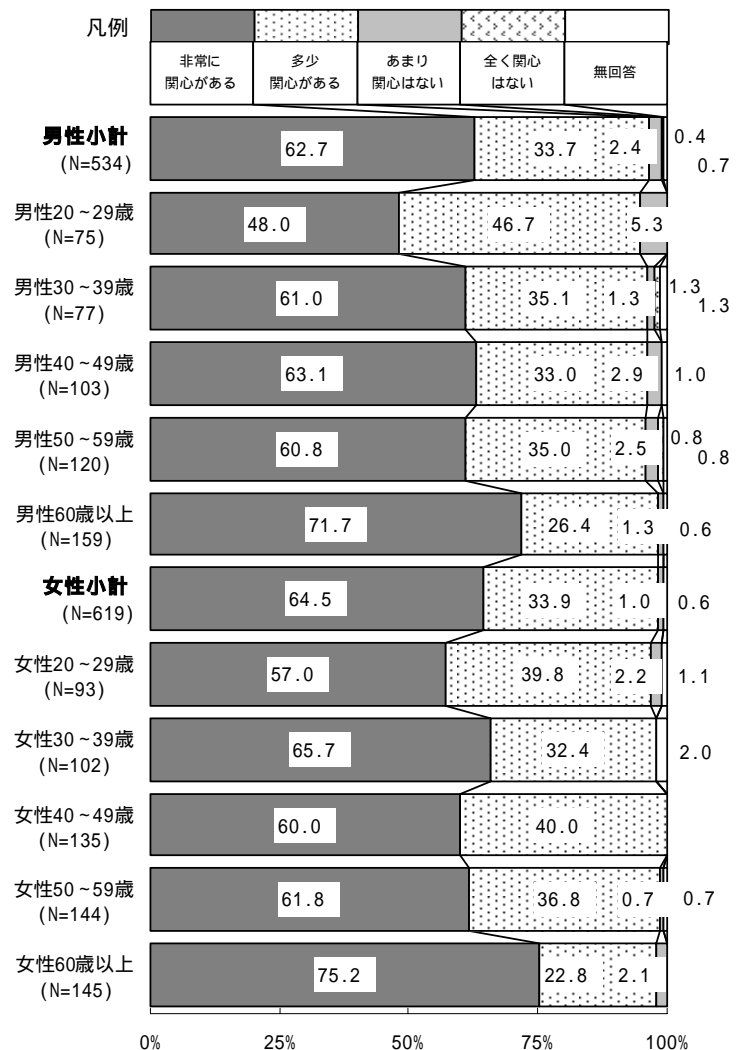
## 1 - 1 東海地震への関心度



東海地震への関心度についてたずねたところ、「非常に興味がある」(63.8%)と「多少興味がある」(33.6%)を合わせた97.4%が関心を持っている。

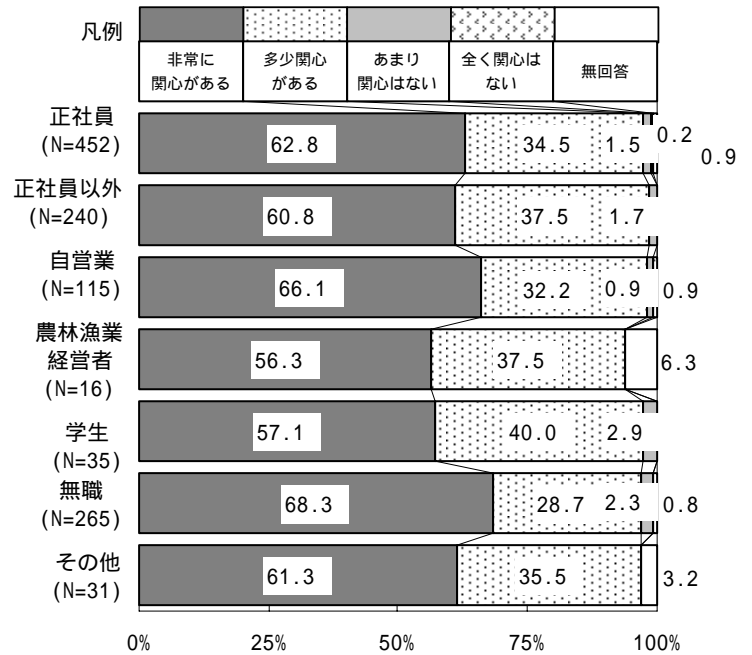
性・年代別でみると、「非常に興味がある」は、男性・女性とも『60歳以上』が最も高くなっている。また、「あまり興味はない」、「全く興味はない」は、男性・女性ともに低く、関心が非常に高い傾向にある。

東海地震への関心度 <性・年代別>



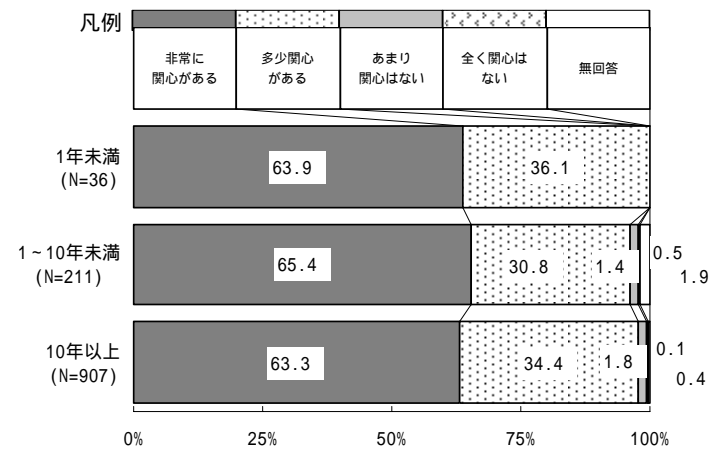
職業別でみると、いずれの職業でも「非常に興味がある」が過半数を超えており、特に『自営業』（66.1%）、『無職』（68.3%）の関心が高い。

### 東海地震への関心度 < 職業別 >



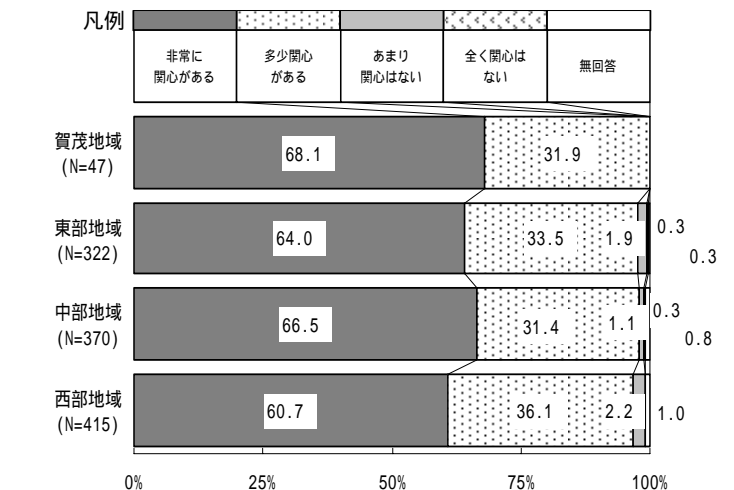
居住年数別でみると、「非常に興味がある」については、いずれも6割を超えており、『1年未満』が「非常に興味がある」(63.9%)と「多少興味がある」(36.1%)で100%を占めている。

### 東海地震への関心度 < 居住年数別 >



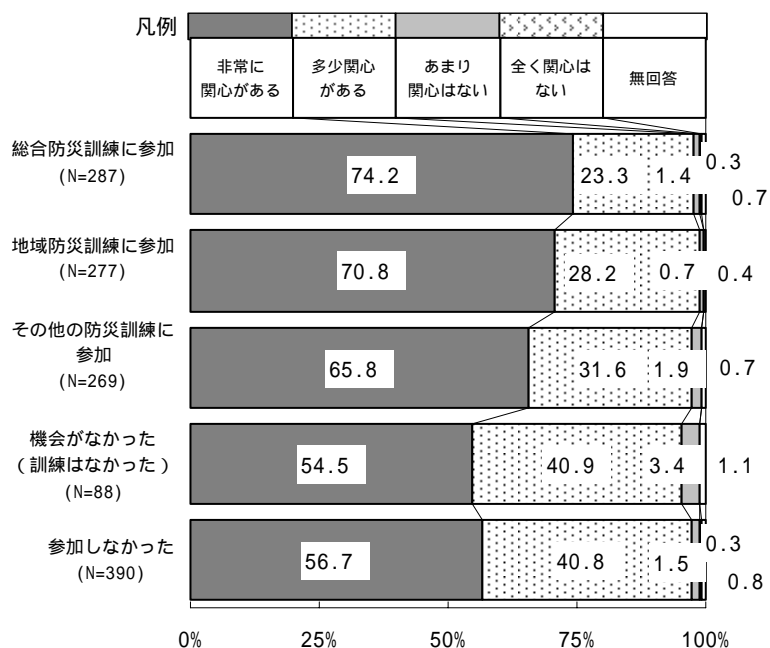
地域別でみると、「非常に興味がある」が、いずれの地域でも6割を超えており、関心が非常に高くなっている。

### 東海地震への関心度 < 地域別 >



## 東海地震への関心度 < 防災訓練参加状況別 >

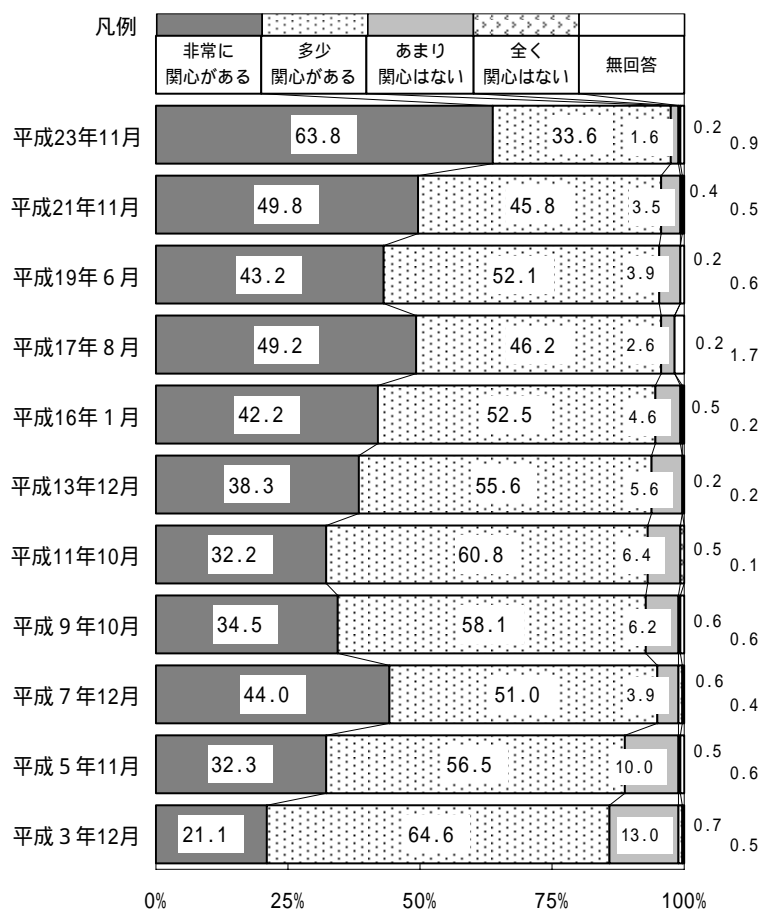
防災訓練参加状況別でみると、「非常に関心がある」は、『総合防災訓練に参加』(74.2%)、『地域防災訓練に参加』(70.8%)、『その他の防災訓練に参加』(65.8%)で、いずれも6割を超えている。一方、訓練に『参加しなかった』(56.7%)、『機会がなかった(訓練はなかった)』(54.5%)は過半数を超えているが、いずれかの防災訓練に参加した人に比べ低くなっている。



## 東海地震への関心度 < 経年比較 >

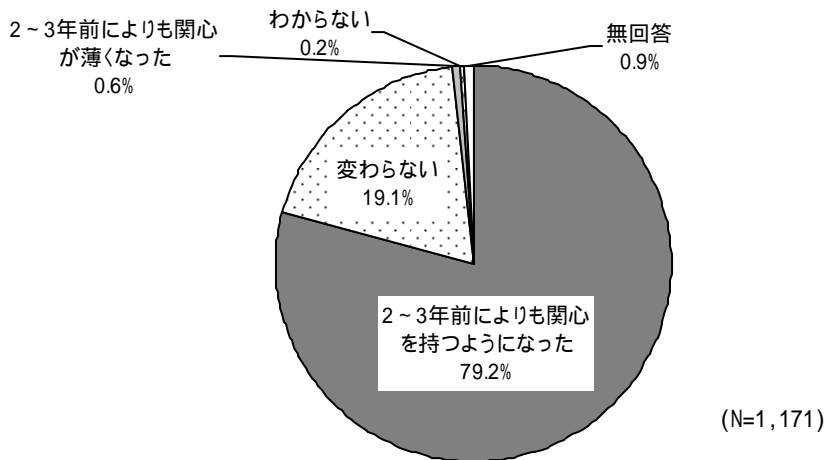
経年比較でみると、「非常に関心がある」は、前回調査(49.8%)に比べると14.0ポイント上昇している。

これは、阪神・淡路大震災(平成7年1月)が起きた『平成7年12月の調査』の11.7ポイント上昇を上回る結果となり、今回の東日本大震災は、より県民の関心を高めた。



この調査項目は平成3年度調査から設定した。

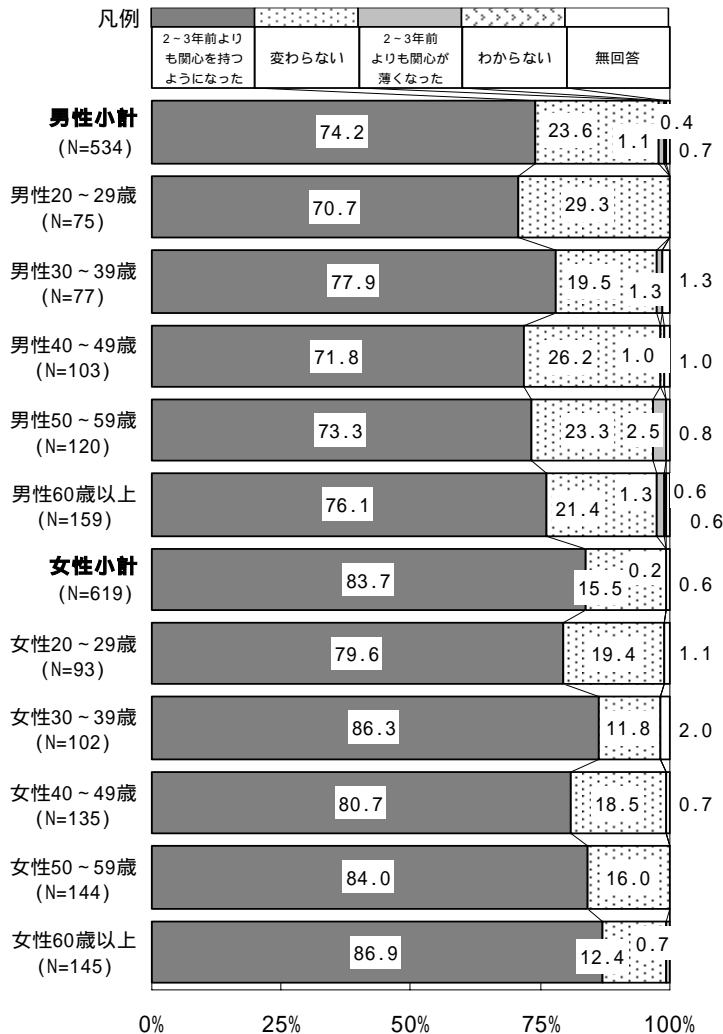
問2 あなたは、東海地震に対して、2～3年前に比べて関心を持つようになりましたか。



2～3年前からの関心度の変化についてたずねたところ、「2～3年前よりも関心を持つようになった」(79.2%)が最も高く、次いで「変わらない」(19.1%)、「2～3年前よりも関心が薄くなった」(0.6%)の順となっている。

性・年代別でみると、「2～3年前よりも関心を持つようになった」は、男性・女性とも全世代で7割を超えている。『男性』が74.2%、『女性』が83.7%であり、女性の方がより関心度が高まっている。

2～3年前からの関心度の変化  
<性・年代別>



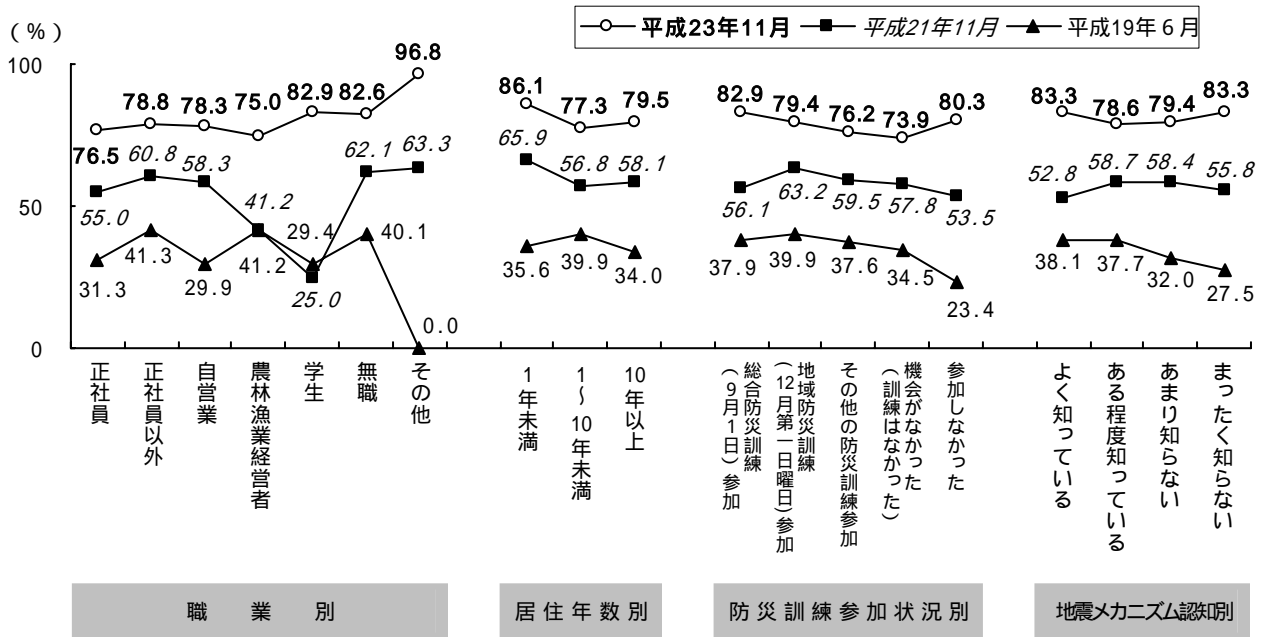
「2～3年前よりも関心を持つようになった」の割合を各属性別でみると、職業別では、『その他』(96.8%)、『学生』(82.9%)、『無職』(82.6%)が他より高くなっている。

居住年数別でみると、『1年未満』(86.1%)が他より高くなっている。

防災訓練参加状況別でみると、『総合防災訓練に参加』(82.9%)、『参加しなかった』(80.3%)が他より高くなっている。

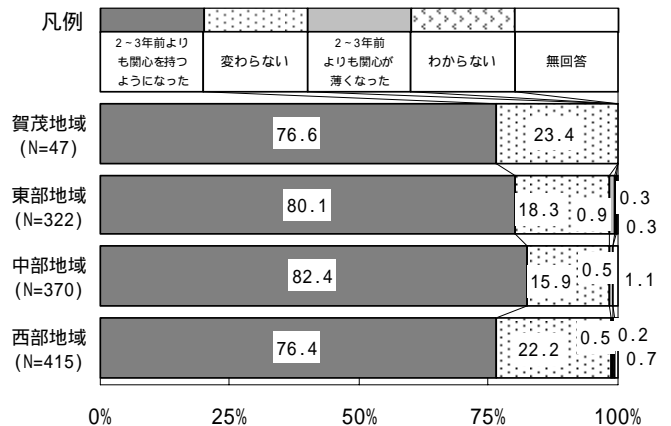
地震メカニズム認知別でみると、『よく知っている』(83.3%)が前回調査より30.5ポイント上昇しているが、『まったく知らない』(83.3%)も27.5ポイント上昇している。

「2～3年前よりも関心を持つようになった」の割合 <属性別>



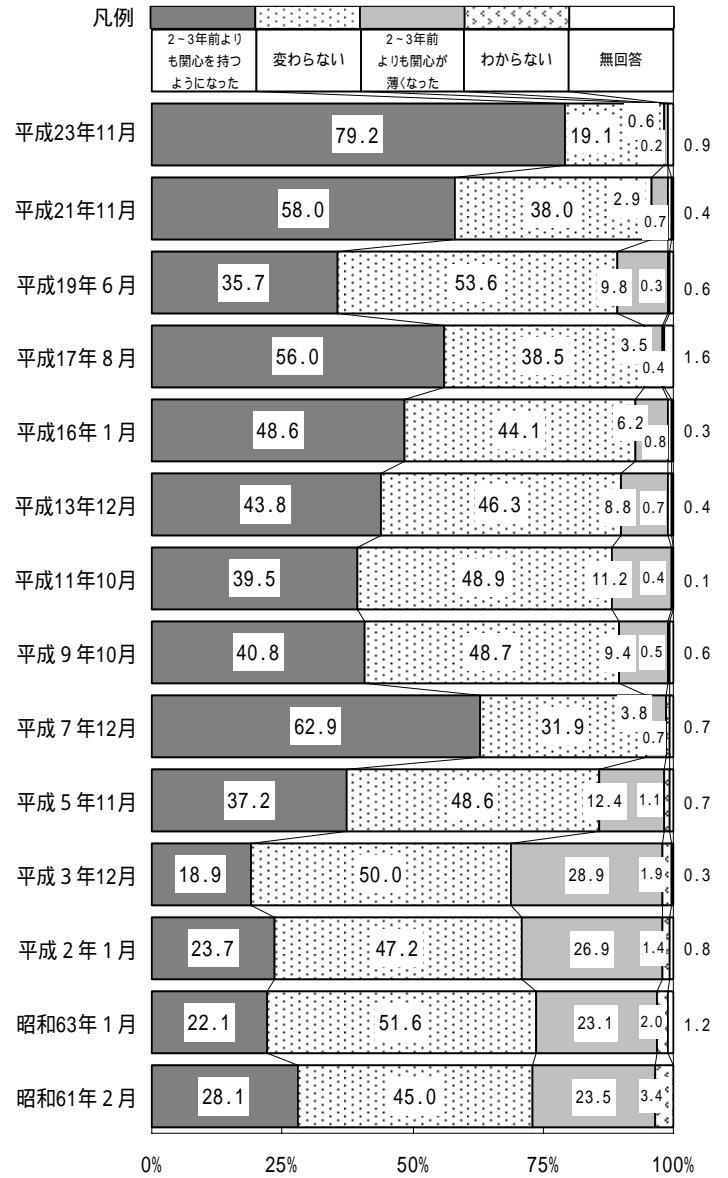
2～3年前からの関心度の変化 <地域別>

地域別でみると、「2～3年前よりも関心を持つようになった」は、最も高い『中部』(82.4%)と最も低い『西部』(76.4%)では6.0ポイントの差が見られる。



## 2～3年前からの関心度の変化 < 経年比較 >

経年比較でみると、「2～3年前よりも関心を持つようになった」は、阪神・淡路大震災（平成7年1月）が起きた『平成7年12月の調査』（62.9%）が最も高かったが、今回調査（79.2%）では、それを16.3ポイント上回り、過去最高となった。

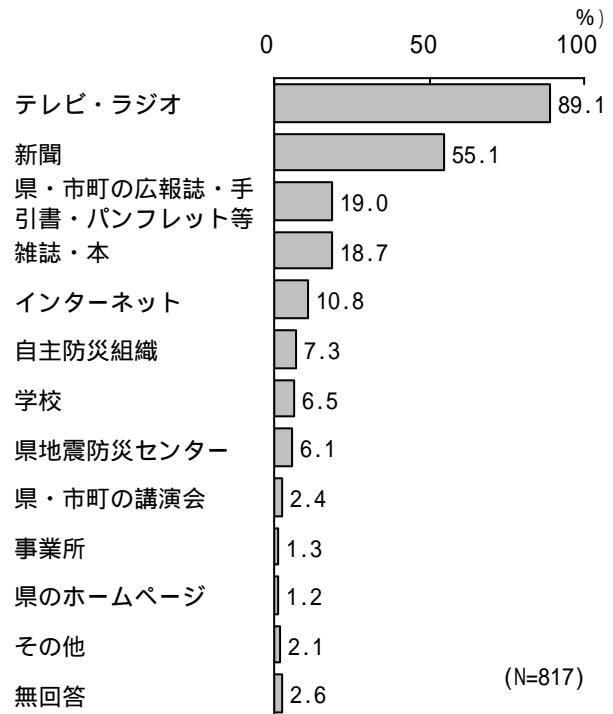
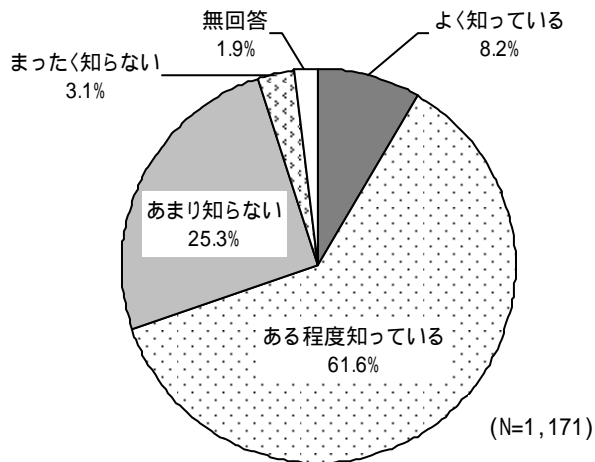




問3 あなたは、東海地震が発生する仕組み（メカニズム）を知っていますか。

問3 - 1 <問3で「1 よく知っている」「2 ある程度知っている」のいずれかを選んだ方にお伺いします。>

その知識はどこから入手しましたか。  
(M.A.)

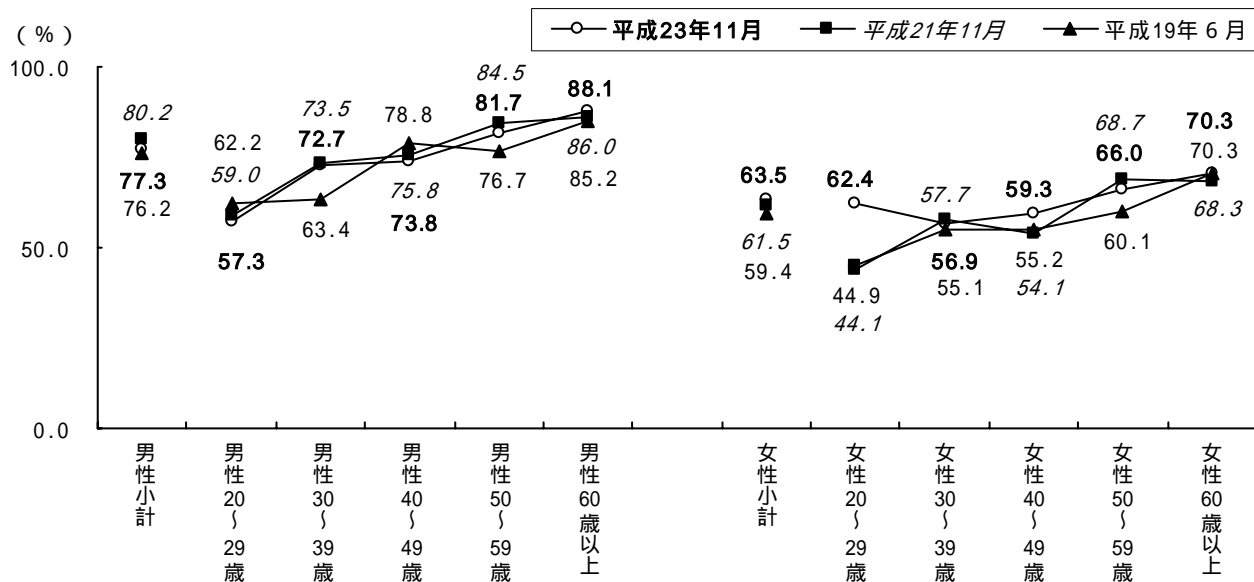


東海地震発生メカニズムの認知についてたずねたところ、「ある程度知っている」(61.6%)が最も高く、次いで「あまり知らない」(25.3%)、「よく知っている」(8.2%)、「まったく知らない」(3.1%)の順となっている。

東海地震発生メカニズムの知識の入手については、「テレビ・ラジオ」(89.1%)がもっとも多く、次いで「新聞」(55.1%)、「県・市町の広報誌・手引書・パンフレット等」(19.0%)、「雑誌・本」(18.7%)、「インターネット」(10.8%)の順となっている。

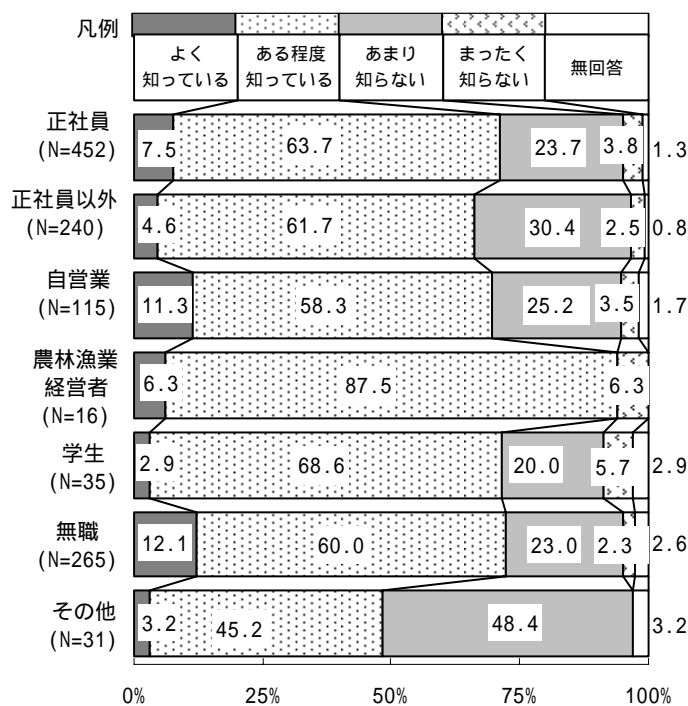
性・年代別で見ると、「認知合計」（「よく知っている」+「ある程度知っている」）は、20代以外は、いずれの年代においても『男性』が『女性』を上回っている。特に、『男性60歳以上』（88.1%）、『男性50代』（81.7%）で非常に高くなっている。また、年々認知のポイントも上昇している

東海地震のメカニズムの認知 <性・年代別>



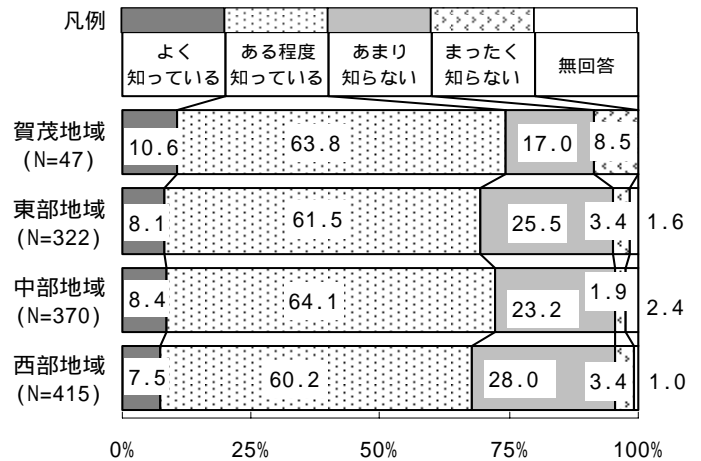
東海地震のメカニズムの認知 <職業別>

職業別で見ると、「認知合計」（「よく知っている」+「ある程度知っている」）においては、『農林漁業経営者』（93.8%）が最も高く、次いで『無職』（72.1%）、『学生』（71.5%）の順となっている。



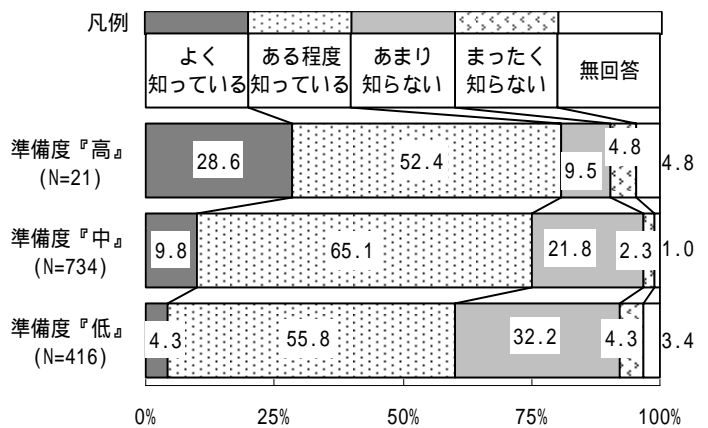
### 東海地震のメカニズムの認知 <地域別>

地域別でみると、「認知合計」(「よく知っている」+「ある程度知っている」)は、いずれの地域も7割前後であり、東海地震のメカニズムの認知には大きな差が見られない。



### 東海地震のメカニズムの認知 <防災準備度別>

防災準備度別でみると、「認知合計」(「よく知っている」+「ある程度知っている」)は、『防災準備度「高」』(81.0%)が他よりも高くなっている。



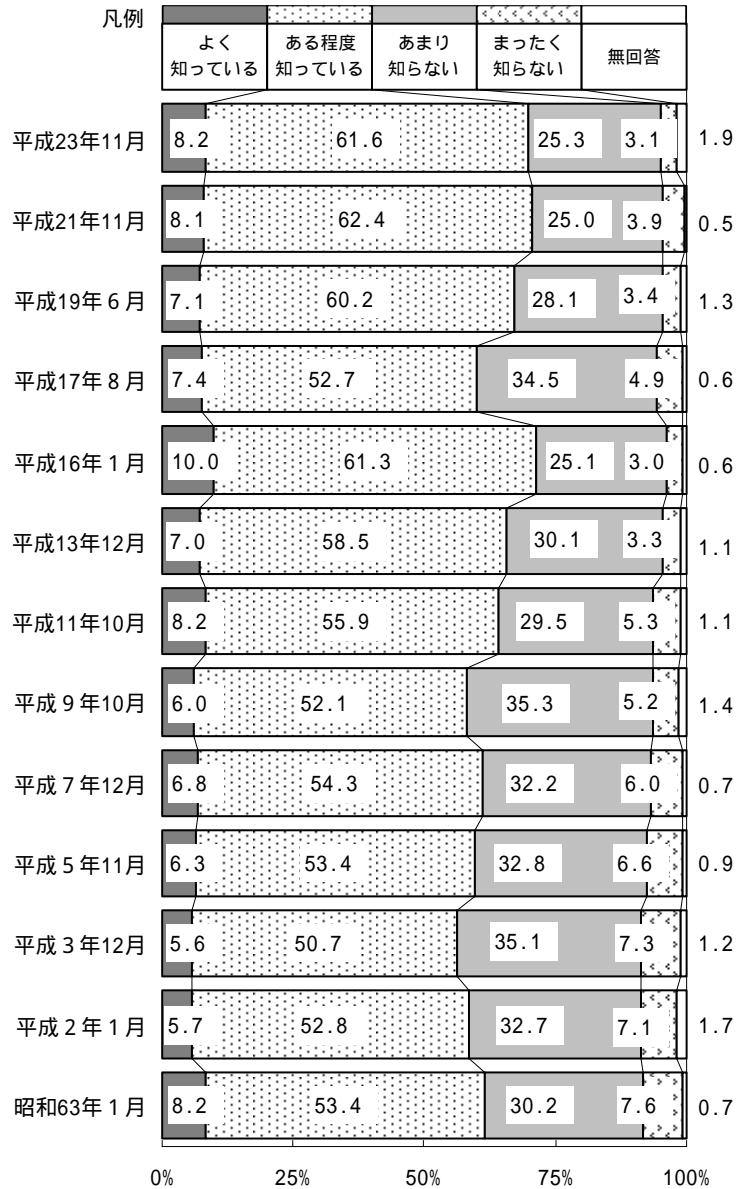
## 東海地震のメカニズムの認知 < 経年比較 >

経年比較でみると、「認知合計」(「よく知っている」+「ある程度知っている」)は、今回調査(69.8%)では前回調査(70.5%)より0.7ポイント下回っている。

### 東海地震発生メカニズムの 認知合計 経年比較

**「よく知っている」  
+  
「ある程度知っている」**

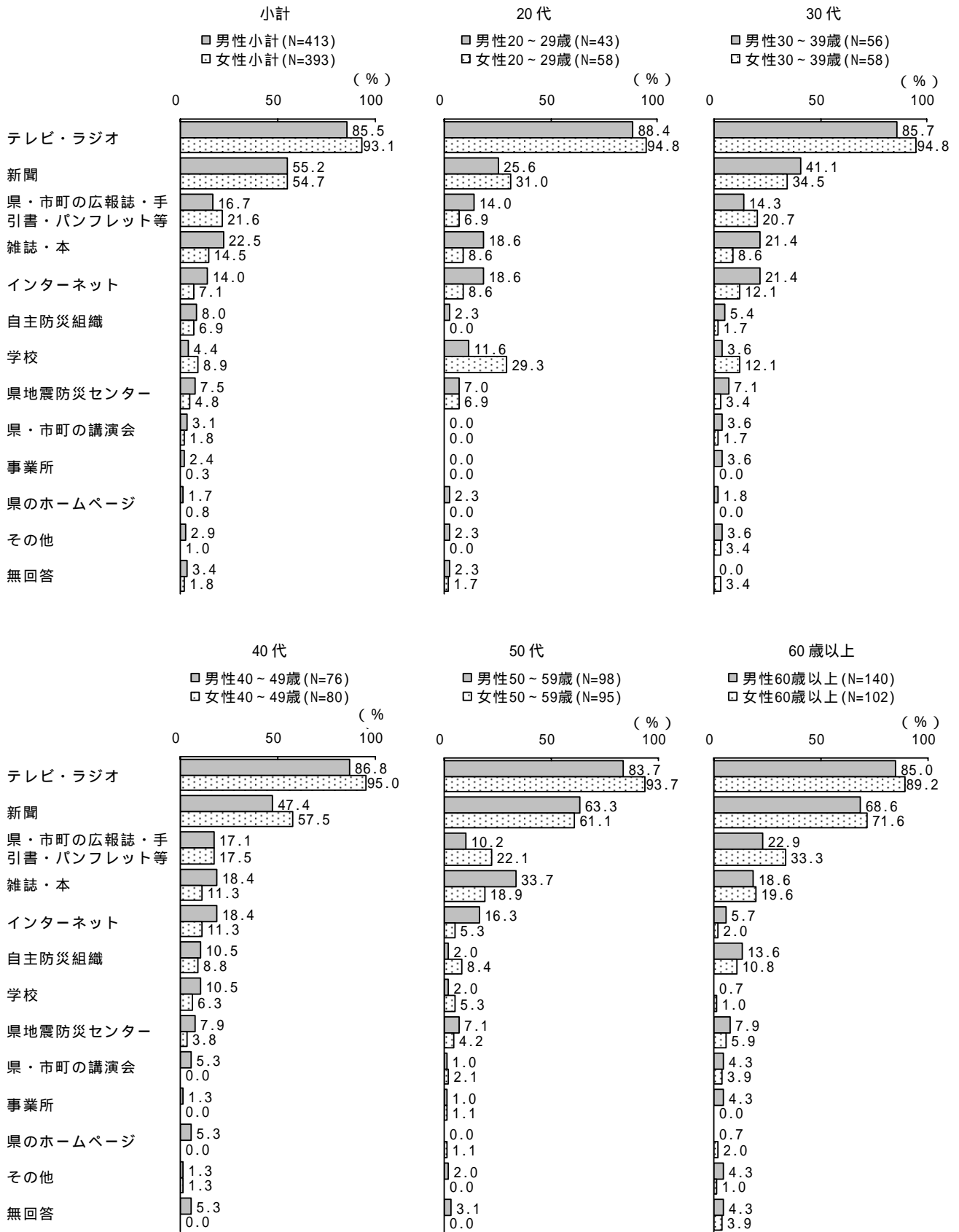
平成 23 年 11 月	69.8%
平成 21 年 11 月	70.5%
平成 19 年 6 月	67.3%
平成 17 年 8 月	60.1%
平成 16 年 1 月	71.3%
平成 13 年 12 月	65.5%
平成 11 年 10 月	64.1%
平成 9 年 10 月	58.1%
平成 7 年 12 月	61.1%
平成 5 年 11 月	59.7%
平成 3 年 12 月	56.3%
平成 2 年 1 月	58.5%
昭和 63 年 1 月	61.6%



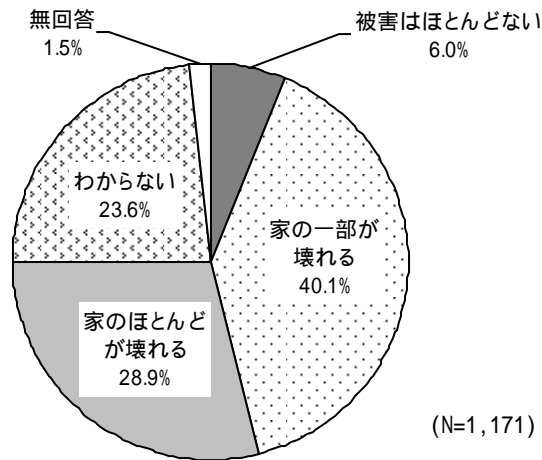
この調査項目は昭和62年度調査から設定した。

東海地震のメカニズムの知識の入手先について性・年代別でみると、「テレビ・ラジオ」がいずれの性・年代においても圧倒的に多くっており、最も高いのは『女性40代』(95.0%)となっている。次いで「新聞」、「県・市町の広報誌・手引書・パンフレット等」、「雑誌・本」、「インターネット」の順となっている。

東海地震のメカニズムの知識の入手先 < 性・年代別 >



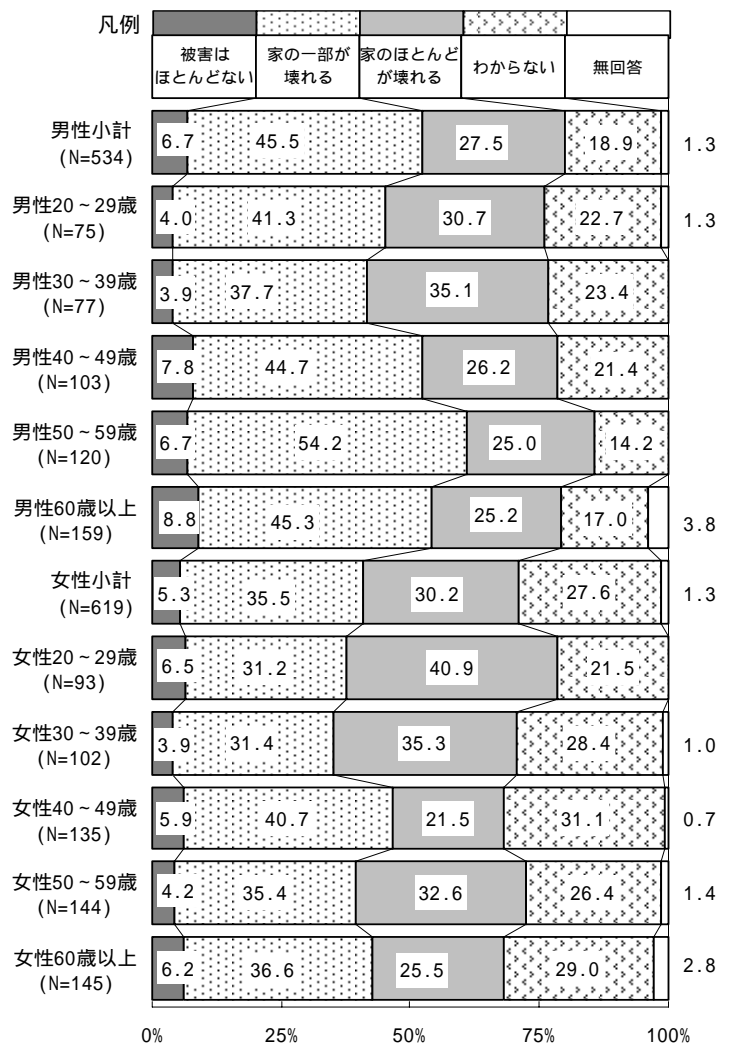
問4 東海地震が起きた場合、あなたのお住まいの家は、どのような被害を受けるとお考えですか。



東海地震による家屋の被害程度についてたずねたところ、「家の一部が壊れる」(40.1%)が最も高く、次いで「家のほとんどが壊れる」(28.9%)、「わからない」(23.6%)、「被害はほとんどない」(6.0%)の順となっている。

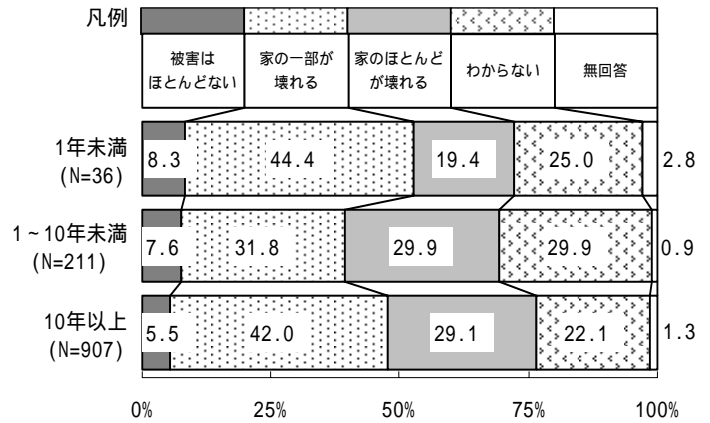
性・年代別でみると、「家のほとんどが壊れる」は、『女性20代』(40.9%)が最も高く、最も低い『女性40代』(21.5%)とは19.4ポイントの差が見られる。

東海地震による家屋の被害 <性・年代別>



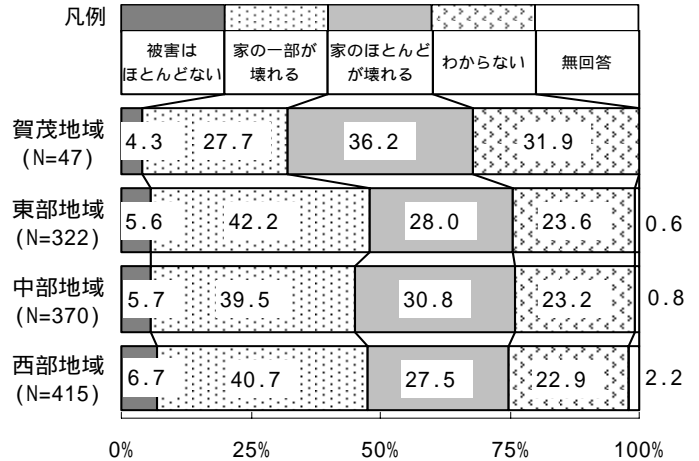
### 東海地震による家屋の被害 < 居住年数別 >

居住年数別でみると、「家の一部が壊れる」+「家のほとんどが壊れる」は、『10年以上』（71.1%）が高く、『1年未満』（63.8%）や『1～10年未満』（61.7%）とは10ポイント近くの差が見られる。



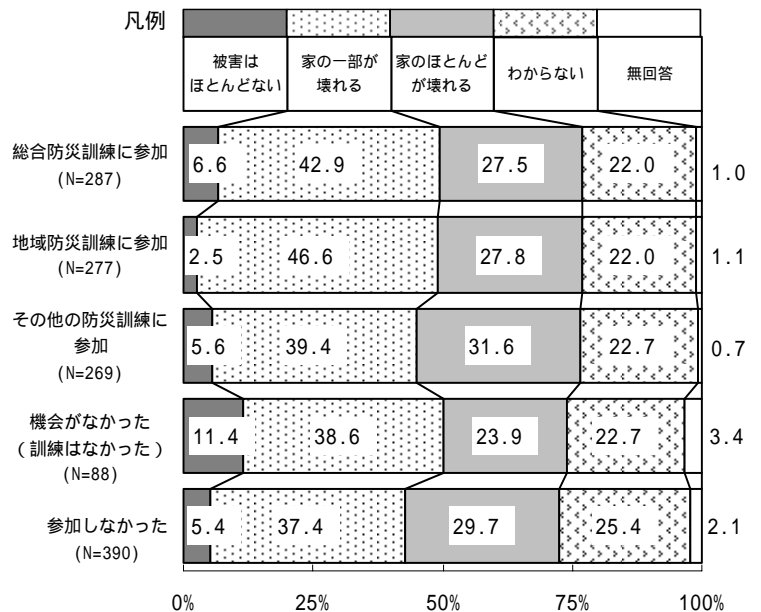
### 東海地震による家屋の被害 < 地域別 >

地域別でみると、「家の一部が壊れる」+「家のほとんどが壊れる」は、いずれも6割以上と高いが、最も高い『中部』（70.3%）と最も低い『賀茂』（63.9%）では6.4ポイントの差が見られる。



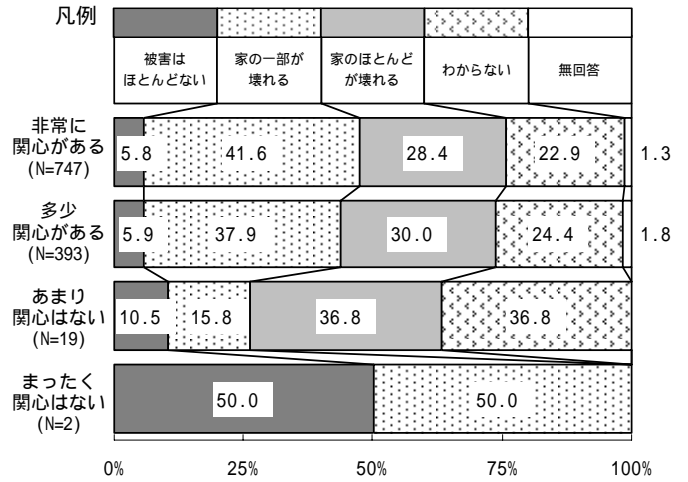
### 東海地震による家屋の被害 < 防災訓練参加状況別 >

防災訓練参加状況別でみると、「家の一部が壊れる」+「家のほとんどが壊れる」は、『地域防災訓練に参加した』（74.4%）、『その他防災訓練に参加した』（71.0%）、『総合防災訓練に参加した』（70.4%）で7割を超えており、『機会がなかった（訓練はなかった）』（62.5%）、『参加しなかった』（67.1%）と比べて高くなっている。



### 東海地震による家屋の被害 ＜東海地震への関心度別＞

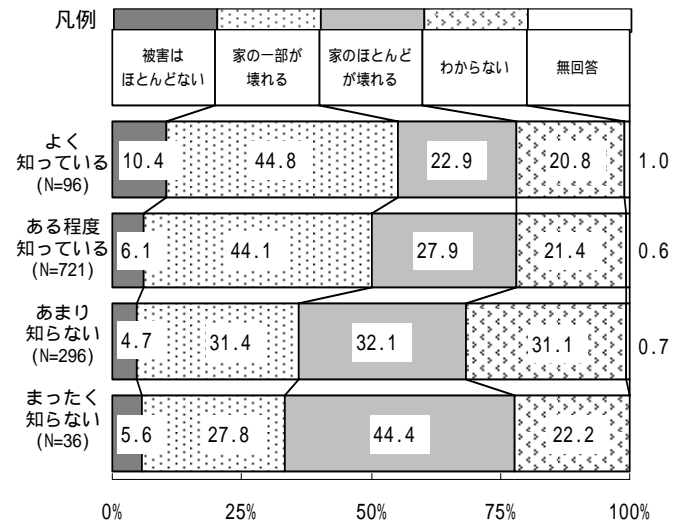
東海地震への関心度別でみると、『あまり関心はない』と答えた人は、「家の一部が壊れる」+「家のほとんどが壊れる」が他よりも低くなっている。



### 東海地震による家屋の被害 ＜地震メカニズム認知別＞

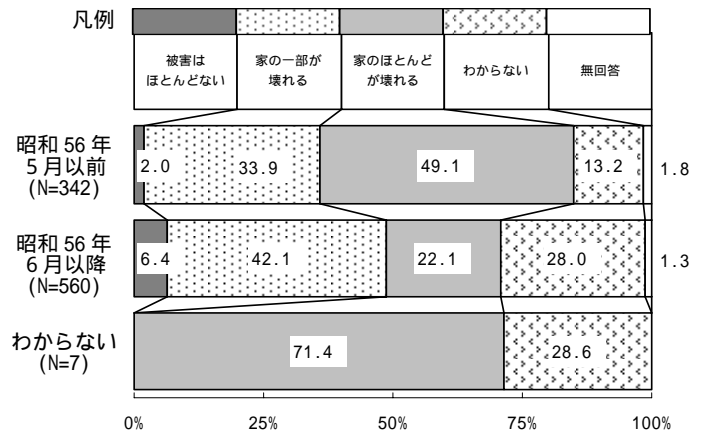
地震メカニズム認知別でみると、「被害はほとんどない」と「家の一部が壊れる」は、よく認知している人ほど高くなっている。

『まったく知らない』と答えた人では、「家のほとんどが壊れる」(44.4%)が他よりも高くなっている。



### 東海地震による家屋の被害 ＜木造住宅建築時期別＞

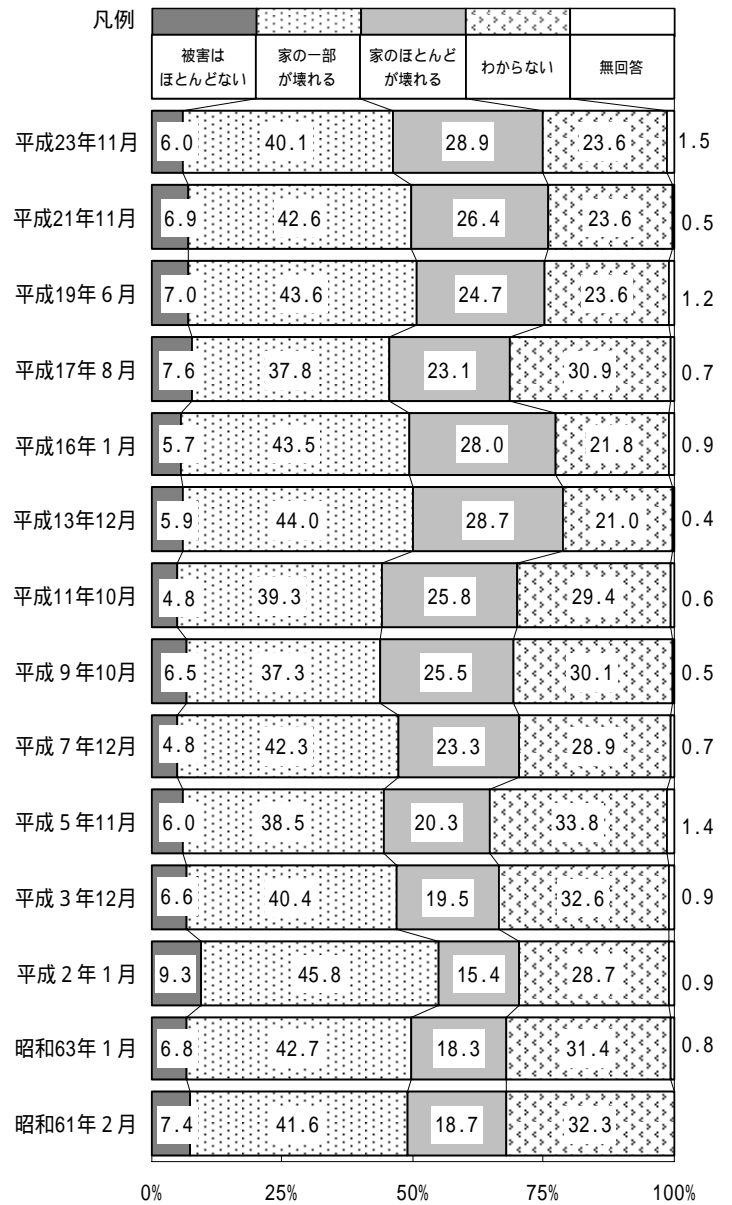
木造住宅建築時期別でみると、「家の一部が壊れる」+「家のほとんどが壊れる」は、『昭和56年5月以前』(83.0%)が、『昭和56年6月以降』(64.2%)より高くなっている。また、「被害はほとんどない」は、『昭和56年6月以降』(6.4%)が、『昭和56年5月以前』(2.0%)より高くなっている。



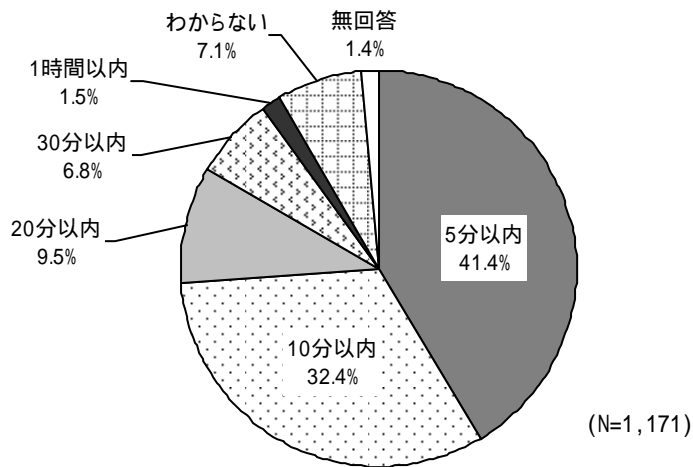


東海地震による家屋の被害 < 経年比較 >

経年比較でみると、「家のほとんどが壊れる」+「家の一部が壊れる」(69.0%)は、前回調査(69.0%)と比べても差は見られない。



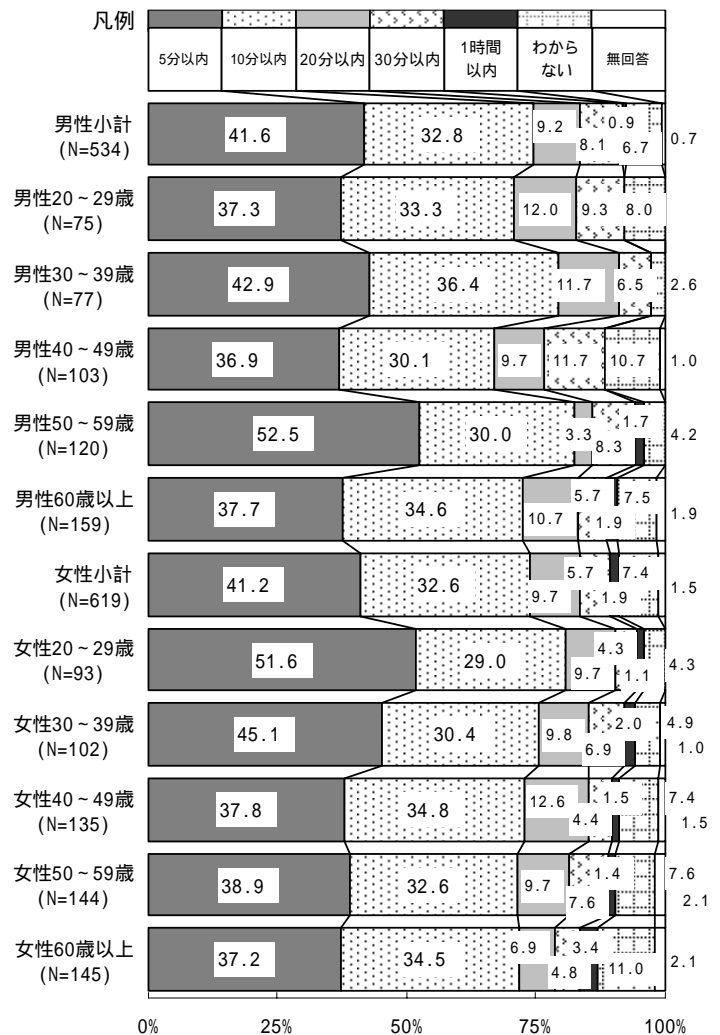
問5 駿河湾内で東海地震が発生した場合、津波は、一番はよいところでは地震発生後どのくらいの時間で沿岸に来ると思いますか。



予想される津波の到達時間は、駿河湾や遠州灘の沿岸では地震発生直後～5分程度であるが、東海地震発生時の津波の速さの認知についてたずねたところ、「5分以内」（41.4%）が最も高く、次いで「10分以内」（32.4%）、「20分以内」（9.5%）の順となっている。

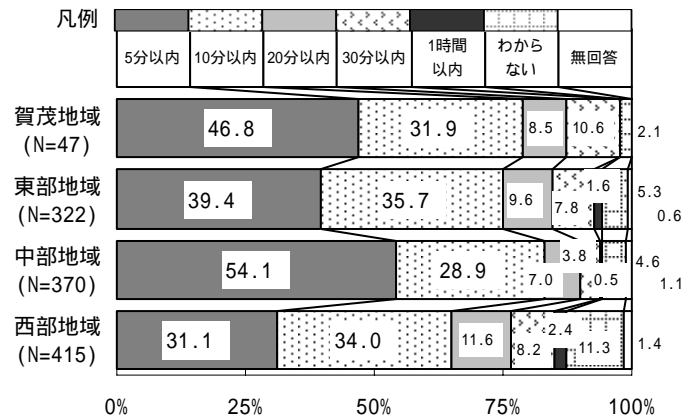
津波の沿岸到達時間 < 性・年代別 >

性・年代別でみると、「5分以内」と答えた人は、『男性50代』（52.5%）と『女性20代』（51.6%）が高く、いずれも過半数を超えている。一方、『男性40代』（36.9%）では、「5分以内」と答えた人が全体で最も低く、次いで『女性60歳以上』（37.2%）、『男性20代』（37.3%）の順となっている。



地域別でみると、「5分以内」では、過半数を超えたのは『中部』(54.1%)のみである。

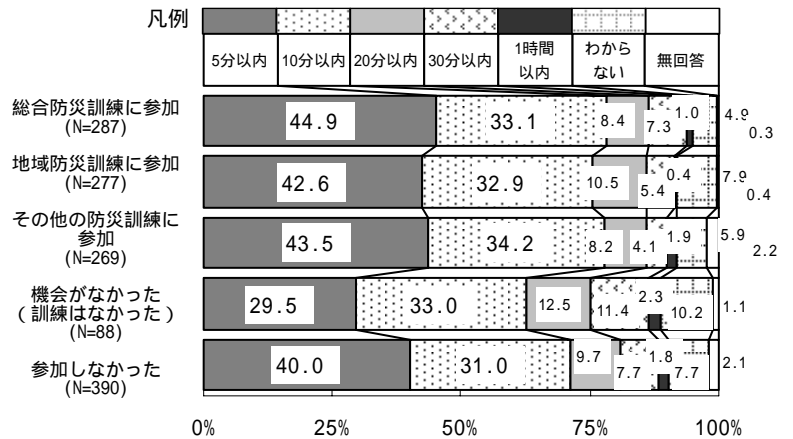
津波の沿岸到達時間 <地域別>



防災訓練参加状況別でみると、「5分以内」では、『機会がなかった(訓練はなかった)』(29.5%)が他よりも10ポイント以上低くなっている。

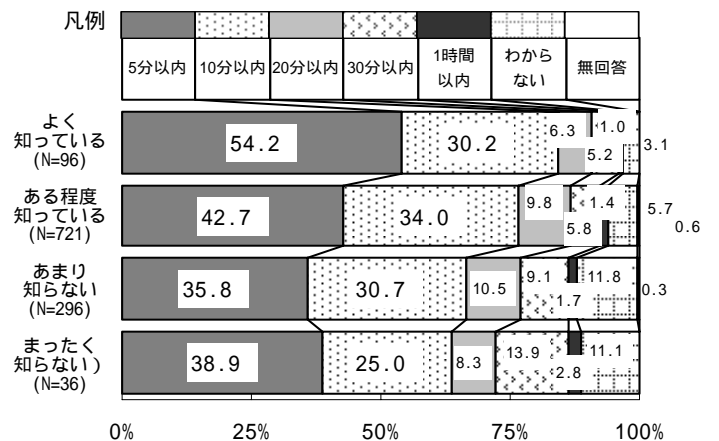
「わからない」では、『機会がなかった(訓練はなかった)』(10.2%)や『参加しなかった』(7.7%)が、他よりもやや高くなっている。

津波の沿岸到達時間 <防災訓練参加状況別>



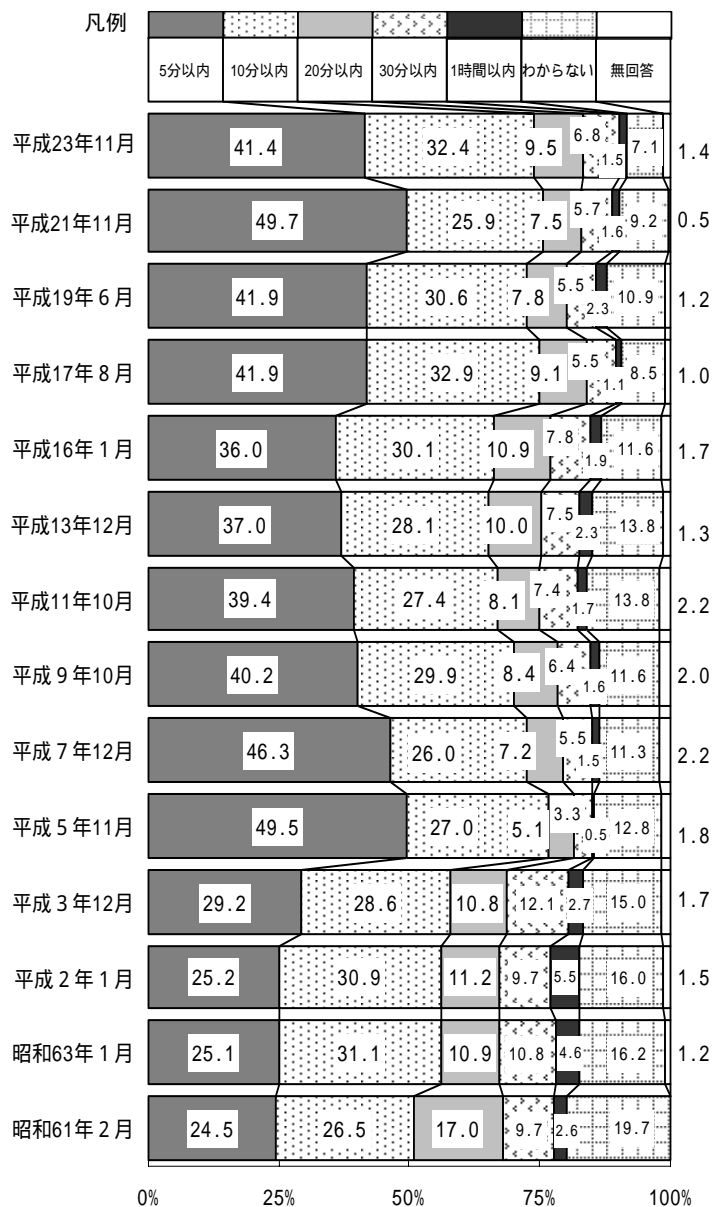
地震メカニズム認知別でみると、東海地震が発生するメカニズムを『知っている』ほど「5分以内」が高くなる傾向が見られる。一方、東海地震が発生するメカニズムを『知らない』ほど「わからない」が高い傾向が見られる。

津波の沿岸到達時間 <地震メカニズム認知別>

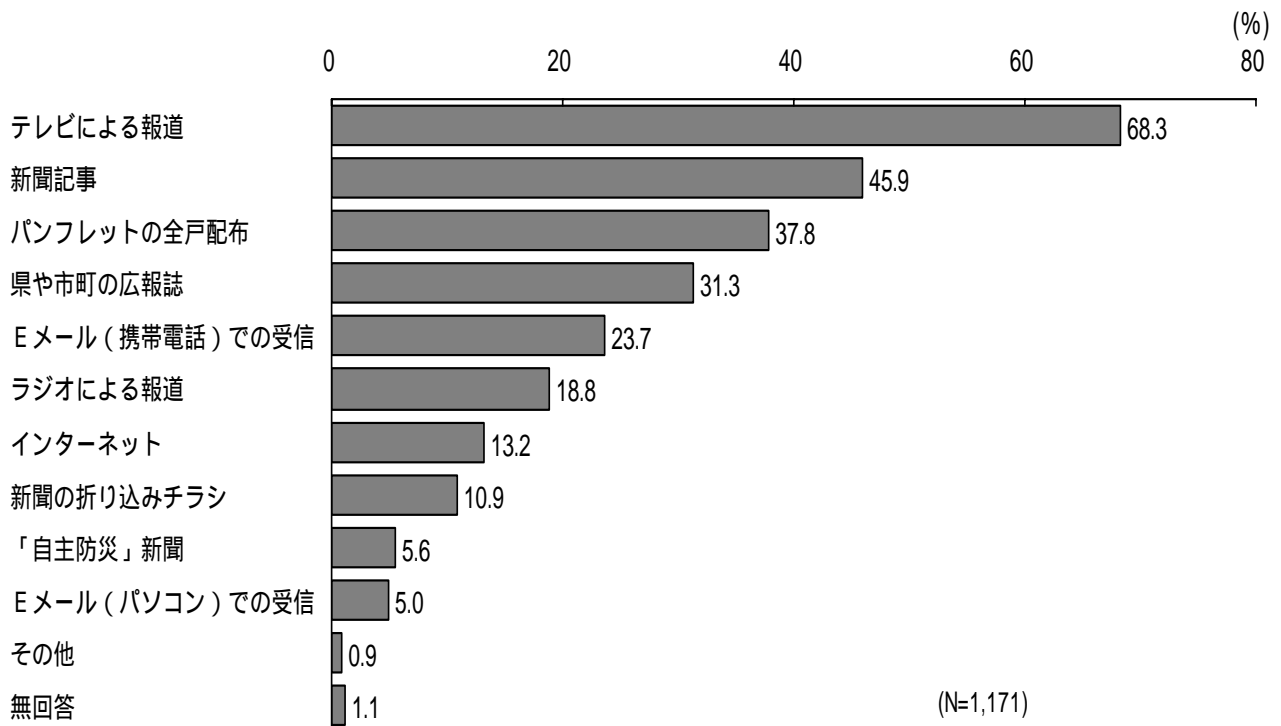


### 津波の沿岸到達時間 < 経年比較 >

経年比較でみると、北海道南西沖地震（平成5年7月）が起きた『平成5年11月調査』（49.5%）と、駿河湾を震源とする地震（平成21年8月）が起きた前回調査（49.7%）で、「5分以内」が高くなっている。



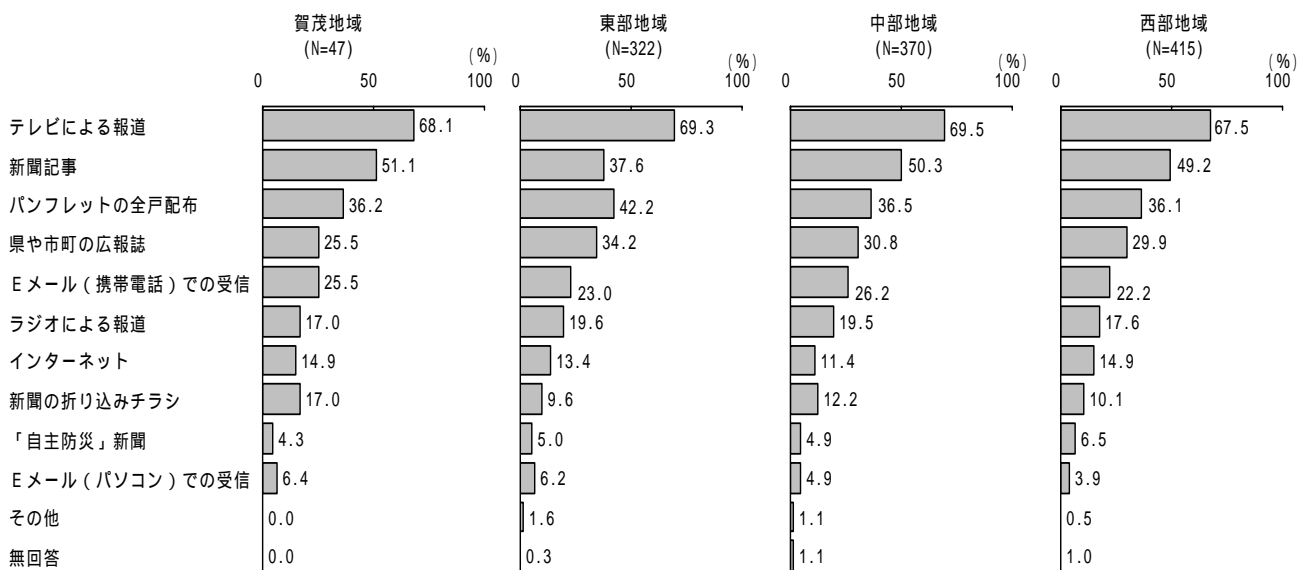
問6 東海地震を中心とした情報を定期的に皆様へ提供する方法について、確実に情報が手に入る方法は次のどれですか。(M.A.)



東海地震を中心とした情報を定期的に提供する方法についてたずねたところ、「テレビによる報道」(68.3%)が最も高く、次いで「新聞記事」(45.9%)、「パンフレットの全戸配布」(37.8%)、「県や市町の広報誌」(31.3%)の順となっている。

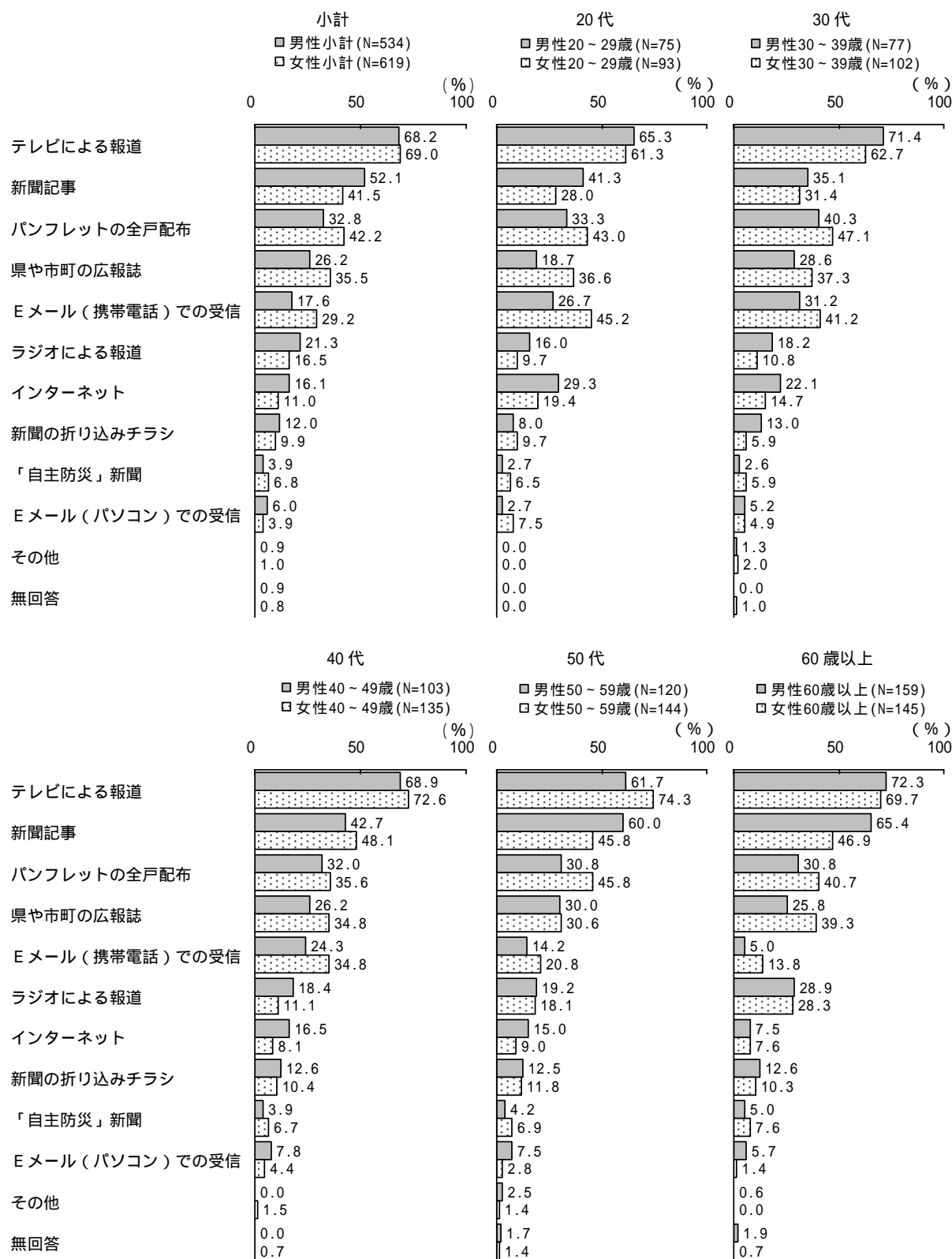
地域別でみると、「新聞記事」は『東部』(37.6%)が他よりも低く、4割を切っている。

東海地震を中心とした情報を定期的に提供する方法 <地域別>



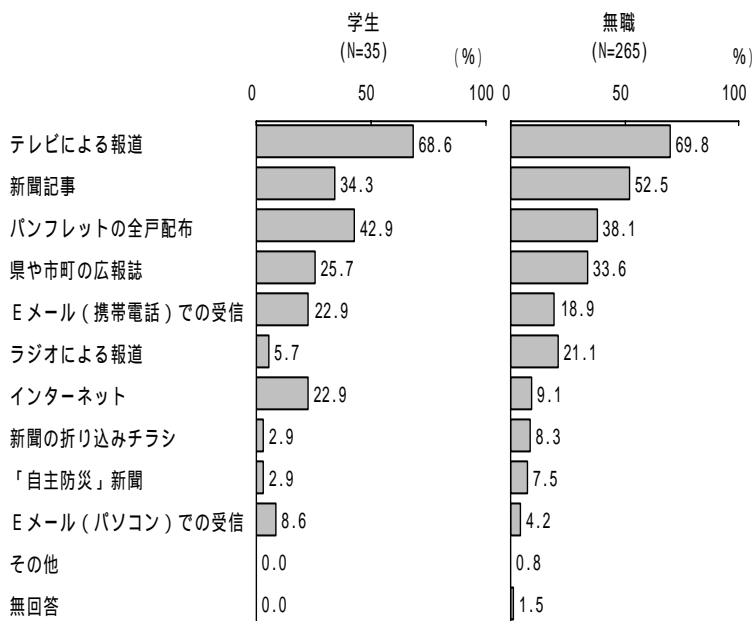
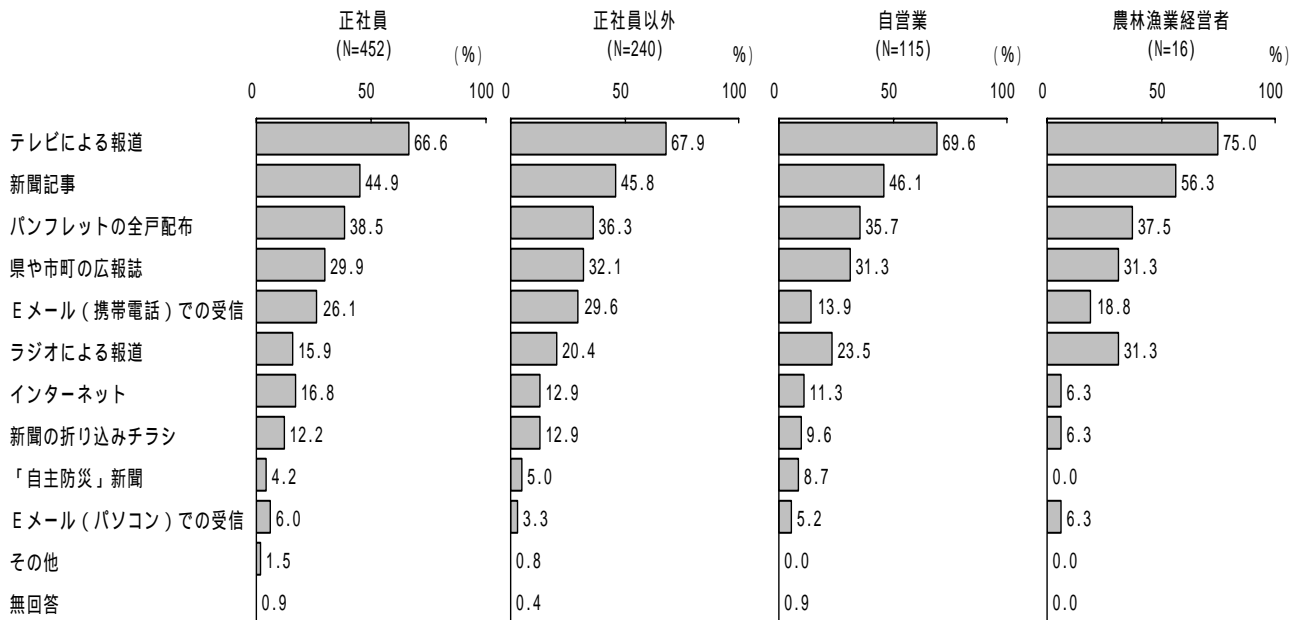
性・年代別でみると、いずれも「テレビによる報道」が最も高くなっている。「新聞記事」は、『男性60歳以上』（65.4%）が最も高く、『女性』より『男性』に高い傾向が見られる。「パンフレットの全戸配布」は、『女性30代』（47.1%）、『女性20代』（43.0%）、『女性50代』（45.8%）、『女性60歳以上』（46.9%）で4割を超えており、『男性』より『女性』に高い傾向が見られる。「Eメール（携帯電話）での受信」は、ほとんどの性・年代で「Eメール（パソコン）での受信」を上回っている。

東海地震を中心とした情報を定期的提供する方法 <性・年代別>



職業別でみると、いずれの職業においても「テレビによる報道」が最も高くなっている。「新聞記事」は、『農林漁業経営者』（56.3%）と『無職』（52.5%）が半数を超えている。「インターネット」や「Eメール（携帯電話）での受信」は、「正社員」、「正社員以外」、「学生」で高い傾向が見られる。

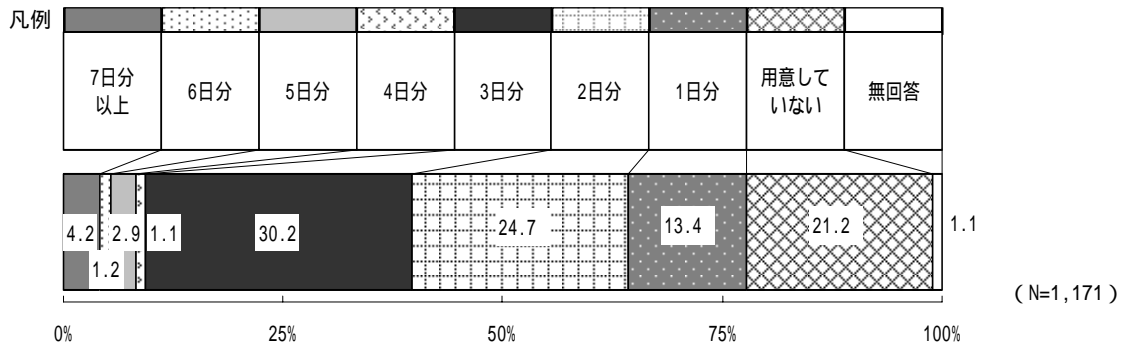
### 東海地震を中心とした情報を定期的に提供する方法 <職業別>



## 2 日ごろの防災対策について

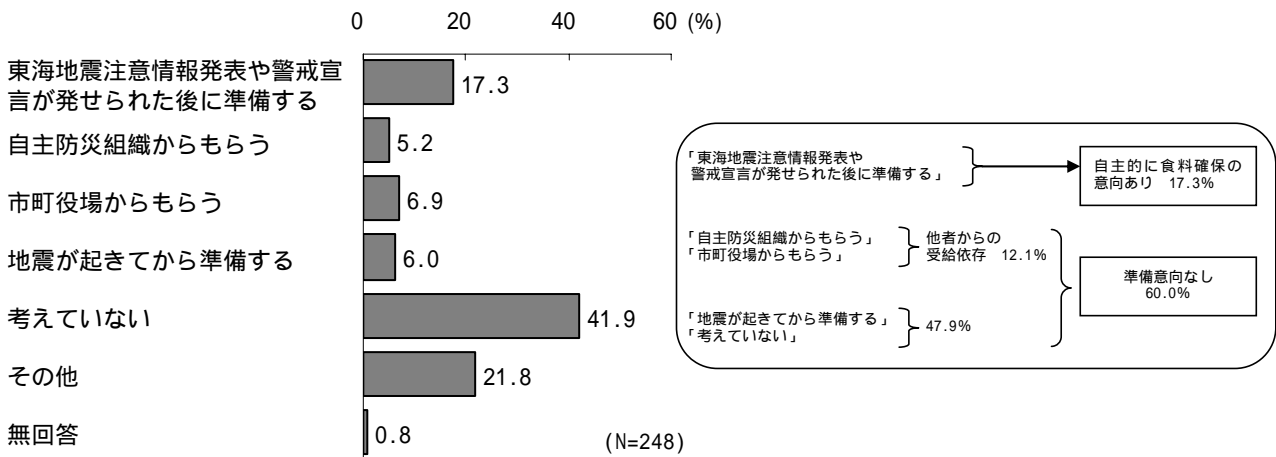
### 2 - 1 非常持出し用食料の備蓄日数

問7 あなたのお宅では、非常持出し用を含めて家族の何日分の食料を用意していますか。



3日分以上の備蓄率 39.6%  
平均：2.1日（前回：1.9日）

問7 - 1 <問7で「8 用意していない」を選んだ方にお伺いします。>  
食料はどのようにして確保するつもりですか。



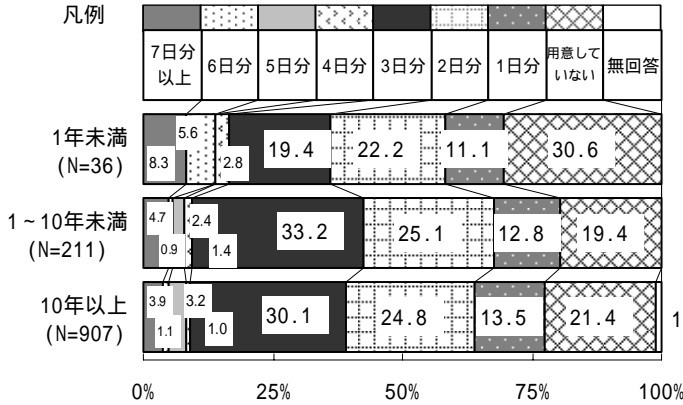
非常持出し用食料の備蓄日数についてたずねたところ、「3日分以上」用意している家庭は39.6%で、平均備蓄日数は2.1日である。

また、問7で「用意していない」と回答した人に、食料確保の手段をたずねたところ、「考えていない」（41.9%）が4割を超えている。

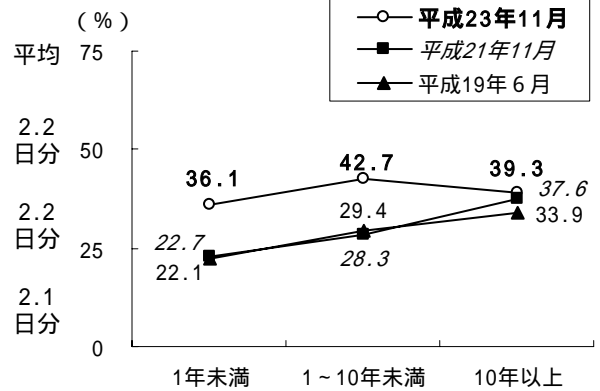


居住年数別でみると、「用意していない」は、『1年未満』（30.6%）が最も高く、3日分以上の備蓄率を居住年数別でみると、『1～10年未満』（42.6%）が4割を超え、次いで『10年以上』（39.3%）、『1年未満』（36.1%）となっている。

非常持出し用食料の備蓄日数 <居住年数別>



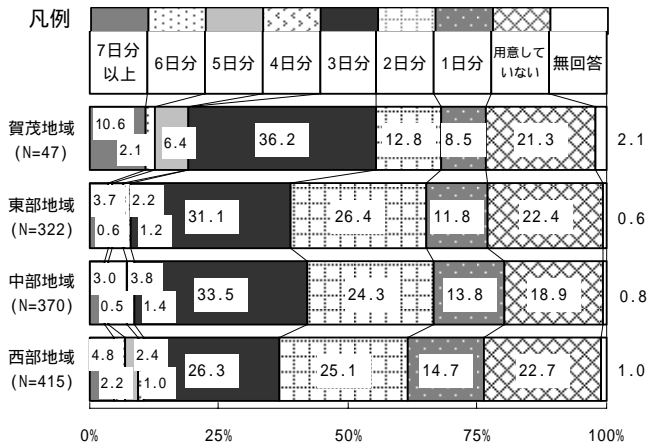
3日分以上の備蓄率 <居住年数別>



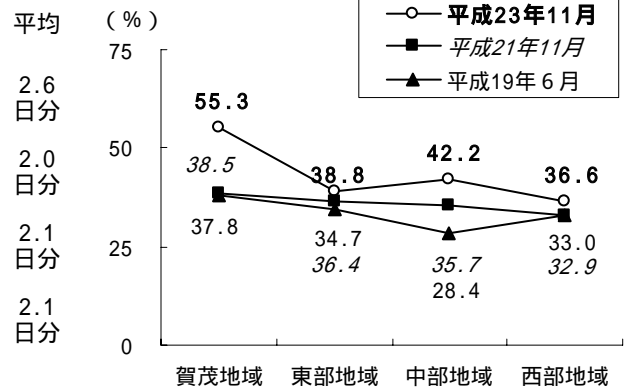
地域別でみると、「用意していない」は、最も高い『西部』（22.7%）と、最も低い『中部』（18.9%）では3.8ポイントの差が見られる。

3日分以上の備蓄率を地域別にみると、最も高い『賀茂』（55.3%）と、最も低い『西部』（36.6%）では18.7ポイントの差が見られる。

非常持出し用食料の備蓄日数 <地域別>



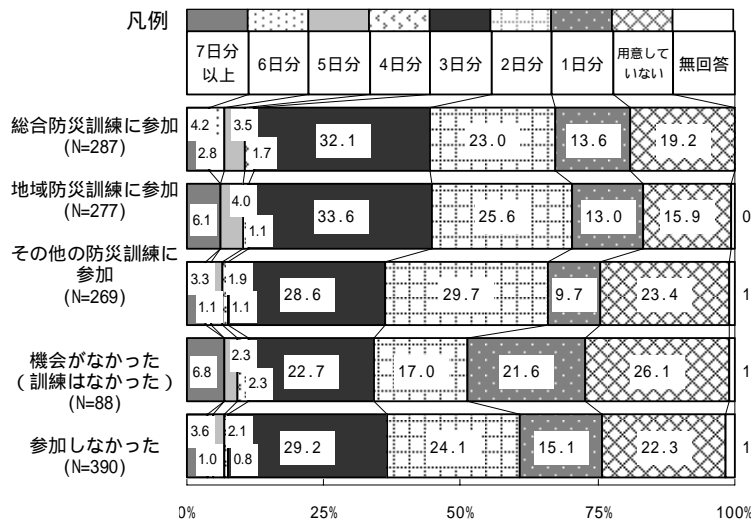
3日分以上の備蓄率 <地域別>



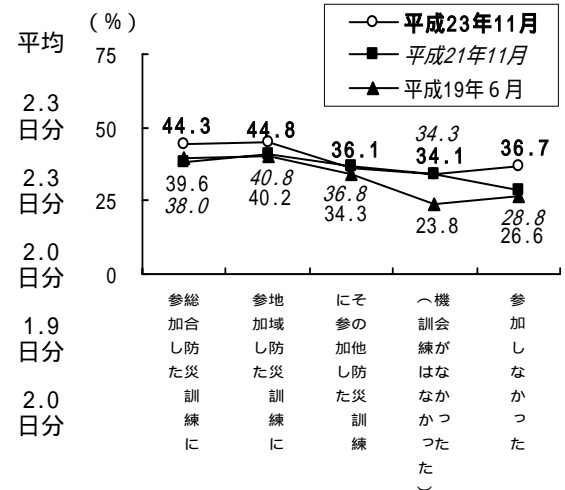
防災訓練参加状況別でみると、「用意していない」は、最も高い『機会がなかった（訓練はなかった）』（26.1%）と、最も低い『地域防災訓練に参加』（15.9%）では10.2ポイントの差が見られる。

3日分以上の備蓄率を防災訓練参加状況別でみると、最も高かったのは『地域防災訓練に参加』（44.8%）、次いで『総合防災訓練に参加した』（44.3%）、最も低かったのは『機会がなかった（訓練はなかった）』（34.1%）で、『地域防災訓練に参加』とは10.7ポイントの差が見られる。

非常持出し用食料の備蓄日数 < 防災訓練参加状況別 >



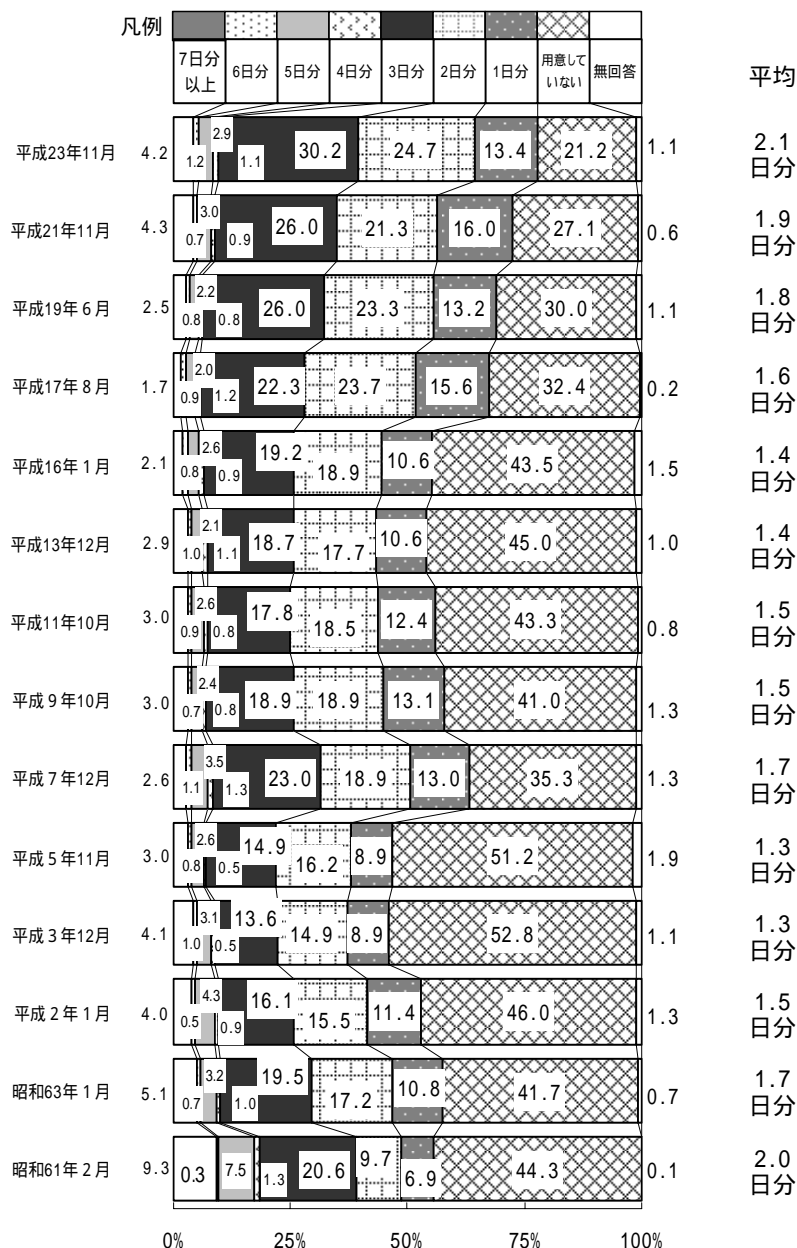
3日以上の備蓄率 < 防災訓練参加状況別 >



経年比較でみると、『平成7年12月の調査』では阪神・淡路大震災（平成7年1月）をきっかけに、3日以上の備蓄率が急増した。それ以降、備蓄率は25%程度を推移していたが、平成16年の新潟県中越地震（平成16年10月）、スマトラ沖地震（平成16年12月）、能登半島地震（平成19年3月）、駿河湾を震源とする地震（平成21年8月）などが発生したこともあり、平成17年以降、「用意していない」が減少し、3日以上の備蓄率は増加傾向にある。また、今回調査では、東日本大震災（平成23年3月）が発生したこともあり、3日以上の備蓄率は39.6%となり、前回調査（34.9%）より4.7ポイント上昇している。

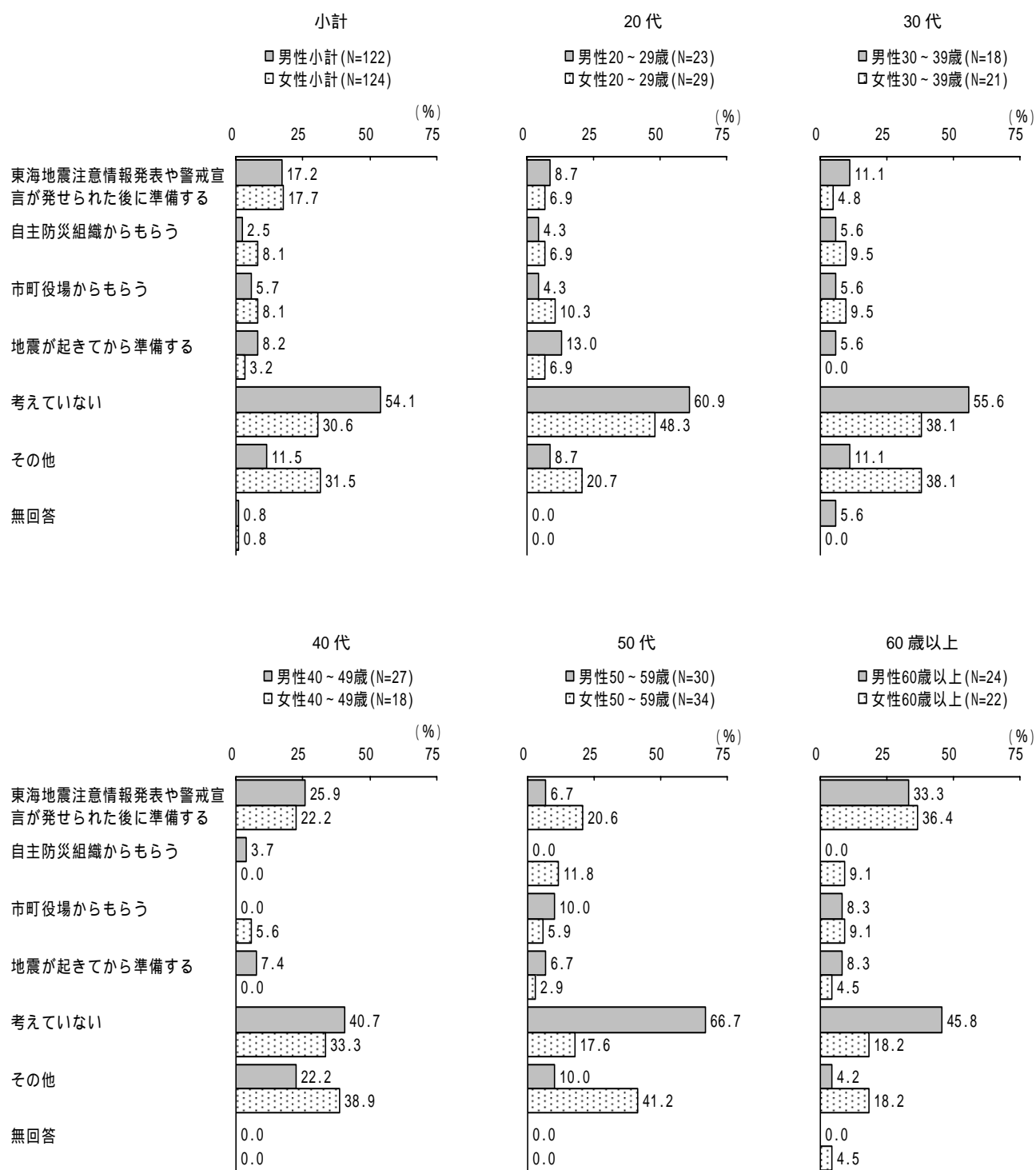
非常持出し用食料の備蓄日数  
< 経年比較 >

非常持出し用食料3日分以上 備蓄率 経年比較	
平成23年11月	39.6%
平成21年11月	34.9%
平成19年6月	32.3%
平成17年8月	28.1%
平成16年1月	25.6%
平成13年12月	25.8%
平成11年10月	25.1%
平成9年10月	25.8%
平成7年12月	31.5%
平成5年11月	21.8%
平成3年12月	22.3%
平成2年1月	25.8%
昭和63年1月	29.5%
昭和61年2月	39.0%



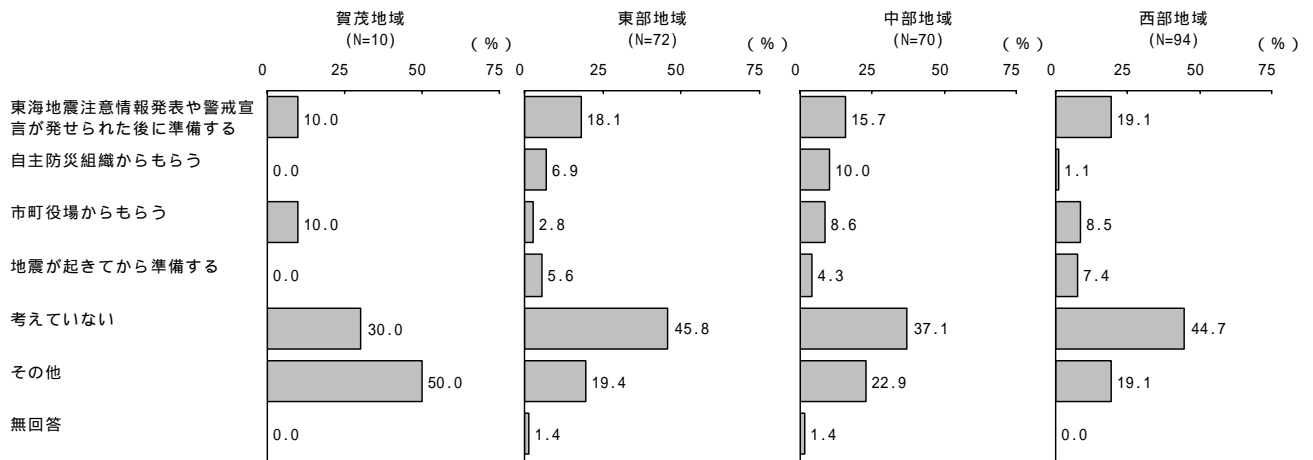
食料確保の手段を性・年代別で見ると、「東海地震注意情報発表や警戒宣言が発せられた後に準備する」は、『女性60歳以上』（36.4%）が最も高く、次いで『男性60歳以上』（33.3%）、『男性40代』（25.9%）の順となっている。「考えていない」は、最も高い『男性50代』（66.7%）と、最も低い『女性50代』（17.6%）では49.1ポイントの差が見られ、女性の方が食料確保の手段を考慮している傾向が見られる。

### 非常持出し用食料を用意していない人の食料確保の手段 <性・年代別>



地域別で見ると、「考えていない」が『東部』(45.8%)、次いで『西部』(44.7%)で4割を超えている。

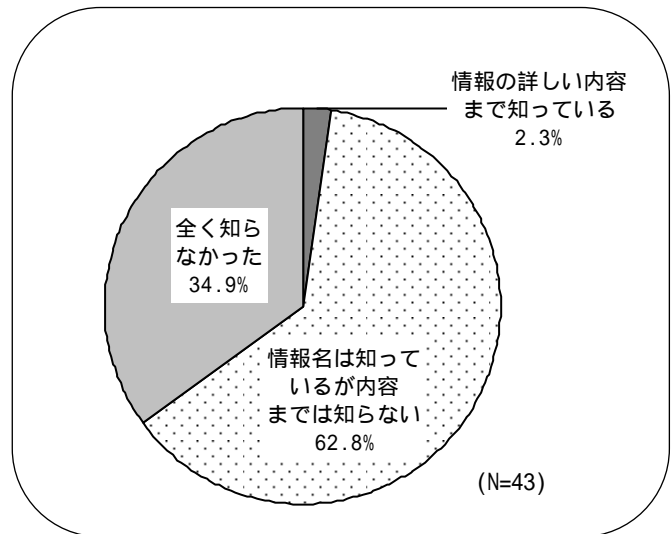
非常持出し用食料を用意していない人の食料確保の手段 <地域別>



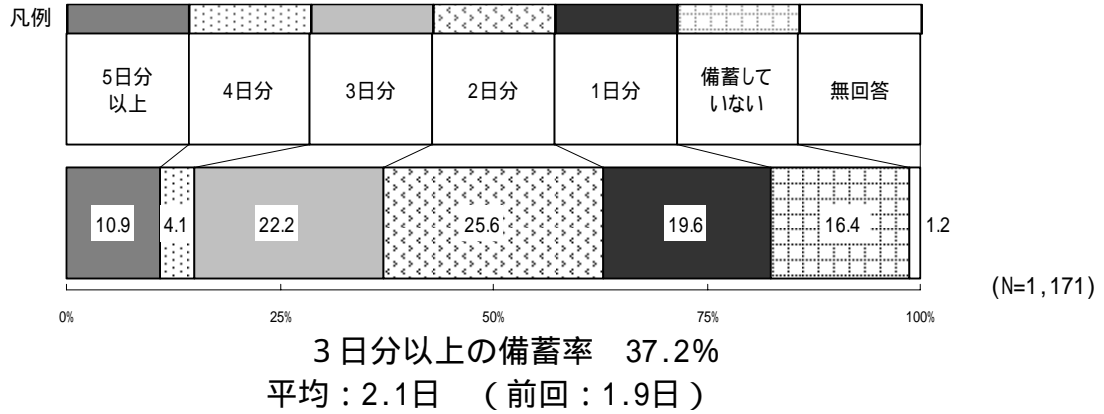
情報体系の認知度

<「東海地震注意情報発表や警戒宣言が発せられた後に準備する」と回答した人の内訳>

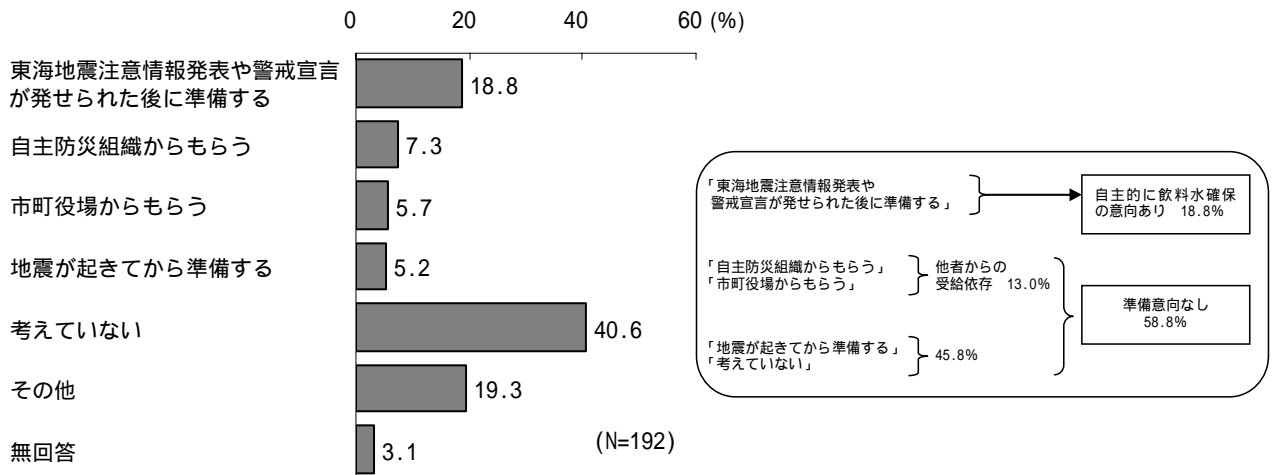
「東海地震注意情報発表や警戒宣言が発せられた後に準備する」と回答した人のみで情報体系の認知度をみると、「情報の詳しい内容まで知っている」(2.3%)、次いで「情報名は知っているが内容までは知らない」(62.8%)、「全く知らなかった」(34.9%)の順となっており、内容についての認知度の低さは97.7%となっている。



問8 あなたのお宅では、何日分の飲料水を備蓄していますか。ご家族ひとり1日あたり3リットルで計算してください。



問8-1 <問8で「6 備蓄していない」を選んだ方にお伺いします。>  
飲料水はどのようにして確保するつもりですか。



飲料水の備蓄日数についてたずねたところ、「2日分」（25.6%）が最も高く、3日以上用意している家庭は37.2%で、平均備蓄日数は2.1日である。

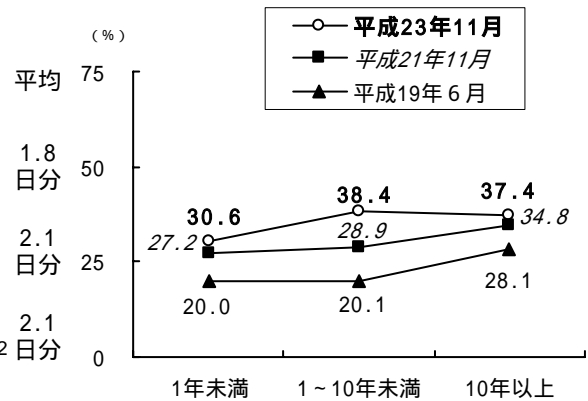
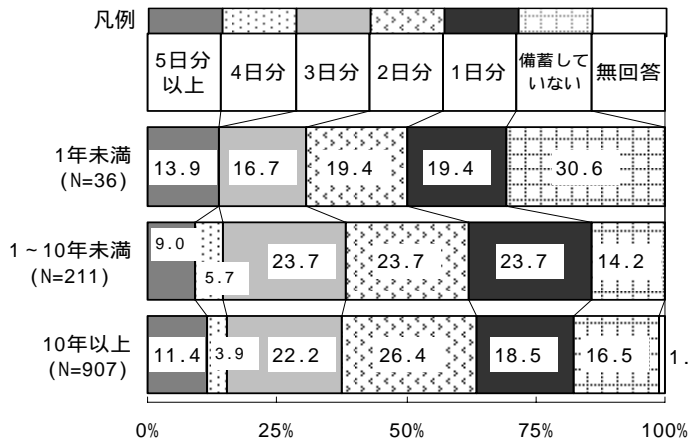
また、問8で「備蓄していない」と回答した人に、飲料水確保の手段をたずねたところ、「考えていない」（40.6%）が最も高く、次いで「東海地震注意情報発表や警戒宣言が発せられた後に準備する」（18.8%）、「自主防災組織からもらう」（7.3%）の順となっている。

居住年数別でみると、「備蓄していない」は、『1年未満』（30.6%）が最も高く、一番低い『1～10年未満』（14.2%）とは16.4ポイントの差が見られる。

3日以上の備蓄率を居住年数別でみると、『1～10年未満』（38.4%）が最も高く、次いで『10年以上』（37.4%）、『1年未満』（30.6%）と全てで3割を超えている。

飲料水備蓄日数 <居住年数別>

3日以上の備蓄率 <居住年数別>



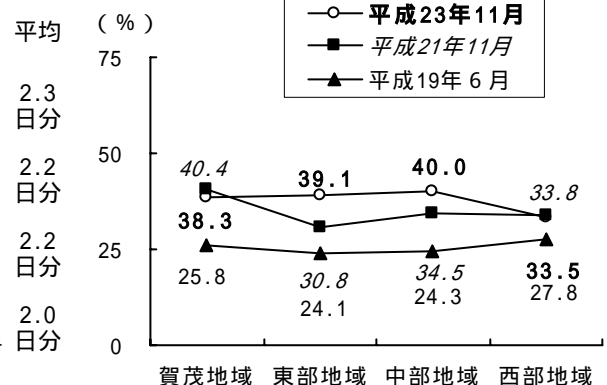
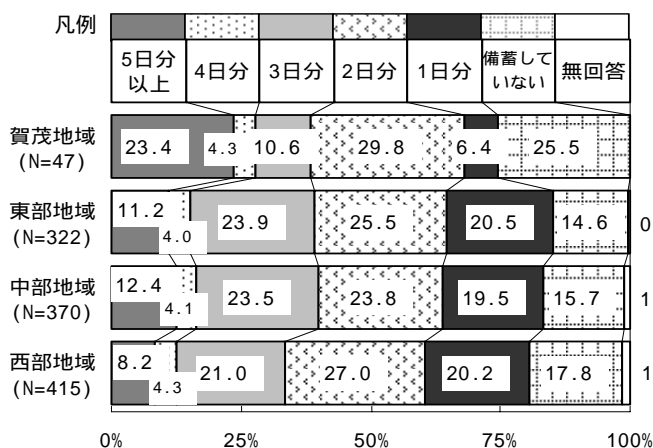
地域別でみると、「備蓄していない」は、最も高い『賀茂』（25.5%）と、最も低い『東部』（14.6%）では10.9ポイントの差が見られる。

3日以上の備蓄率を地域別でみると、最も高い『中部』（40.0%）と、最も低い『西部』（33.5%）では6.5ポイントの差が見られる。

また、過去2回の調査と比較すると、『東部』（39.1%）、『中部』（40.0%）で3日以上の備蓄率が高くなっている。

飲料水備蓄日数 <地域別>

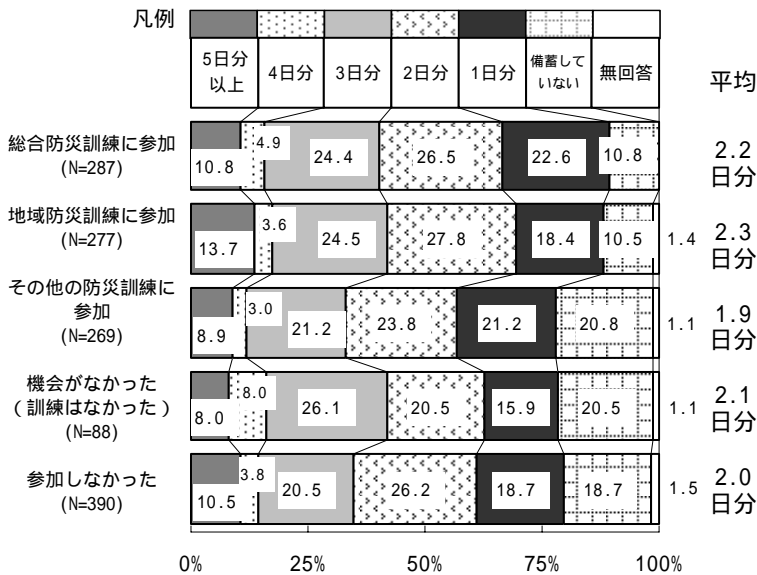
3日以上の備蓄率 <地域別>



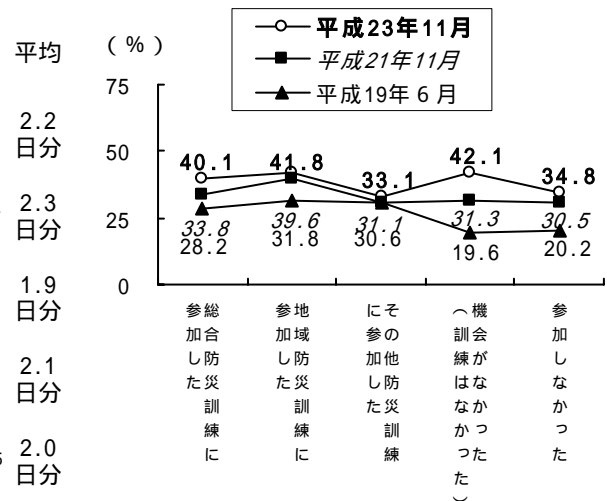
防災訓練参加状況別でみると、「備蓄していない」は、『その他防災訓練に参加した』（20.8%）、次いで『機会がなかった（訓練はなかった）』（20.5%）の順となっている。

3日分以上の備蓄率を防災訓練参加状況別でみると、『機会がなかった（訓練はなかった）』（42.1%）が最も高く、最も低い『その他防災訓練に参加した』（33.1%）とは9.0ポイントの差が見られる。

飲料水備蓄日数  
< 防災訓練参加状況別 >



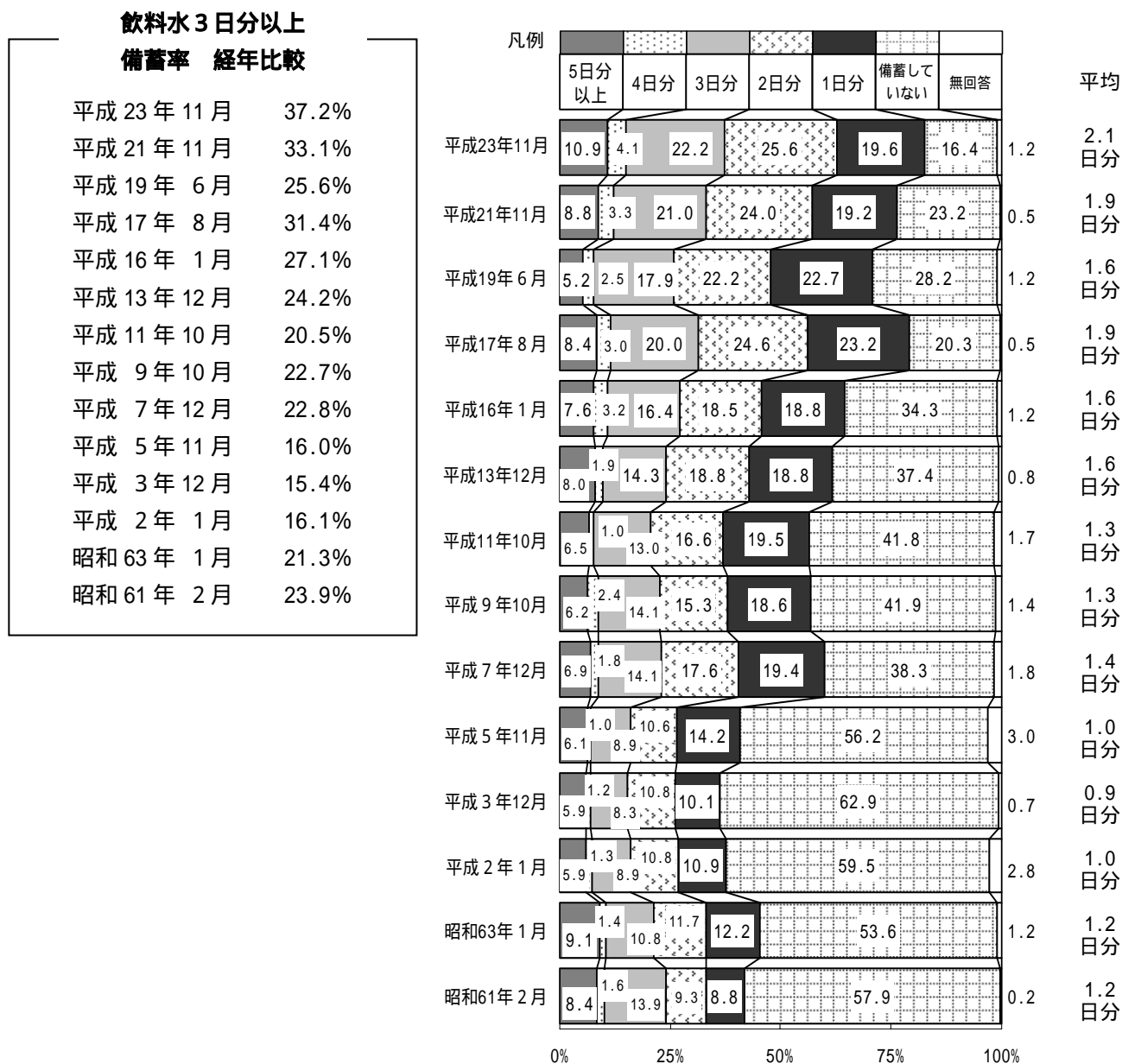
3日分以上の備蓄率  
< 防災訓練参加状況別 >





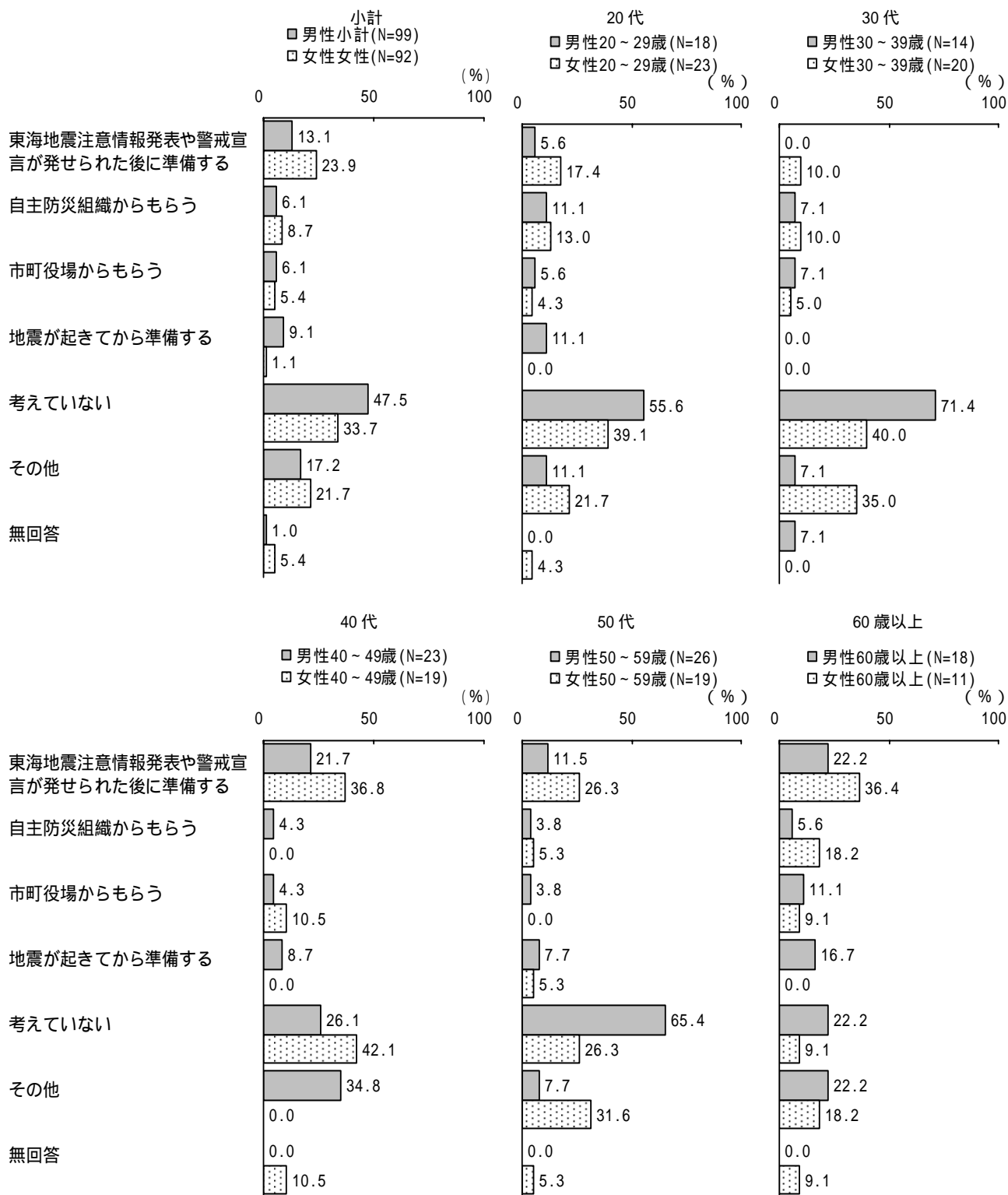
経年比較でみると、「備蓄していない」は、今回調査（16.4%）が、前回調査（23.2%）より6.8ポイント減少している。また、『飲料水3日分以上の備蓄率』では、今回調査（37.2%）は、前回調査（33.1%）より4.1ポイント上昇している。

飲料水の備蓄日数 < 経年比較 >



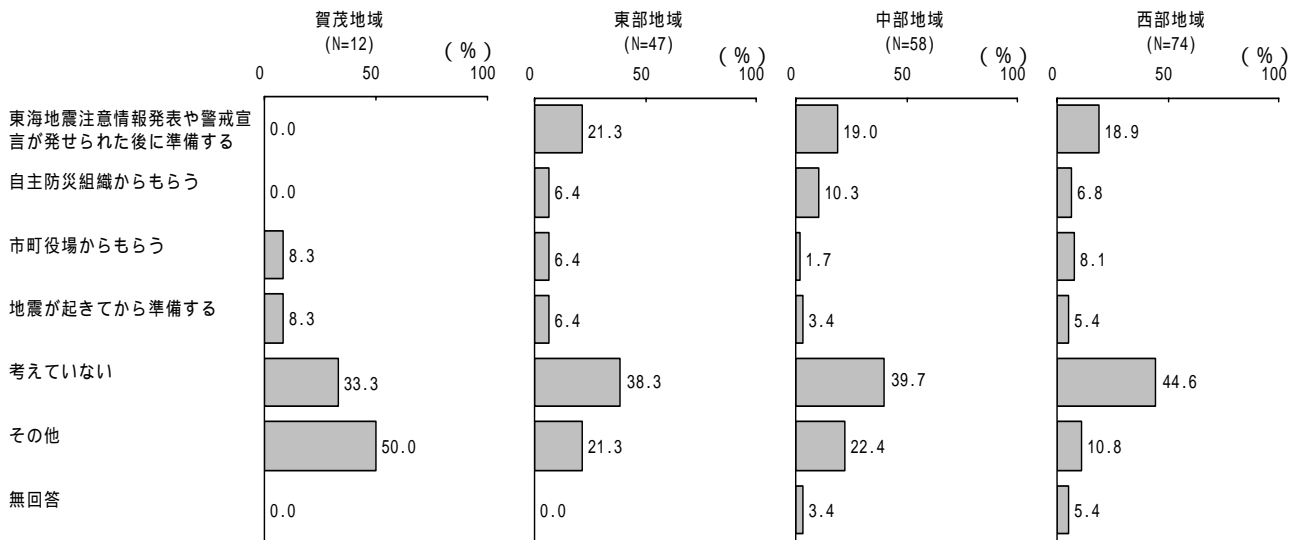
性・年代別でみると、「考えていない」は、「男性30代」(71.4%)が最も高く、次いで『男性50代』(65.4%)、『男性20代』(55.6%)、『女性40代』(42.1%)、『女性30代』(40.0%)の順となっており、男性は『20代』、『30代』、『50代』、女性は『20代』から『40代』で「考えていない」が高くなっている。

### 飲料水確保の手段 < 性・年代別 >



地域別でみると、「考えていない」は、最も高い『西部』（44.6%）と、最も低い『賀茂』（33.3%）では11.3ポイントの差が見られる。

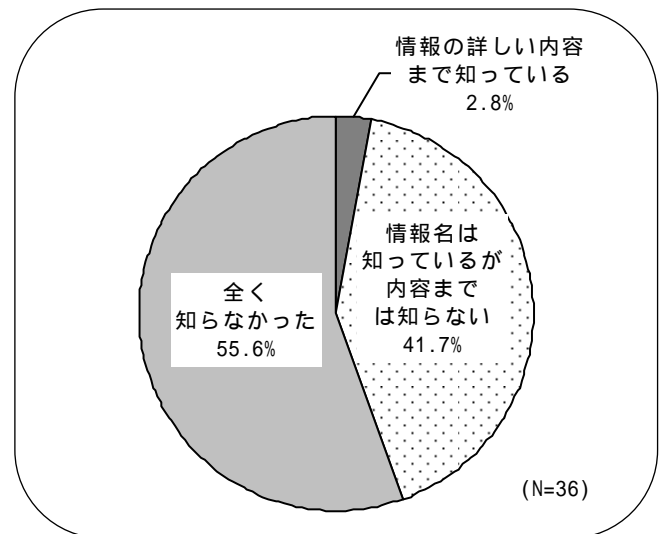
### 飲料水確保の手段 <地域別>



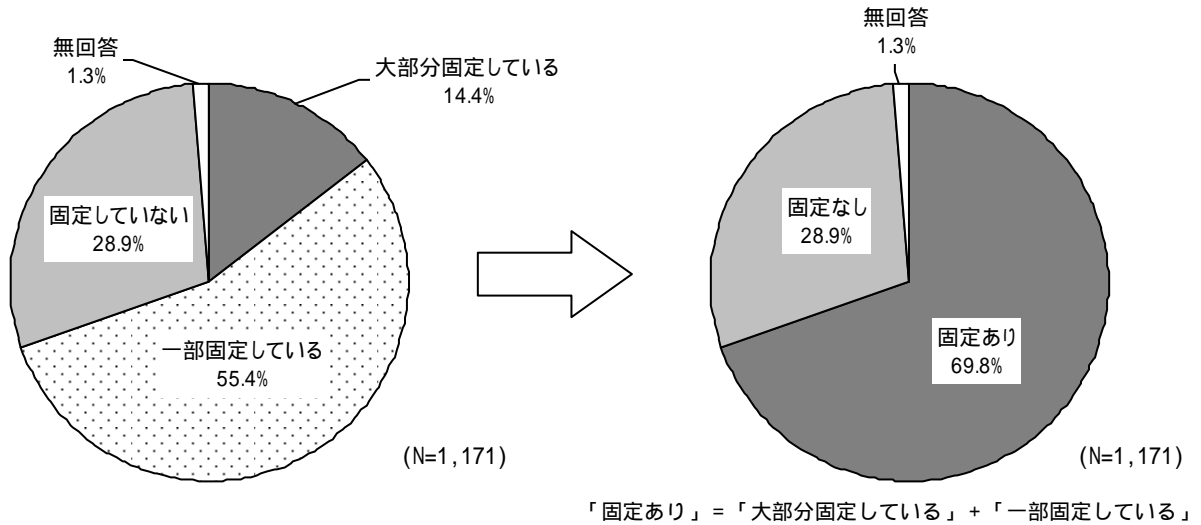
### 情報体系の認知度

< 「東海地震注意情報発表や警戒宣言が発せられた後に準備する」と回答した人の内訳 >

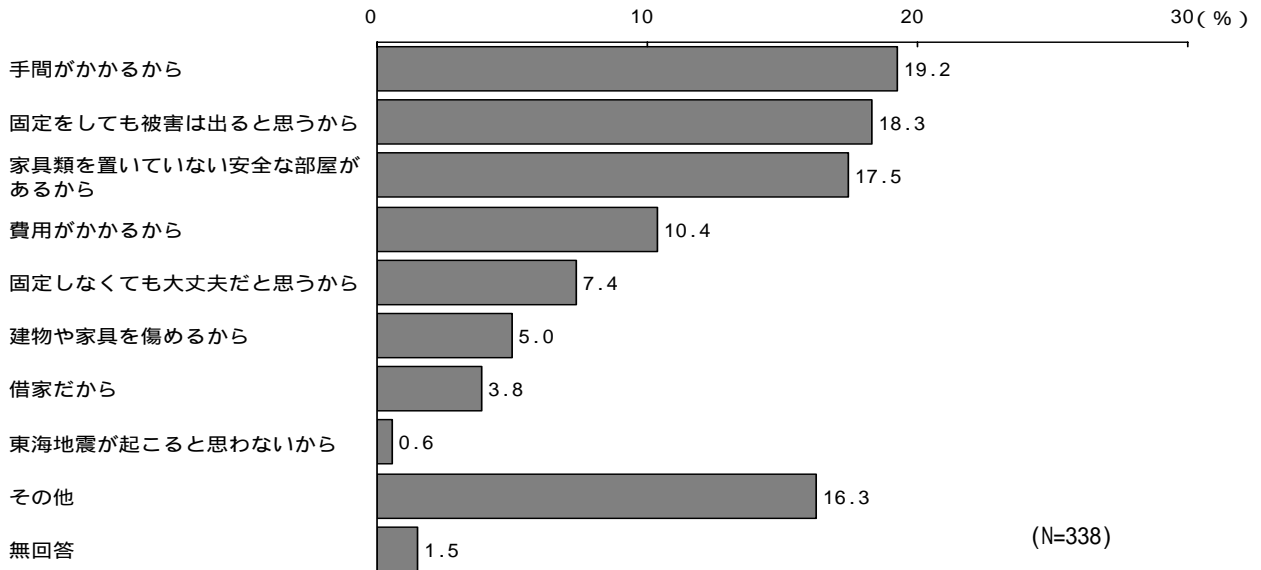
「東海地震注意情報発表や警戒宣言が発せられた後に準備する」と回答した人のみで情報体系の認知度をみると、「全く知らなかった」（55.6%）が最も高く、次いで「情報は知っているが内容までは知らない」（41.7%）、「情報の詳しい内容まで知っている」（2.8%）の順となっている。



問9 あなたのお宅では、地震に備えて家具類の固定をしていますか。



問9 - 1 <問9で「3 固定していない」を選んだ方にお伺いします。>  
なぜですか。



家具類の固定状況についてたずねたところ、「大部分固定している」(14.4%)と「一部固定している」(55.4%)を合わせると、固定実施率は69.8%である。

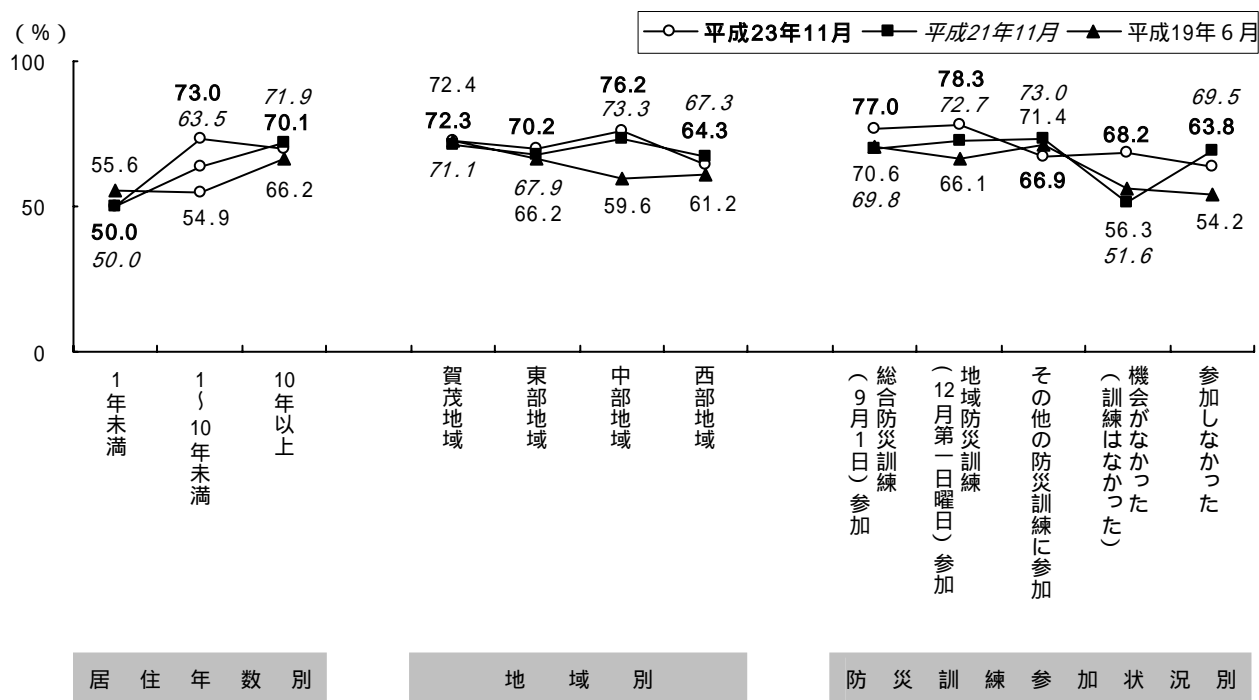
また、問9で「固定していない」と回答した人に、その理由をたずねたところ、「手間がかかるから」(19.2%)、「固定しても被害は出ると思うから」(18.3%)、「家具類を置いていない安全な部屋があるから」(17.5%)、「費用がかかるから」(10.4%)であった。

家具類の固定実施率（「大部分固定している」＋「一部固定している」）を属性別でみると、居住年数別では、『1～10年未満』（73.0%）、『10年以上』（70.1%）で7割を超えており、『1年未満』（50.0%）に比べ高くなっている。

地域別でみると、最も高い『中部』（76.2%）と、最も低い『西部』（64.3%）では11.9ポイントの差が見られる。

防災訓練参加状況別でみると、いずれかの防災訓練に参加している人は、参加していない人よりも固定実施率が高い傾向が見られる。

家具類の固定実施率（「大部分固定している」＋「一部固定している」） <属性別>

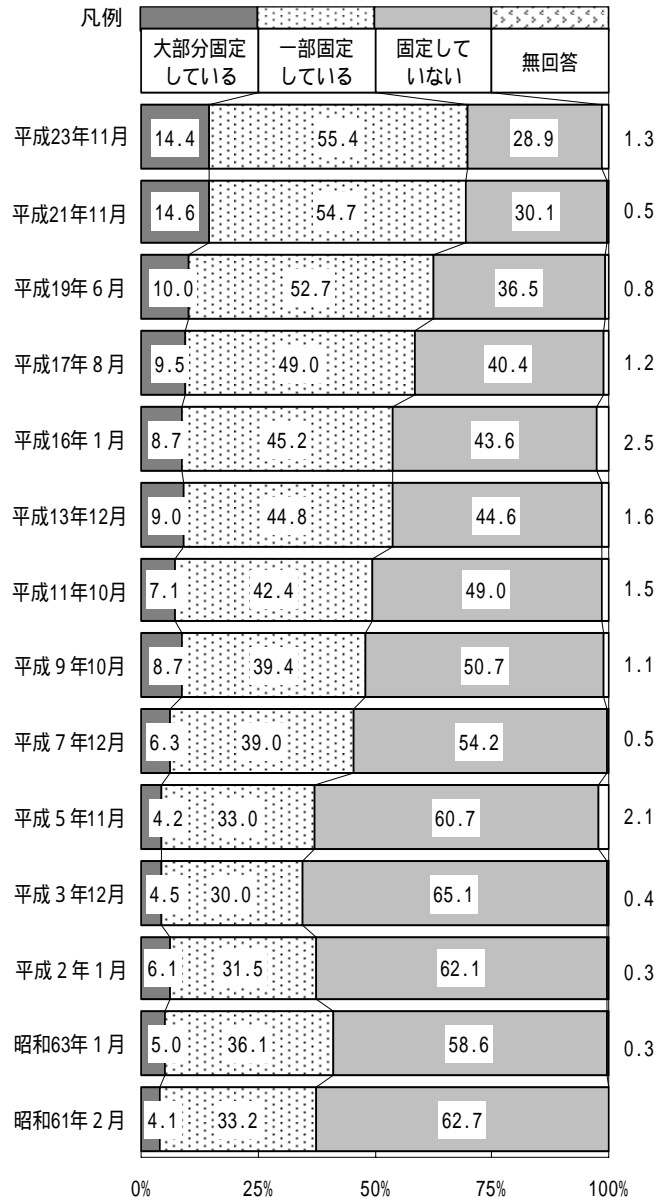


家具類の固定実施状況 < 経年比較 >

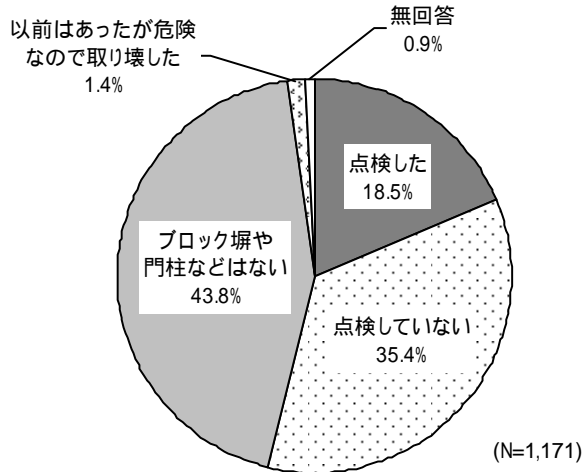
経年比較でみると、家具の固定実施率（「大部分固定している」+「一部固定している」）は平成3年以降、年々増加傾向となっており、今回調査（69.8%）は、前回調査（69.3%）より0.5ポイント上回っている。

家具固定の実施率  
経年比較

平成 23 年 11 月	69.8%
平成 21 年 11 月	69.3%
平成 19 年 6 月	62.7%
平成 17 年 8 月	58.5%
平成 16 年 1 月	53.9%
平成 13 年 12 月	53.8%
平成 11 年 10 月	49.5%
平成 9 年 10 月	48.1%
平成 7 年 12 月	45.3%
平成 5 年 11 月	37.2%
平成 3 年 12 月	34.5%
平成 2 年 1 月	37.6%
昭和 63 年 1 月	41.1%
昭和 61 年 2 月	37.3%

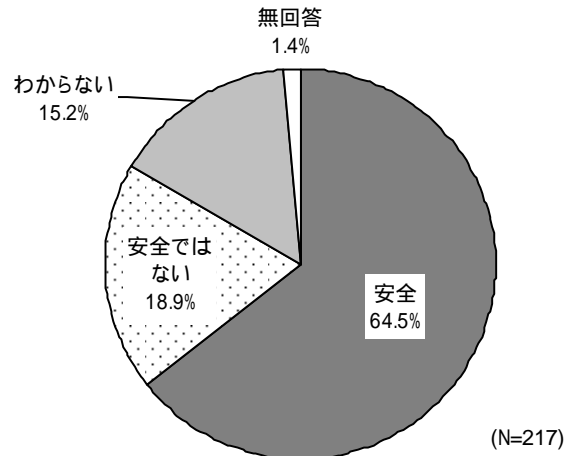


問10 あなたのお宅では、ブロック塀や門柱などの安全性について点検していますか。

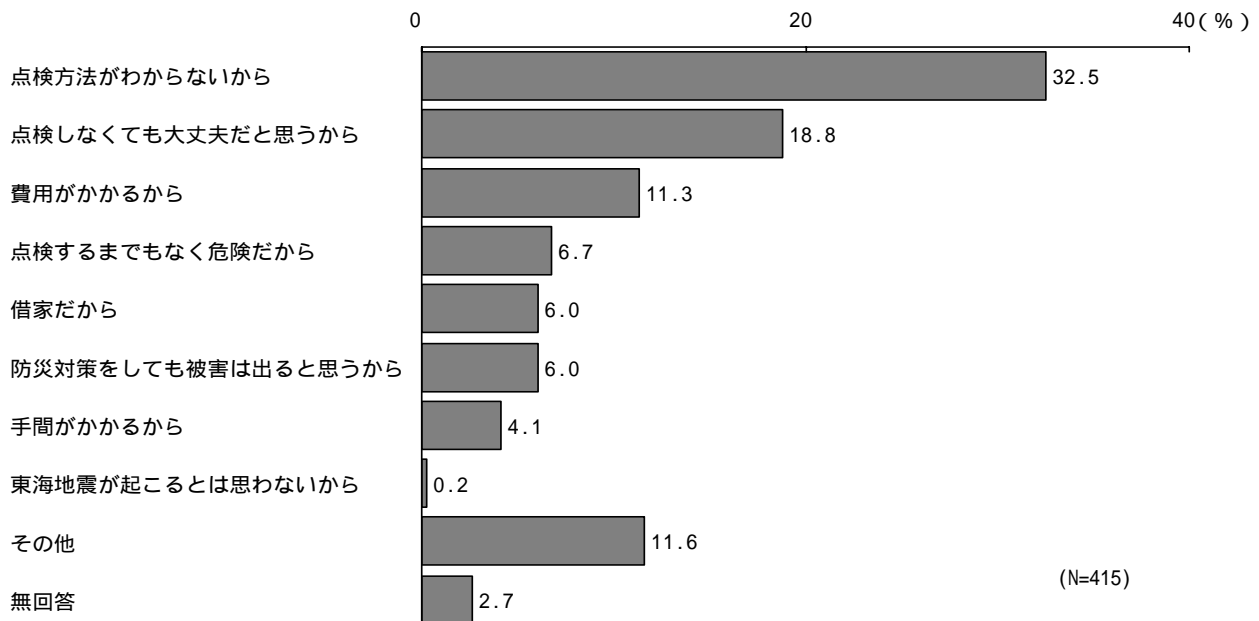


問10 - 1 <問10で「1 点検した」を選んだ方にお伺いします。>

点検結果はいかがでしたか。



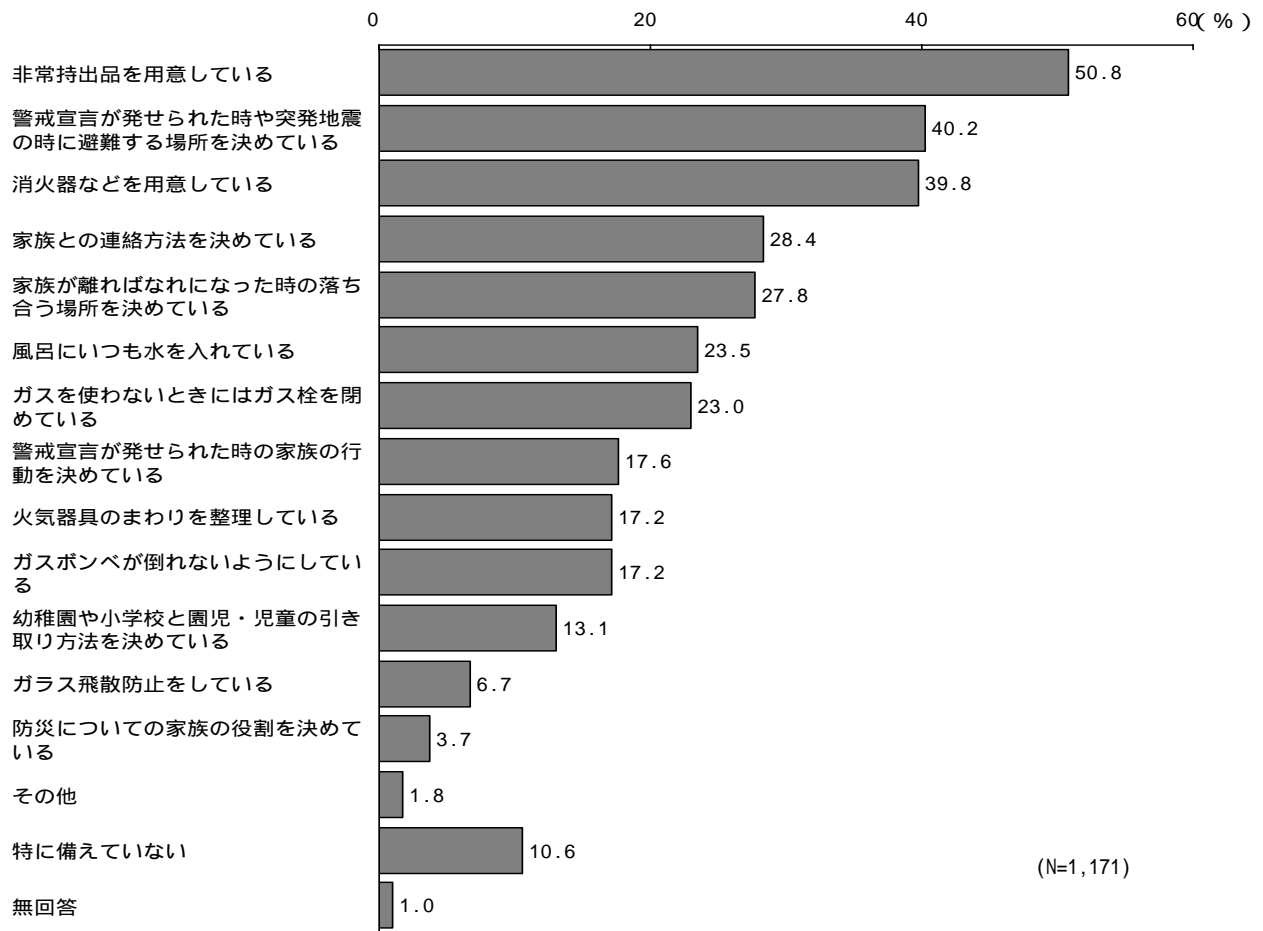
問10 - 2 <問10で「2 点検していない」を選んだ方にお伺いします。>  
どのような理由からですか。



ブロック塀・門柱などの安全性の点検についてたずねたところ、「ブロック塀や門柱などはない」(43.8%)が最も高く、次いで「点検していない」(35.4%)、「点検した」(18.5%)、「以前はあったが、危険なので取り壊した」(1.4%)の順となっている。

問10で「点検をした」と回答した人に、結果をたずねたところ、「安全」(64.5%)が最も高く、次いで「安全ではない」(18.9%)、「わからない」(15.2%)の順となっている。また、問10で「点検していない」と回答した人の理由については、「点検方法が分からないから」(32.5%)が最も高く、次いで「点検しなくても大丈夫だと思うから」(18.8%)、「費用がかかるから」(11.3%)の順となっている。

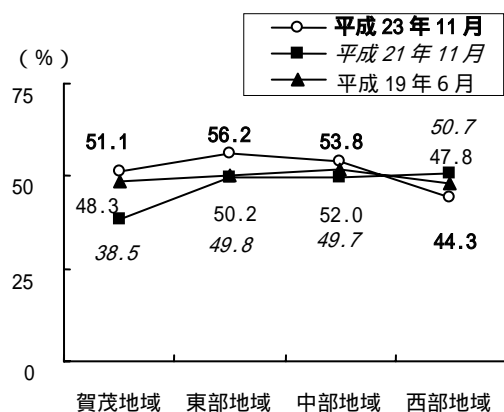
問11 次にあげるものの中で、東海地震に備えてあなたのお宅で行っているものについて、いくつでもお答えください。(M.A.)



東海地震に備えて行っている防災対策についてたずねたところ、「非常持出品を用意している」(50.8%)が最も高く、次いで「警戒宣言が発せられた時や突発地震の時に避難する場所を決めている」(40.2%)、「消火器などを用意している」(39.8%)、「家族との連絡方法を決めている」(28.4%)の順となっている。

非常持出品の準備率 <地域別>

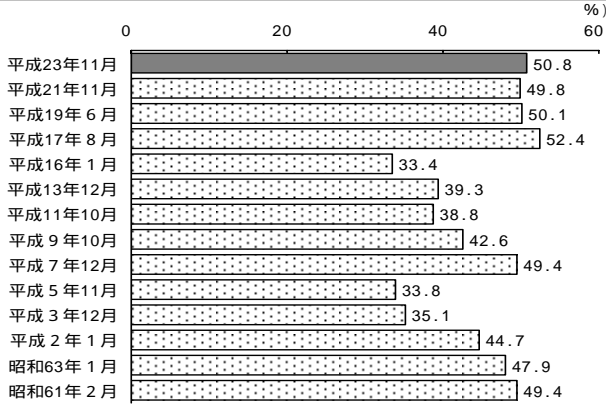
非常持出品の準備率を地域別でみると、最も高い『東部』(56.2%)と、最も低い『西部』(44.3%)では11.9ポイントの差が見られる。



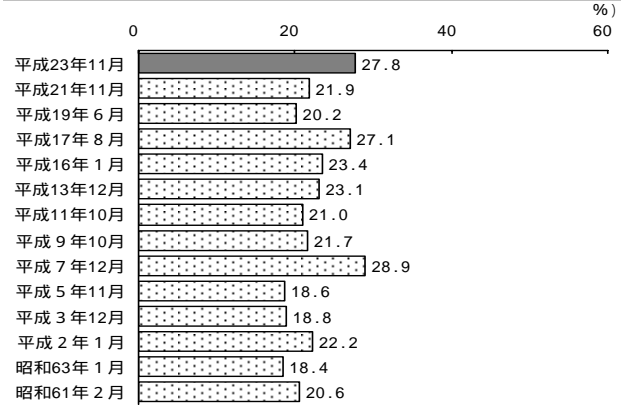


## 東海地震に対する防災対策 < 経年比較 >

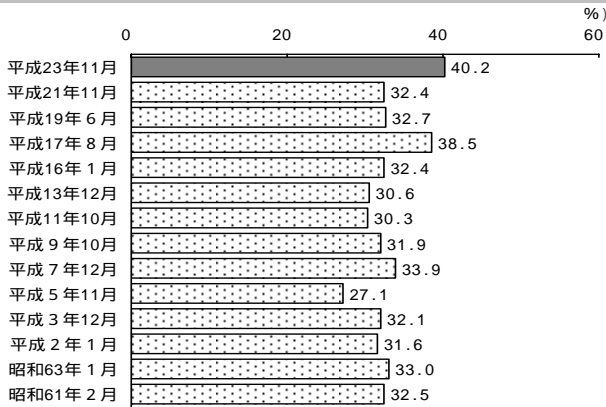
非常持出品を用意している



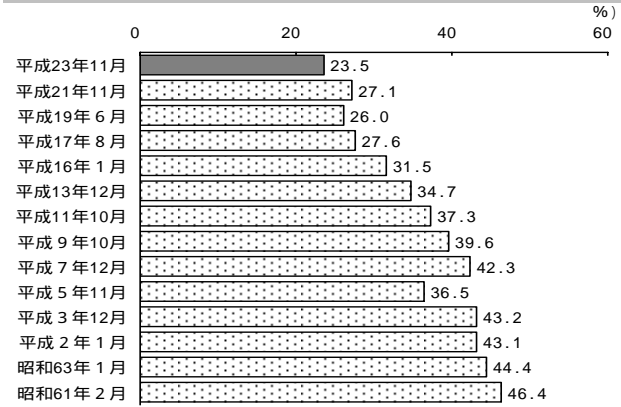
家族が離ればなれになった時の落ち合う場所を決めている



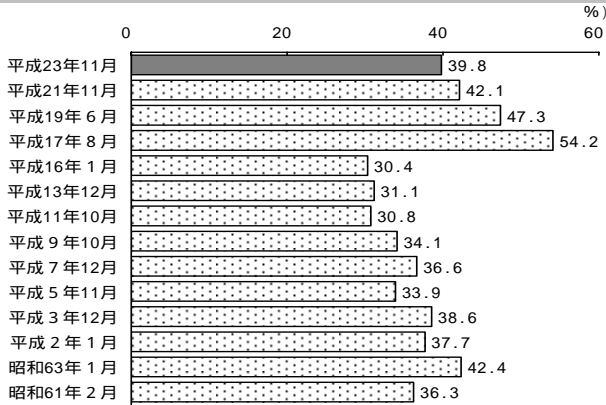
警戒宣言が発せられた時や突発地震の時に避難する場所を決めている



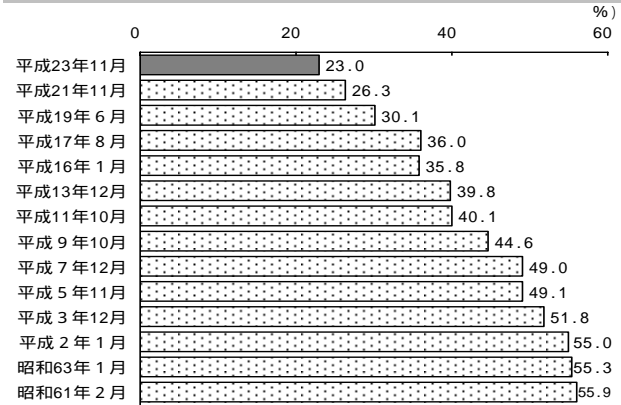
風呂にいつも水を入れている



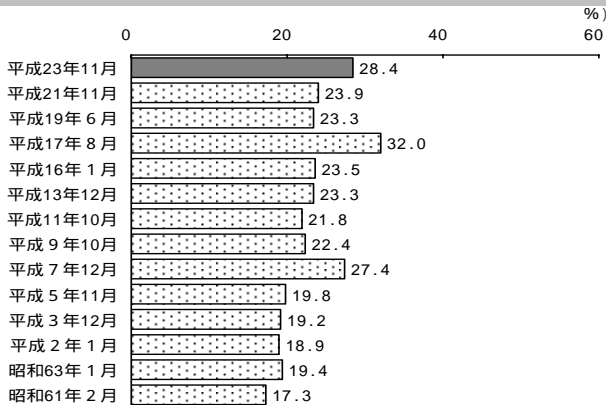
消火器などを用意している



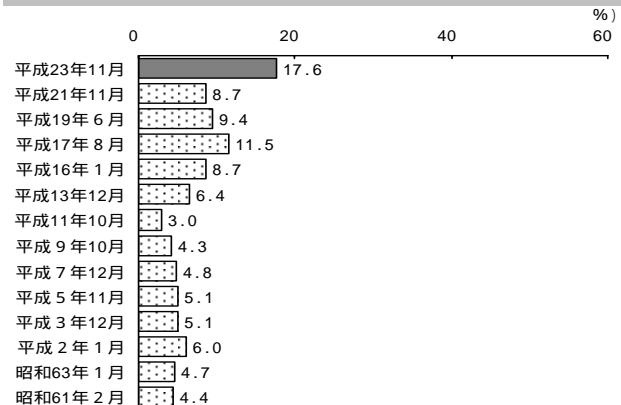
ガスを使わないときにはガス栓を閉めている



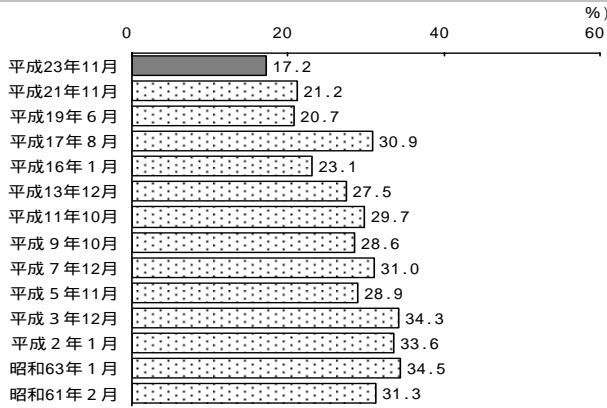
家族との連絡方法を決めている



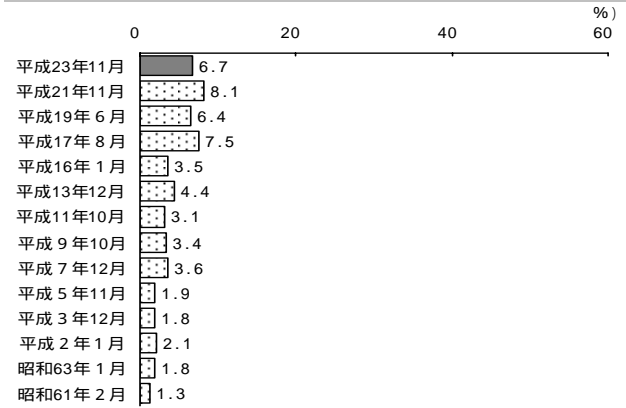
警戒宣言が発せられた時の家族の行動を決めている



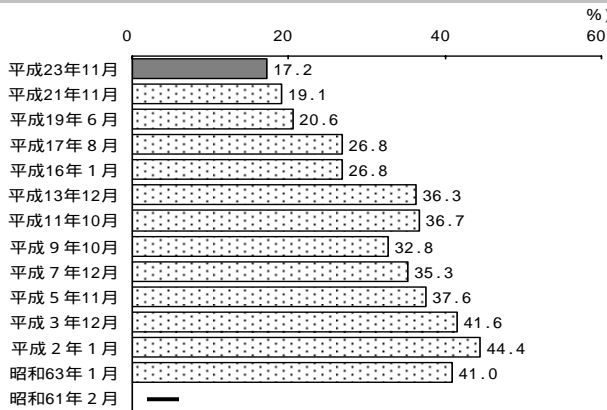
火気器具のまわりを整理している



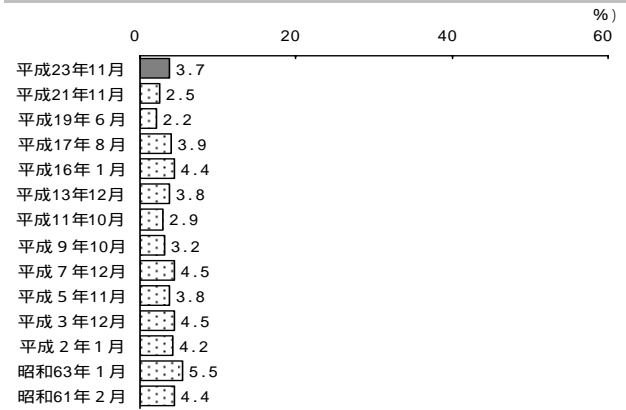
ガラス飛散防止をしている



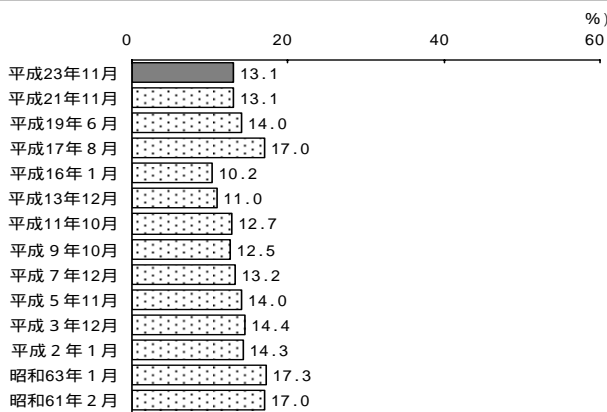
ガスボンベが倒れないようにしている



防災についての家族の役割を決めている



幼稚園や小学校と園児・児童の引き取り方法を決めている



経年比較でみると、日常面での備えの「消火器などを用意している」は、今回調査（39.8%）が前回調査（42.1%）より2.3ポイント低下している。『平成3年12月調査』まで半数を超えていた「ガスを使わないときにはガス栓を閉めている」は、『平成16年1月調査』まで1位だったものの、『平成17年8月調査』で3位（36.0%）、『平成19年6月調査』で3位（30.1%）、『平成21年11月調査』で4位（26.3%）、今回調査では4位（23.0%）と順位を落としている。行動面での備えは、「幼稚園や小学校と園児・児童の引き取り方法を決めている」以外の上位4項目で前回調査よりポイントが上昇している。

### 日常面での備え 上位5位（平成23年） <経年比較>

上位5位項目	平成23年 11月	前回比	平成21年 11月	平成19年 6月	平成17年 8月	平成16年 1月	平成13年 12月	平成11年 10月	平成9年 10月	平成7年 12月	平成5年 11月	平成3年 12月	平成2年 1月	昭和63年 1月	昭和61年 2月
1位 非常持出し品を用意している	<b>50.8</b>	(1.0)	49.8	50.1	52.4	33.4	39.3	38.8	42.6	49.4	33.8	35.1	44.7	47.9	49.4
2位 消火器などを用意している	<b>39.8</b>	(-2.3)	42.1	47.3	54.2	30.4	31.1	30.8	34.1	36.6	33.9	38.6	37.7	42.4	36.3
3位 風呂にいつも水を入れている	<b>23.5</b>	(-3.6)	27.1	26.0	27.6	31.5	34.7	37.3	39.6	42.3	36.5	43.2	43.1	44.4	46.4
4位 ガスを使わないときにはガス栓を閉めている	<b>23.0</b>	(-3.3)	26.3	30.1	36.0	35.8	39.8	40.1	44.6	49.0	49.1	51.8	55.0	55.3	55.9
5位 火気器具の周りを整理している	<b>17.2</b>	(-4.0)	21.2	20.7	30.9	23.1	27.5	29.7	28.6	31.0	28.9	34.3	33.7	34.5	31.3
ガスボンベが倒れないようにしている	<b>17.2</b>	(-1.9)	19.1	20.6	26.8	26.8	36.3	36.7	32.8	35.3	37.6	41.6	44.4	41.0	-

### 行動面での備え 上位5位（平成23年） <経年比較>

上位5位項目	平成23年 11月	前回比	平成21年 11月	平成19年 6月	平成17年 8月	平成16年 1月	平成13年 12月	平成11年 10月	平成9年 10月	平成7年 12月	平成5年 11月	平成3年 12月	平成2年 1月	昭和63年 1月	昭和61年 2月
1位 警戒宣言が発せられた時や突発地震の時に避難する場所を決めている	<b>40.2</b>	(7.8)	32.4	32.7	38.5	32.4	30.6	30.3	31.9	33.9	27.1	32.1	31.6	33.0	32.5
2位 家族との連絡方法を決めている	<b>28.4</b>	(4.5)	23.9	23.3	32.0	23.5	23.3	21.8	22.4	27.4	19.8	19.2	18.9	19.4	17.3
3位 家族が離ればなれになった時の落ち合う場所を決めている	<b>27.8</b>	(5.9)	21.9	20.2	27.1	23.4	23.1	21.0	21.7	28.9	18.6	18.8	22.2	18.4	20.6
4位 警戒宣言が発せられた時の家族の行動を決めている	<b>17.6</b>	(8.9)	8.7	9.4	11.5	8.7	6.4	3.0	4.3	4.8	5.1	5.1	6.0	4.7	4.4
5位 幼稚園や小学校と園児・児童の引き取り方法を決めている	<b>13.1</b>	(0)	13.1	14.0	17.0	10.2	11.0	12.7	12.5	13.2	14.0	14.4	14.3	17.3	17.0

全体的な傾向をみると、日常面での備えは減少し、行動面での備えについては増加していることがうかがえる。

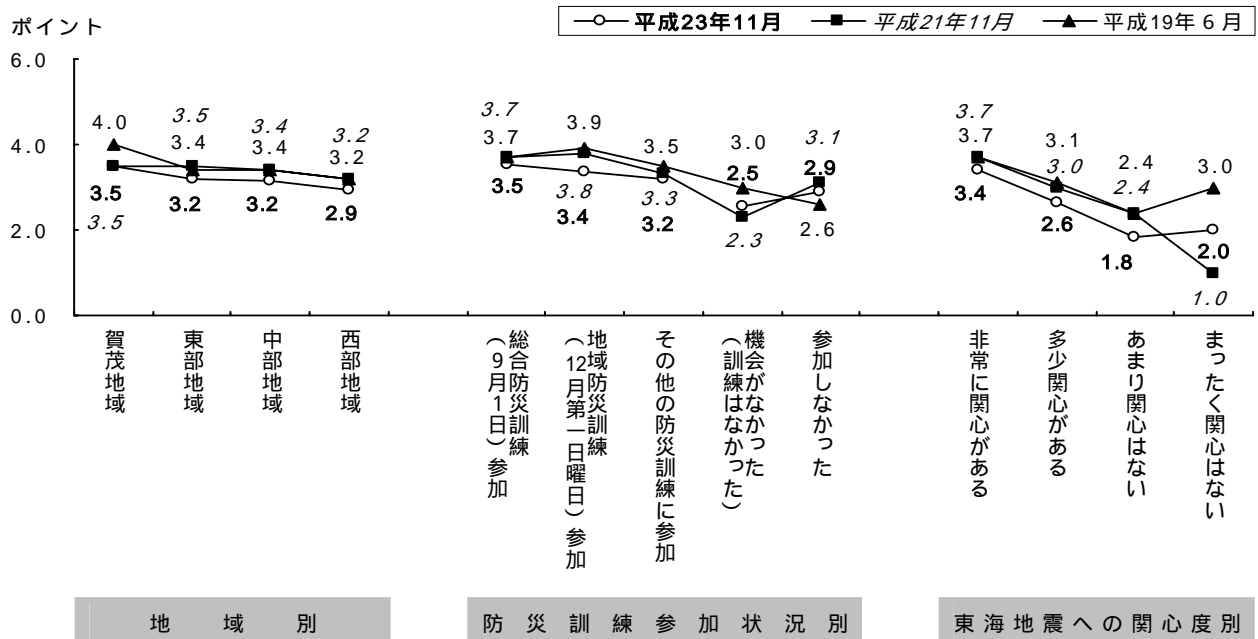
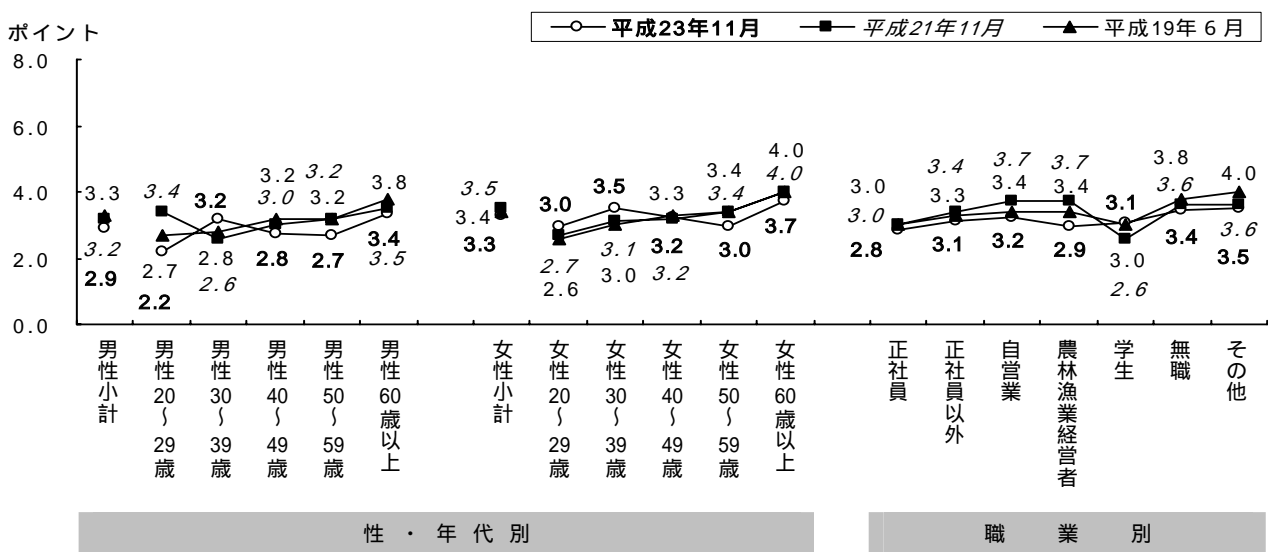
防災準備数（東海地震に備えた防災対策で実施している項目1項目につき1点というポイントを与え、各属性ごとに平均ポイントを算出し、比較を行った。なお、全体平均は3.1ポイントとなっている。）を各属性別でみると、性・年代別では、男性・女性ともに30代の防災準備数が多く、最も得点が高い『女性60歳以上』（3.7ポイント）と、最も得点が高い『男性20代』（2.2ポイント）では1.5ポイントの差が見られる。

職業別では、最も高い「その他」（3.5ポイント）と、最も低い「正社員」（2.8ポイント）では、0.7ポイントの差があり、地域別では、最も高い「賀茂」（3.5ポイント）と、最も低い「西部」（2.9ポイント）では、0.6ポイントの差が見られる。

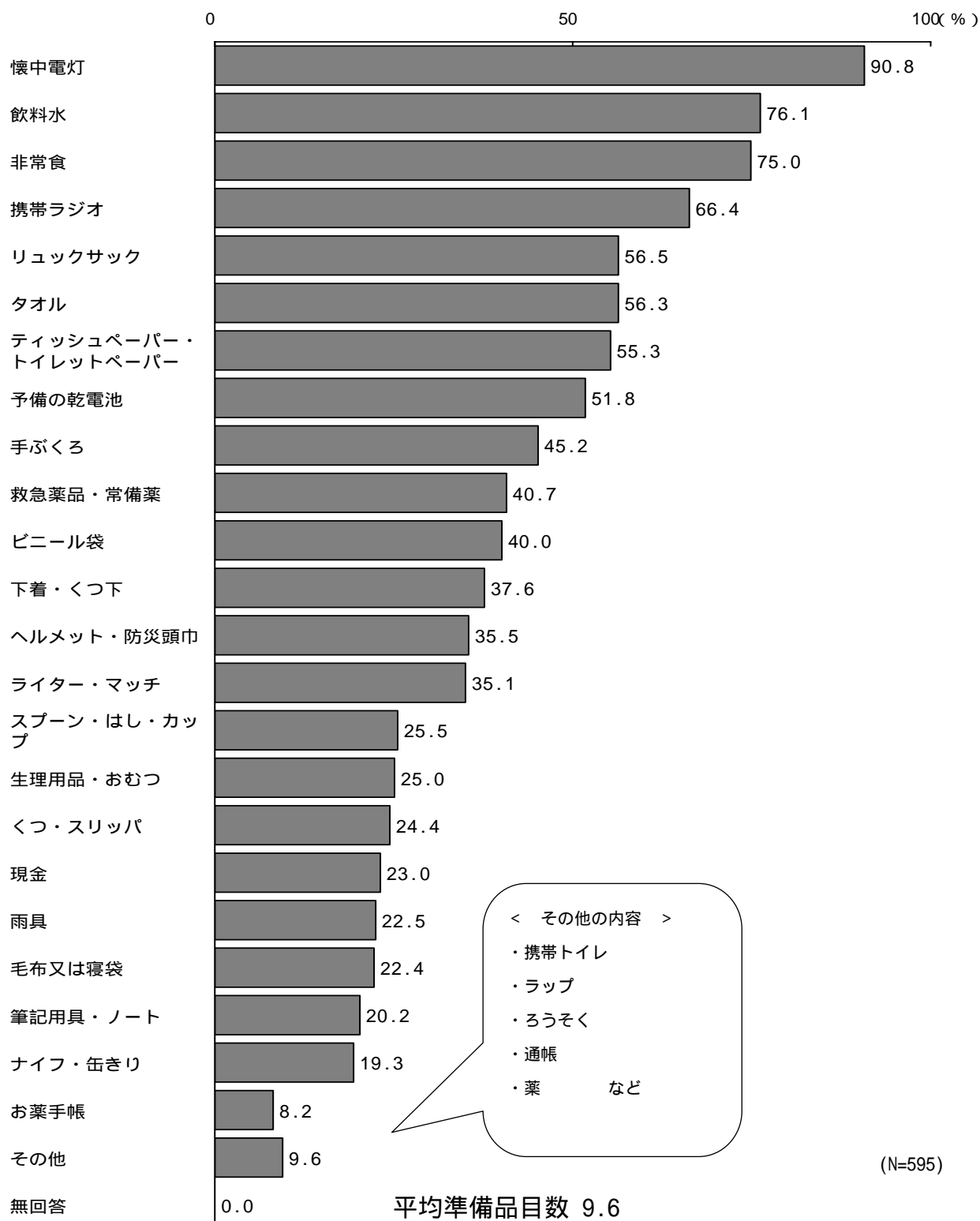
防災訓練参加状況別でみると、最も高い『総合防災訓練に参加』（3.5ポイント）と、最も低い『機会がなかった（訓練はなかった）』（2.5ポイント）では1.0ポイントの差が見られる。

東海地震への関心度別でみると、最も高い『非常に関心がある』（3.4ポイント）と、最も低い『あまり関心はない』（1.8ポイント）では1.6ポイントの差が見られる。

防災準備数平均 <属性別> 全体平均 3.1ポイント



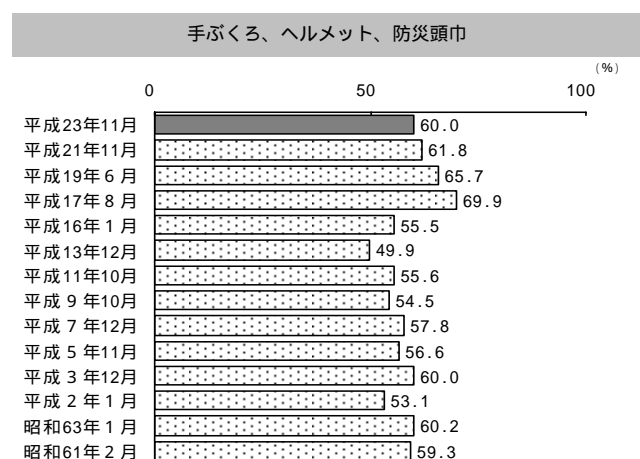
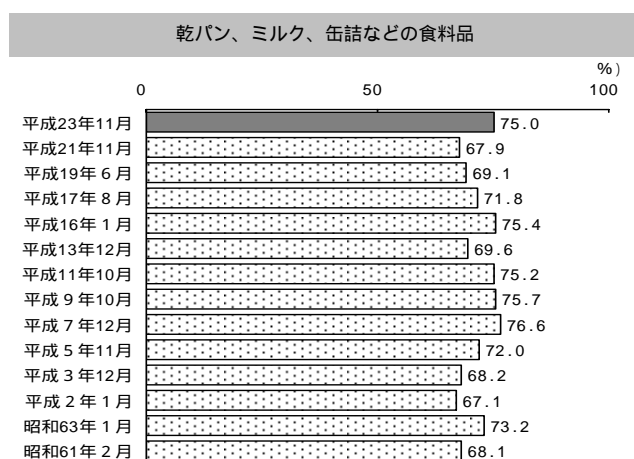
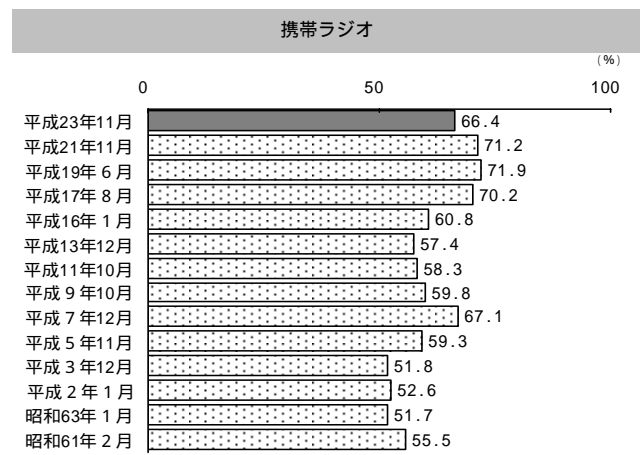
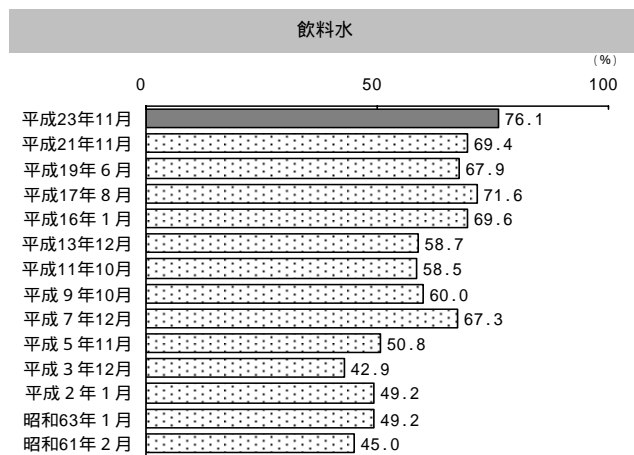
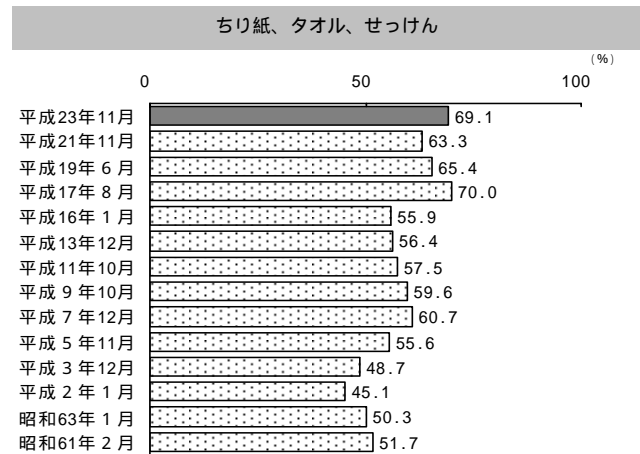
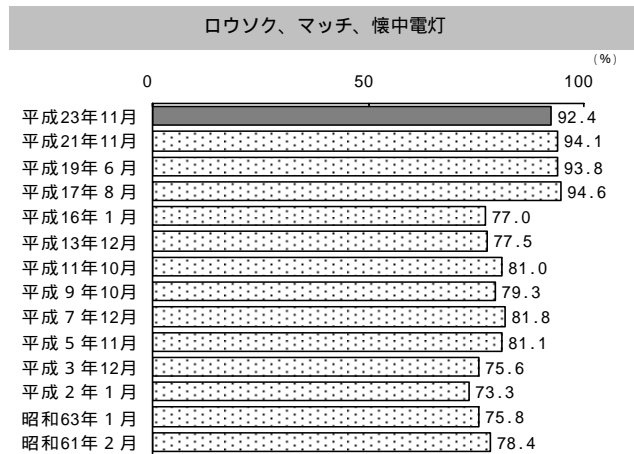
問11 - 1 <問11で「13 非常持出品を用意している」を選んだ方にお伺いします。>  
 非常持出品として何を用意していますか。(M.A.)



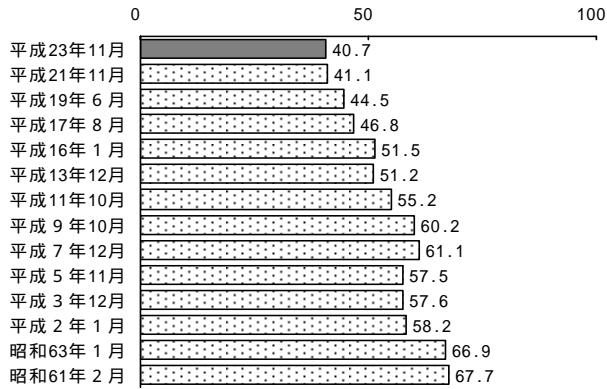
問11で「非常持出品を用意している」と回答した人に何をを用意しているかをたずねたところ、「懐中電灯」(90.8%)が最も高く、次いで「飲料水」(76.1%)、「非常食」(75.0%)、「携帯ラジオ」(66.4%)の順となっている。

用意している非常持出品を経年比較でみると、今回調査では「乾パン、ミルク、非常食」(75.0%)、「飲料水」(76.1%)、「ちり紙、タオル、せっけん」(69.1%)、「下着・くつ下」(37.6%)が前回調査より5ポイント以上上昇している。

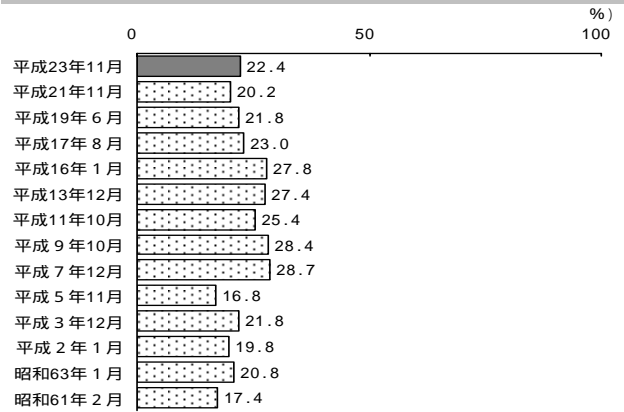
### 用意している非常持出品 <経年比較>



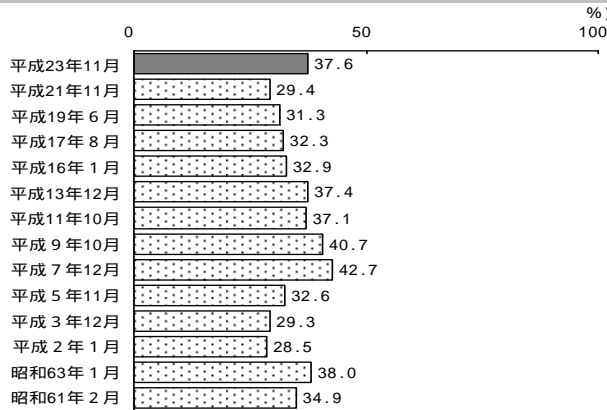
救急医療品・常備薬



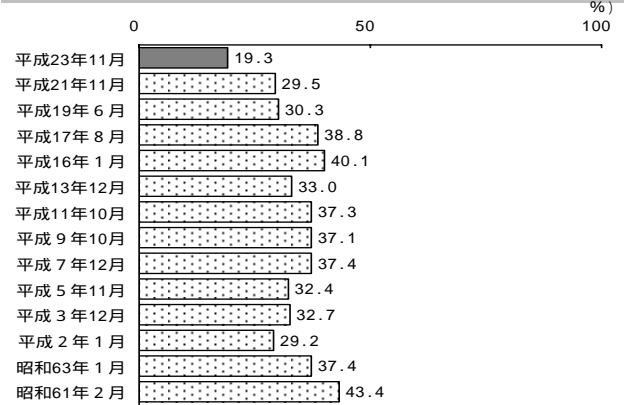
毛布又は寝袋



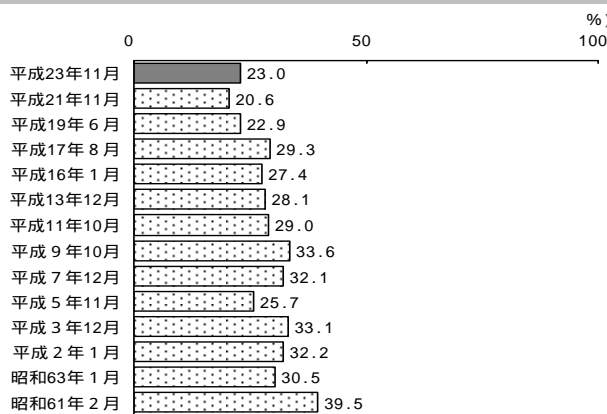
下着類



ナイフ・缶きり、ロープ、ひも



現金



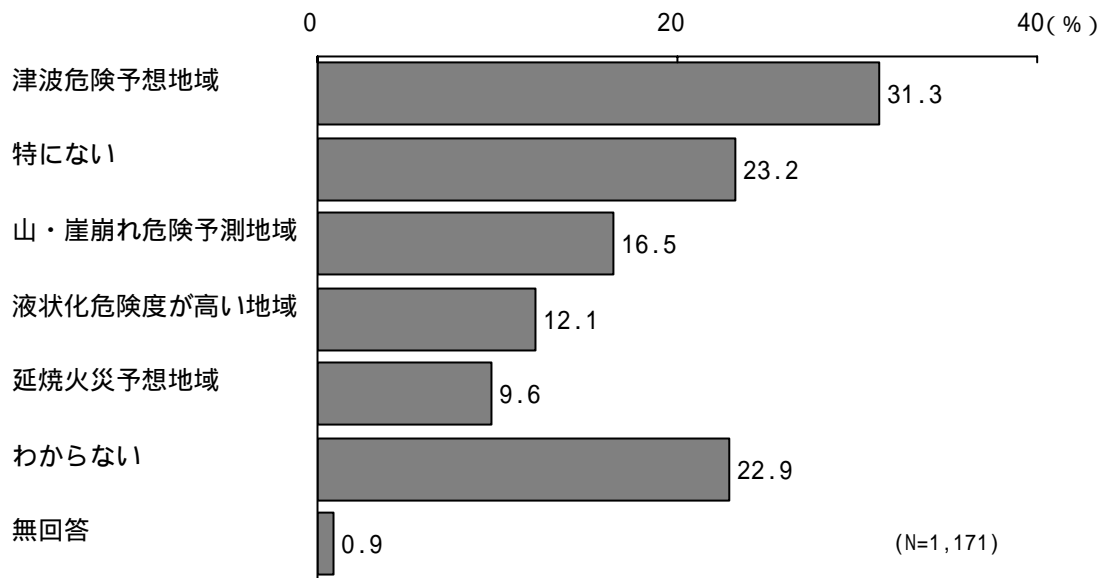
平均準備品目数  
経年比較

平成23年11月	9.6	(23項目中)
平成21年11月	9.3	(23項目中)
平成19年6月	9.5	(23項目中)
平成17年8月	10.1	(23項目中)
平成16年1月	6.2	(14項目中)
平成13年12月	6.0	(14項目中)
平成11年10月	6.2	(14項目中)
平成9年10月	6.4	(14項目中)
平成7年12月	6.6	(13項目中)
平成5年11月	5.9	(13項目中)
平成3年12月	5.7	(12項目中)
平成2年1月	5.5	(12項目中)
昭和63年1月	6.0	(12項目中)
昭和61年2月	6.2	(12項目中)

経年比較については、質問項目が追加されているため、複数の質問項目を集約して割合を算出しているものがある。

問12 <全ての方にお伺いします。>

あなたの住んでいる地域はどのような被害の発生が予想される地域ですか。(M.A.)

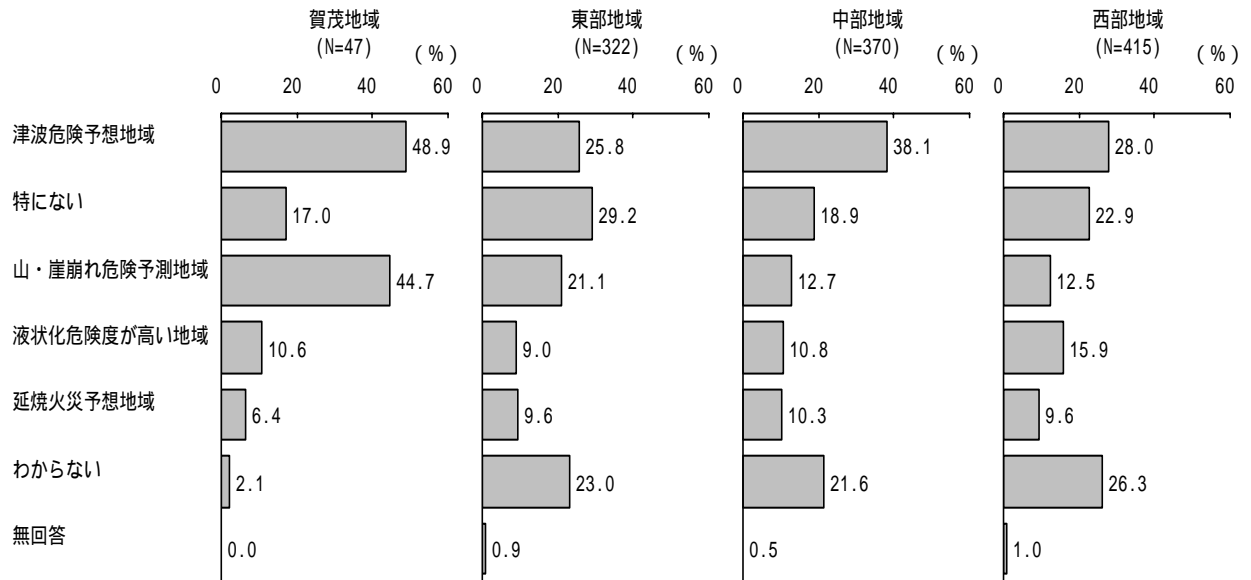


居住地域でどのような被害の発生が予想されるかたずねたところ、「津波危険予想地域」(31.3%)が最も高く、「特にない」(23.2%)、「わからない」(22.9%)の順となっている。



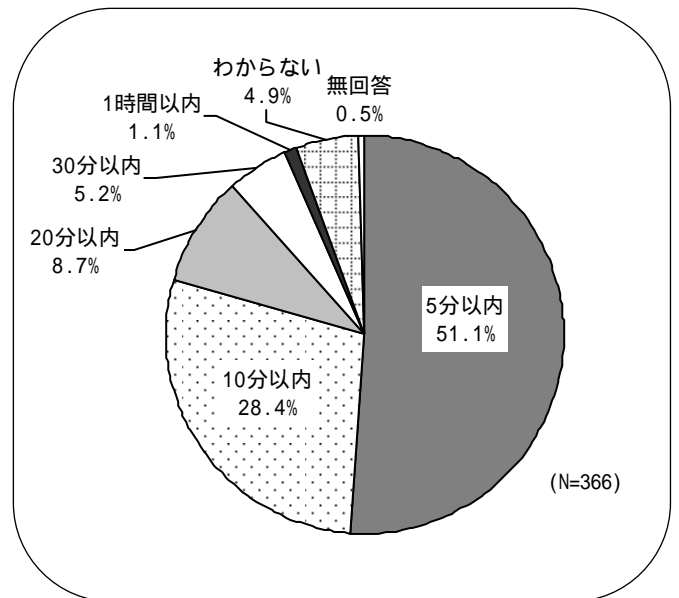
地域別でみると、『賀茂』では、「津波危険予想地域」(48.9%)と「山・崖崩れ危険予測地域」(44.7%)がいずれも4割を超えている。

予想される被害 <地域別>



予想される津波の到達時間  
(「津波危険予想地域」と回答した人の内訳)

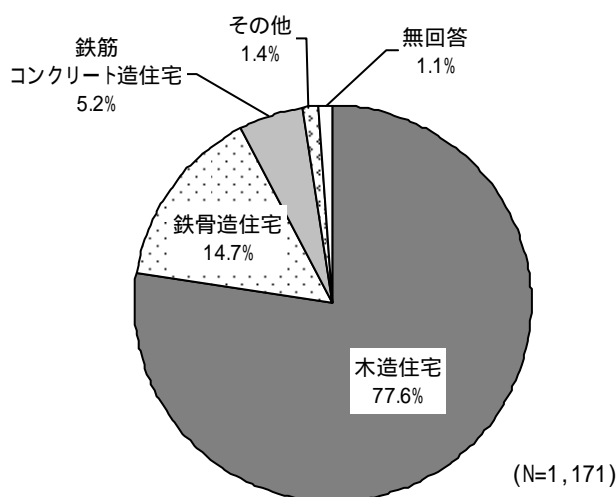
「津波危険予想地域」と回答した人に津波の沿岸到達時間をたずねたところ、「5分以内」が51.1%と半数を超え、続いて「10分以内」(28.4%)、「20分以内」(8.7%)の順になっている。



### 3 住宅の耐震補強について

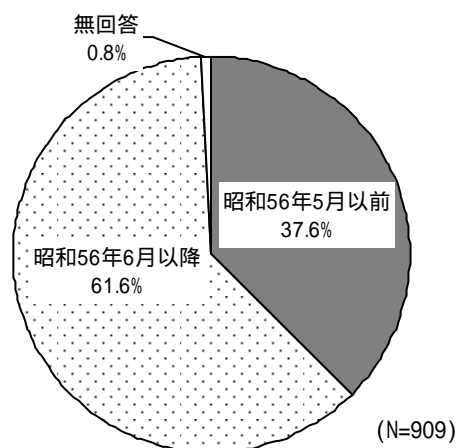
#### 3 - 1 家屋の構造と耐震診断

問13 あなたのお住まいの家は、次のどれにあたり  
ますか。



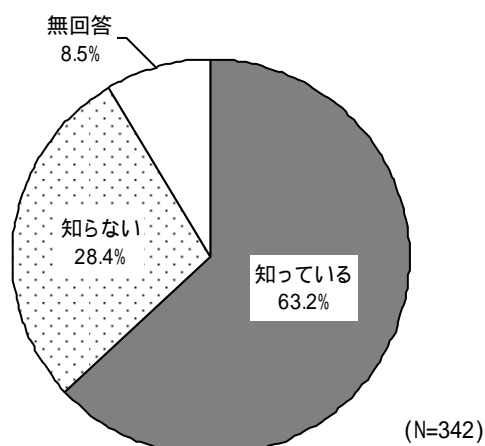
問13 - 1 <問13で「1 木造住宅」を選んだ方にお伺  
いします。>

あなたのお住まいの「木造住宅」は、い  
つ建てられた住宅ですか。



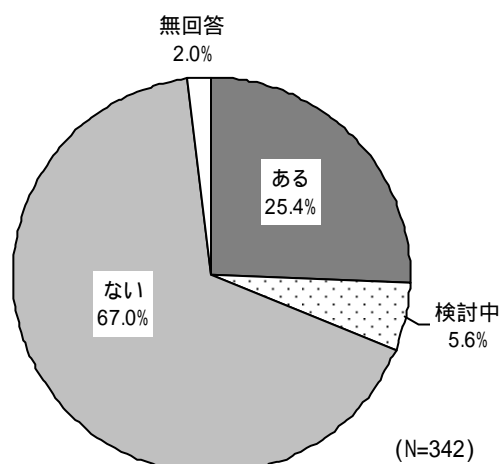
問13 - 2 <問13 - 1で「1 昭和56年5月以前」を選  
んだ方にお伺いします。>

市町では、昭和56年5月以前に建てられ  
た木造住宅の耐震診断を無料で実施して  
いることを知っていますか。



問13 - 3 <問13 - 1で「1 昭和56年5月以前」を選  
んだ方にお伺いします。>

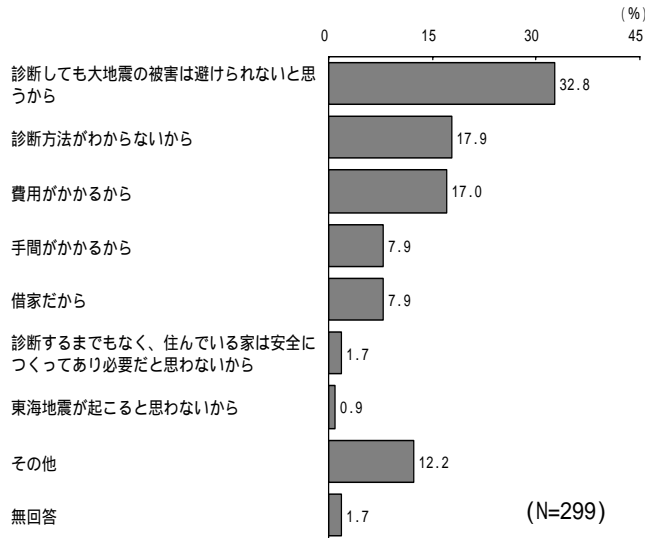
耐震診断をしたことがありますか。



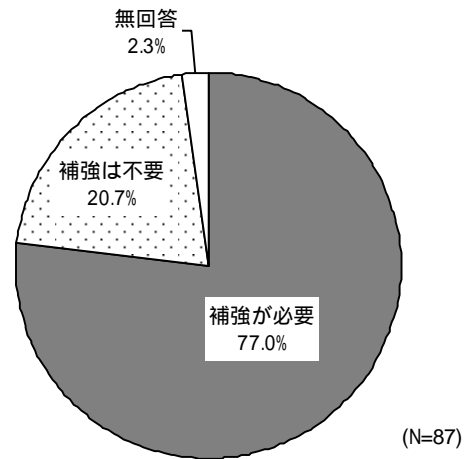
家屋の構造をたずねたところ、「木造住宅」(77.6%)が最も高く、次いで「鉄骨造住宅」(14.7%)、「鉄筋コンクリート造住宅」(5.2%)の順となっている。

問13で「木造住宅」と回答した人の建築時期については、建築基準法が改正された『昭和56年6月以降』(61.6%)が6割を超えている。また、昭和56年5月以前に建てられた木造住宅に住んでいる方に耐震診断の有無についてたずねたところ、耐震診断をしたことが「ない」(67.0%)が最も高く、次いで「ある」(25.4%)、「検討中」(5.6%)の順となっており、耐震診断をしたことが「ない」という人が7割近くを占めている。

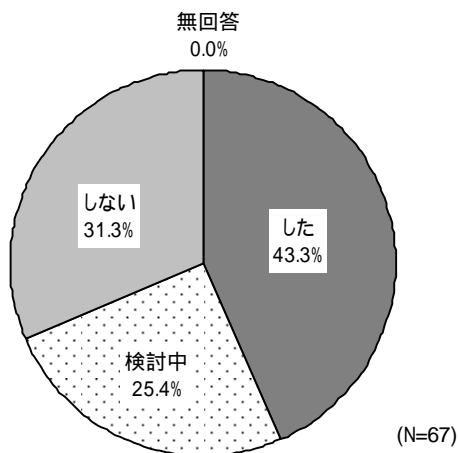
問13-3-1 <問13-3で「3 ない」を選んだ方にお伺いします。>  
耐震診断をしないのはなぜですか。



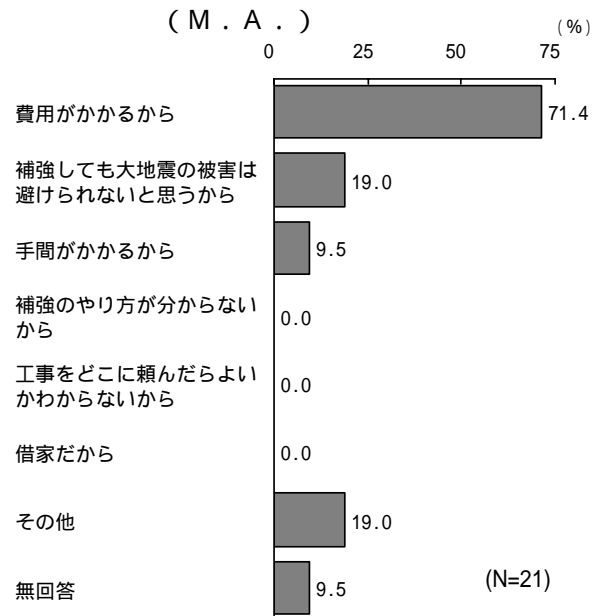
問13-3-2 <問13-3で「1 ある」を選んだ方にお伺いします。>  
結果はいかがでしたか。



問13-3-3 <問13-3-2で「1 補強が必要」を選んだ方にお伺いします。>  
診断後、補強しましたか。



問13-3-4 <問13-3-3で「3 しない」を選んだ方にお伺いします。>  
補強をしないのはなぜですか。

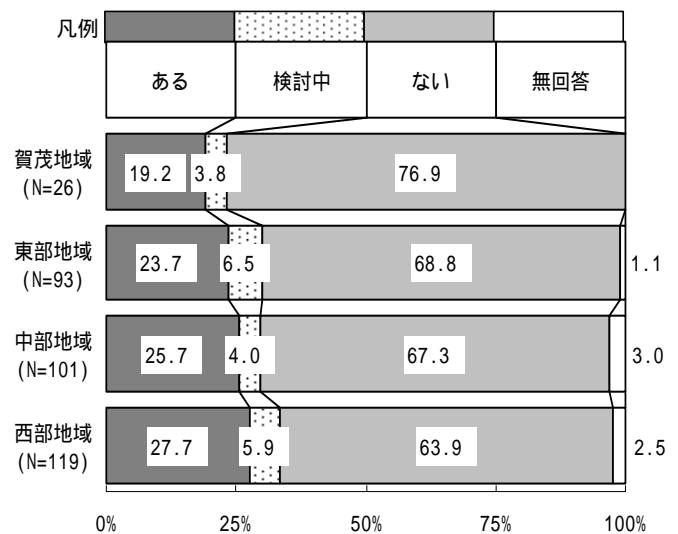


問13 - 3で耐震診断をしたことが「ある」と回答した人に診断結果をたずねたところ、「補強が必要」(77.0%)、「補強は不要」(20.7%)の順となっており、「補強が必要」が7割を超えている。また、問13 - 3 - 2で「補強が必要」と回答した人が診断後、補強をしたかについては、補強を「した」(43.3%)が最も高いものの、「検討中」(25.4%)、「補強しない」(31.3%)は合わせて56.7%で、耐震補強はなかなか進んでいない。

問13 - 3 - 3で補強を「しない」と回答した人の理由については、「費用がかかるから」(71.4%)が最も高く、次いで「補強しても大地震の被害は避けられないと思うから」(19.0%)、「手間がかかるから」(9.5%)の順となっている。

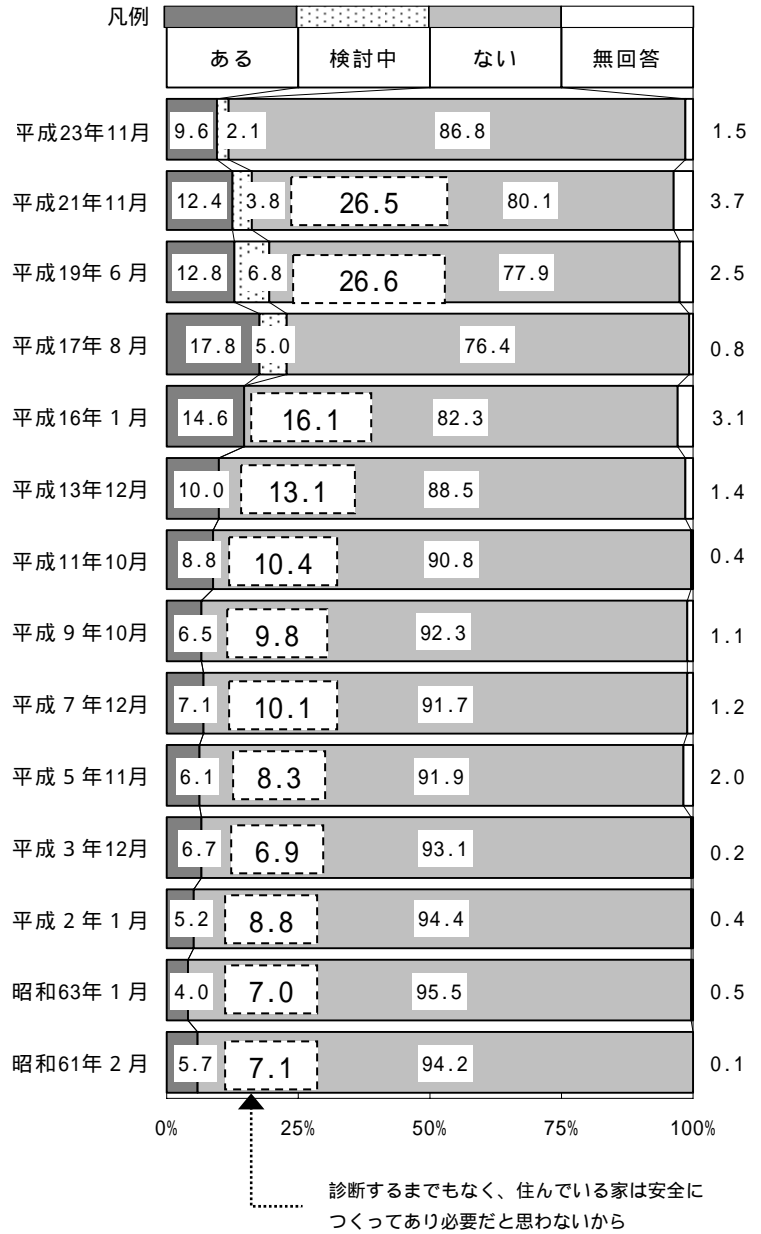
耐震診断の実施率  
(昭和56年5月以前の木造住宅居住者)  
<地域別>

地域別でみると、耐震診断をしたことが「ある」は、最も高い『西部』(27.7%)と、最も低い『賀茂』(19.2%)では8.5ポイントの差が見られる。



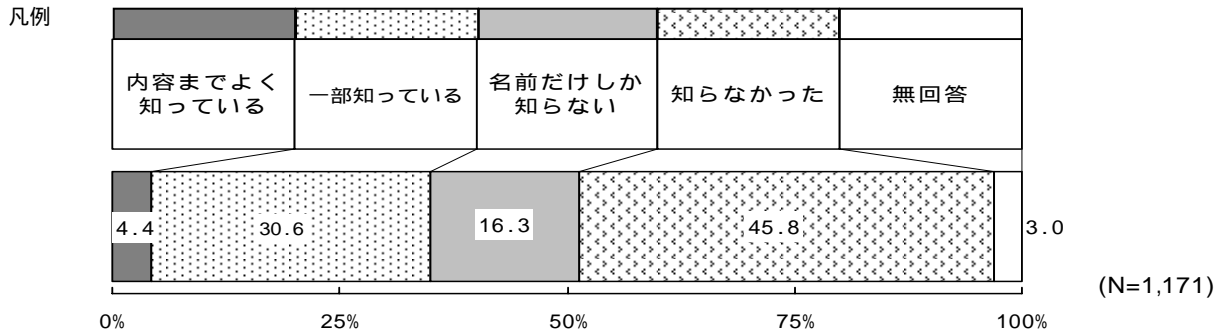
耐震診断の実施率 < 経年比較 >

経年比較でみると、耐震診断の実施率は、今回調査（9.6%）で前回調査（12.4%）より2.8ポイント低下している。



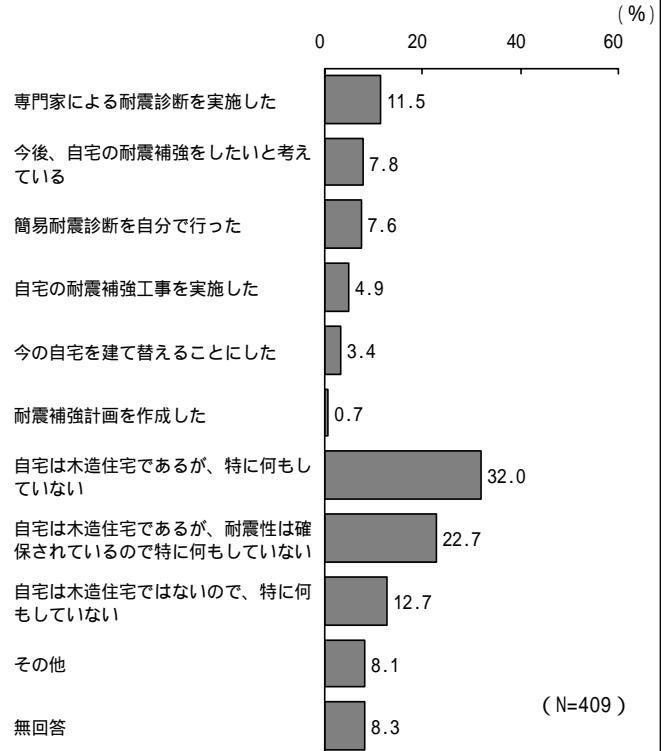
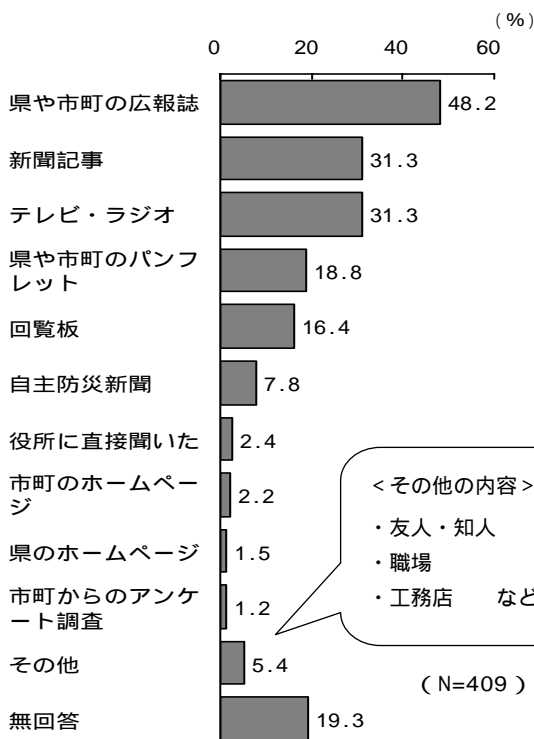
「検討中」の項目は、平成17年度から設定した。耐震診断していない理由（「診断するまでもなく、住んでいる家は安全につくってあり必要だと思わないから」）について、平成17年度は未調査。前回調査までは、木造住宅に居住している全ての方を対象に調査を実施。今回調査は、昭和56年5月以前に建てられた木造住宅に居住している方を対象に実施。経年比較をするため、今回調査の数字は「昭和56年6月以降に建てられた木造住宅に居住している方」については、耐震診断をしたことが「ない」、「無回答」は「無回答」として全体に含め、実施率を算出している。

問14 現在、静岡県では木造住宅の耐震化促進事業『プロジェクト“<sup>トウカイ</sup>TOUKAI（東海・倒壊）- 0（ゼロ）”』を推進しています。この事業の内容は、 専門家による無料耐震診断 耐震補強計画策定への補助 耐震補強工事への補助の3つの項目からなっています。あなたは、このことをご存知でしたか。



問14 - 1 <問14で「1 内容までよく知っている」「2 一部知っている」のいずれかを選んだ方にお伺いします。>  
あなたは『プロジェクト“「TOUKAI（東海・倒壊）- 0（ゼロ）”』をどのようにして知りましたか。（M.A.）

問14 - 2 <問14で「1 内容までよく知っている」「2 一部知っている」のいずれかを選んだ方にお伺いします。>  
あなたは『プロジェクト“「TOUKAI（東海・倒壊）- 0（ゼロ）”』を知って、どのような行動をされましたか。（M.A.）



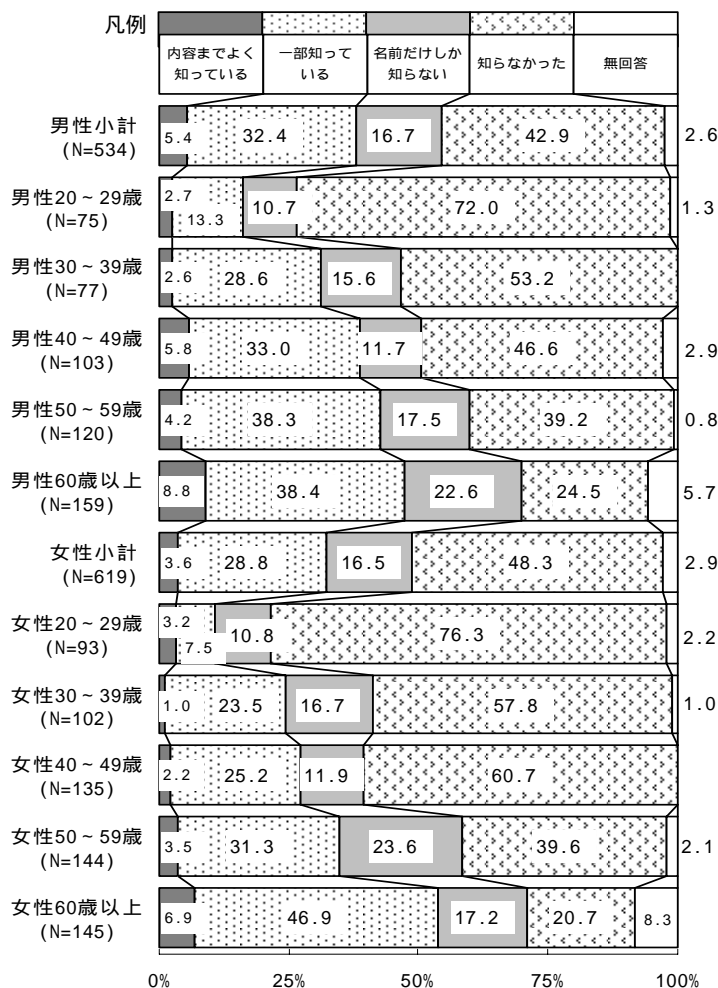
プロジェクト「TOUKAI（東海・倒壊）- 0（ゼロ）」の認知についてたずねたところ、「知らなかった」（45.8%）が最も高く、次いで「一部知っている」（30.6%）、「名前だけしか知らない」（16.3%）、「内容までよく知っている」（4.4%）の順となっており、内容を知らない人（「名前だけしか知らない」+「知らなかった」）（62.1%）が6割を超えている。

ある程度内容を理解している人（「内容までよく知っている」+「一部知っている」）の認知方法については、「県や市町の広報誌」（48.2%）が最も高く、次いで「新聞記事」（31.3%）と「テレビ・ラジオ」（31.3%）、「県や市町のパンフレット」（18.8%）の順となっている。

また、認知後の行動については、「自宅は木造住宅であるが、特に何もしていない」（32.0%）が最も高く、次いで「自宅は木造住宅であるが、耐震性は確保されているので特に何もしていない」（22.7%）、「自宅は木造住宅ではないので、特に何もしていない」（12.7%）の順となっている。具体的にとった行動としては、「専門家による耐震診断を実施した」（11.5%）、「今後、自宅の耐震補強をしたいと考えている」（7.8%）が高くなっている。

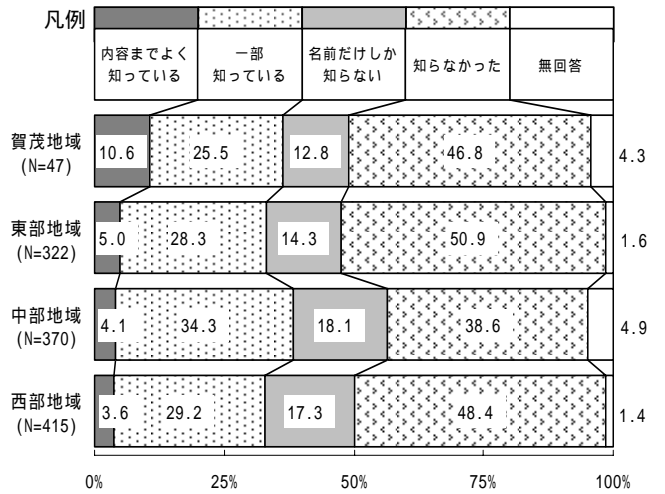
プロジェクト「TOUKAI - 0」の  
認知率 <性・年代別>

性・年代別でみると、「知らなかった」は、男性・女性とも『20代』が他の年代に比べ高くなっており、7割を超えている。年代が上がるほど「知らなかった」の割合は低くなる傾向にある。



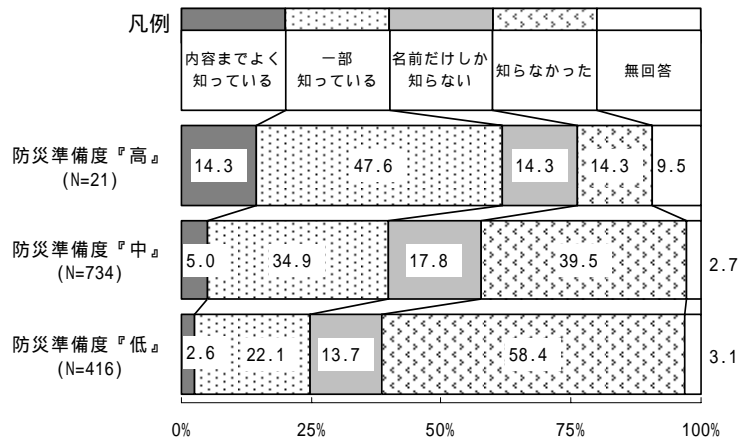
プロジェクト「TOUKAI - 0」の  
認知率 <地域別>

地域別でみると、ある程度内容を理解している人(「内容までよく知っている」+「一部知っている」)は、『中部』(38.4%)が最も高く、最も低い『西部』(32.8%)とは5.6ポイントの差が見られる。



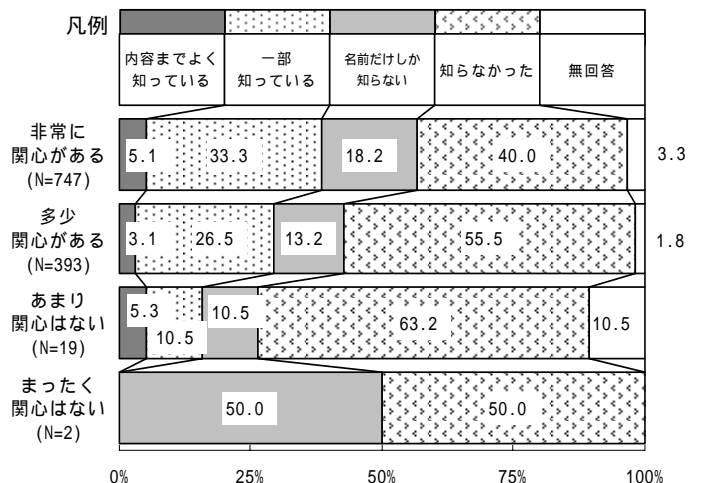
プロジェクト「TOUKAI - 0」の  
認知率 <防災準備度別>

防災準備度別でみると、ある程度内容を理解している人(「内容までよく知っている」+「一部知っている」)は、『防災準備度「高」』(61.9%)で最も高くなっている。最も低い『防災準備度「低」』(24.7%)とは37.2ポイントの差が見られ、防災準備度が高い人ほど認知率は高い傾向にある。



プロジェクト「TOUKAI - 0」の  
認知率 <東海地震への関心度別>

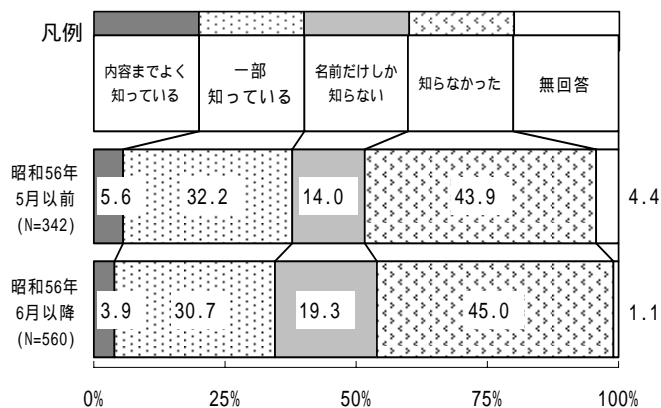
東海地震への関心度別でみると、ある程度内容を理解している人(「内容までよく知っている」+「一部知っている」)は、『非常に関心がある』(38.4%)で高くなっている。最も低い『まったく関心はない』(0.0%)とは38.4ポイントの差が見られ、関心が高い人ほど認知率は高い傾向にある。





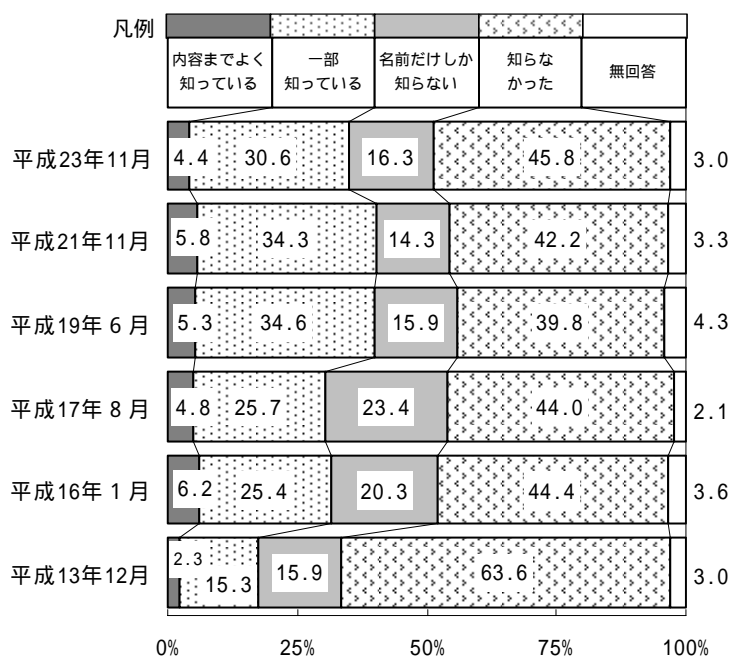
プロジェクト「TOUKAI - 0」の  
認知率 < 木造住宅建築時期別 >

木造住宅建築時期別でみると、ある程度内容を理解している人(「内容までよく知っている」+「一部知っている」)は、『昭和56年5月以前』(37.8%)と『昭和56年6月以降』(34.6%)では、『昭和56年5月以前』の方が認知率は若干高くなっている。



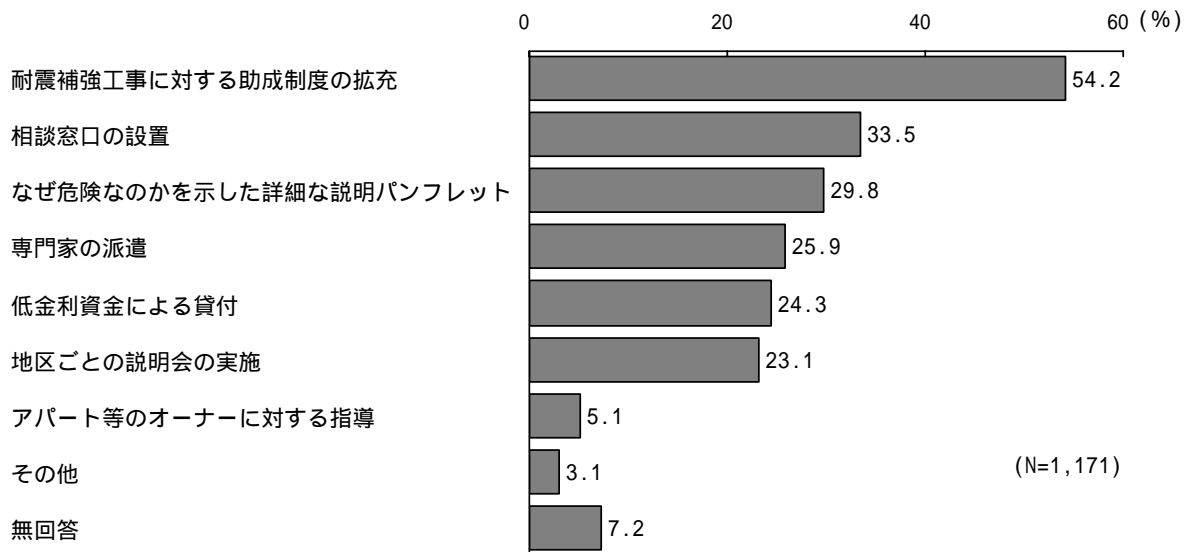
プロジェクト「TOUKAI - 0」の  
認知率 < 経年比較 >

経年比較でみると、ある程度内容を理解している人(「内容までよく知っている」+「一部知っている」)は、今回調査(35.0%)で前回調査(40.1%)より5.1ポイント低下している。



この調査項目は平成13年度調査から設定した。

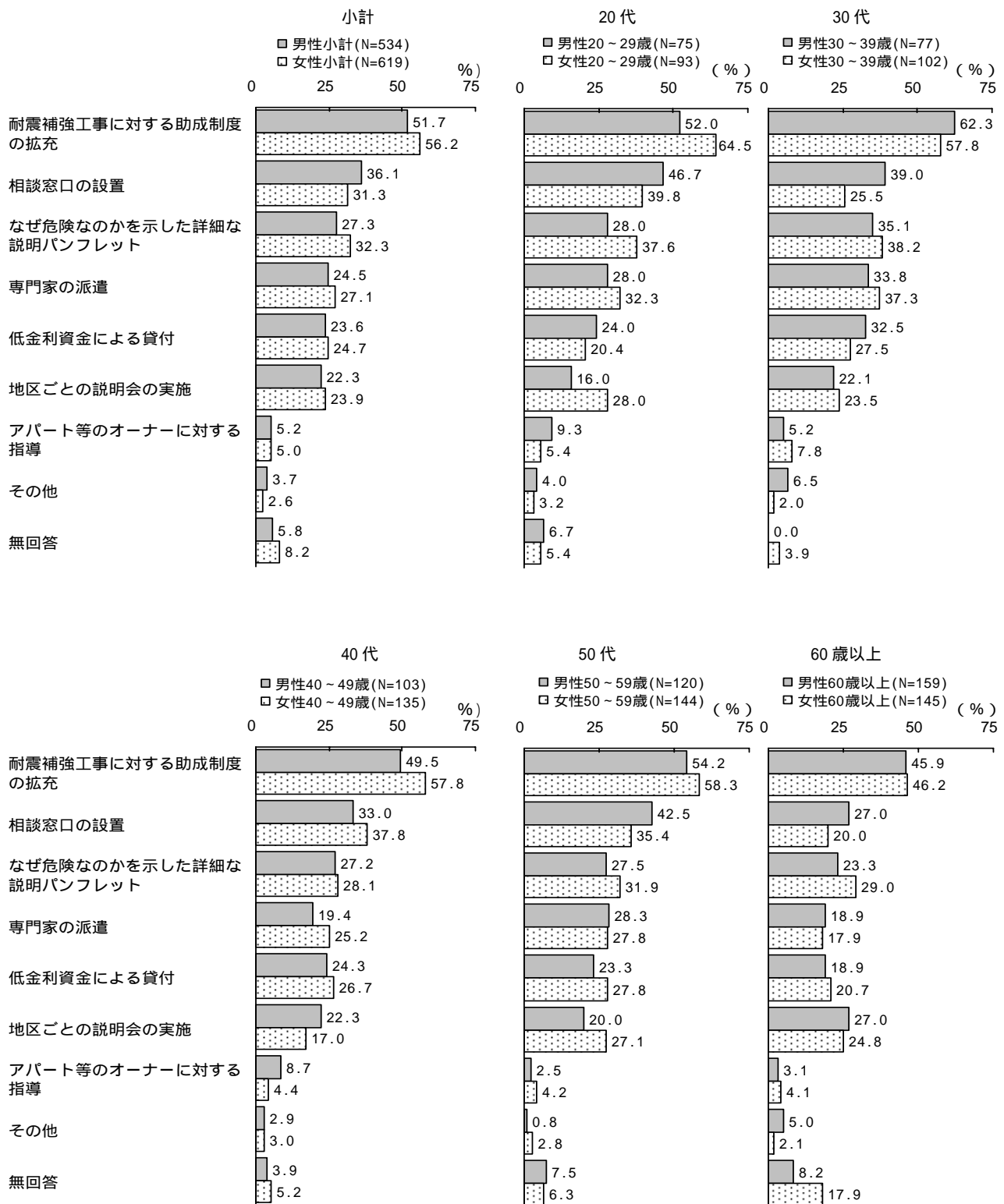
問15 今後、あなたのお住まいの家の耐震化をする場合、県や市町に対して要望することがありますか。次の中からあてはまるものをお選びください。(M.A.)



耐震化に対する行政への要望については、「耐震補強工事に対する助成制度の拡充」(54.2%)が最も高く、次いで「相談窓口の設置」(33.5%)、「なぜ危険なのかを示した詳細な説明パンフレット」(29.8%)の順となっている。

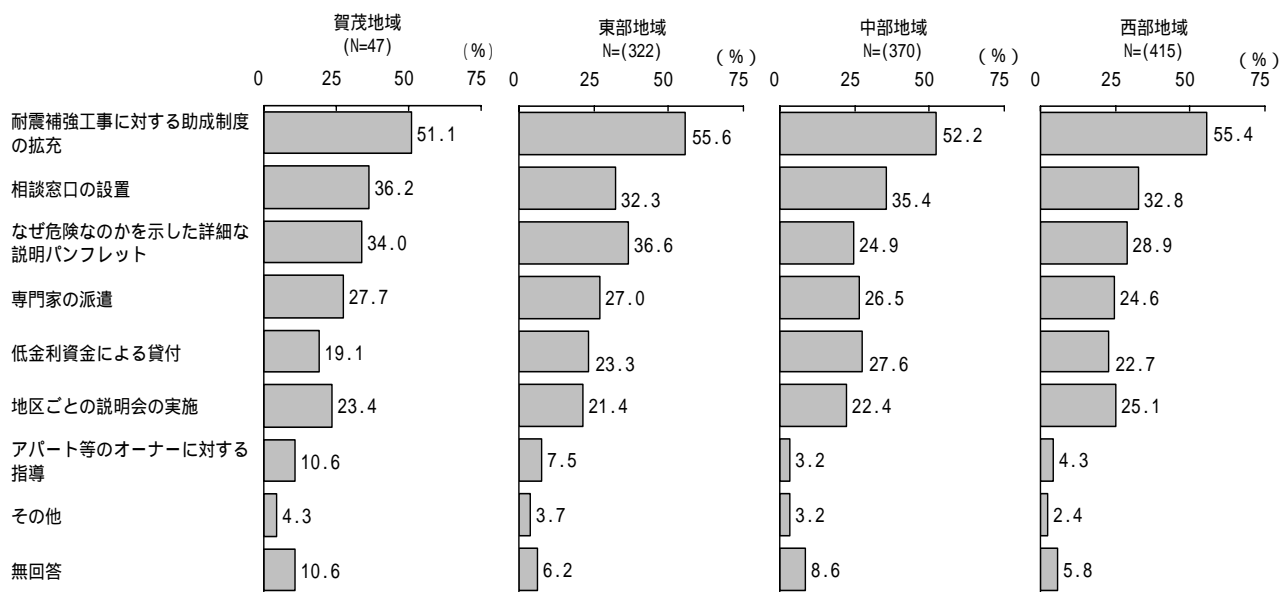
性・年代別でみると、いずれの性・年代においても「耐震補強工事に対する助成制度の拡充」が最も高くなっている。「相談窓口の設置」は、『男性20代』（46.7%）、次いで『男性50代』（42.5%）が4割を超え、全ての年代で2割を超えている。「なぜ危険なのかを示した詳細な説明パンフレット」は、『女性30代』（38.2%）と、『女性20代』（37.6%）で高い傾向が見られる。

### 耐震化に対する行政への要望 <性・年代別>



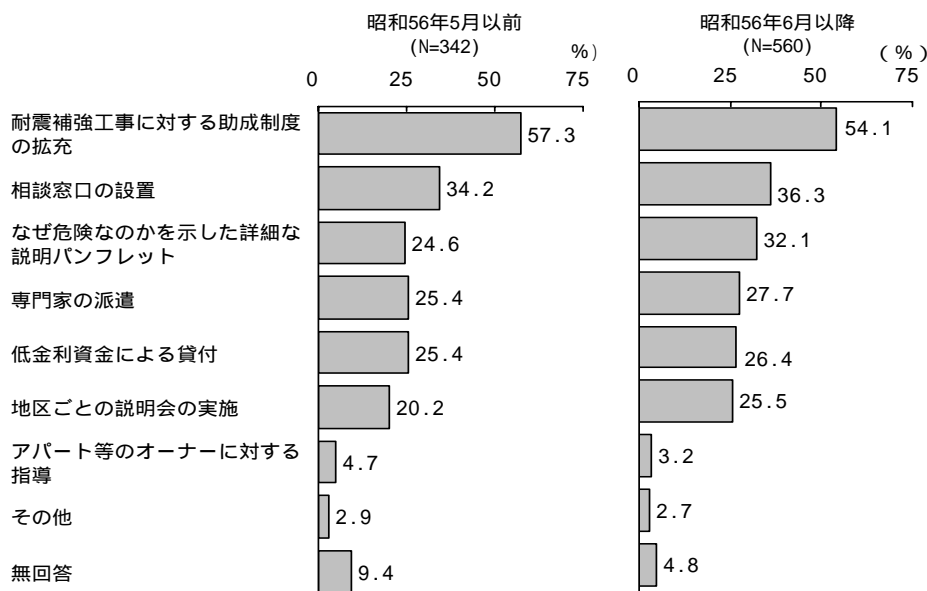
地域別でみると、「なぜ危険なのかを示した詳細な説明パンフレット」は、最も高い『東部』(36.6%)と、最も低い『中部』(24.9%)では11.7ポイントの差が見られる。

### 耐震化に対する行政への要望 <地域別>



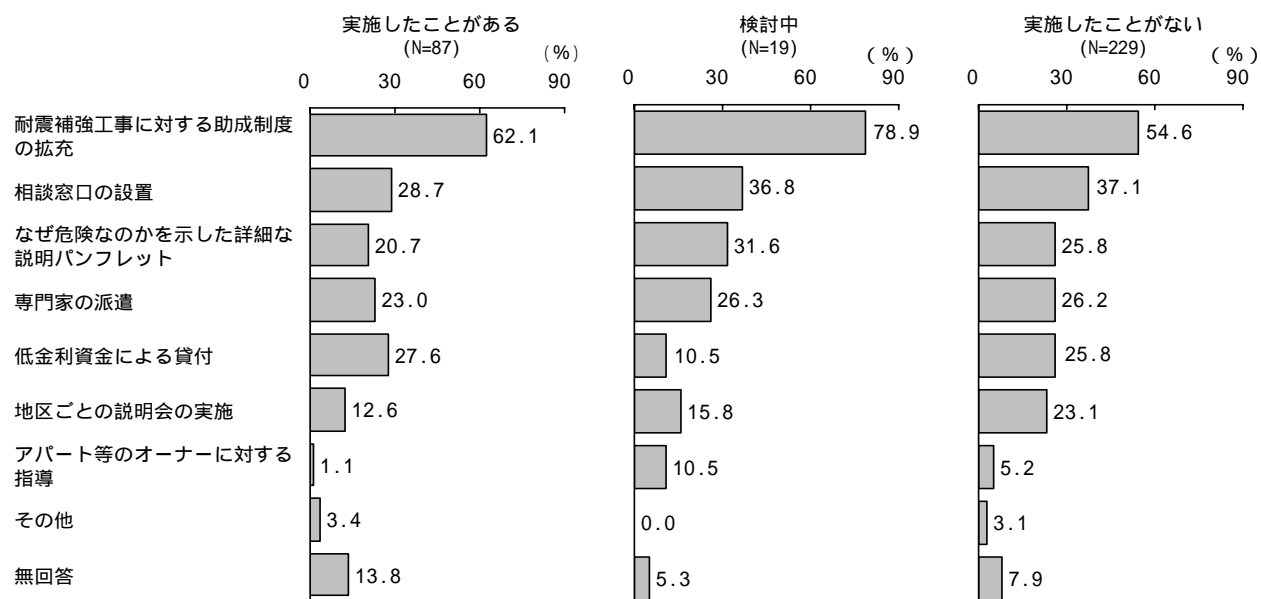
木造住宅建築時期別でみると、「耐震補強工事に対する助成制度の拡充」は、『昭和56年5月以前』(57.3%)も『昭和56年6月以降』(54.1%)も高くなっている。また、「相談窓口の設置」は、どちらも3割を超えている。

### 耐震化に対する行政への要望 <木造住宅建築時期別>



耐震診断実施別でみると、『耐震診断を検討中』では、「耐震補強工事に対する助成制度の拡充」(78.9%)が他よりも高くなっている。

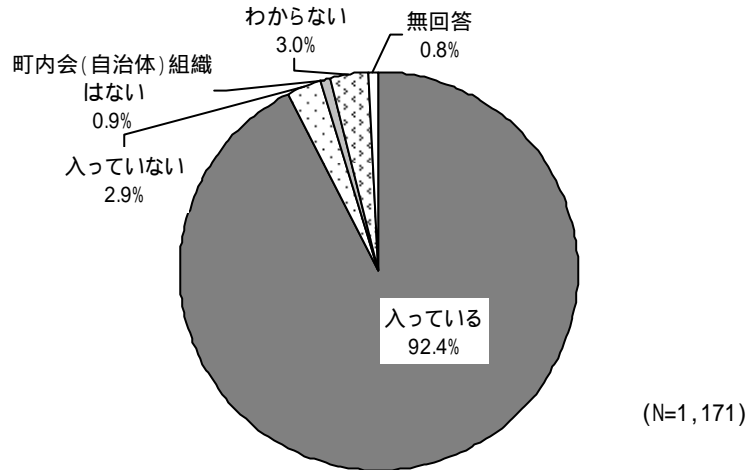
### 耐震化に対する行政への要望 <耐震診断実施別>



## 4 自主防災組織・防災訓練について

### 4 - 1 町内会への加入

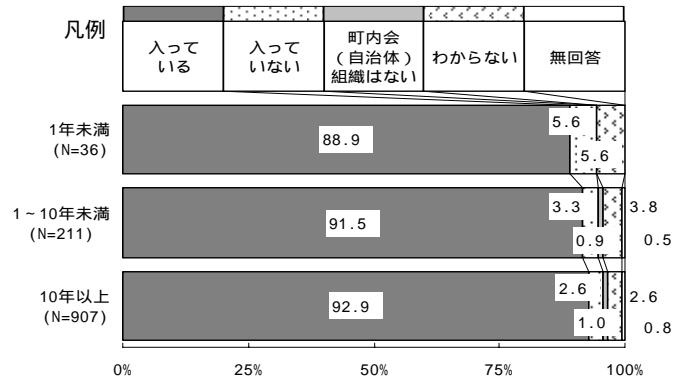
問16 あなたのお宅は、町内会（自治会）組織に入っていますか。



町内会（自治会）への加入についてたずねたところ、「加入している」（92.4%）が最も高く、次いで「わからない」（3.0%）、「加入していない」（2.9%）、「町内会（自治会）組織はない」（0.9%）の順となっている。

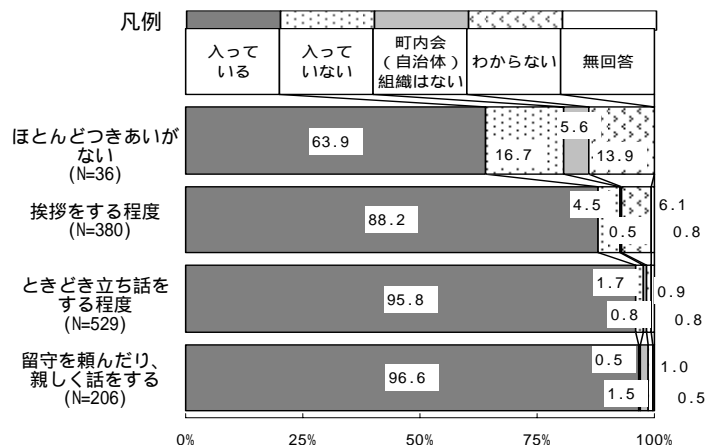
居住年数別でみると、「加入している」は、最も高い『10年以上』（92.9%）と、最も低い『1年未満』（88.9%）では4ポイントの差が見られる。

町内会への加入 < 居住年数別 >

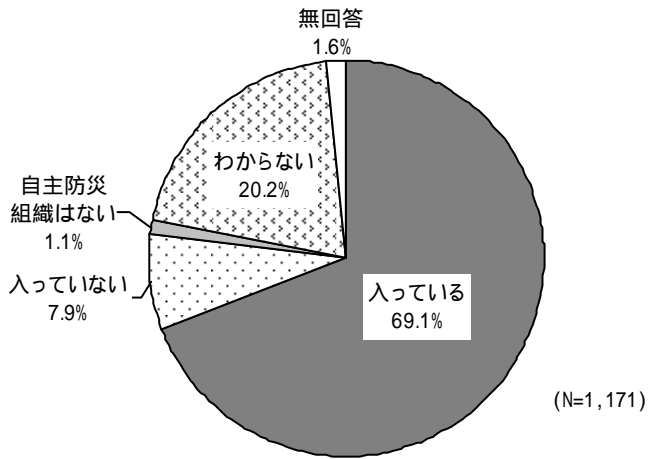


近所づきあいの程度別でみると、「加入している」は、最も高い『留守を頼んだり、親しく話をする』（96.6%）と、最も低い『ほとんどつきあいがなし』（63.9%）では32.7ポイントの差が見られる。

町内会への加入 < 近所づきあいの程度別 >

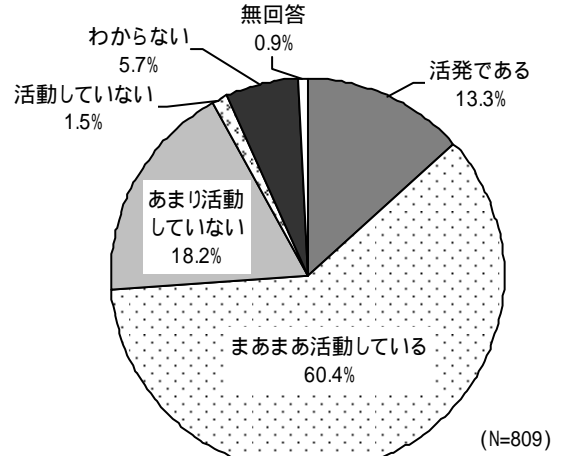


問17 あなたのお宅は、地域の自主防災組織に入っていますか。



問17-1 <問17で「1 入っている」を選んだ方にお伺いします。>

あなたの地区の自主防災組織の活動は活発ですか。

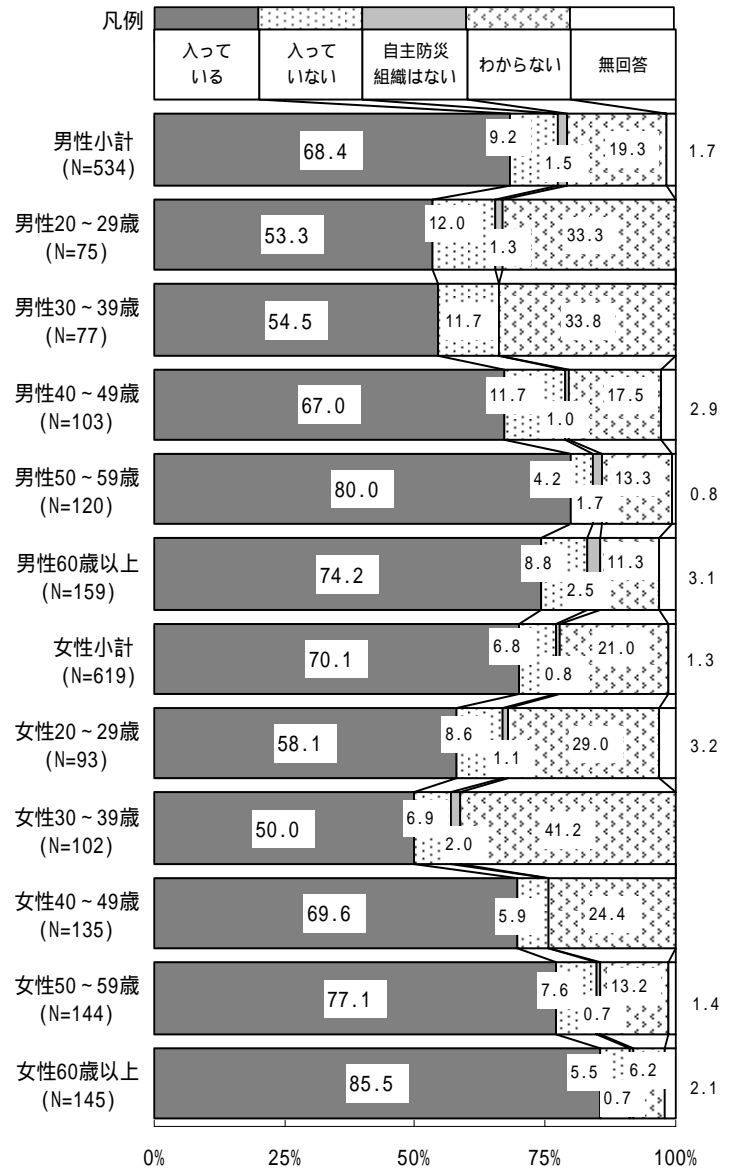


自主防災組織への加入についてたずねたところ、「入っている」(69.1%)が最も高く、次いで「わからない」(20.2%)、「入っていない」(7.9%)、「自主防災組織はない」(1.1%)の順となっている。

また、問17で自主防災組織に「入っている」と回答した人に自主防災組織の活動状況についてたずねたところ、「活発である」と「まあまあ活動している」を合わせると73.7%となり、7割以上の方が地区の自主防災組織の活動が活発だと感じている。

自主防災組織への加入状況  
 < 性・年代別 >

性・年代別でみると、全体的に年齢が上がるにつれて自主防災組織への加入が高い傾向が見られ、『女性60歳以上』(85.5%)、『男性50代』(80.0%)、『女性50代』(77.1%)、『男性60歳以上』(74.2%)で7割を超えている。また、「わからない」は『女性30代』(41.2%)が最も高く、4割を超えている。





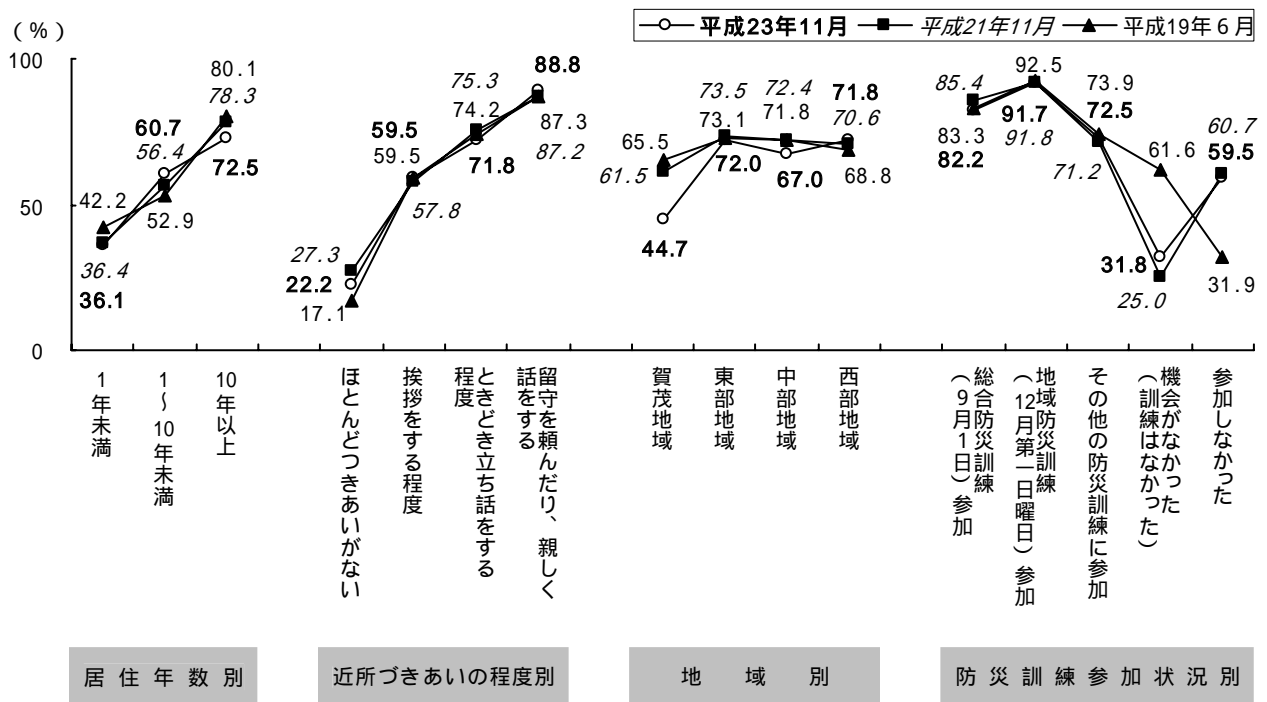
自主防災組織への加入状況を属性別で見ると、居住年数別では、年数が長くなるにつれて加入率が高くなっており、最も高い『10年以上』（72.5%）と、最も低い『1年未満』（36.1%）では36.4ポイントの差が見られる。

近所づきあいの程度別では、親しくなるほど加入率は高くなっており、最も高い『留守を頼んだり、親しく話をする』（88.8%）と、最も低い『ほとんどつきあいが無い』（22.2%）では66.6ポイントの差が見られる。

地域別では、最も高い『東部』（72.0%）と、最も低い『賀茂』（44.7%）では27.3ポイントの差が見られる。

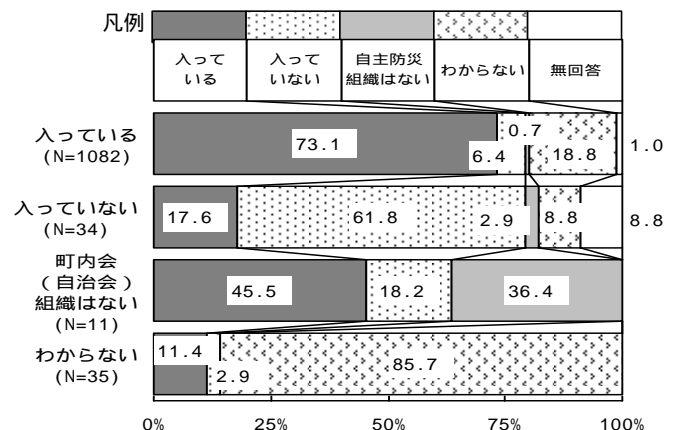
防災訓練参加状況別では、最も高い『地域防災訓練に参加』（91.7%）と、最も低い『機会がなかった（訓練はなかった）』（31.8%）では59.9ポイントの差が見られる。

### 自主防災組織への加入状況 <属性別>



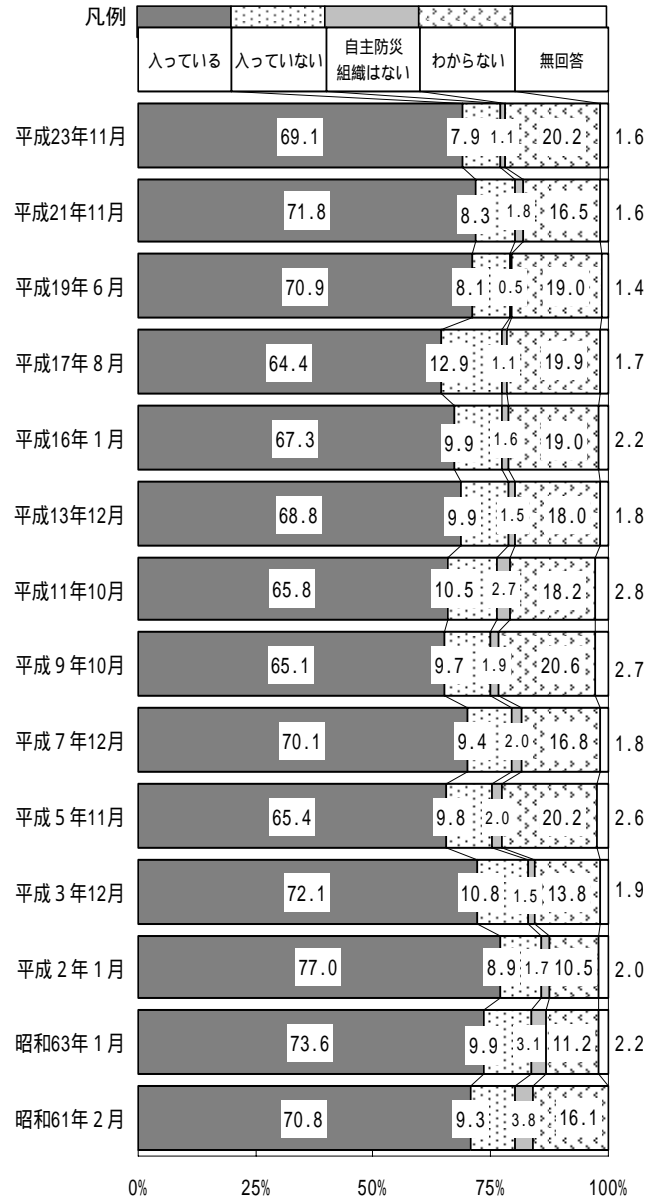
町内会への加入別で見ると、町内会に『入っている』人は、自主防災組織へ「入っている」（73.1%）が高く、7割を超えている。

### 自主防災組織への加入状況 <町内会への加入別>



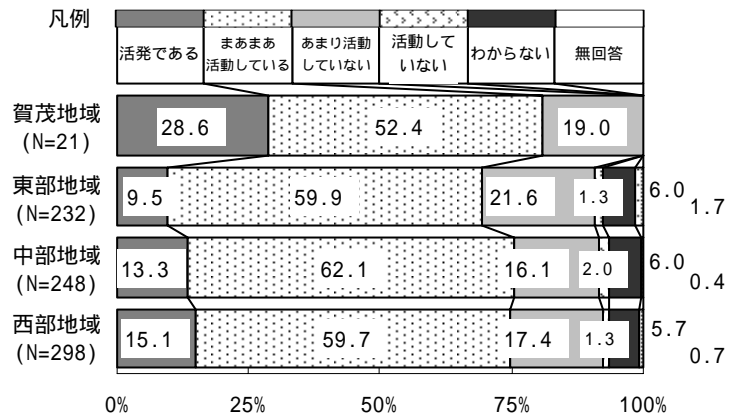
### 自主防災組織への加入状況 < 経年比較 >

経年比較でみると、『平成2年1月の調査』で、「入っている」(77.0%)が最も高くなっており、以降は7割前後を推移している。今回調査(69.1%)は、前回調査(71.8%)より2.7ポイント下回っている。



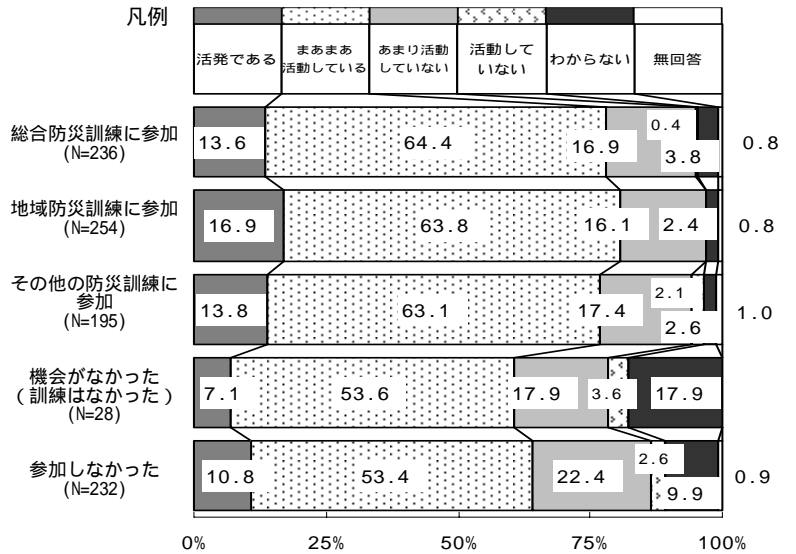
### 自主防災組織の活動状況 < 地域別 >

自主防災組織の活動状況を地域別でみると、「活発である」+「まあまあ活動している」は、『賀茂』(81.0%)が最も高く、次いで『中部』(75.4%)、『西部』(74.8%)、『東部』(69.4%)の順となっている。



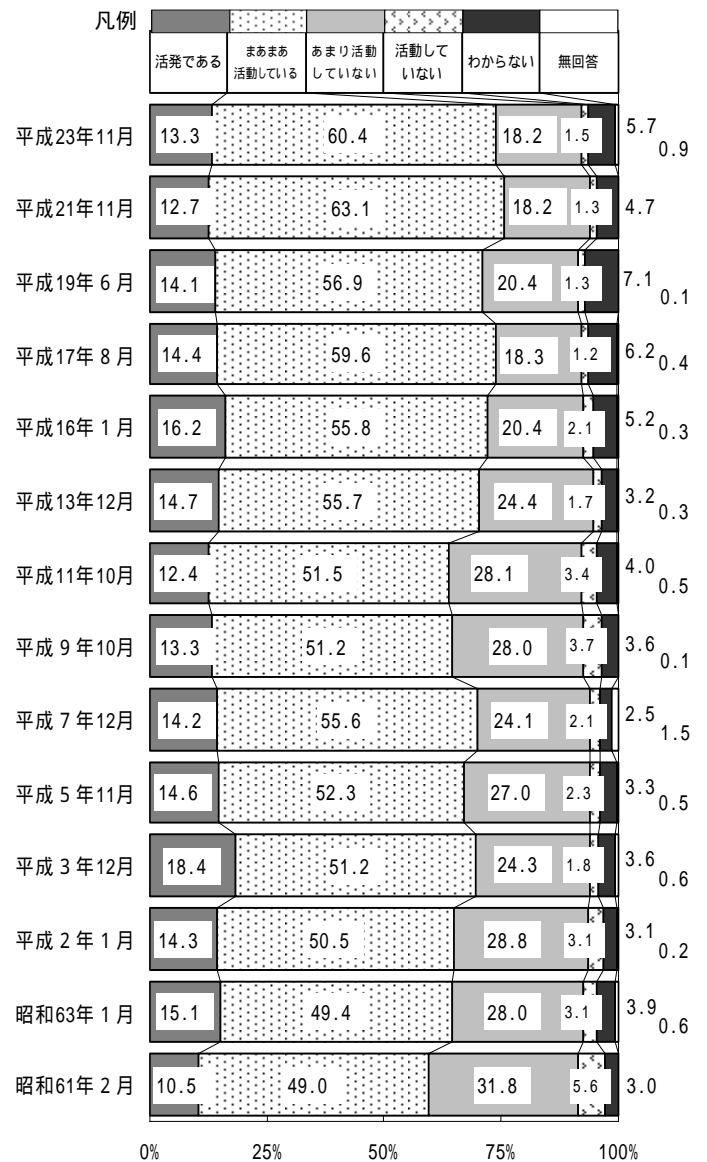
### 自主防災組織の活動状況 ＜防災訓練参加状況別＞

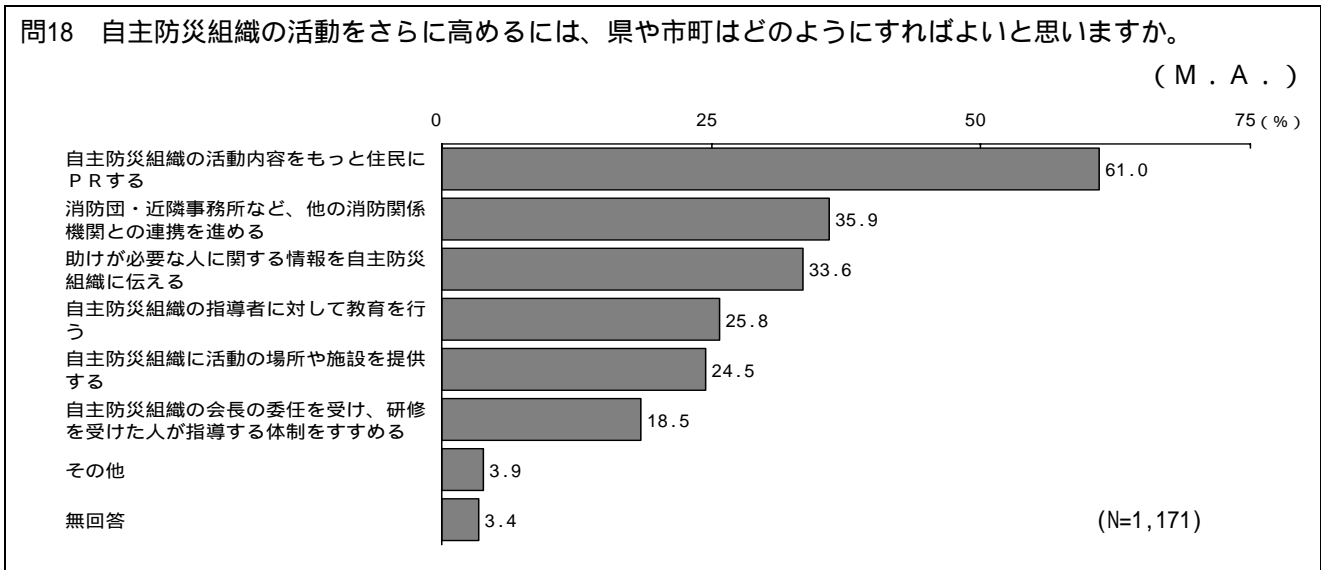
防災訓練参加状況別でみると、いずれの参加状況においても「活発である」+「まあまあ活動している」が6割を超えている。



経年比較でみると、「活発である」+「まあまあ活動している」は、今回調査（73.7%）が、前回調査（75.8%）より2.1ポイント低下している。

### 自主防災組織の活動状況 ＜経年比較＞

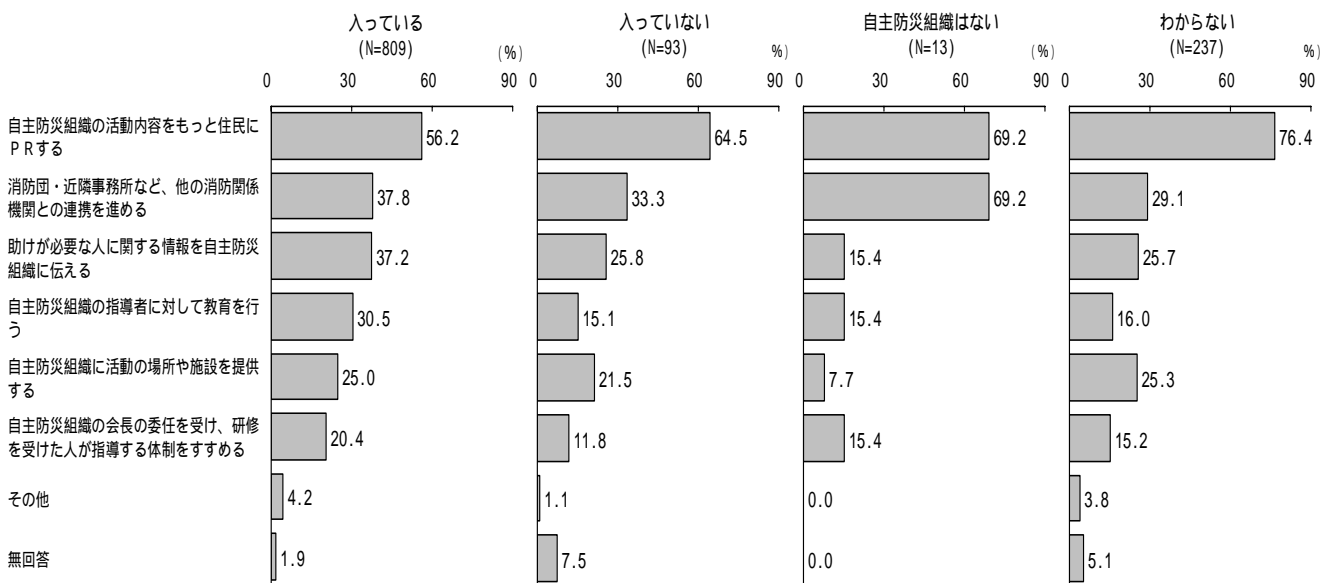




自主防災組織の活性化のための方策についてたずねたところ、「自主防災組織の活動内容をもっと住民にPRする」(61.0%)が最も高く、次いで「消防団・近隣事務所など、他の消防関係機関との連携を進める」(35.9%)、「助けが必要な人に関する情報を自主防災組織に伝える」(33.6%)の順となっている。

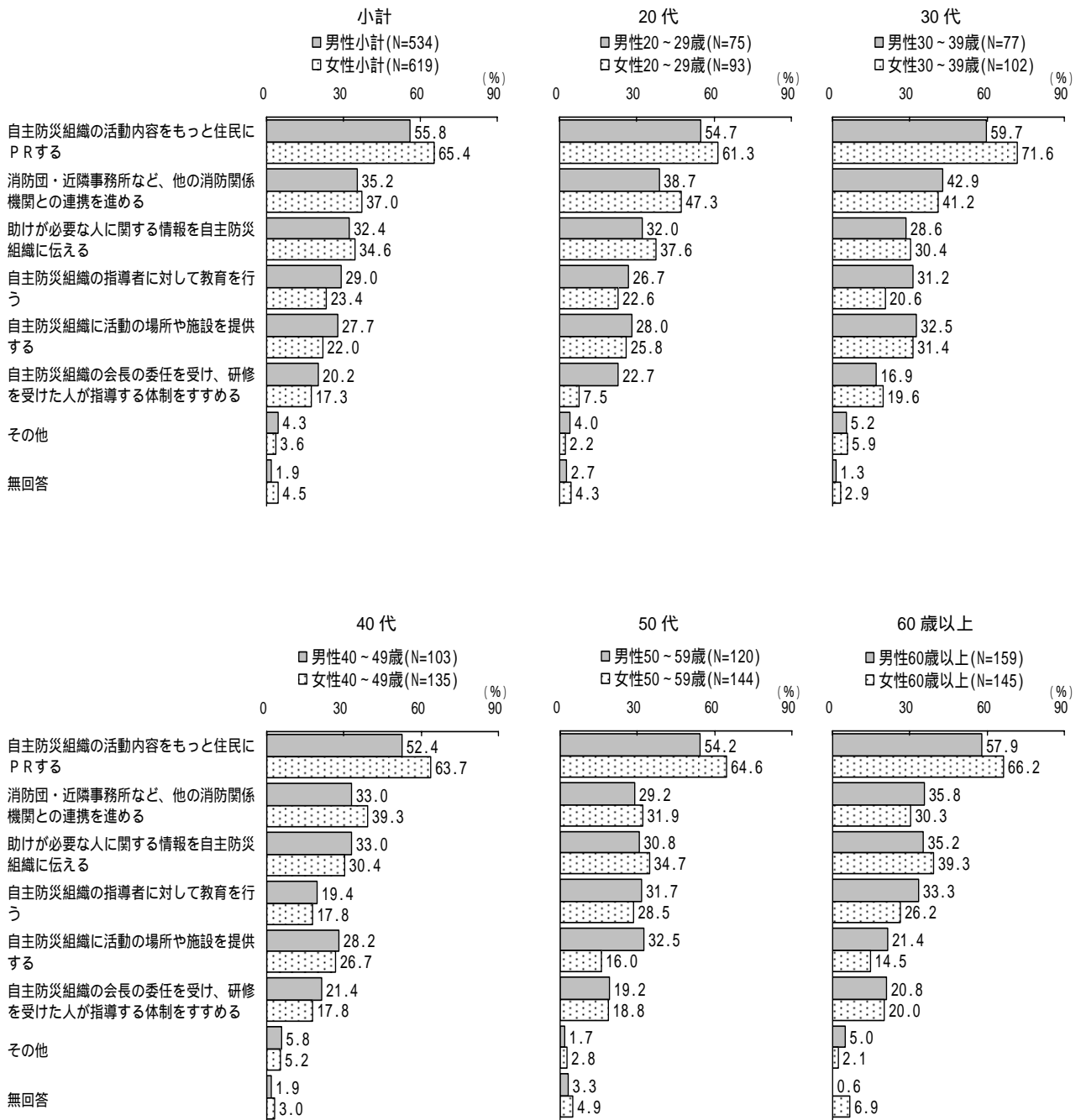
自主防災組織加入別でみると、いずれも「自主防災組織の活動内容をもっと住民にPRする」が最も高い。

自主防災組織の活性化のための方策 < 自主防災組織加入別 >

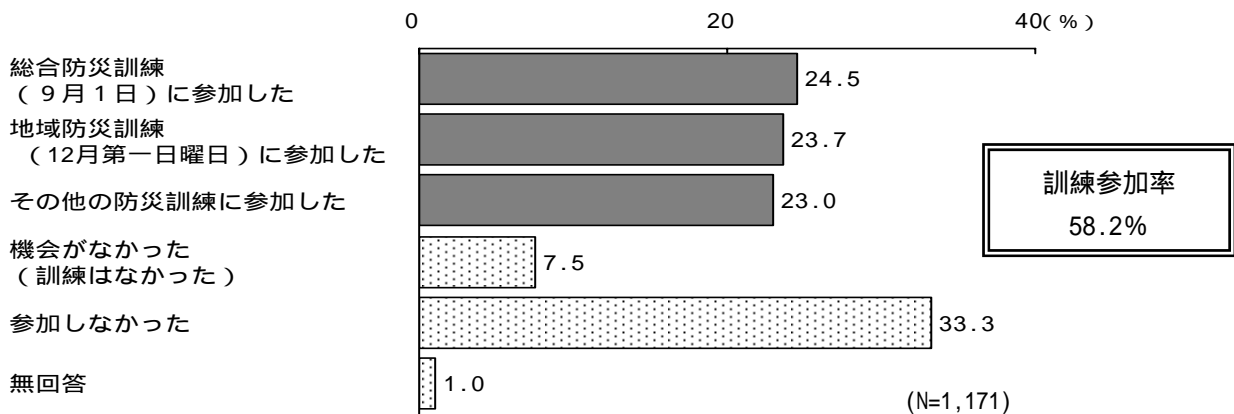


性・年代別で見ると、いずれの年代においても「自主防災組織の活動内容をもっと住民にPRする」が最も高くなっているが、『女性』（65.4%）と『男性』（55.8%）では9.6ポイントの差が見られる。

### 自主防災組織の活性化のための方策 <性・年代別>

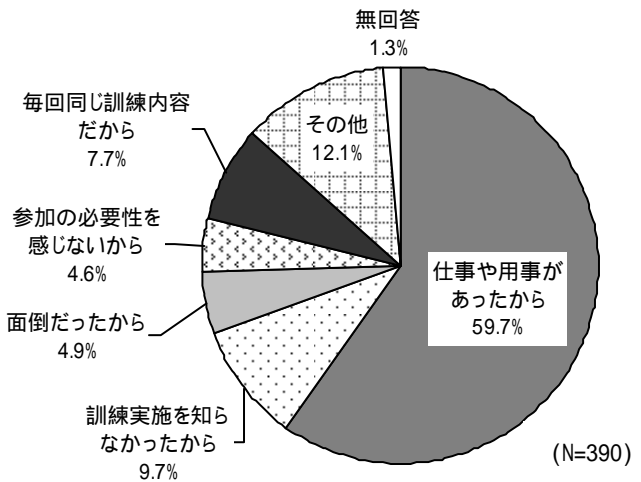
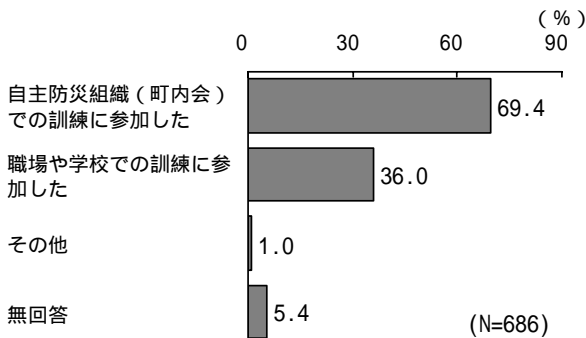


問19 あなたは、過去1年間に、地域や職場の地震防災訓練に参加したことがありますか。(M.A.)



問19-1 <問19で「1 総合防災訓練(9月1日)に参加した」「2 地域防災訓練(12月第一日曜日)に参加した」「3 その他の防災訓練に参加した」のいずれかを選んだ方にお伺いします。>  
その防災訓練はどちらで参加しましたか。(M.A.)

問19-2 <問19で「5 参加しなかった」を選んだ方にお伺いします。>  
参加しなかった理由は何ですか。

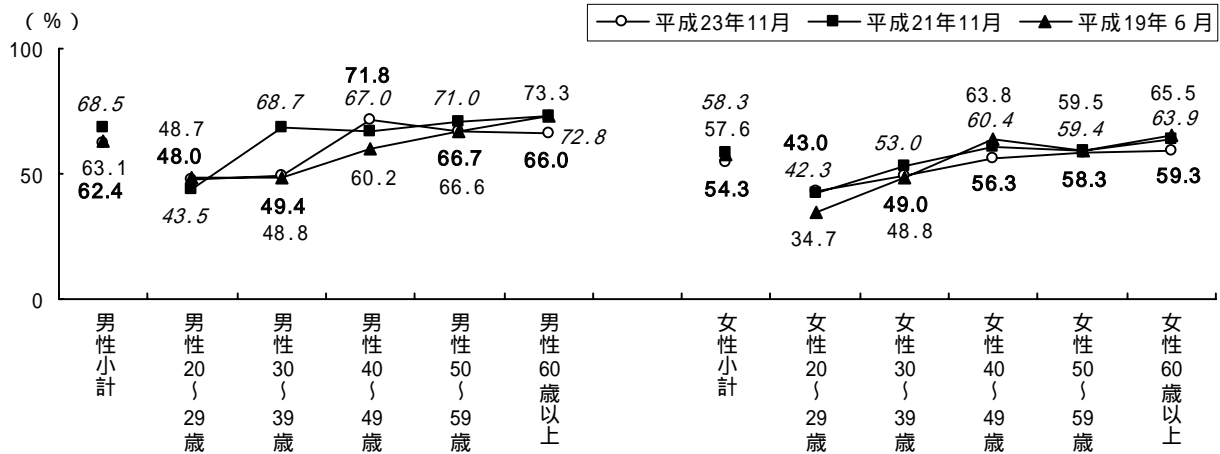


過去1年間の地震防災訓練参加状況についてたずねたところ、「参加しなかった」(33.3%)が最も高く、次いで「総合防災訓練(9月1日)に参加した」(24.5%)、「地域防災訓練(12月第一日曜日)に参加した」(23.7%)、「その他の防災訓練に参加した」(23.0%)、「機会がなかった(訓練はなかった)」(7.5%)の順となっており、いずれかの訓練に参加した人は58.2%となっている。また、問19で地震防災訓練に「参加した」と回答した人の参加形態については、「自主防災組織(町内会)での訓練に参加した」(69.4%)が最も高く、次いで「職場や学校での訓練に参加した」(36.0%)となっている。

一方、問19で地震防災訓練に「参加しなかった」と回答した人の理由は、「仕事や用事があったから」(59.7%)が最も高く、次いで「訓練実施を知らなかったから」(9.7%)、「毎回同じ訓練内容だから」(7.7%)、「面倒だったから」(4.9%)、「参加の必要性を感じないから」(4.6%)の順となっている。

地震防災訓練の参加率を性別でみると、『男性』（62.4%）と『女性』（54.3%）では、『男性』の防災訓練の参加率が8.1ポイント高くなっている。また、性・年代別でみると、最も高い『男性40代』（71.8%）と、最も低い『女性20代』（43.0%）では28.8ポイントの差が見られる。

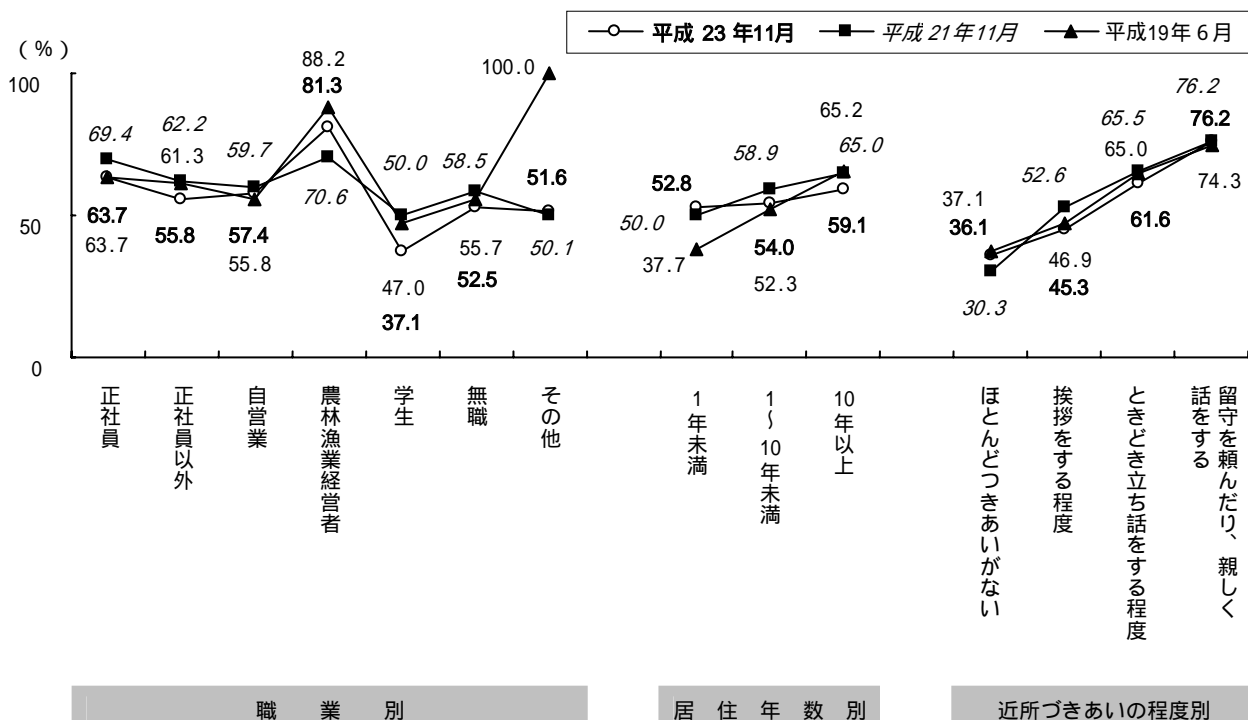
地震防災訓練の参加率 <性・年代別>



職業別では、『農林漁業経営者』（81.3%）が最も高く、次いで『正社員』（63.7%）、『自営業』（57.4%）の順となっている。居住年数別では、最も高い『10年以上』（59.1%）と、最も低い『1年未満』（52.8%）では6.3ポイントの差が見られる。

近所づきあいの程度別では、最も高い『留守を頼んだり、親しく話をする』（76.2%）と、最も低い『ほとんどつきあいがいい』（36.1%）では40.1ポイントの差が見られる。

地震防災訓練の参加率 <属性別>



職業別

居住年数別

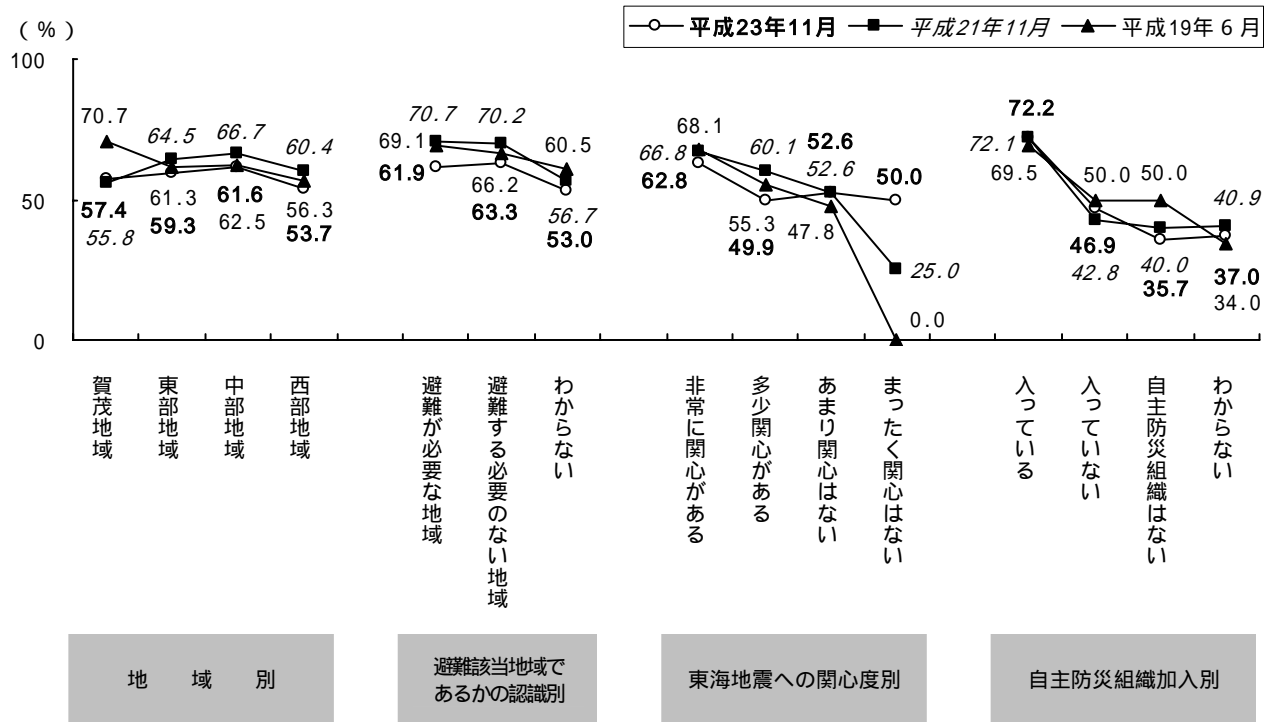
近所づきあいの程度別

地域別では、最も高い『中部』(61.6%)と、最も低い『西部』(53.7%)では7.9ポイントの差が見られる。

東海地震への関心度別では、『多少関心がある』(49.9%)が最も低くなっている。

自主防災組織加入別では、『入っている』(72.2%)が最も高くなっている。

地震防災訓練の参加率 <属性別>





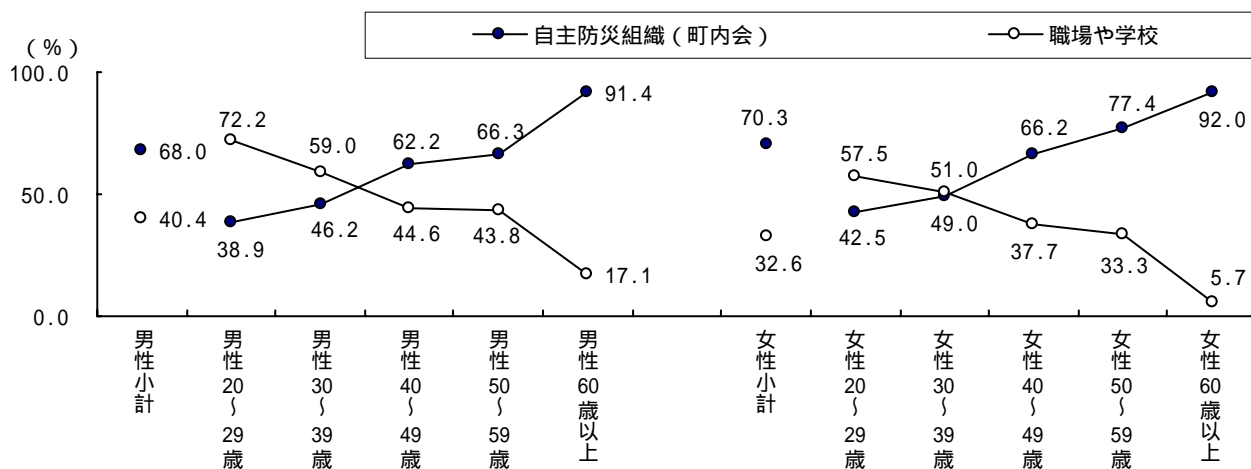
## 地震防災訓練の参加率 < 経年比較 >

経年比較でみると、いずれの調査においても「参加した」が6割前後を占めているが、今回調査（58.2%）は、前回調査（63.3%）より5.1ポイント減少している。「機会がなかった（訓練はなかった）」（7.5%）は、前回調査（5.8%）より1.7ポイント上昇している。



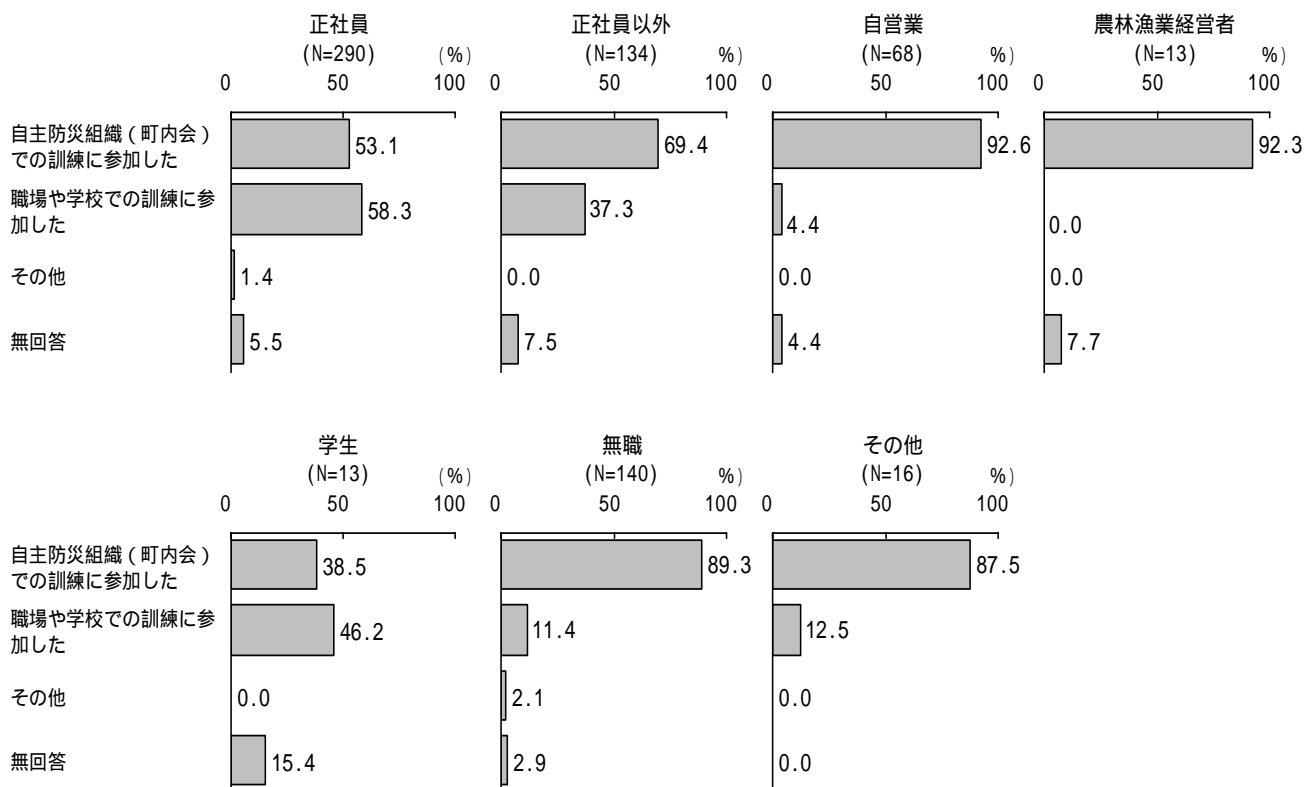
地震防災訓練の参加形態を性・年代別で見ると、男女ともに年代が上がるほど「自主防災組織（町内会）」での参加率が高くなり、「職場や学校」が低くなっている。

地震防災訓練の参加形態 < 性・年代別 >



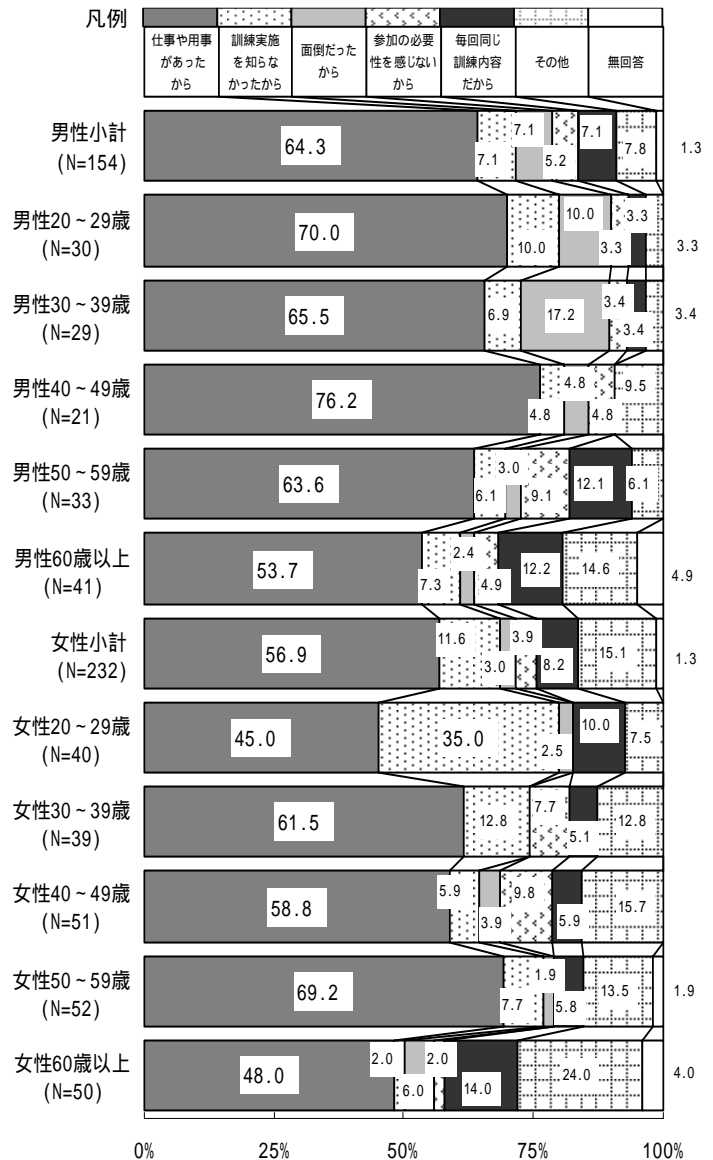
職業別で見ると、ほとんどの職業で「自主防災組織（町内会）」での訓練に参加した」が最も高くなっているが、『正社員』（58.3%）と『学生』（46.2%）は、「職場や学校での訓練に参加した」が最も高くなっている。

地震防災訓練の参加形態 < 職業別 >



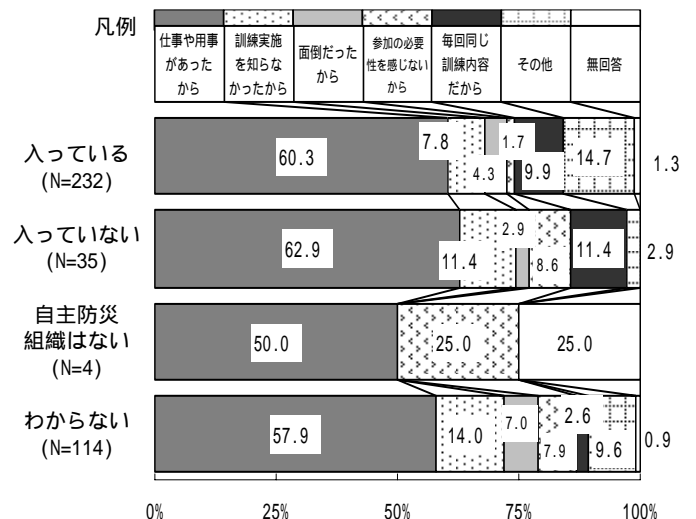
## 地震防災訓練への不参加理由 <性・年代別>

地震防災訓練へ参加しなかった理由について性・年代別でみると、いずれの性・年代においても「仕事や用事があったから」が最も高くなっており、『女性20代』（45.0%）と『女性60歳以上』（48.0%）以外は過半数を超えている。特に『男性40代』（76.2%）、『男性20代』（70.0%）で高くなっている。また、「訓練実施を知らなかったから」は、『女性20代』（35.0%）が他の性・年代と比較すると高くなっている。

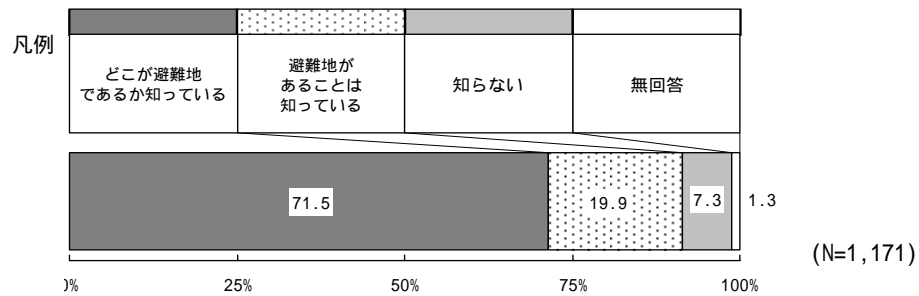


## 地震防災訓練への不参加理由 <自主防災組織加入別>

自主防災組織加入別でみると、自主防災組織に『入っている』人では、「仕事や用事があったから」（60.3%）が高くなっている。「訓練実施を知らなかったから」では、『入っていない』（11.4%）と『わからない』（14.0%）がやや高くなっている。



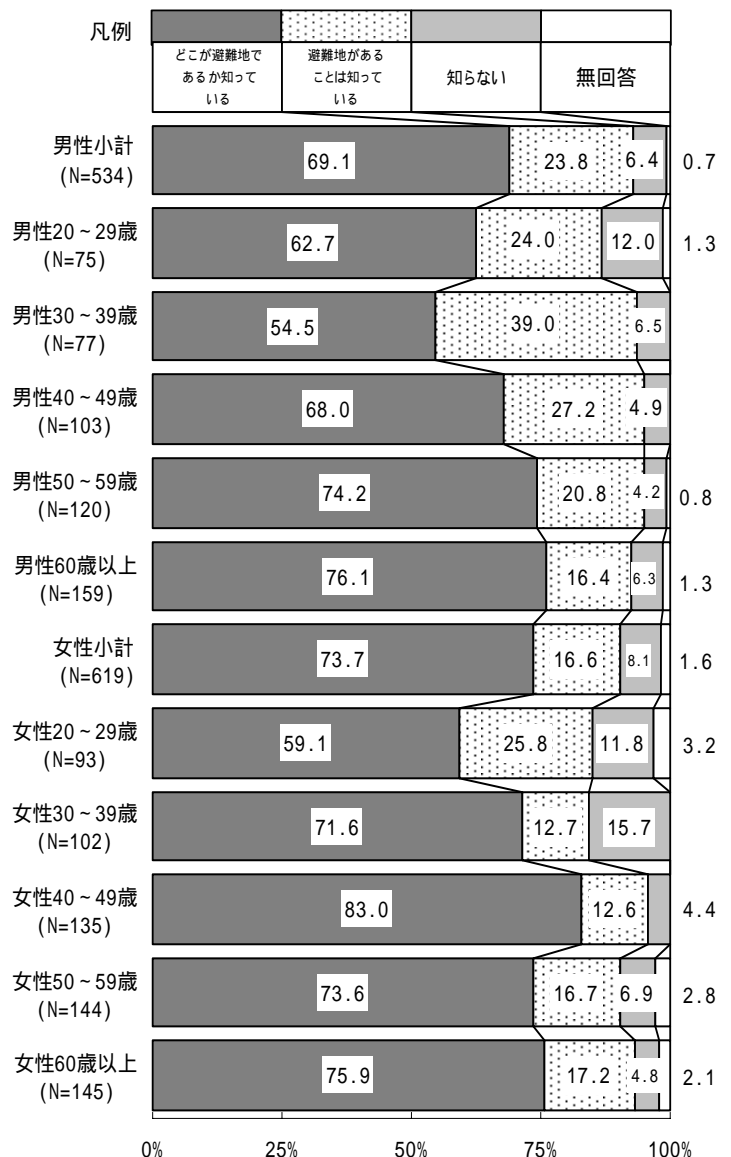
問20 東海地震が予知され警戒宣言が発せられたときや、突然、東海地震が起きたときの避難のため、市町はあらかじめ避難地を指定していますが、あなたはそのことをご存知ですか。



市町の指定避難地の認知については、「どこが避難地であるか知っている」(71.5%)が最も高く、次いで「避難地があることは知っている」(19.9%)、「知らない」(7.3%)の順となっている。

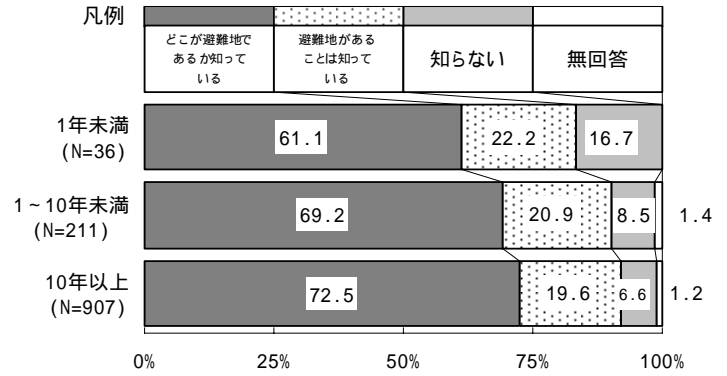
性・年代別でみると、「どこが避難地であるか知っている」は、『男性』より『女性』が高くなっている。最も高い『女性40代』(83.0%)と、最も低い『男性30代』(54.5%)では28.5ポイントの差が見られる。

指定避難地の認知 < 性・年代別 >



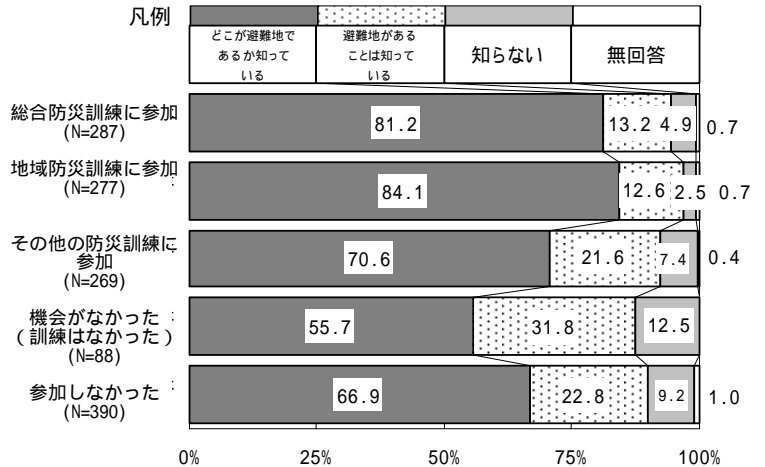
居住年数別でみると、居住年数が長くなるにつれて「どこが避難地であるか知っている」が高くなっている。最も高い『10年以上』（72.5%）と、最も低い『1年未満』（61.1%）では11.4ポイントの差が見られる。

指定避難地の認知 < 居住年数別 >



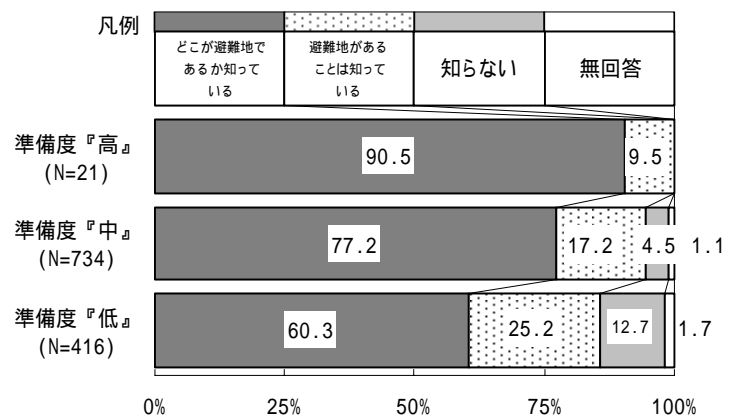
防災訓練参加状況別でみると、「どこが避難地であるか知っている」は、いずれかの防災訓練に参加している人の方が高くなっている。最も高い「地域防災訓練に参加（84.1%）」と、最も低い「機会がなかった（訓練はなかった）」（55.7%）では28.4ポイントの差が見られる。

指定避難地の認知 < 防災訓練参加状況別 >



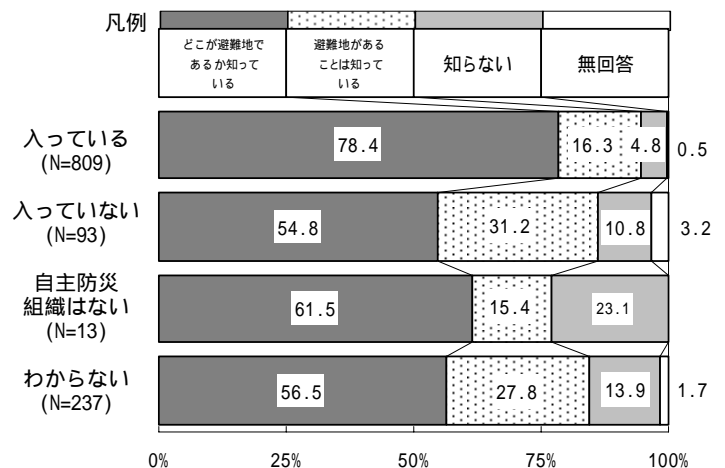
防災準備度別でみると、「どこが避難地であるか知っている」は、『防災準備度「高」』（90.5%）と、『防災準備度「低」』（60.3%）では30.2ポイントの差が見られる。

指定避難地の認知 < 防災準備度別 >

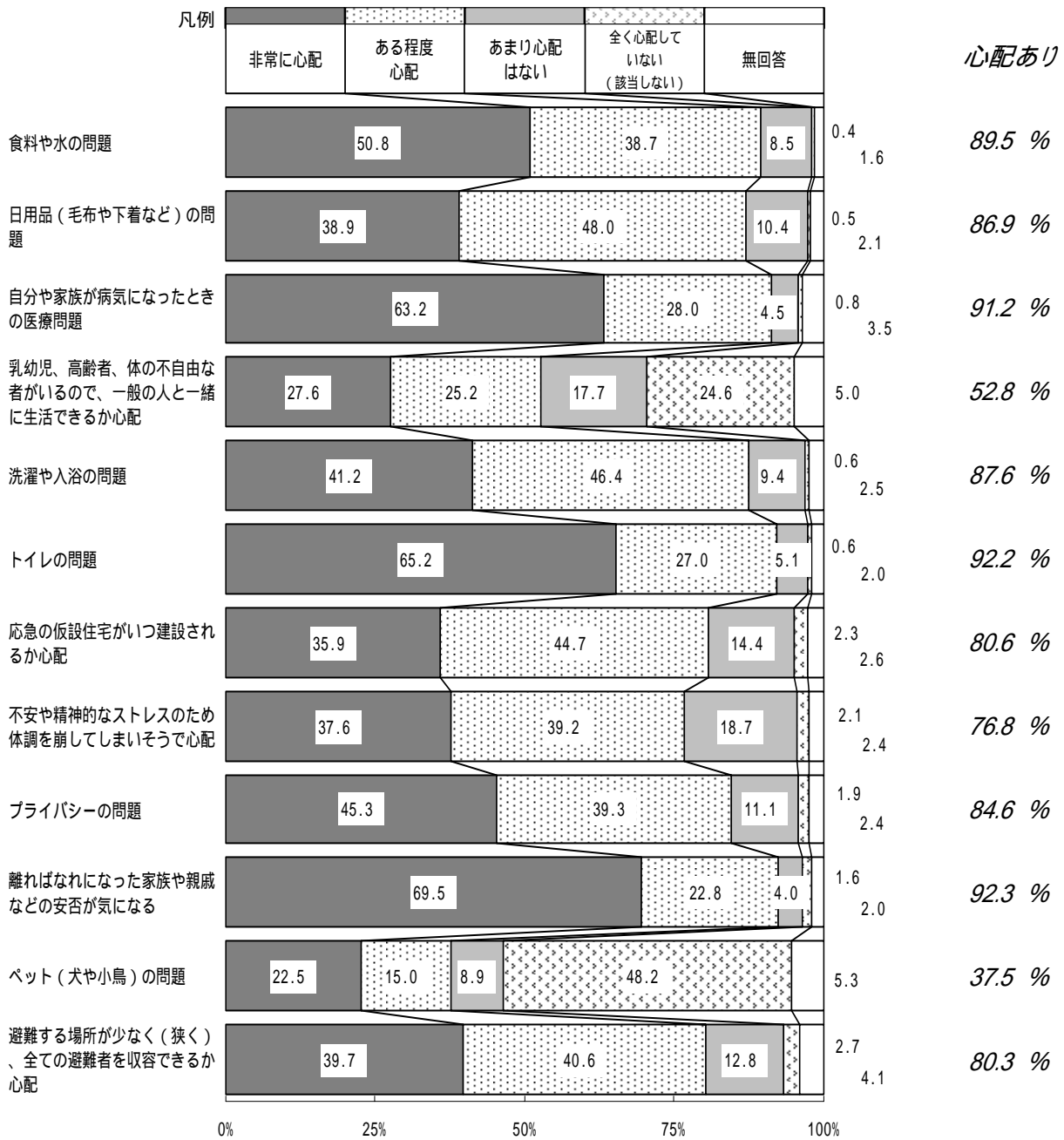


自主防災組織加入別でみると、「どこが避難地であるか知っている」は、自主防災組織に『入っている』（78.4%）と、『入っていない』（54.8%）では23.6ポイントの差が見られる。

指定避難地の認知 < 自主防災組織加入別 >



問21 あなたは避難地で避難生活を送る場合、どのようなことが心配ですか。次の1～11について、あてはまる項目にそれぞれ1つずつをつけてください。

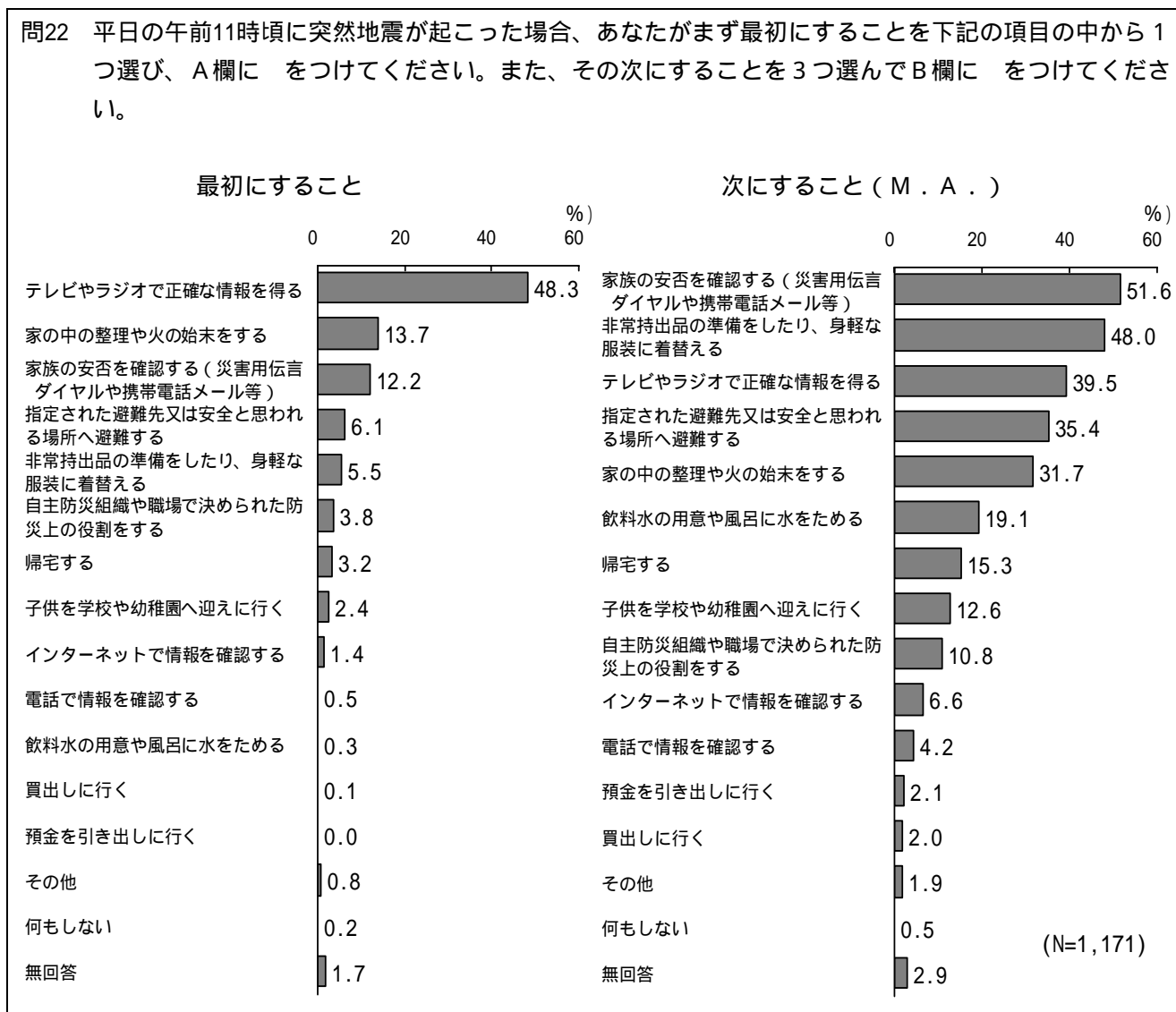


(N=1,171)

避難所で避難生活を送る場合の心配ごとについてたずねたところ、「非常に心配」については、『離ればなれになった家族や親戚などの安否確認が気になる』（69.5%）、『トイレの問題』（65.2%）、『自分や家族が病気になったときの医療問題』（63.2%）の3項目が高くなっている。また、心配ありと答えた項目（「非常に心配」+「ある程度心配」）の上位5項目をみると、『離ればなれになった家族や親戚などの安否確認が気になる』（92.3%）、次いで『トイレの問題』（92.2%）、『自分や家族が病気になったときの医療問題』（91.2%）、『食料や水の問題』（89.5%）、『洗濯や入浴の問題』（87.5%）、『日用品（毛布や下着など）の問題』（86.9%）の順となっており、いずれも8割以上となっている。

## 5 東海地震が突然発生したときの行動について

### 5 - 1 突然地震が発生したときの行動

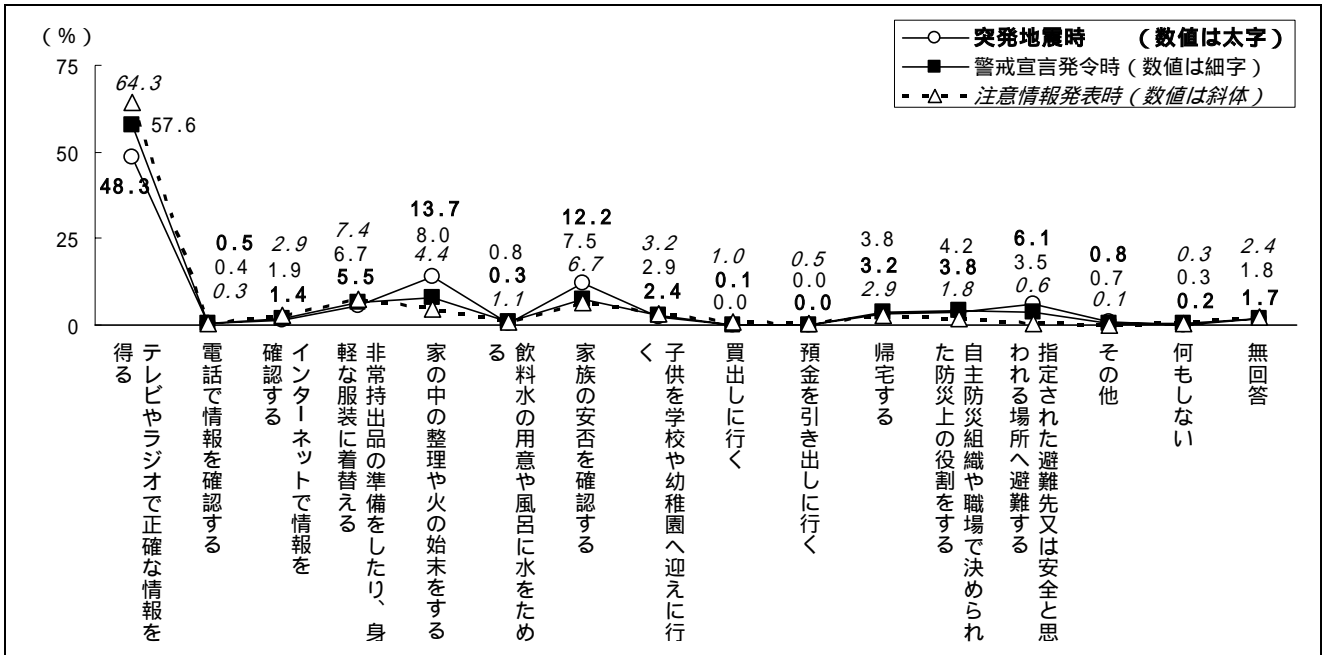


突然地震が発生したときの行動についてたずねたところ、まず最初にすることは、「テレビやラジオで正確な情報を得る」(48.3%)が最も高く、次いで「家の中の整理や火の始末をする」(13.7%)、「家族の安否を確認する(災害用伝言ダイヤルや携帯電話メール等)」(12.2%)の順となっている。

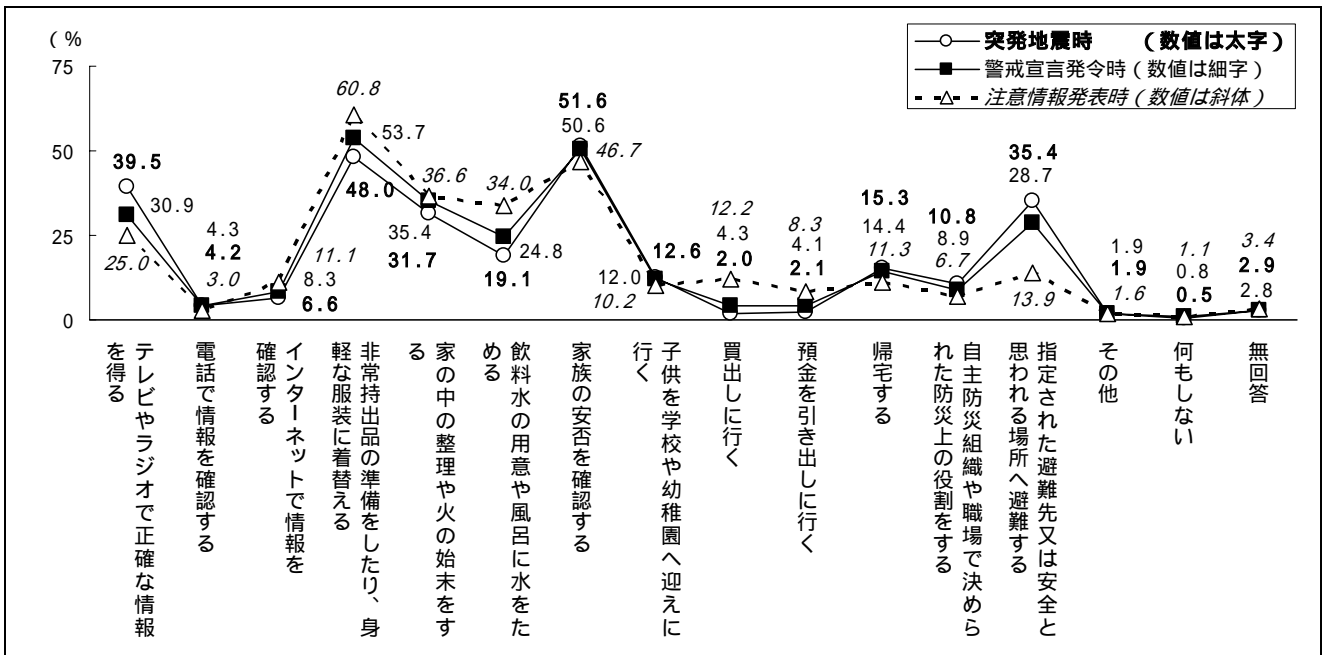
次にすることは、「家族の安否を確認する(災害用伝言ダイヤルや携帯電話メール等)」(51.6%)が最も高く、次いで「非常持出品の準備をしたり、身軽な服装に着替える」(48.0%)、「テレビやラジオで正確な情報を得る」(39.5%)、「指定された避難先又は安全と思われる場所へ避難する」(35.4%)、「家の中の整理や火の始末をする」(31.7%)の順となっており、これら5項目が3割を超えている。

# 突発地震時 警戒宣言発令時 注意情報発表時の行動比較

## 最初にする行動



## 次にする行動

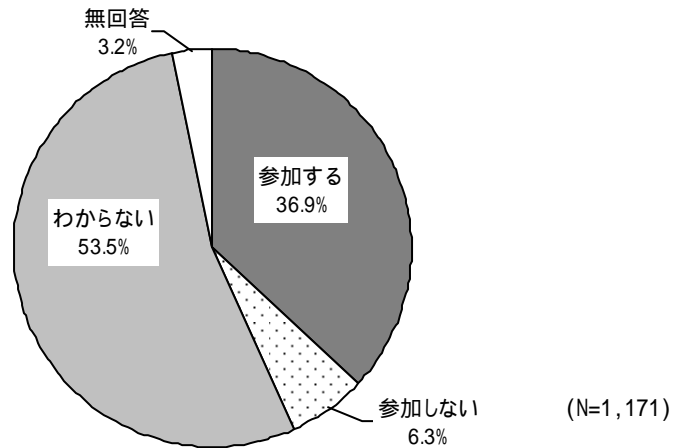


警戒宣言発令時の行動は問26にて、注意情報発表時の行動は問32にて調査した項目

「家族の安否を確認する」は、問26警戒宣言発令時・問32注意情報発表時の項目では、「家族と電話で連絡をとる」となっている。



問23 突然、地震が起こった場合、あなたは自主的に地域の防災活動に参加しますか。

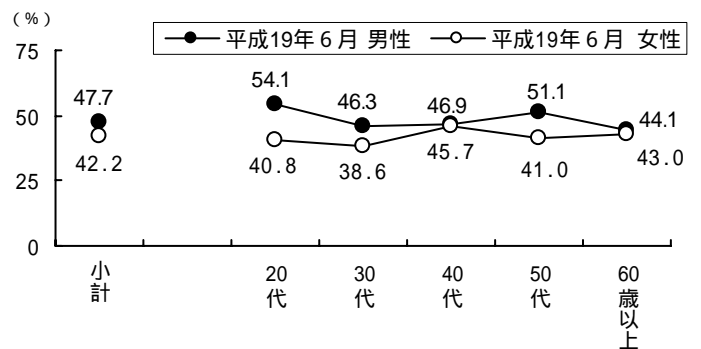
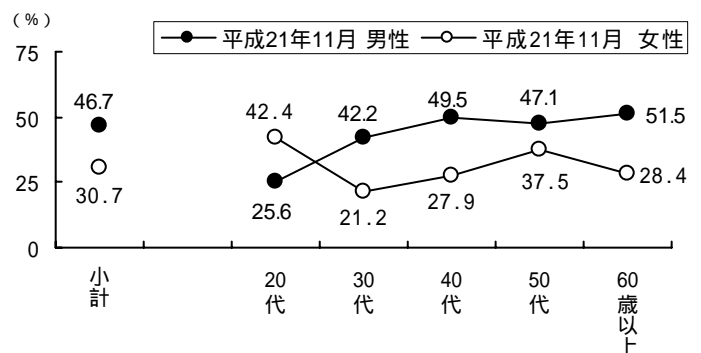
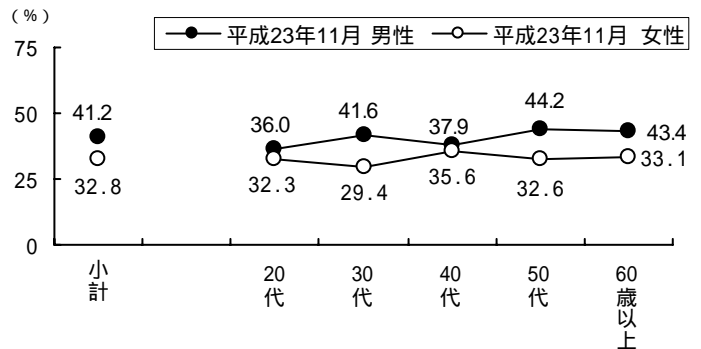


地震発生後の防災活動についてたずねたところ、「わからない」（53.5%）が最も高く、次いで「参加する」（36.9%）、「参加しない」（6.3%）の順となっている。

地震発生後の防災活動「参加する」  
＜性・年代別＞

性・年代別でみると、地震発生後の防災活動に「参加する」は、『男性』が41.2%、『女性』が32.8%となっており、年代別においても『男性』が『女性』よりも高くなっている。また、「参加する」は、最も高い『男性50代』（44.2%）と、最も低い『女性30代』（29.4%）では14.8ポイントの差が見られる。

また、過去2回の調査と比較すると、『男性』の参加意向の減少傾向が見られる。



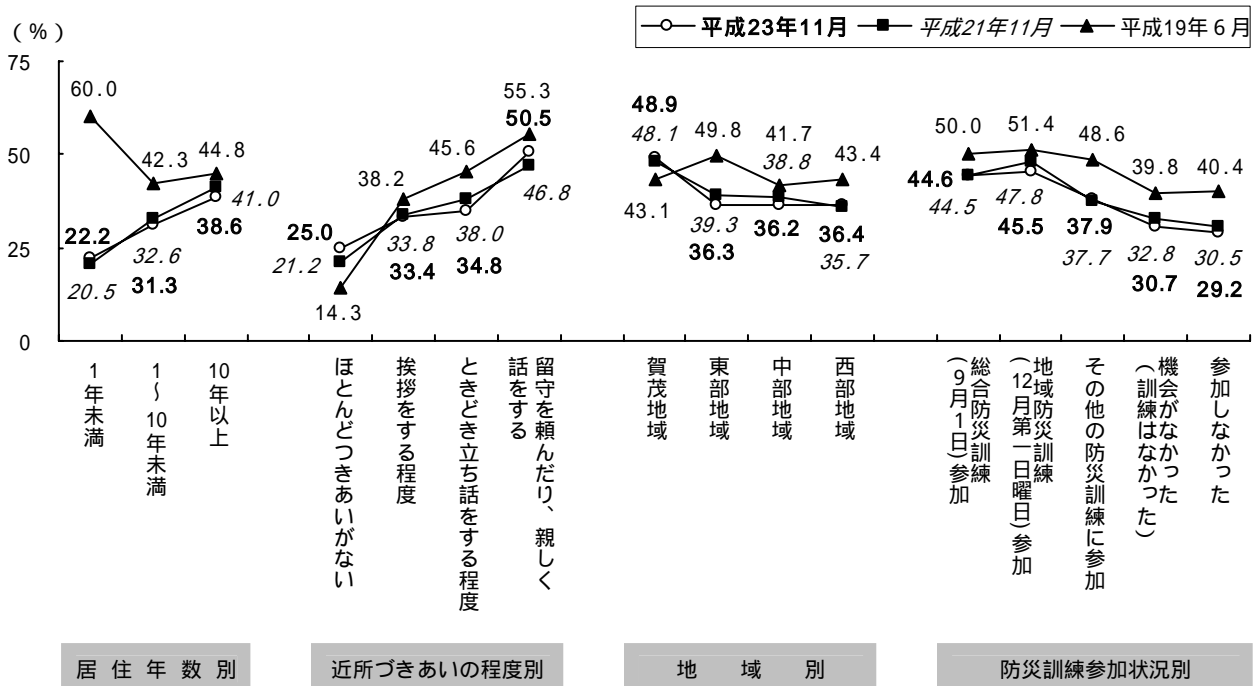
地震発生後の防災活動に「参加する」を属性別にみると、居住年数別では、最も高い『10年以上』(38.6%)と、最も低い『1年未満』(22.2%)では16.4ポイントの差が見られる。

近所づきあいの程度別では、最も高い『留守を頼んだり、親しく話をする』(50.5%)と、最も低い『ほとんどつきあいがいい』(25.0%)では25.5ポイントの差が見られる。

地域別では、最も高い『賀茂』(48.9%)と、最も低い『中部』(36.2%)では12.7ポイントの差が見られる。

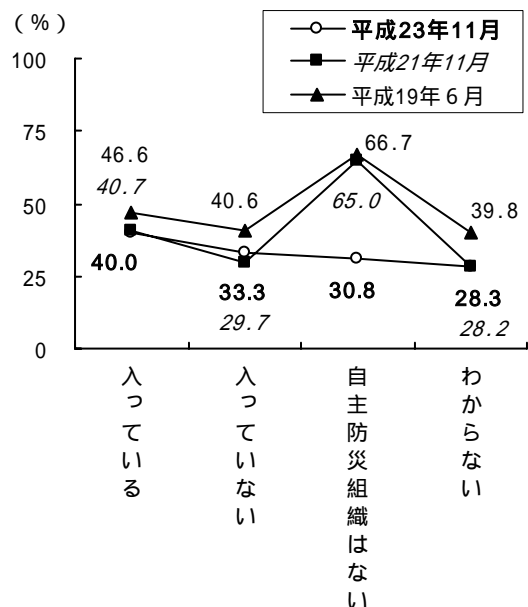
防災訓練参加状況別では、最も高い『地域防災訓練に参加した』(45.5%)と、最も低い『参加しなかった』(29.2%)では16.3ポイントの差が見られる。

### 地震発生後の防災活動「参加する」 <属性別>

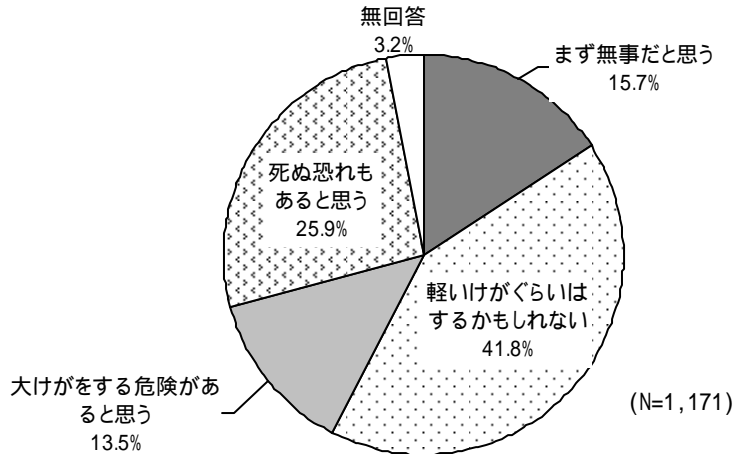


### 地震発生後の防災活動「参加する」 <自主防災組織加入別>

自主防災組織加入別でみると、『入っている』(40.0%)が最も高くなっているが、過去2回の調査と比較すると、減少傾向にある。また、自主防災組織に『入っている』(40.0%)と、『入っていない』(33.3%)では6.7ポイントの差が見られる。



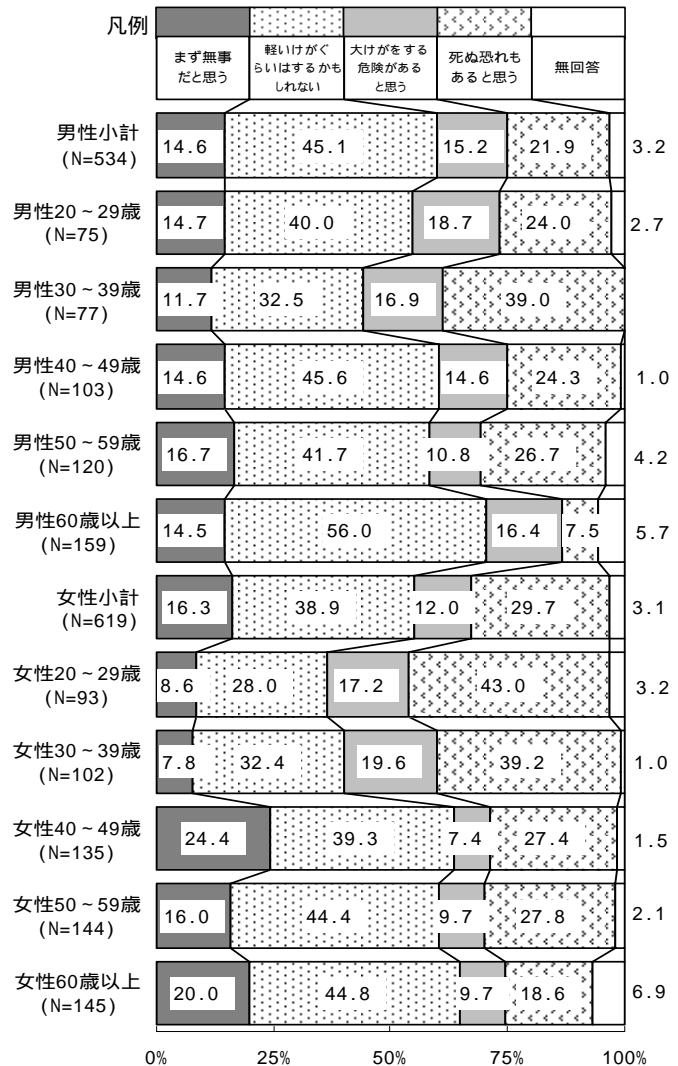
問24 突然、地震が起こった場合、あなた自身の安全についてどう考えていますか。



突然地震が発生したときの自分自身の安全性についてたずねたところ、「軽いけがぐらいはするかもしれない」(41.8%)が最も高く、次いで「死ぬ恐れもあると思う」(25.9%)、「まず無事だと思う」(15.7%)、「大けがをする危険があると思う」(13.5%)の順となっている。

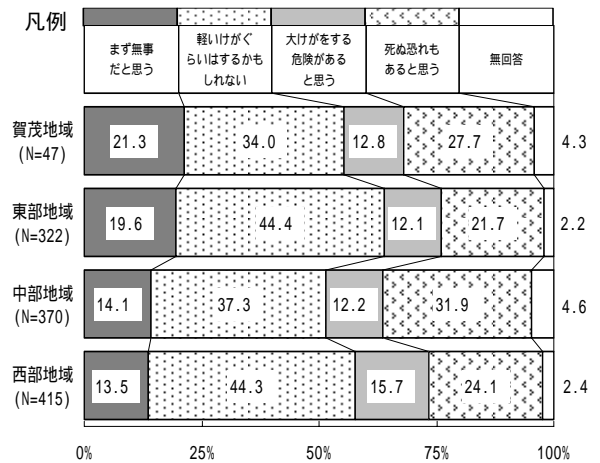
突然地震が発生したときの自分自身の安全性 <性・年代別>

性・年代別でみると、いずれの性・年代においても「軽いけがぐらいはするかもしれない」が最も高くなっている。「死ぬ恐れもあると思う」は、男性では『30代』(39.0%)、女性では『20代』(43.0%)、『30代』(39.2%)でやや高くなっている。



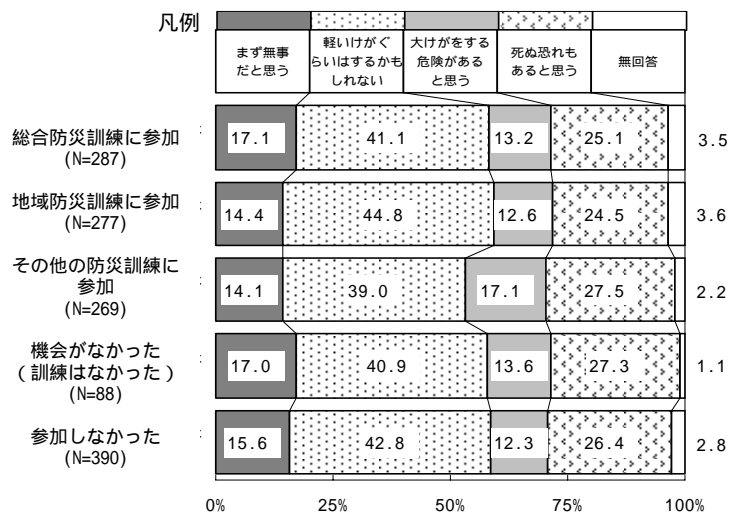
### 突然地震が発生したときの自分自身の安全性 <地域別>

地域別でみると、「軽いけがぐらいはするかもしれない」は、『東部』(44.4%)と『西部』(44.3%)で高く、「死ぬ恐れもあると思う」は、『中部』(31.9%)で高くなっている。



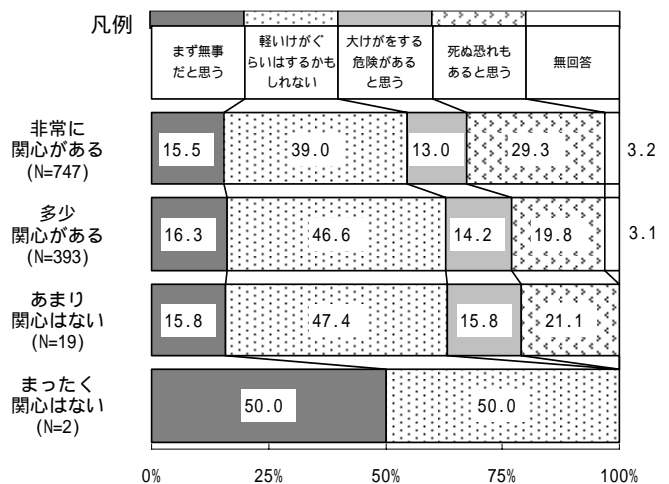
### 突然地震が発生したときの自分自身の安全性 <防災訓練参加状況別>

防災訓練参加状況別でみると、いずれの参加状況においても「軽いけがぐらいはするかもしれない」が最も高くなっている。



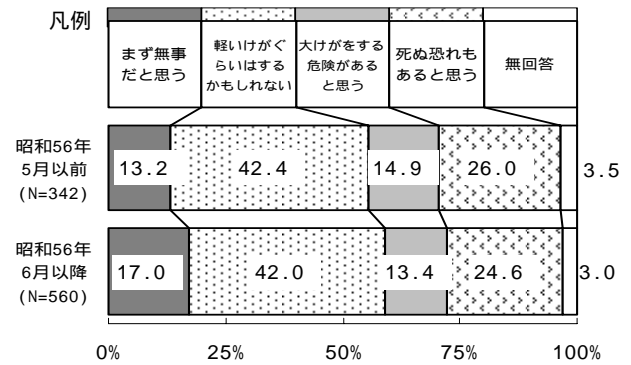
### 突然地震が発生したときの自分自身の安全性 <東海地震への関心度別>

東海地震への関心度別でみると、「軽いけがぐらいはするかもしれない」が高くなっている。



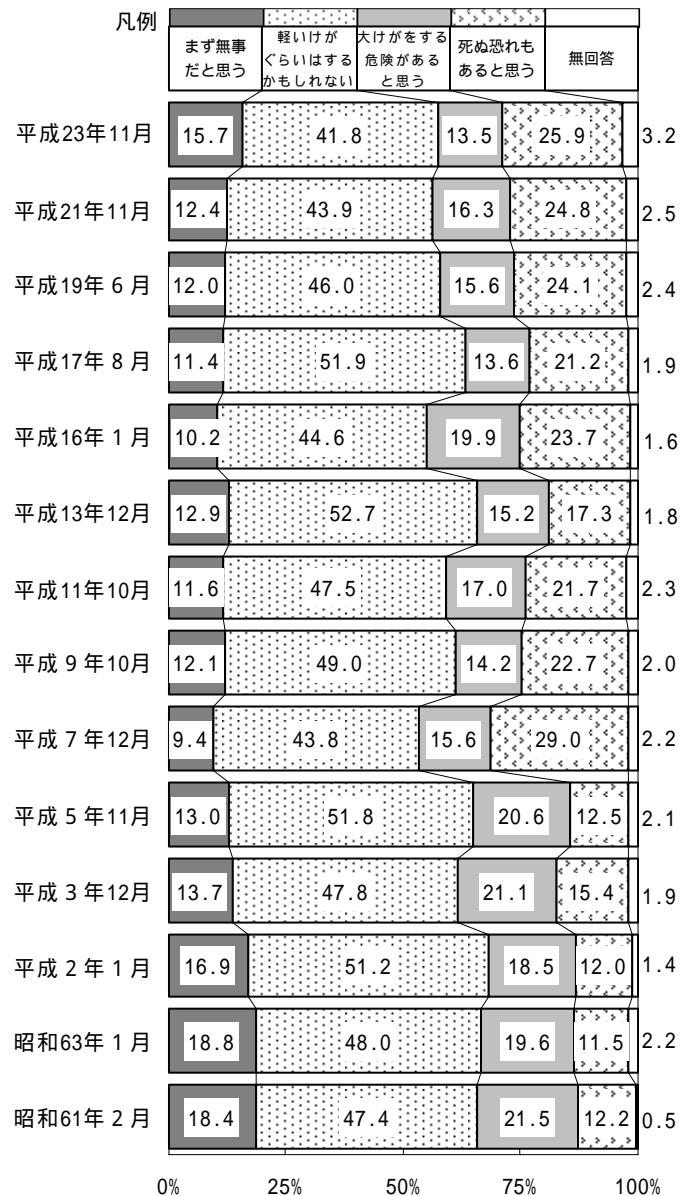
### 突然地震が発生したときの自分自身の安全性 <木造住宅建築時期別>

木造住宅建築時期別でみると、いずれの時期においても「軽いけがぐらいはするかもしれない」が最も高くなっている。

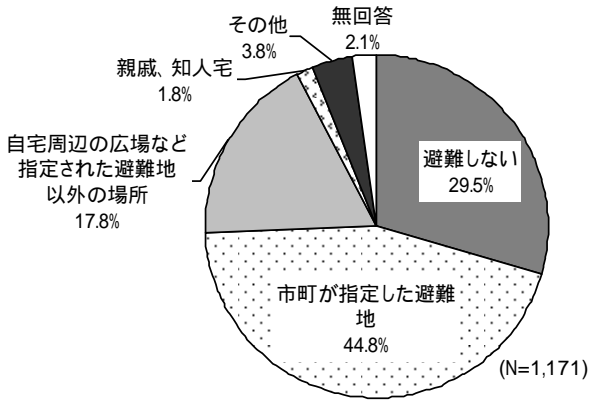


### 突然地震が発生したときの自分自身の安全性 <経年比較>

経年比較でみると、「死ぬ恐れもあると思う」が、阪神・淡路大震災（平成7年1月）の起きた『平成7年12月の調査』（29.0%）において過去最高になった以降は、2割前後を推移している。東日本大震災（平成23年3月）の起きた今回調査（25.9%）では、前回調査（24.8%）よりも1.1ポイント高くなっている。

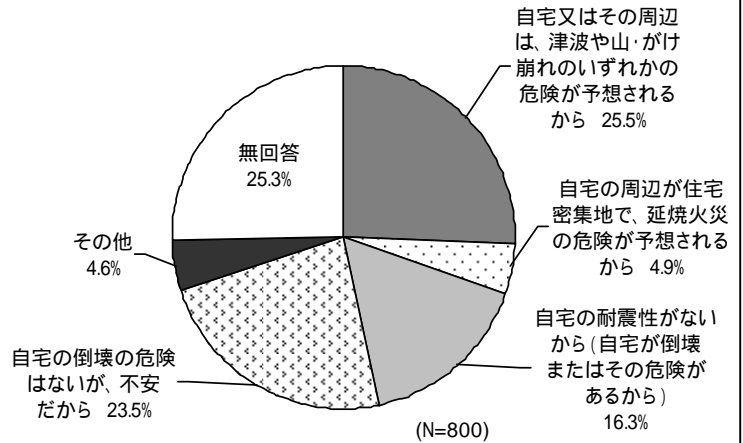


問25 あなたがご自宅にいるときに、突然地震が起こった場合、あなたやご家族は避難しますか。また、避難する場合はどこに避難しますか。



問25 - 1 <問25で「1 避難しない」以外を選んだ方にお伺いします。>

避難する理由は何ですか。

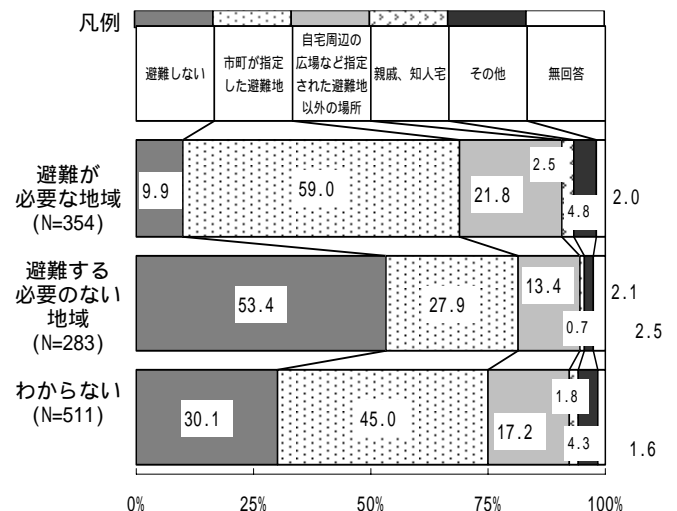


突然地震が発生したときの避難行動についてたずねたところ、「市町が指定した避難地」(44.8%)が最も高く、次いで「避難しない」(29.5%)、「自宅周辺の広場など指定された避難地以外の場所」(17.8%)、「親戚、知人宅」(1.8%)の順となっている。屋外である「市町が指定した避難地」と「自宅周辺の広場など指定された避難地以外の場所」への避難は62.6%となっている。

また、問25で「避難しない」以外を回答した人の避難する理由については、「自宅又はその周辺は、津波や山・がけ崩れのいずれかの危険が予想されるから」(25.5%)が最も高く、次いで「自宅の倒壊の危険はないが、不安だから」(23.5%)、「自宅の耐震性がないから(自宅が倒壊またはその危険があるから)」(16.3%)、「自宅の周辺が住宅密集地で、延焼火災の危険が予想されるから」(4.9%)の順となっている。

突然地震が発生したときの避難行動  
<避難該当地域であるかの認識別>

避難該当地域であるかの認識別でみると、『避難が必要な地域』では、「市町が指定した避難地」(59.0%)が最も高くなっている。『避難する必要のない地域』では、「避難しない」(53.4%)が最も高くなっている。一方、『避難が必要な地域』においても9.9%が「避難しない」としている。

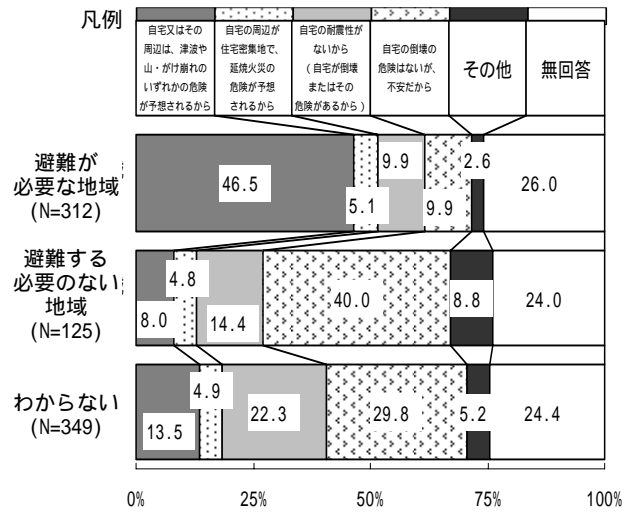


## 避難する理由

### < 避難該当地域であるかの認識別 >

問25で「避難しない」以外を回答した人の避難する理由について、避難該当地域であるかの認識別でみると、『避難が必要な地域』では、「自宅又はその周辺は、津波や山・がけ崩れのいずれかの危険が予想されるから」(46.5%)が高くなっている。

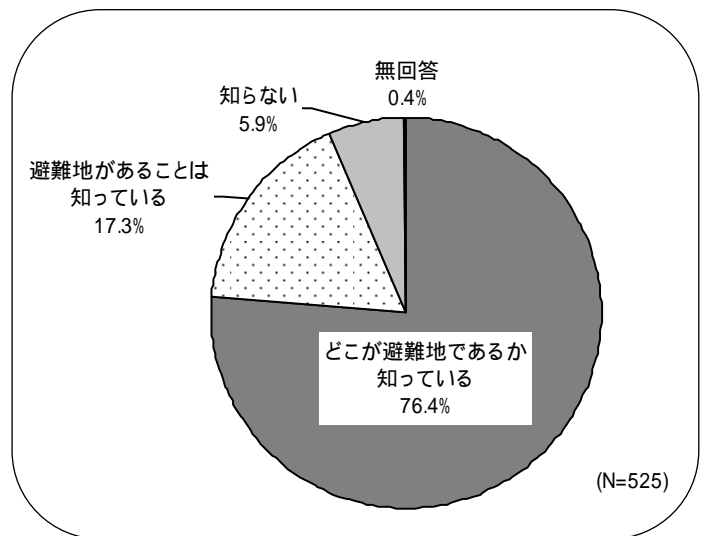
『避難する必要のない地域』では、「自宅の倒壊の危険はないが、不安だから」(40.0%)が他より高くなっている。



## 避難指定地の認知度

### < 「市町が指定した避難地」と回答した人の内訳 >

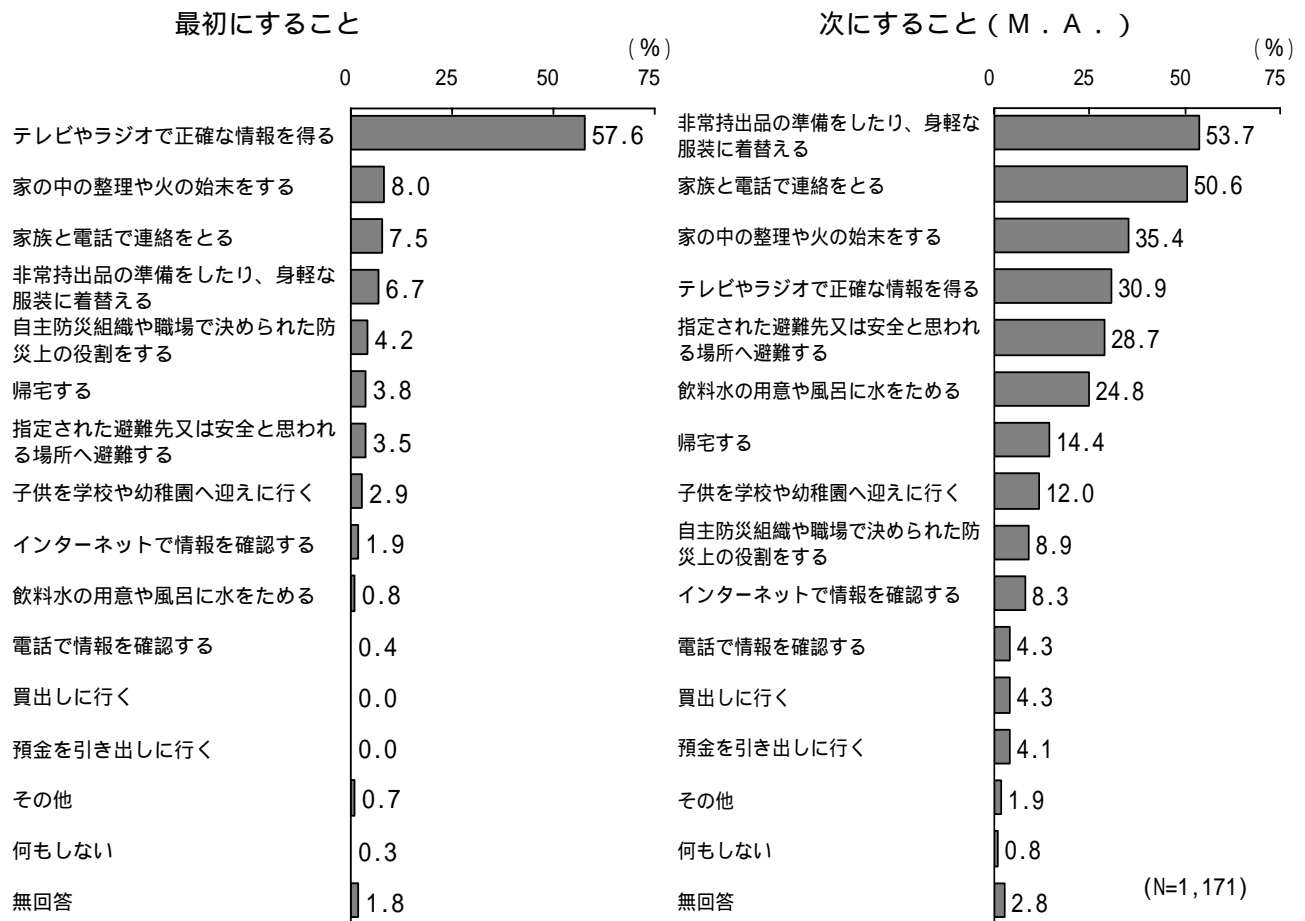
避難指定地の認知度を「市町が指定した避難地」と回答した人のみでみると、「どこが避難地であるか知っている」(76.4%)が最も高く、次いで「避難地があることは知っている」(17.3%)、「知らない」(5.9%)の順となっている。



## 6 警戒宣言が発せられたときの行動について

### 6 - 1 警戒宣言発令時の行動

問26 あなたが平日の午前11時頃に警戒宣言が発せられたと仮定して、まず最初にすることを下記の項目の中から1つ選び、A欄に をつけてください。また、その次にすることを3つ選んでB欄に をつけてください。



警戒宣言発令時の行動についてたずねたところ、まず最初にすることは、「テレビやラジオで正確な情報を得る」(57.6%)が最も高く、次いで「家の中の整理や火の始末をする」(8.0%)、「家族と電話で連絡をとる」(7.5%)の順となっている。

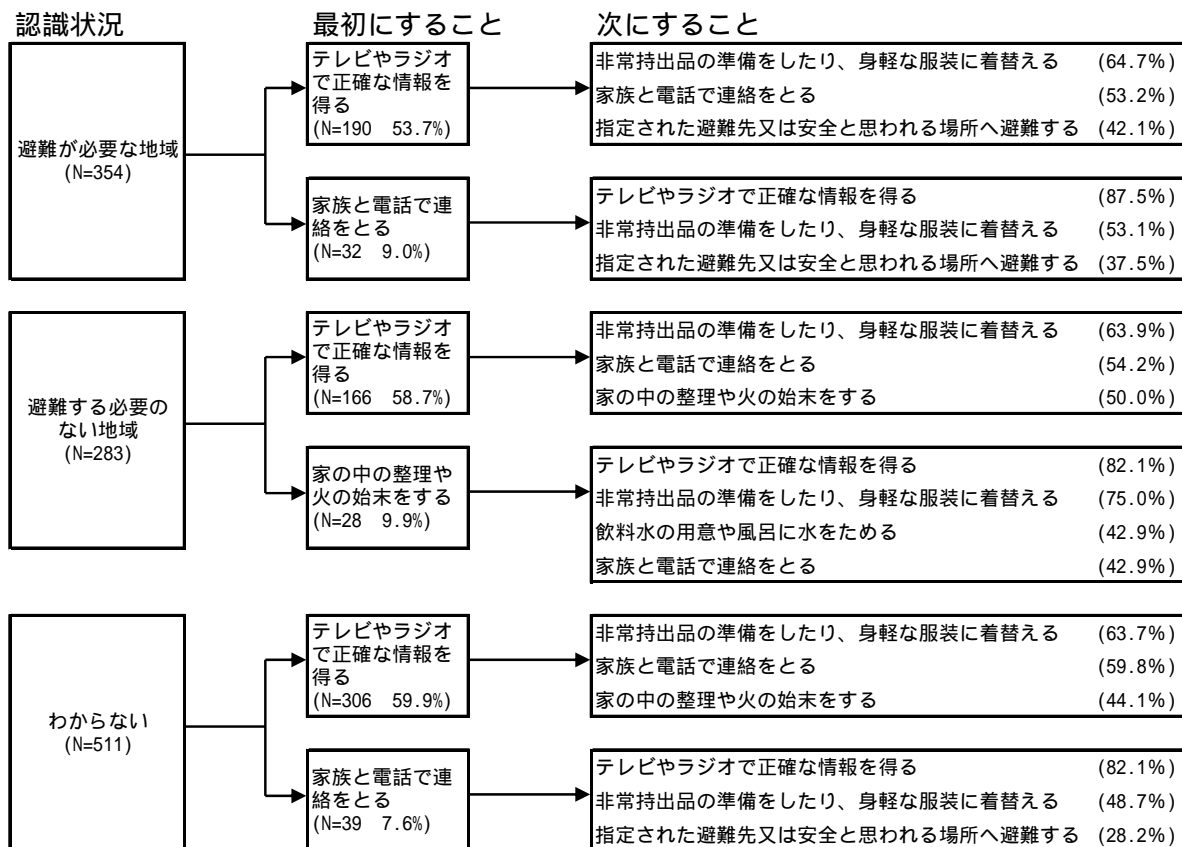
次にすることは、「非常持出品の準備をしたり、身軽な服装に着替える」(53.7%)が最も高く、次いで「家族と電話で連絡をとる」(50.6%)、「家の中の整理や火の始末をする」(35.4%)、「テレビやラジオで正確な情報を得る」(30.9%)となっており、これら4項目が3割を超えている。



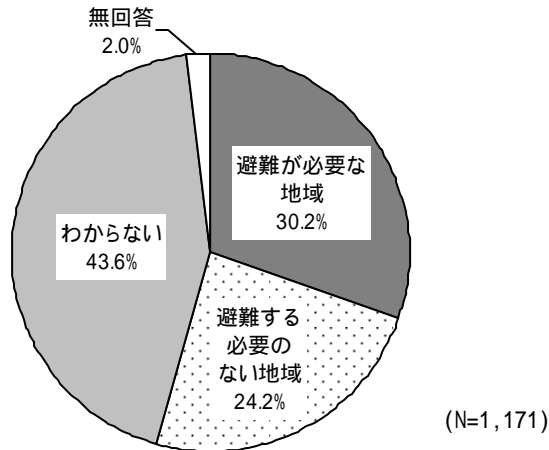
警戒宣言発令時の行動の流れを避難該当地域であるかの認識別でみると、避難該当地域か否かに関わらず、「テレビやラジオで正確な情報を得る」をまず最初にする事として挙げている。

まず最初にする事で「テレビやラジオで正確な情報を得る」を選んだ人は、次にすることでは「非常持出品の準備をしたり、身軽な服装に着替える」、「家族と電話で連絡をとる」を挙げている。また、「家の中の整理や火の始末をする」、「家族と電話で連絡をとる」を選んだ人は、次にすることでは「テレビやラジオで正確な情報を得る」、「非常持出品の準備をしたり、身軽な服装に着替える」を挙げている。

警戒宣言発令時の行動の流れ < 避難該当地域であるかの認識別 >



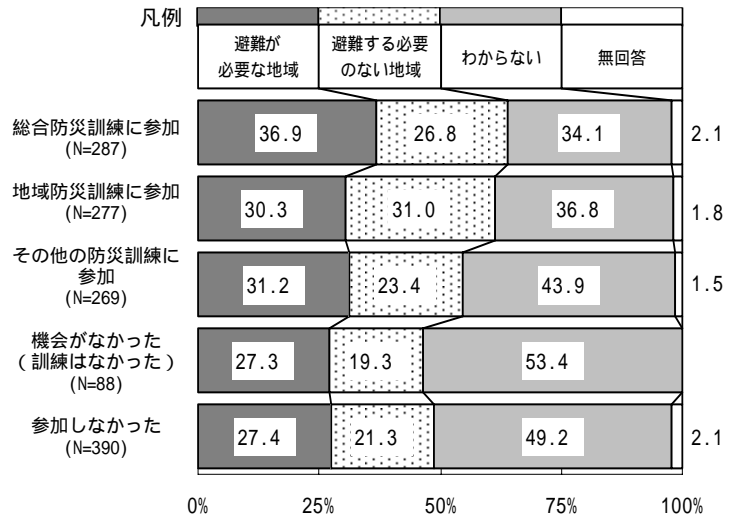
問27 あなたのお宅は、警戒宣言が発せられたとき、避難が必要な地域ですか。



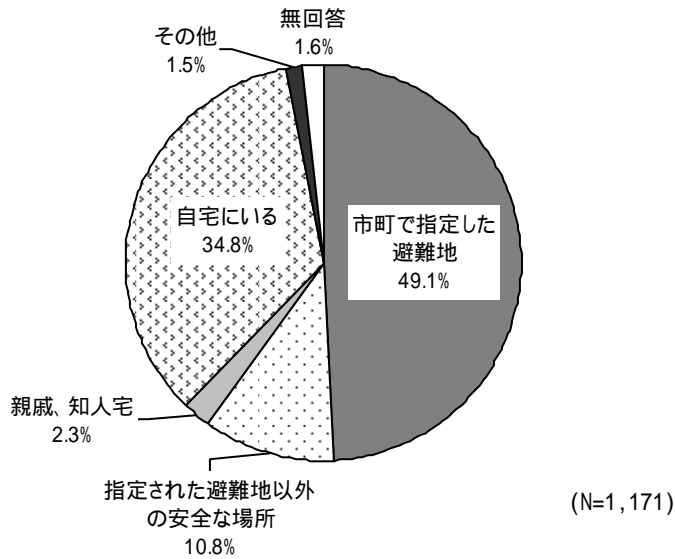
自宅が避難該当地域であるかの認識についてたずねたところ、「わからない」（43.6％）が最も高く、次いで「避難が必要な地域」（30.2％）、「避難する必要のない地域」（24.2％）の順となっている。

避難該当地域であるかの認識  
 < 防災訓練参加状況別 >

防災訓練参加状況別でみると、「避難が必要な地域」では、最も高い『総合防災訓練に参加』（36.9％）と、最も低い『機会がなかった（訓練はなかった）』（27.3％）では9.6ポイントの差が見られ、いずれかの防災訓練に参加している人は、自宅が避難該当地域であるという認識が高い傾向が見られる。



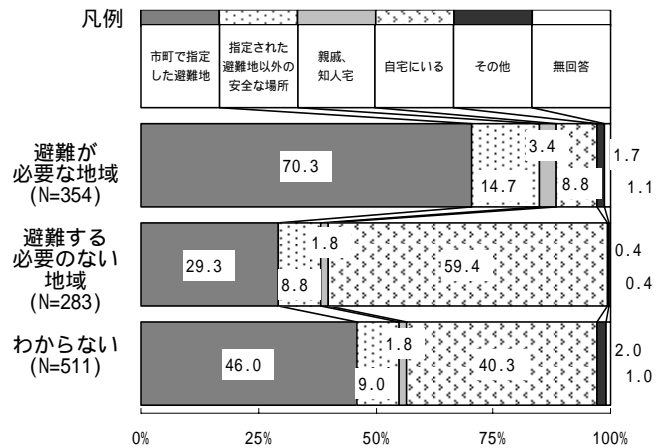
問28 あなたやご家族は、自宅において警戒宣言が発せられた場合、避難しますか。



自宅において警戒宣言が発せられた場合の避難行動についてたずねたところ、「市町で指定した避難地」(49.1%)が最も高く、次いで「自宅にいる」(34.8%)、「指定された避難地以外の安全な場所」(10.8%)、「親戚、知人宅」(2.3%)の順となっている。

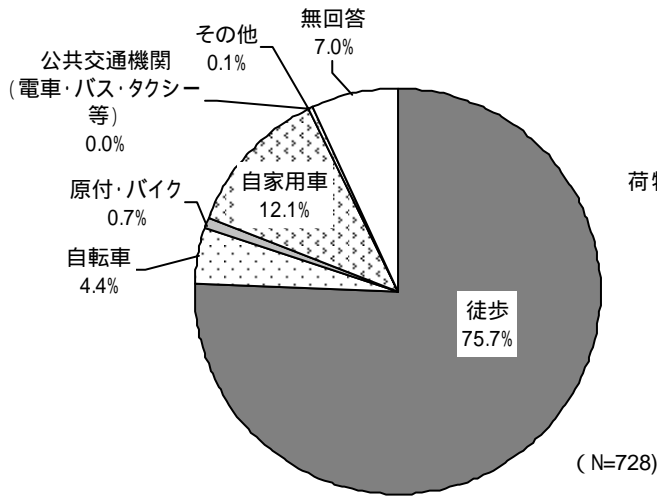
警戒宣言発令時の避難行動  
 < 避難該当地域であるかの認識別 >

避難該当地域であるかの認識別でみると、『避難が必要な地域』では、「市町で指定した避難地」(70.3%)が7割を超えている。また、『避難する必要のない地域』では、「自宅にいる」(59.4%)が約6割となっている。

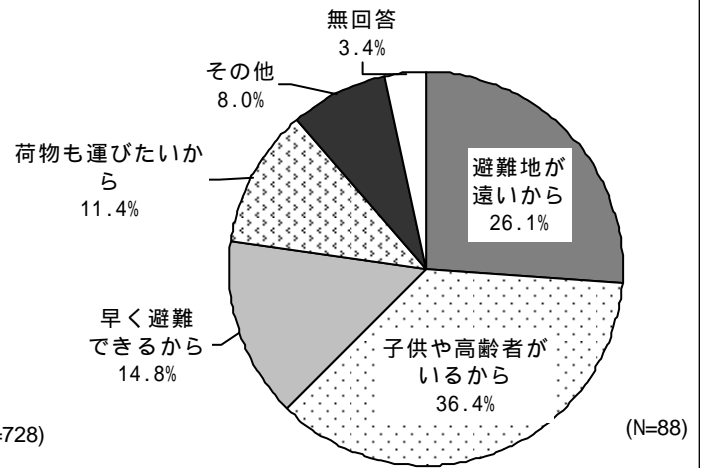


問28 - 1 <問28で「1 市町で指定した避難地」「2 指定された避難地以外の安全な場所」「3 親戚、知人宅」のいずれかを選んだ方にお伺いします。>

避難するときの交通手段は何ですか。

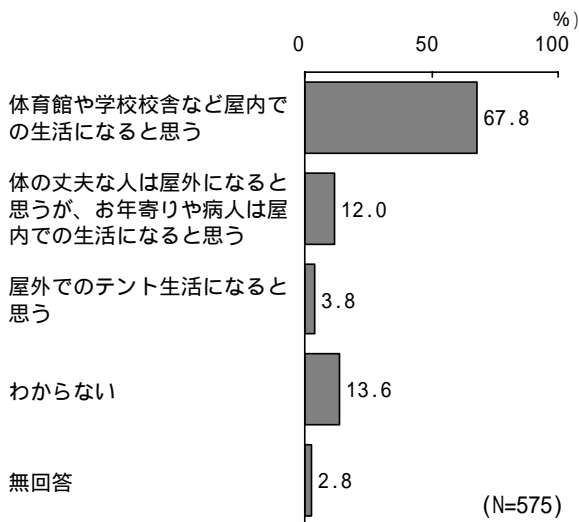


問28 - 1 1 <問28 - 1で「4 自家用車」を選んだ方にお伺いします。> なぜ自家用車で避難するのですか。



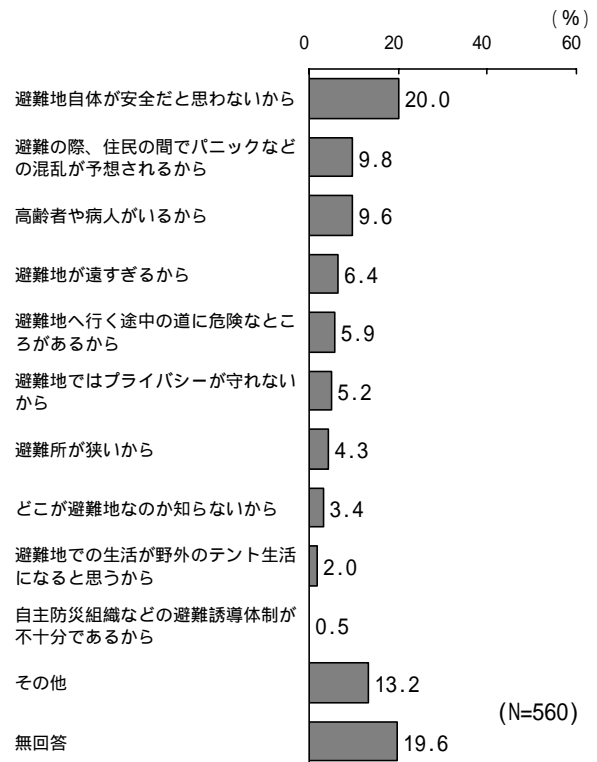
問28 - 2 <問28で「1 市町で指定した避難地」を選んだ方のみにお伺いします。>

避難地での生活はどのようになると思いますか。(屋外・屋内など)



問28 - 3 <問28で「2 指定された避難地以外の安全な場所」「3 親戚、知人宅」「4 自宅にいる」のいずれかを選んだ方にお伺いします。>

市町で指定した避難地へ避難しない理由は何ですか。



問28で「避難する」と回答した人の避難時の交通手段については、「徒歩」(75.7%)が最も高く、次いで「自家用車」(12.1%)、「自転車」(4.4%)の順となっている。

また、問28-1で「自家用車」で避難すると回答した人の理由については、「子供や高齢者がいるから」(36.4%)が最も高く、「避難地が遠いから」(26.1%)、「早く避難できるから」(14.8%)、「荷物も運びたいから」(11.4%)の順となっている。

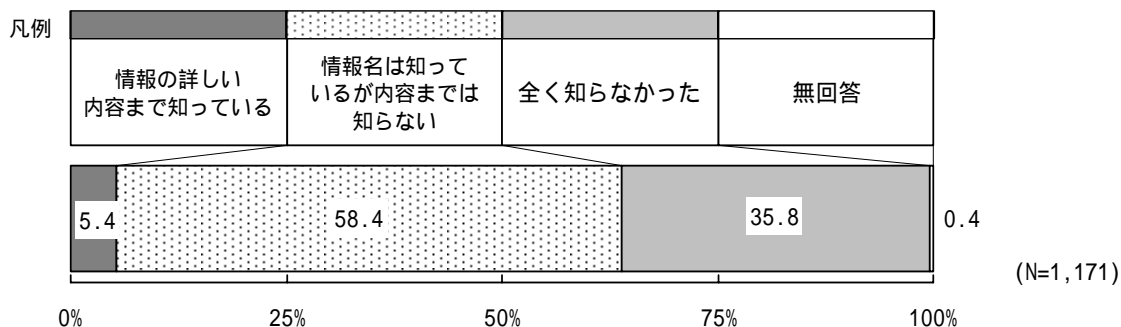
問28で「市町で指定した避難地」と回答した人に避難生活についてたずねたところ、「体育館や学校校舎など屋内での生活になると思う」(67.8%)が最も高く、次いで「体の丈夫な人は屋外になると思うが、お年寄りや病人は屋内での生活になると思う」(12.0%)、「屋外でのテント生活になると思う」(3.8%)の順となっている。

問28で「指定された避難地以外の安全な場所」、「親戚、知人宅」、「自宅にいる」と回答した人に、市町で指定した避難地へ避難しない理由をたずねたところ、「避難地自体が安全だと思わないから」(20.0%)、次いで「避難の際、住民の間でパニックなどの混乱が予想されるから」(9.8%)、「高齢者や病人がいるから」(9.6%)の順となっている。

## 7 地震に関する情報について

### 7 - 1 情報体系の認知

問29 東海地震に関連する情報として「東海地震に関連する調査情報」「東海地震注意情報」「東海地震予知情報（警戒宣言）」の3つがあります。あなたは、このことをご存知でしたか。

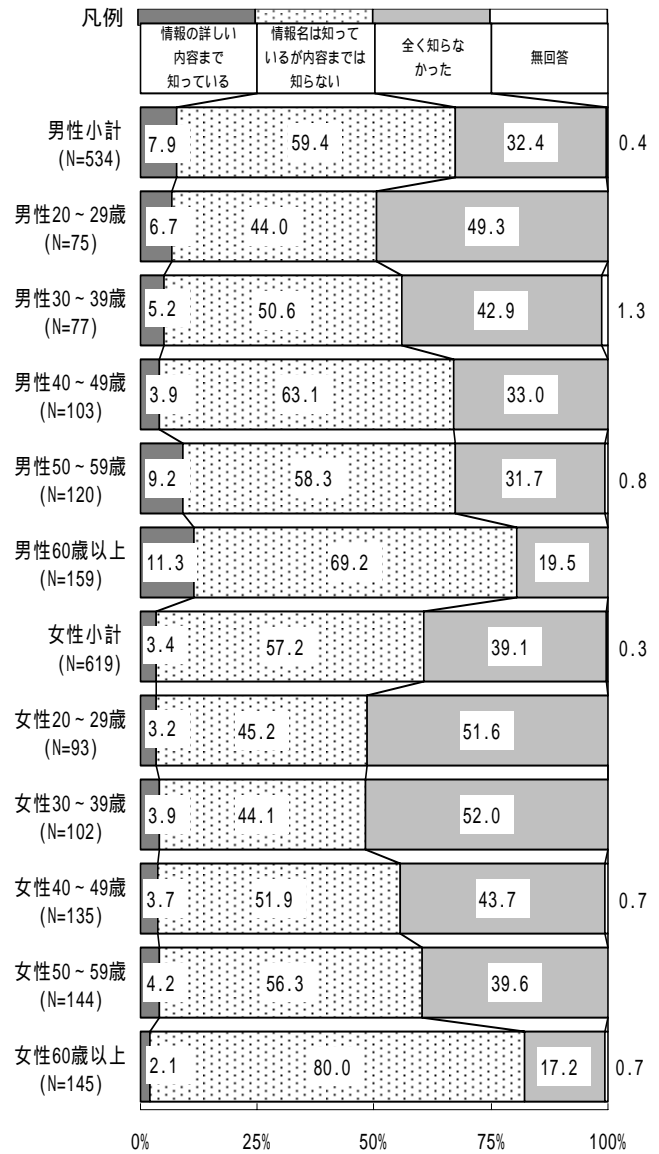


東海地震に関連する情報体系の認知についてたずねたところ、「情報は知っているが内容までは知らない」（58.4%）が最も高く、次いで「全く知らなかった」（35.8%）、「情報の詳しい内容まで知っている」（5.4%）の順となっている。

「情報は知っているが内容までは知らない」、「全く知らなかった」を合わせた情報の内容を知らない人は94.2%となっている。

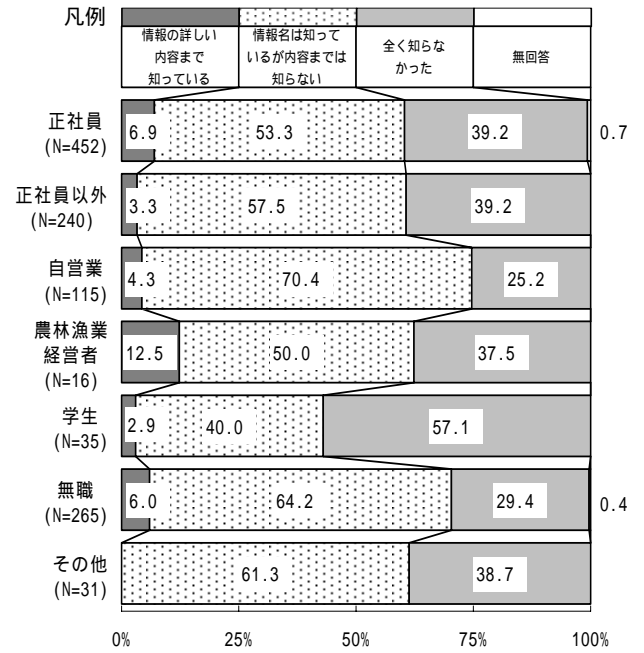
情報体系の認知 < 性・年代別 >

性・年代別でみると、「全く知らなかった」は、『女性30代』(52.0%)で最も高く、次いで『女性20代』(51.6%)、『男性20代』(49.3%)、『女性40代』(43.7%)、『男性30代』(42.9%)の順となっており、以上が4割を超えている。また、「情報名は知っているが内容までは知らない」は、年代が上がるほど高くなる傾向が見られ、最も高い『女性60歳以上』(80.0%)と、最も低い『男性20代』(44.0%)では36.0ポイントの差が見られる。



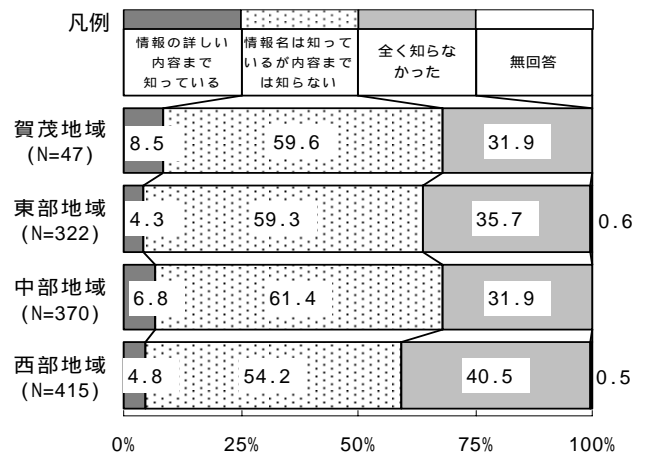
### 情報体系の認知 < 職業別 >

職業別でみると、「情報は知っているが内容までは知らない」は、『自営業』(70.4%)で最も高く、次いで『無職』(64.2%)、『その他』(61.3%)、『正社員以外』(57.5%)、『正社員』(53.3%)の順となっている。



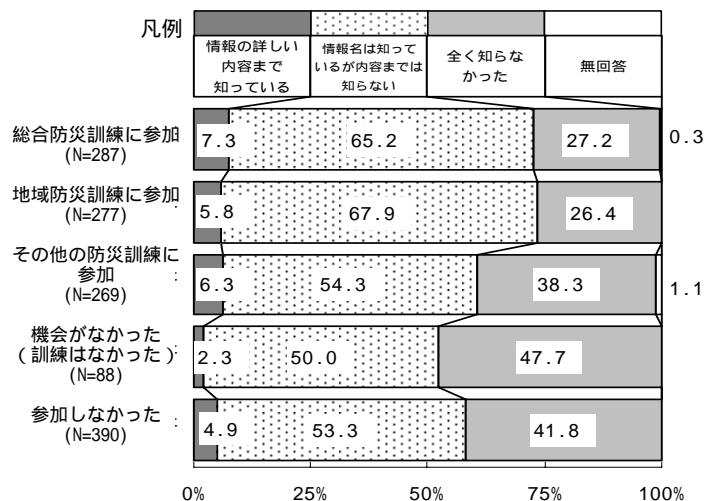
### 情報体系の認知 < 地域別 >

地域別でみると、『西部』は、「情報は知っているが内容までは知らない」(54.2%)、「全く知らなかった」(40.5%)が他よりも高く、情報体系の認知度が低くなっている。



### 情報体系の認知 < 防災訓練参加状況別 >

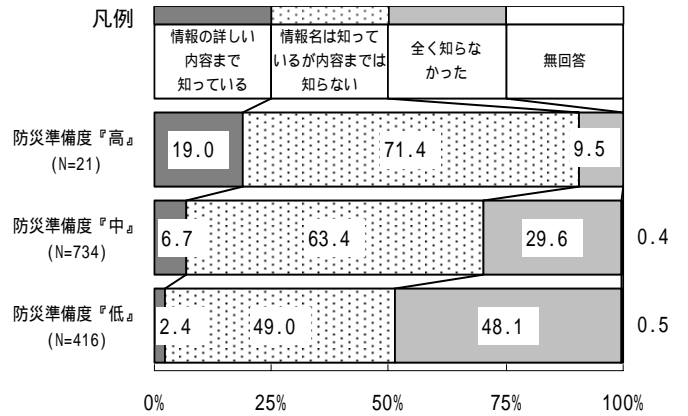
防災訓練参加状況別でみると、「全く知らなかった」は、『機会がなかった(訓練はなかった)』(47.7%)と『参加しなかった』(41.8%)で4割を超えている。





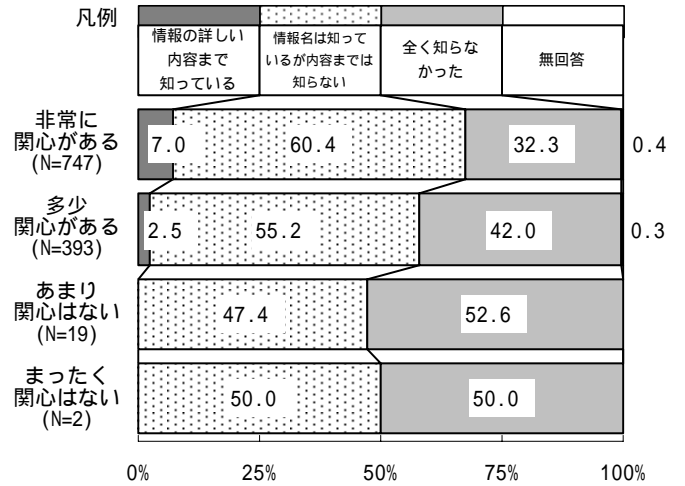
情報体系の認知 < 防災準備度別 >

防災準備度別でみると、防災準備度が高くなるにつれて、「情報の詳しい内容まで知っている」と答えた人が多くなっている。また、『防災準備度「低」』では、「全く知らなかった」(48.1%)が4割を超えている。



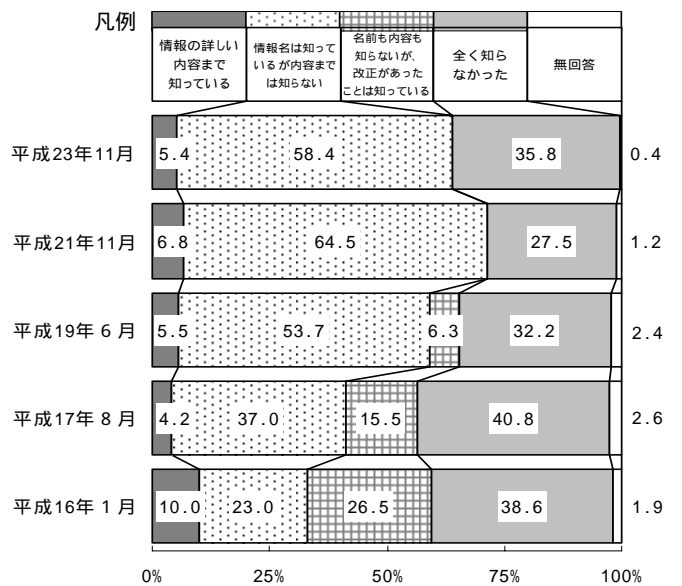
情報体系の認知 < 東海地震への関心度別 >

東海地震への関心度別でみると、関心が高くなるにつれて、「情報の詳しい内容まで知っている」及び「情報名は知っているが内容までは知らない」は高くなっており、情報体系の認知度は、東海地震への関心度と関連している。



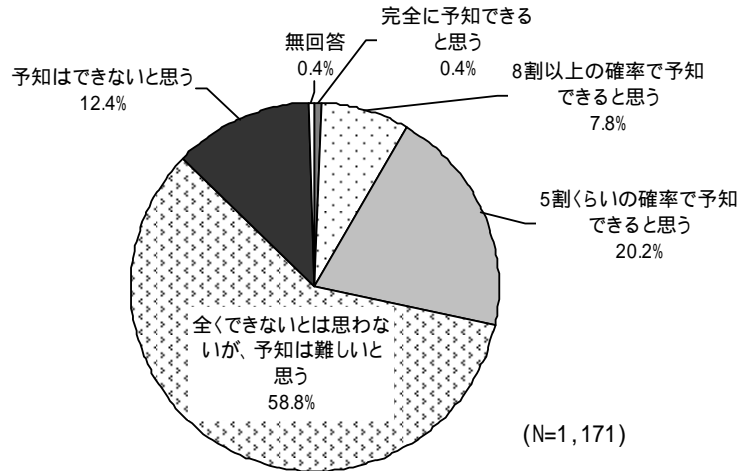
情報体系の認知 < 経年比較 >

経年比較でみると、「情報名は知っているが内容までは知らない」(58.4%)が前回調査(64.5%)より6.1ポイント減少している。また、「全く知らなかった」(35.8%)は、前回調査(27.5%)より8.3ポイント増加しており、情報体系の認知度が低くなっている。



この調査項目は平成15年度調査から設定した。  
「名前も内容も知らないが、改正があったことは知っている」という項目は、平成21年度以降にはない。

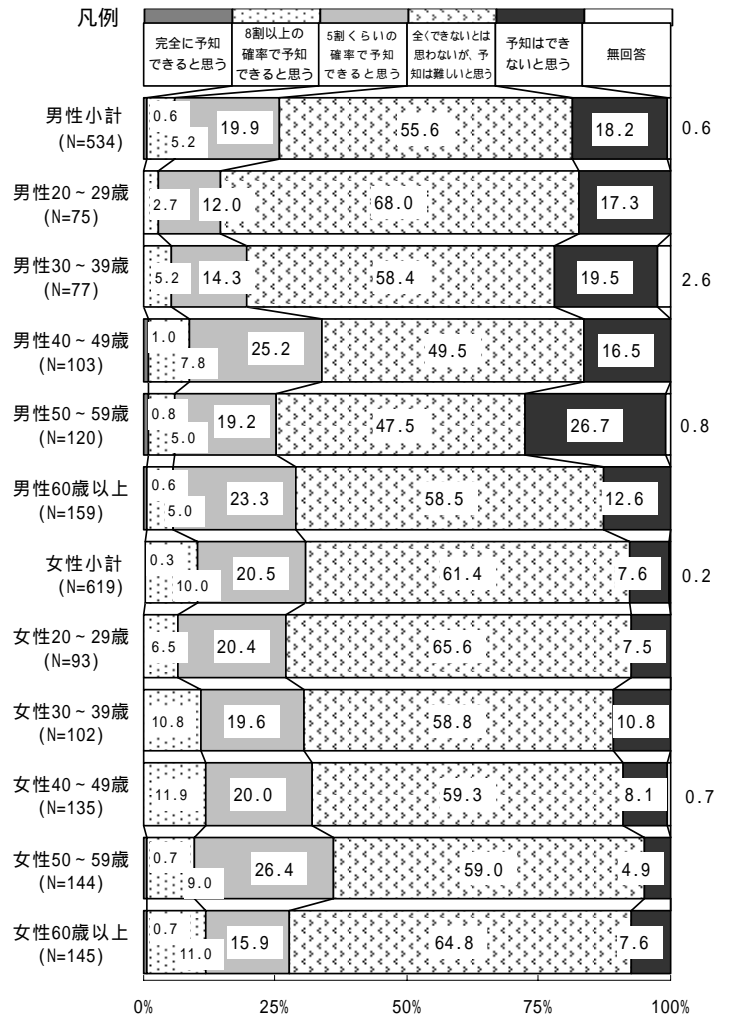
問30 あなたは、現時点で東海地震は予知できると思いますか。



東海地震の予知の可能性についてたずねたところ、「全くできないとは思わないが、予知は難しいと思う」（58.8%）が最も高く、次いで「5割くらいの確率で予知できると思う」（20.2%）、「予知はできないと思う」（12.4%）、「8割以上の確率で予知できると思う」（7.8%）、「完全に予知できると思う」（0.4%）の順となっている。

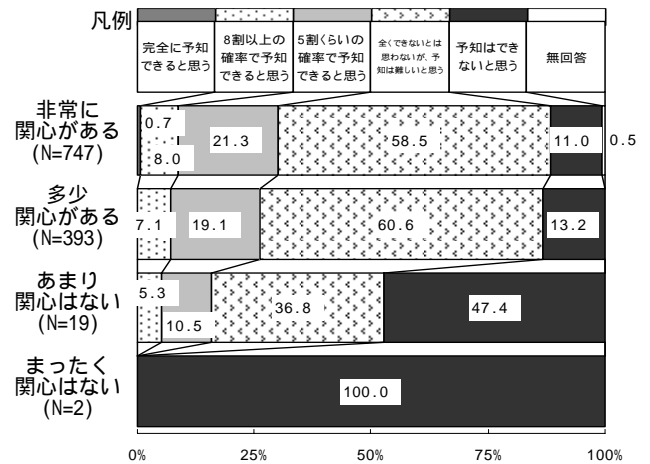
性・年代別でみると、いずれの性・年代においても「全くできないとは思わないが、予知は難しいと思う」が最も高くなっている。

東海地震予知の可能性 <性・年代別>



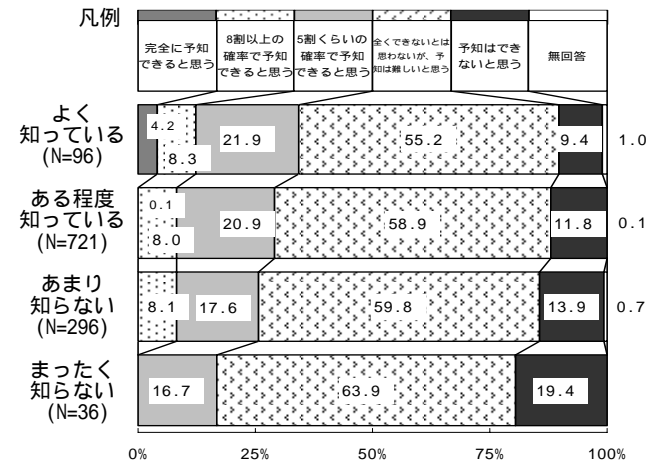
### 東海地震予知の可能性 <東海地震への関心度別>

東海地震への関心度別でみると、関心が高い人ほど、予知できると考えている人は多く、『非常に関心がある』や『多少関心がある』で「予知はできないと思う」と答えた人は、1割程度となっている。



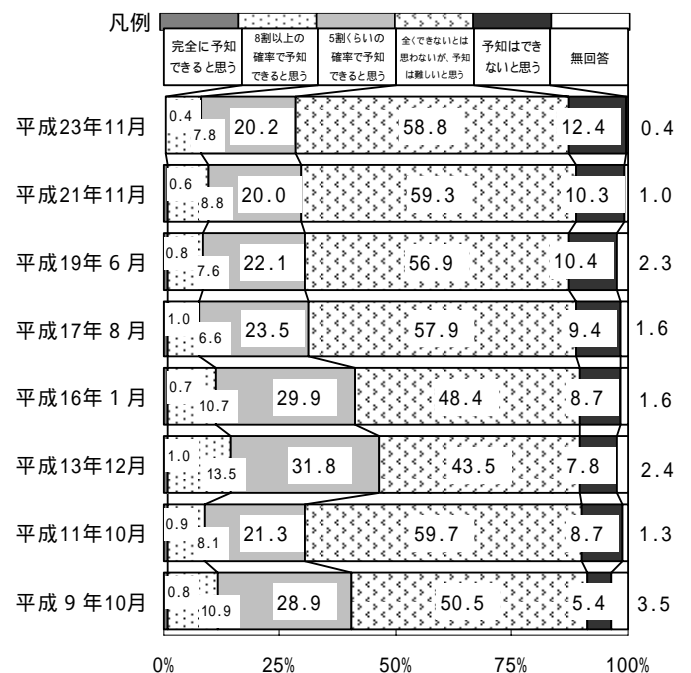
地震メカニズム認知別でみると、『よく知っている』、『ある程度知っている』で予知できると答えた人が多くなっている。

### 東海地震予知の可能性 <地震メカニズム認知別>



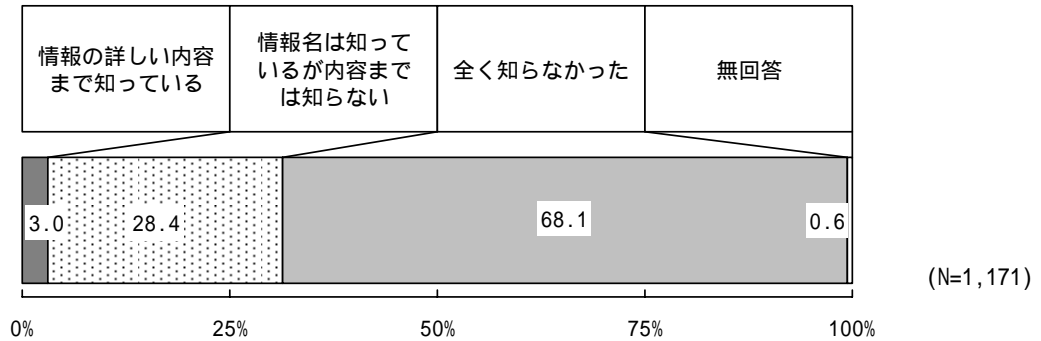
経年比較でみると、『平成17年12月の調査』以降、「全くできないとは思わないが、予知は難しいと思う」、8割以上の確率で予知できると思う、「5割くらいの確率で予知できると思う」はそれほど大きな変動は見られない。

### 東海地震予知の可能性 <経年比較>



この調査項目は平成9年度調査から設定した。

問31 平成23年3月24日午後1時から、「東海地震観測情報」は「東海地震に関連する調査情報」に変更されました。あなたは、このことをご存知でしたか。

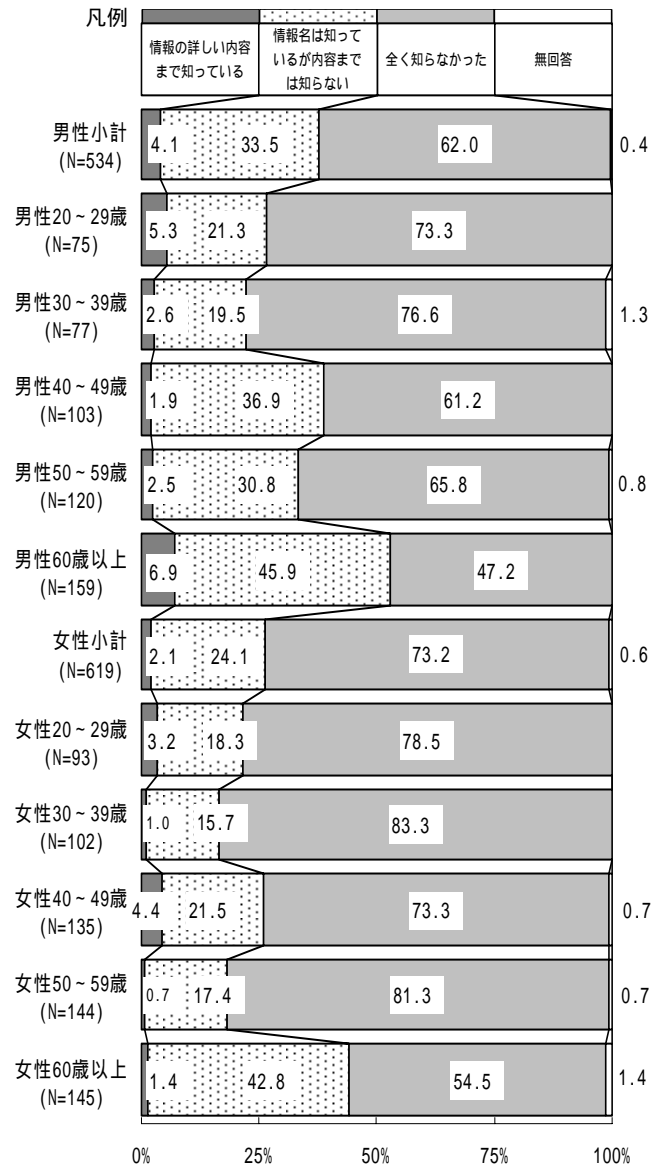


平成23年3月24日午後1時から、「東海地震観測情報」は「東海地震に関連する調査情報」に名称変更されたことについての認知についてたずねたところ、「全く知らなかった」(68.1%)、次いで「情報名は知っているが内容までは知らない」(28.4%)となっている。

「東海地震に関連する調査情報」  
 認知度について  
 < 性・年代別 >

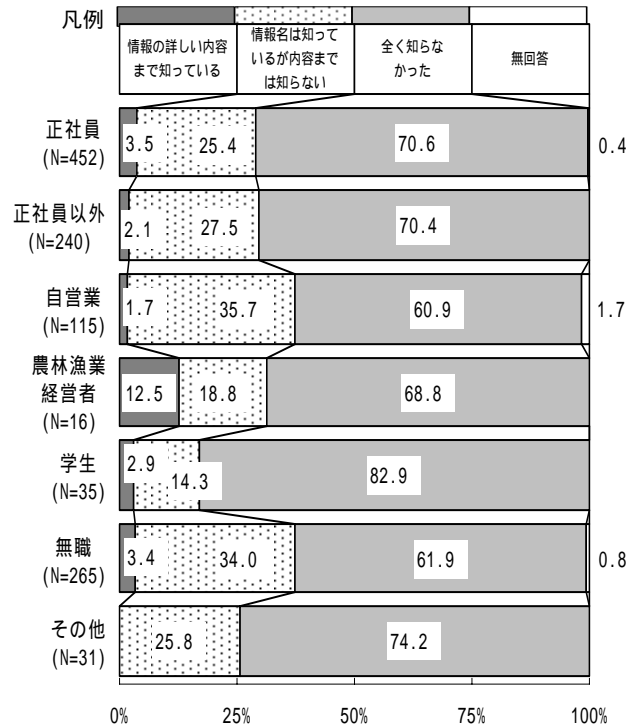
性・年代別でみると、「全く知らなかった」が『女性30代』（83.3%）、次いで『女性50代』（81.3%）、『女性20代』（78.5%）で高く、女性の方が男性より認知度が低い傾向が見られる。

また、「情報は知っているが内容までは知らない」は、年代が上がるほど高くなる傾向が見られ、最も高い『男性60歳以上』（45.9%）と、最も低い『女性30代』（15.7%）では30.2ポイントの差が見られる。



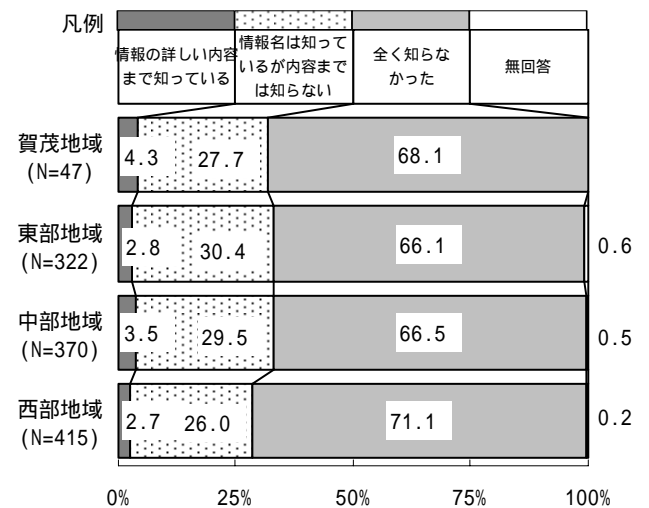
職業別でみると、「情報は知っているが内容までは知らない」は、『自営業』(35.7)で最も高く、次いで『無職』(34.0%)、『正社員以外』(27.5%)、『正社員』(25.4%)の順となっている。

「東海地震に関連する調査情報」  
認知度について  
<職業別>



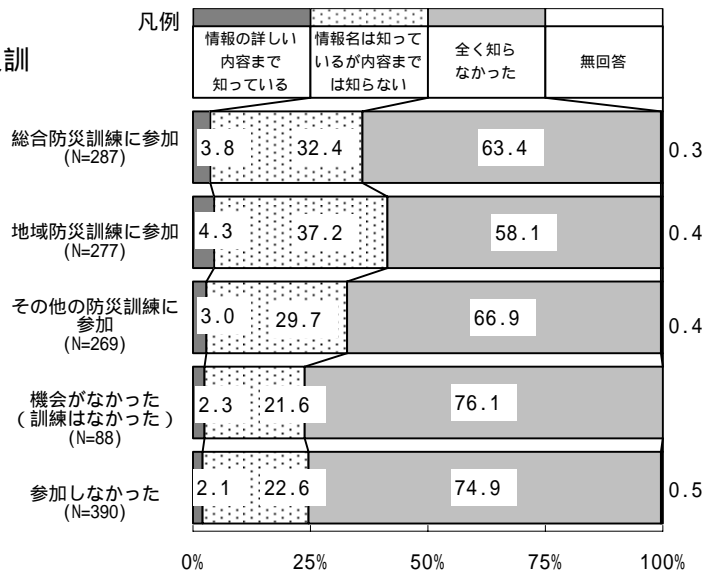
地域別でみると、変更されたことについての認知度については地域による大きな差は見られない。

「東海地震に関連する調査情報」  
認知度について  
<地域別>



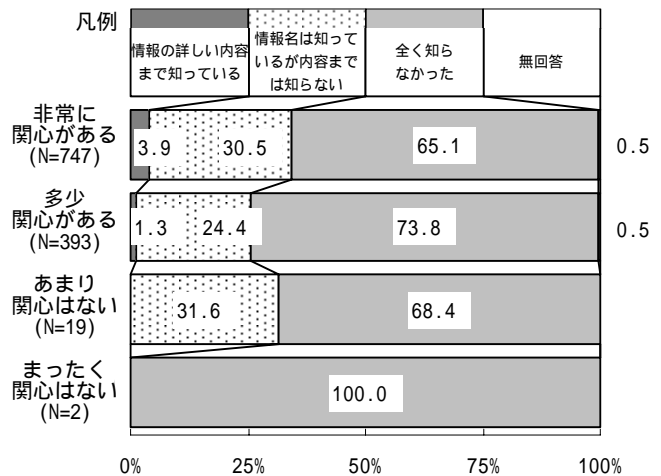
「東海地震に関連する調査情報」  
 認知度について  
 < 防災訓練参加状況別 >

防災訓練参加状況別でみると、いずれかの防災訓練に参加した人で認知度が高い傾向が見られる。



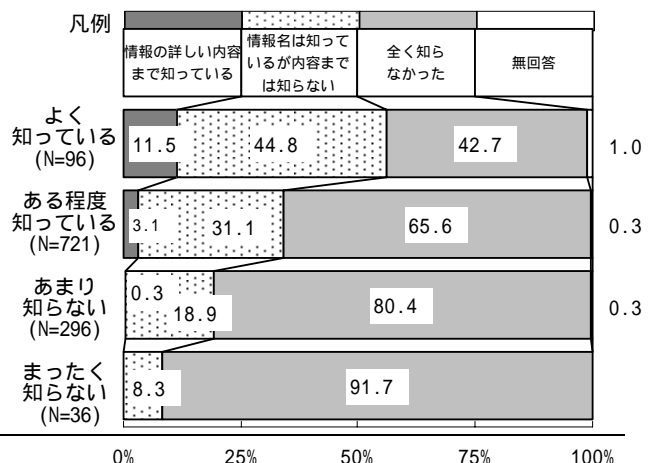
「東海地震に関連する調査情報」  
 認知度について  
 < 東海地震への関心度別 >

東海地震への関心度別でみると、「情報の詳しい内容まで知っている」+「情報名は知っているが内容までは知らない」は、『非常に興味がある』、『多少興味がある』、『あまり興味はない』のそれぞれで、3割前後を占めている。

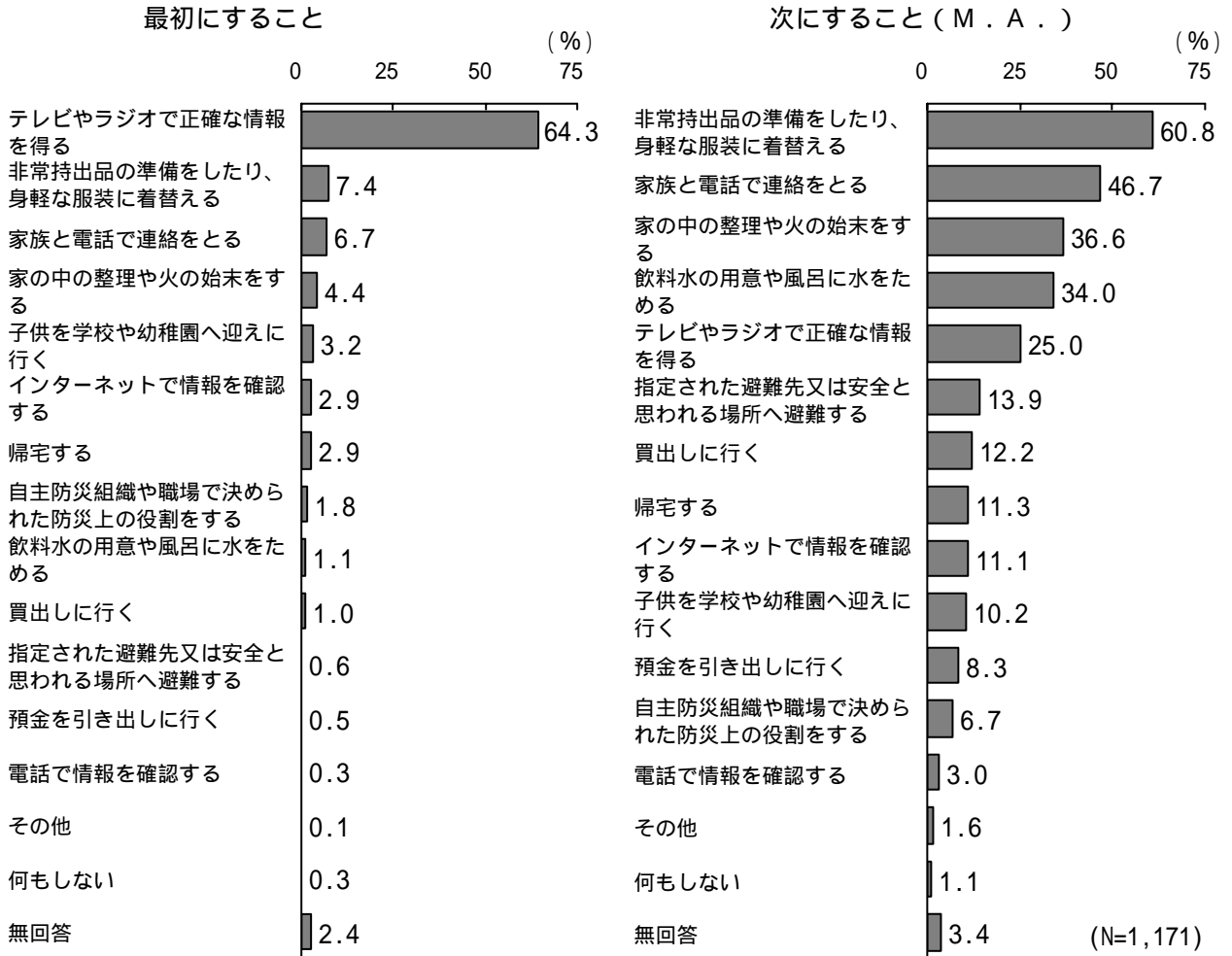


「東海地震に関連する調査情報」  
 認知度について  
 < 地震メカニズム認知度別 >

地震メカニズム認知度別でみると、「よく知っている」は、「情報の詳しい内容まで知っている」、「情報名は知っているが内容までは知らない」が高くなっており、地震メカニズムの認知度と関連していると見られる。



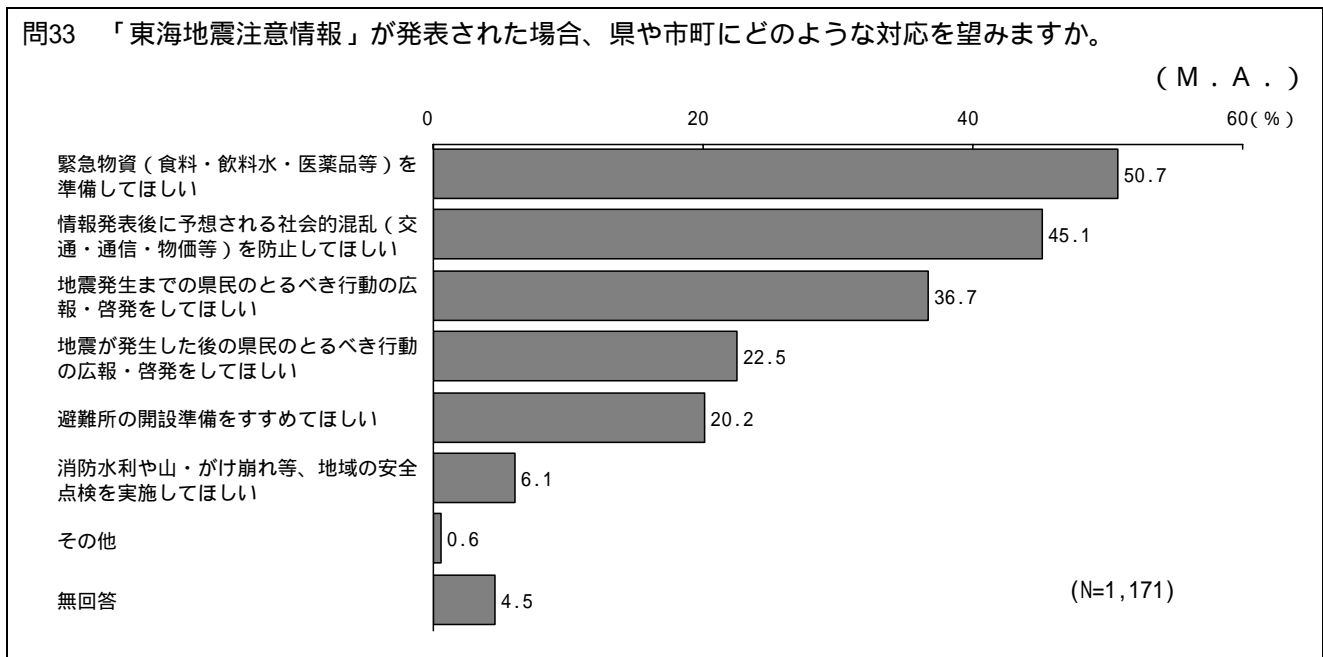
問32 「警戒宣言」を発するには至らないが、東海地震の前兆現象が起きている可能性が高いと認められたとき、気象庁から「東海地震注意情報」が発表されます。このような場合に、まず最初にすることを下記の項目の中から1つ選び、A欄に をつけてください。また、その次にすることを3つ選んでB欄に をつけてください。



「東海地震注意情報」が発表された場合の行動についてたずねたところ、まず最初にすることは、「テレビやラジオで正確な情報を得る」(64.3%)が最も高くなっている。

次にすることは、「非常持出品の準備をしたり、身軽な服装に着替える」(60.8%)が最も高く、次いで「家族と電話で連絡をとる」(46.7%)、「家の中の整理や火の始末をする」(36.6%)、「飲料水の用意や風呂に水をためる」(34.0%)の順となっており、以上が3割を超えている。

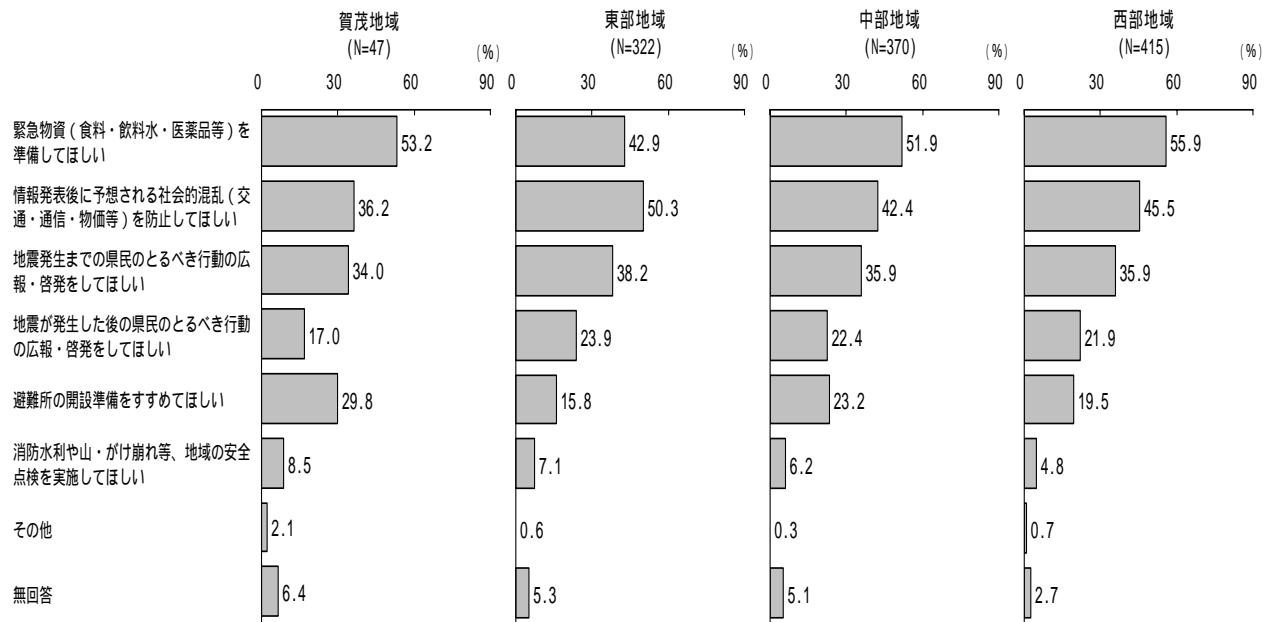




「東海地震注意情報」発表時の行政への要望についてたずねたところ、「緊急物資（食料・飲料水・医薬品等）を準備してほしい」（50.7%）が最も高く、次いで「情報発表後に予想される社会的混乱（交通・通信・物価等）を防止してほしい」（45.1%）、「地震発生までの県民のとりべき行動の広報・啓発をしてほしい」（36.7%）の順となっている。

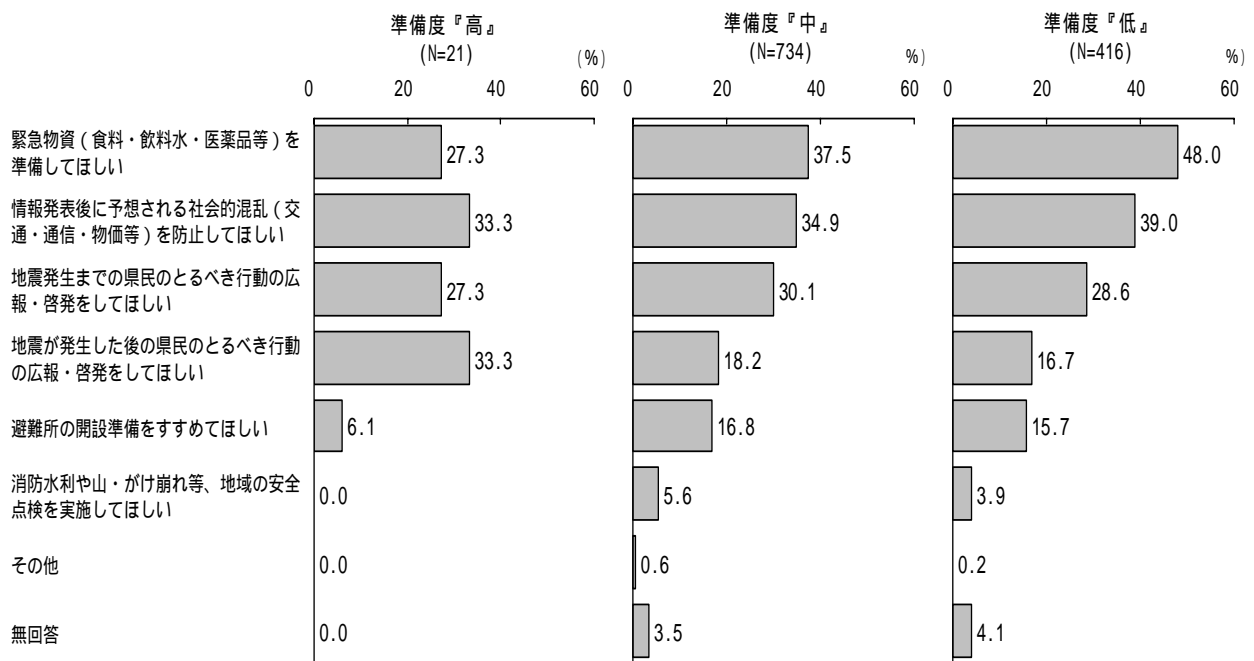
地域別で見ると、いずれも「緊急物資（食料・飲料水・医薬品等）を準備してほしい」、「情報発表後に予想される社会的混乱（交通・通信・物価等）を防止してほしい」が高くなっている。

### 注意情報発表時の行政への要望 < 地域別 >

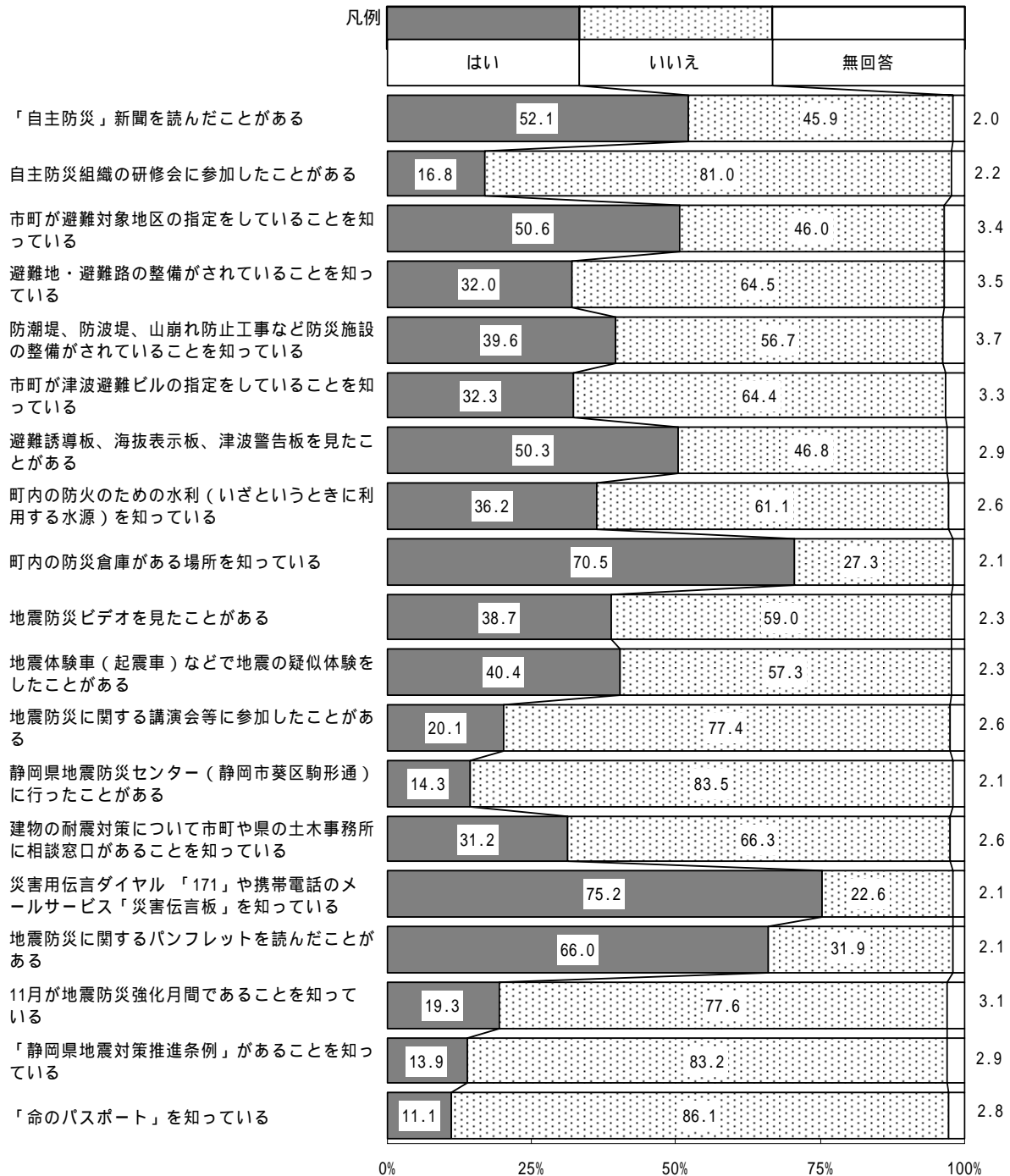


防災準備度別で見ると、『防災準備度「低」』では、「緊急物資（食料・飲料水・医薬品等）を準備してほしい」(48.0%)と「情報発表後に予想される社会的混乱(交通・通信・物価等)を防止してほしい」(39.0%)が他より高くなっている。

### 注意情報発表時の行政への要望 < 防災準備度別 >



問34 次の1～19の項目について「はい」「いいえ」の欄に をつけてください。



(N=1,171)

地震防災情報の入手については、「災害用伝言ダイヤル「171」や携帯電話のメールサービス「災害伝言板」を知っている」(75.2%)が最も高く、次いで「町内の防災倉庫がある場所を知っている」(70.5%)、「地震防災に関するパンフレットを読んだことがある」(66.0%)、「「自主防災」新聞を読んだことがある」(52.1%)、「市町が避難対象地区の指定をしていることを知っている」(50.6%)、「避難誘導板、海拔表示板、津波警告板を見たことがある」(50.3%)の順となっており、以上は過半数の人が「はい」と答えている。しかしながら、全体的にみると、「いいえ」と答えた項目の方が多くなっている。

経年比較でみると、「町内の防災倉庫がある場所を知っている」、「地震防災に関するパンフレットを読んだことがある」、「「自主防災」新聞を読んだことがある」については、順位の変動はあるものの、いずれの調査においても上位となっている。また、「災害用伝言ダイヤル「171」や携帯電話のメールサービス「災害伝言板」を知っている」の認知率は、今回調査（75.2%）が前回調査（62.7%）より12.5ポイント高くなっている。

### 地震防災情報の入手（認知率） < 経年比較 >

順位	地震防災情報	認知率（%）						
		平成23年11月	平成21年11月	平成19年6月	平成17年8月	平成16年1月	平成13年12月	平成11年10月
1	災害用伝言ダイヤル「171」や携帯電話のメールサービス「災害伝言板」を知っている	75.2	62.7	62.3	58.0	42.5	24.0	19.5
2	町内の防災倉庫がある場所を知っている	70.5	73.2	70.3	65.5	69.4	56.0	54.5
3	地震防災に関するパンフレットを読んだことがある	66.0	71.6	75.0	72.5	69.4	68.3	72.3
4	「自主防災」新聞を読んだことがある	52.1	63.7	68.5	60.2	61.8	62.8	61.5
5	市町が避難対象地区の指定をしていることを知っている	50.6	54.6	54.6	49.1	56.6	50.8	52.3
6	避難誘導板、海拔表示板、津波警告板を見たことがある	50.3	52.4	54.4	50.8	46.6	45.4	48.3
7	地震体験車（起震車）などで地震の疑似体験をしたことがある	40.4	37.3	32.3	33.4	30.8	29.1	30.6
8	防潮堤、防波堤、山崩れ防止工事など防災施設の整備がされていることを知っている	39.6	45.2	45.6	41.4	44.2	39.8	40.1
9	地震防災ビデオを見たことがある	38.7	39.1	38.8	39.5	41.9	32.9	36.1
10	町内の防火のための水利（いざというときに利用する水源）を知っている	36.2	37.4	37.6	35.9	39.6	44.8	44.9
11	市町が津波避難ビルの指定をしていることを知っている	32.3	18.3	19.5	18.1	12.4	12.9	12.6
12	避難地・避難路の整備がされていることを知っている	32.0	35.9	36.5	33.0	32.1	31.1	34.2
13	建物の耐震対策について市町や県の土木事務所に相談窓口があることを知っている	31.2	32.7	33.1	37.9	38.7	25.7	21.4
14	地震防災に関する講演会等に参加したことがある	20.1	21.5	21.6	20.5	20.6	18.0	17.4
15	11月が地震防災強化月間であることを知っている	19.3	22.6	26.7	22.2	29.8	27.7	24.3
16	自主防災組織の研修会に参加したことがある	16.8	21.6	20.4	17.7	18.8	19.2	19.2
17	静岡県地震防災センター（静岡市葵区駒形通）に行ったことがある	14.3	11.5	14.7	13.2	13.2	11.9	11.6
18	「静岡県地震対策推進条例」があることを知っている	13.9	18.5	20.4	20.8	24.5	26.2	27.1
19	「命のパスポート」を知っている	11.1	10.9	12.4	12.2	11.3	12.6	10.1

地震防災情報の入手の認知数（19項目のうち「はい」と答えた項目1項目につき1点というポイントを与え、各属性ごとに平均ポイントを算出し、比較を行った。なお、全体平均は7.1ポイントとなっている。）を各属性別でみると、性・年代別では、『男性』（7.5ポイント）が『女性』（6.8ポイント）を0.7ポイント上回っている。また、年代が上がるほど認知数は高くなる傾向が見られ、最も高い『男性60歳以上』（8.5ポイント）と、最も低い『女性30代』（5.8ポイント）では2.7ポイントの差が見られる。

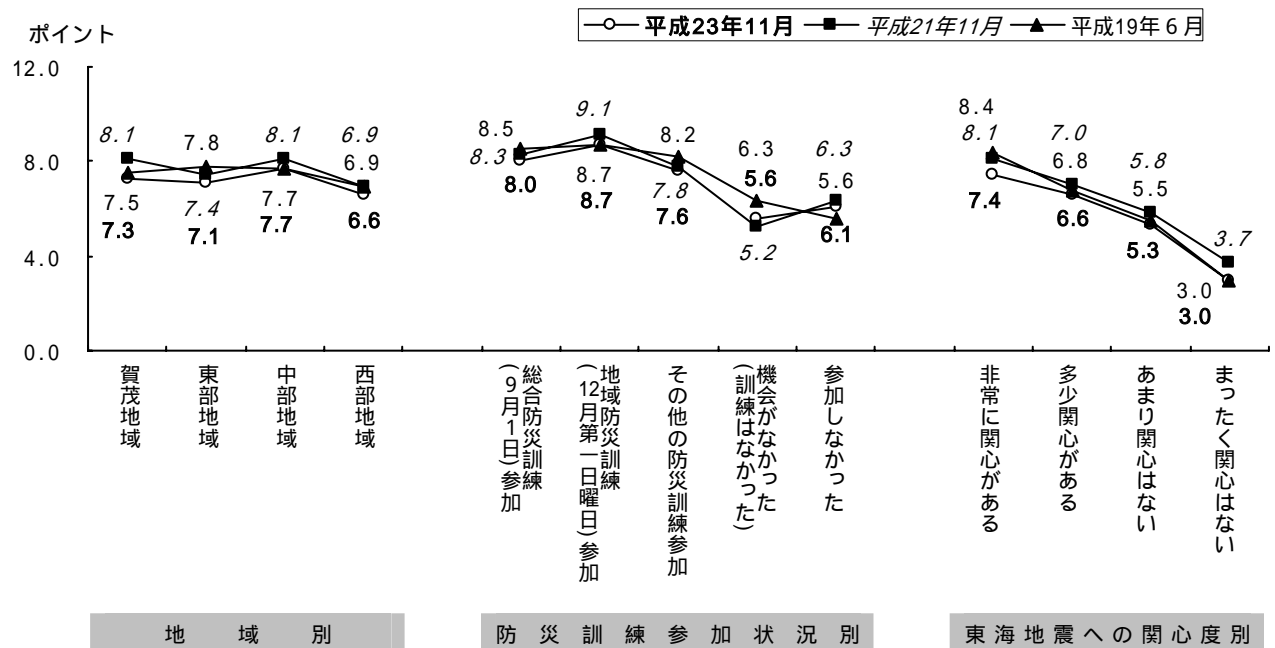
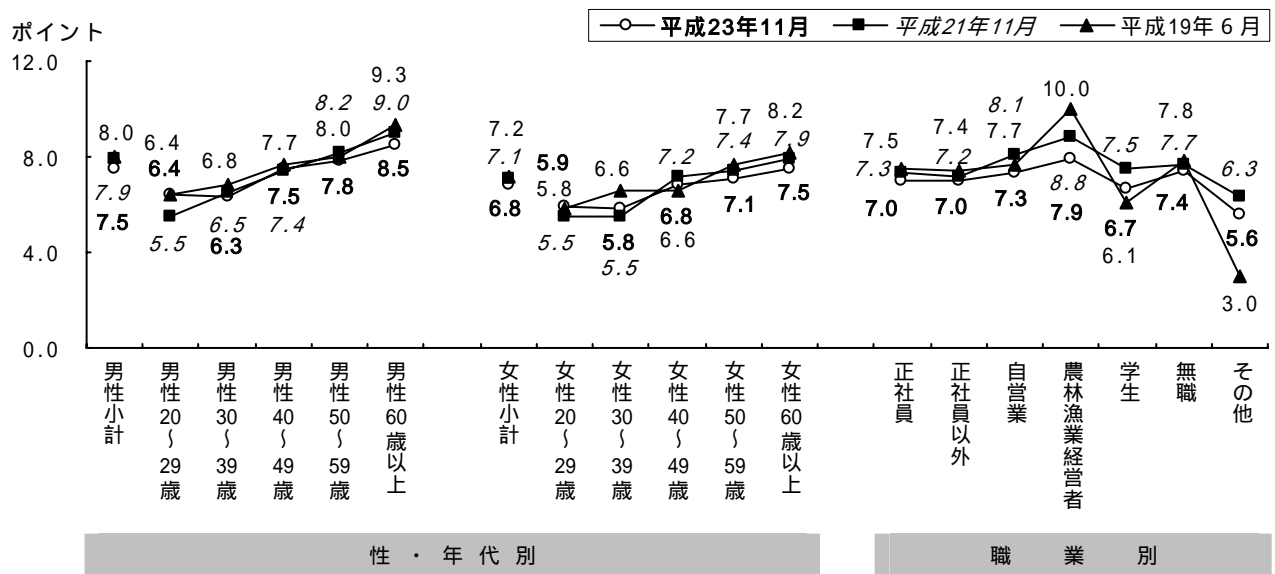
職業別でみると、『農林漁業経営者』（7.9ポイント）、『無職』（7.4ポイント）が他よりも高くなっている。

地域別でみると、『中部』（7.7ポイント）が他よりも高くなっている。

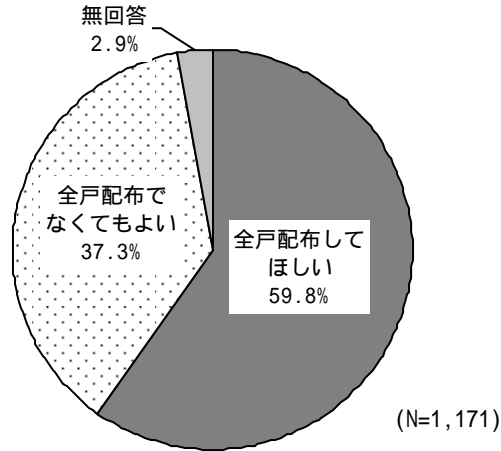
防災訓練参加状況別でみると、いずれかの防災訓練に参加している人は、8ポイント前後であるが、『機会がなかった（訓練はなかった）』（5.6ポイント）と『参加しなかった』（6.1ポイント）は、ポイント数が低くなっている。

東海地震への関心度別でみると、関心度が高い人ほど認知数は高い傾向が見られる。

地震防災情報の入手（認知数平均）＜属性別＞ 全体平均 7.1



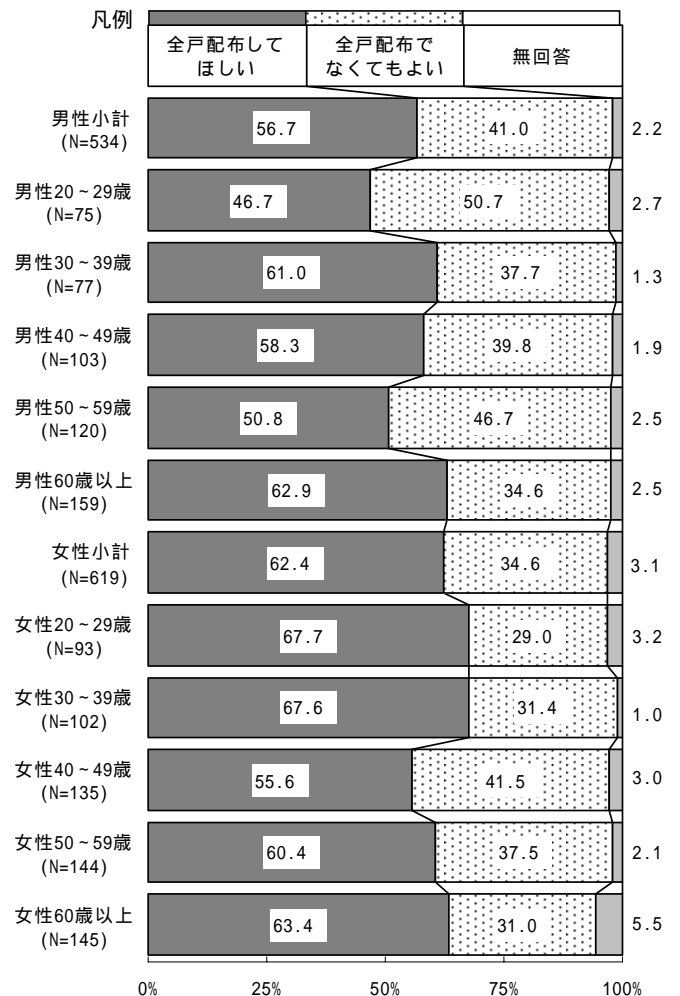
問35 現在、「自主防災」新聞は原則回覧としていますが、全戸配布して欲しいと思いますか。



「自主防災」新聞を全戸に配布して欲しいかたずねたところ、「全戸に配布してほしい」（59.8%）がほぼ6割となった。

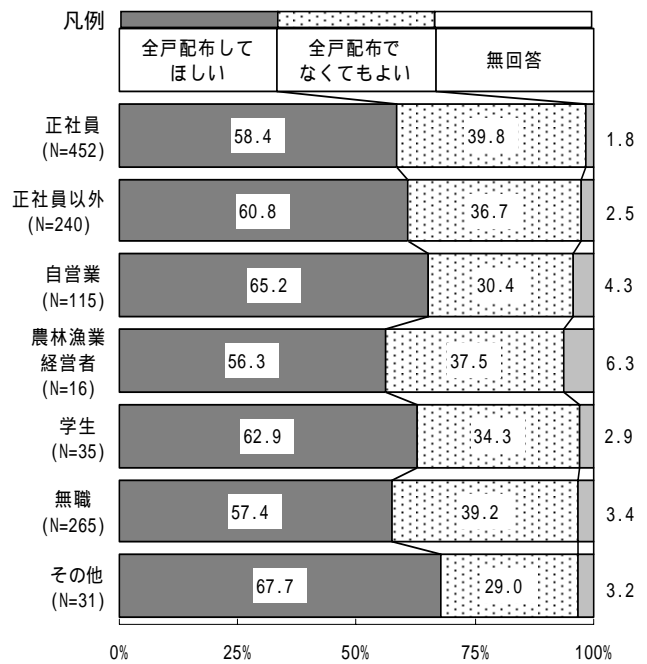
「自主防災」新聞配布方法  
<性・年代別>

性・年代別でみると『男性』(56.7%)に対し、『女性』(62.4%)が5.7ポイント高くなっており、女性の全てで5割を超えている。また、一番高い『女性60代』(63.4%)と、一番低い『男性20代』(46.7%)では16.7ポイントの差がみられる。



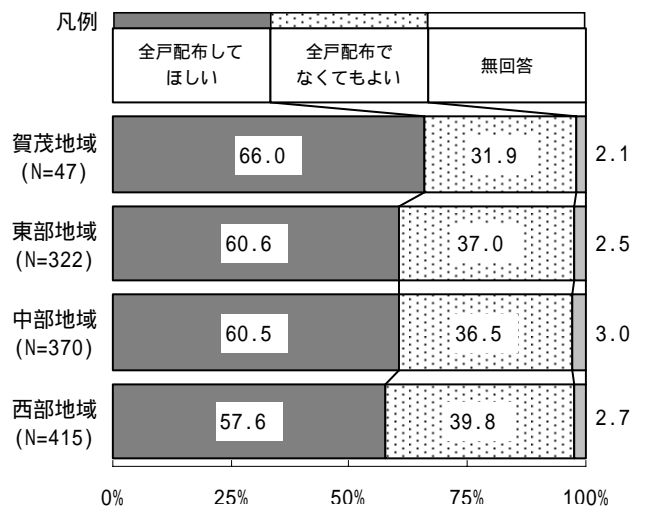
職業別でみると、いずれも約6割が全戸配布を希望している。

「自主防災」新聞配布方法 <職業別>



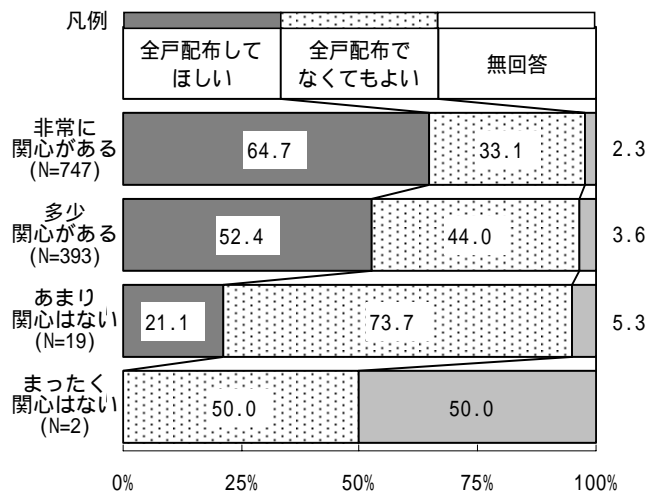
地域別でみると、最も高い「賀茂」(66.0%)と、最も低い「西部」(57.6%)では8.4ポイントの差が見られる。

「自主防災」新聞配布方法 <地域別>



東海地震への関心度別でみると、関心があるほど高いポイントとなっている。

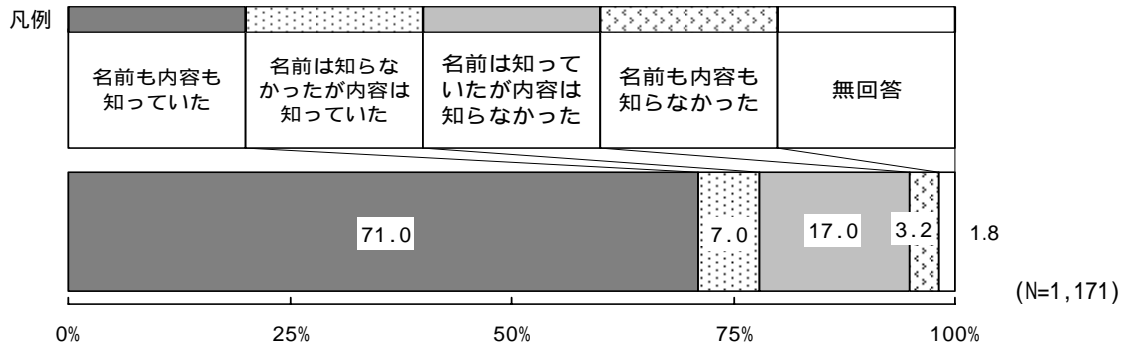
「自主防災」新聞配布方法 <東海地震への関心度別>



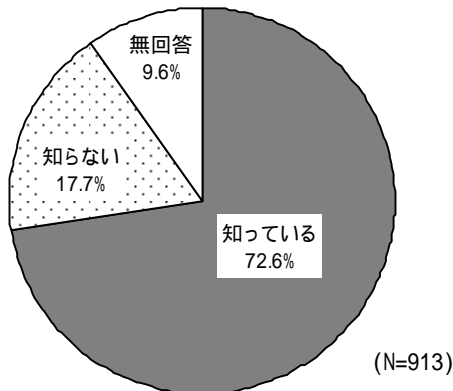
## 8 緊急地震速報について

### 8 - 1 緊急地震速報についての認知

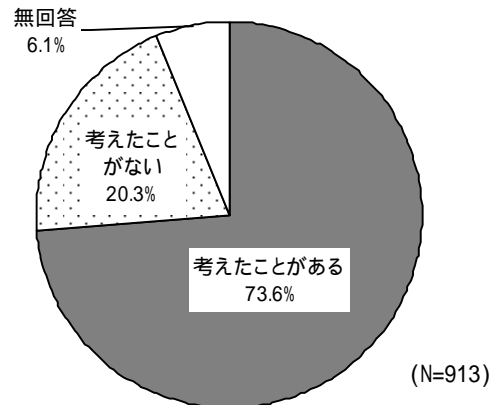
問36 あなたは、緊急地震速報について知っていましたか。



問36 - 1 <問36で「1 名前も内容も知っていた」「2 名前は知らなかったが内容は知っていた」のいずれかを選んだ方にお伺いします。>  
緊急地震速報は、揺れの大きさの予想などに誤差が含まれる情報であることをご存知ですか。



問36 - 2 <問36で「1 名前も内容も知っていた」「2 名前は知らなかったが内容は知っていた」のいずれかを選んだ方にお伺いします。>  
あなたは、緊急地震速報を受け取ったとき、どのように行動すれば良いか考えたことはありますか。



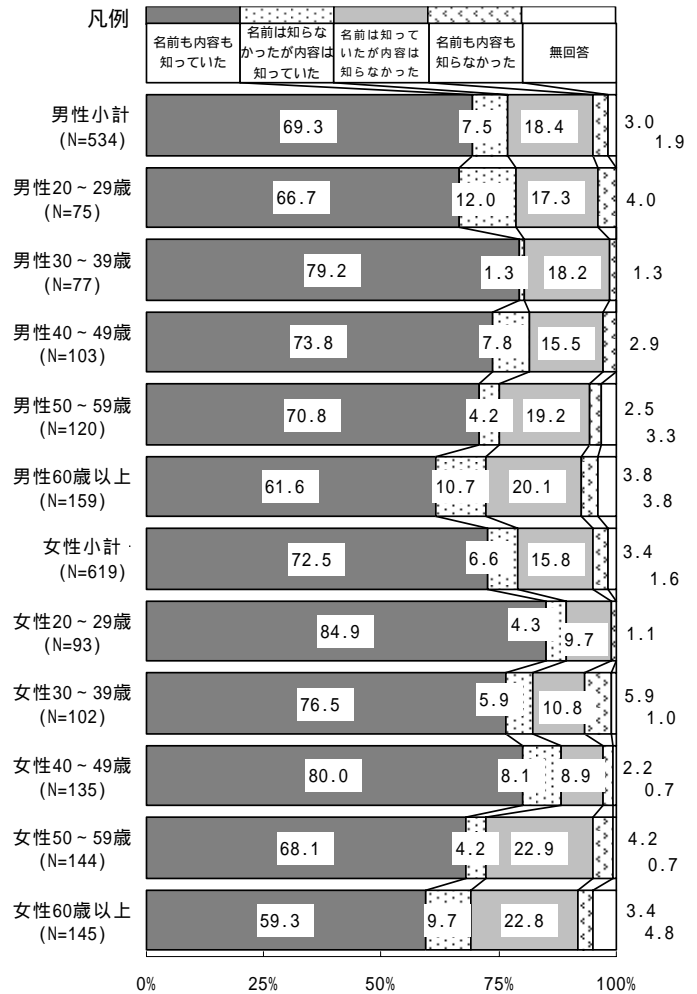
緊急地震速報の認知についてたずねたところ、「名前も内容も知っていた」(71.0%)が最も高く、次いで「名前は知っていたが内容は知らなかった」(17.0%)、「名前は知らなかったが内容は知っていた」(7.0%)の順となっている。

「名前も内容も知っていた」、「名前は知らなかったが内容は知っていた」のいずれかを回答した人にたずねたところ、緊急地震速報は、揺れの大きさの予測などに誤差が含まれる情報であることの認知度については、「知っている」(72.6%)が7割以上を超えており、「知らない」(17.7%)は2割に満たない。また、緊急地震速報を受け取ったとき、どのように行動すれば良いか考えたことはあるかについては、「考えたことがある」(73.6%)が7割を超えており、「考えたことがない」(20.3%)を大きく上回っている。



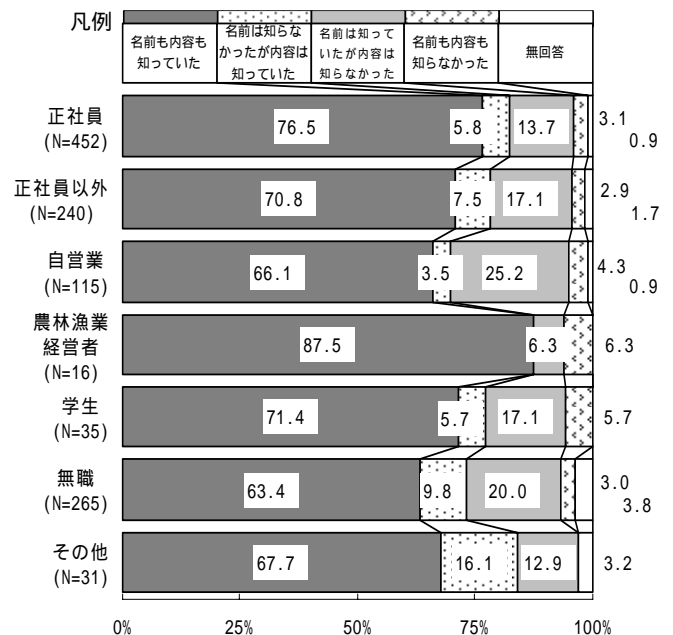
## 緊急地震速報についての認知 < 性・年代別 >

性・年代別でみると、「名前も内容も知っていた」は、男性・女性とも『60歳以上』がやや低くなっているものの、全体の認知度は高くなっている。



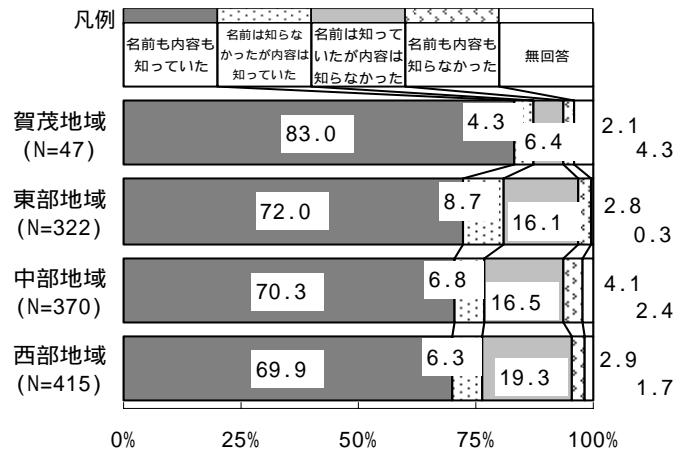
## 緊急地震速報についての認知 < 職業別 >

職業別でみると、いずれも「名前も内容も知っていた」が6割を超えている。



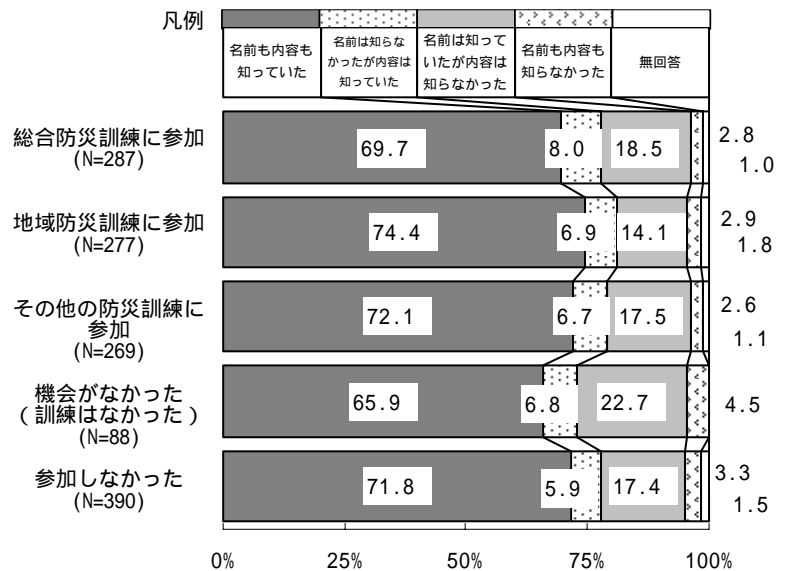
地域別でみると、「名前も内容も知っていた」は、『賀茂』（83.0%）が最も高く、最も低い『西部』（69.9%）とは13.1ポイントの差が見られる。

緊急地震速報についての認知  
＜地域別＞



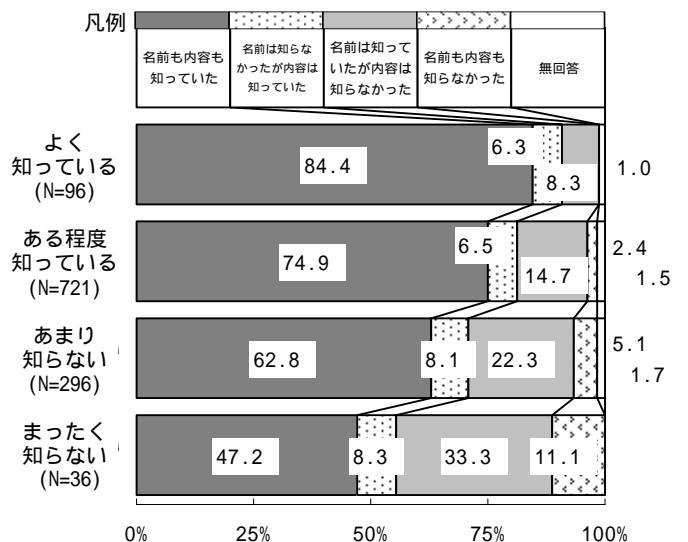
防災訓練参加状況別でみると、緊急地震速報の認知に大きな差は見られない。

緊急地震速報についての認知  
＜防災訓練参加状況別＞



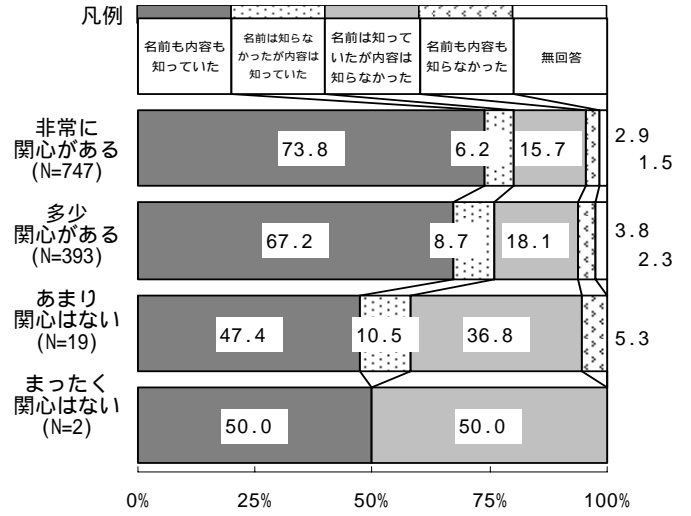
地震メカニズム認知別でみると、地震メカニズムをよく知っているほど、「名前も内容も知っていた」が高くなっており、最も高い『よく知っている』（84.4%）と、最も低い『まったく知らない』（47.2%）では37.2ポイントの差が見られる。

緊急地震速報についての認知  
＜地震メカニズム認知別＞



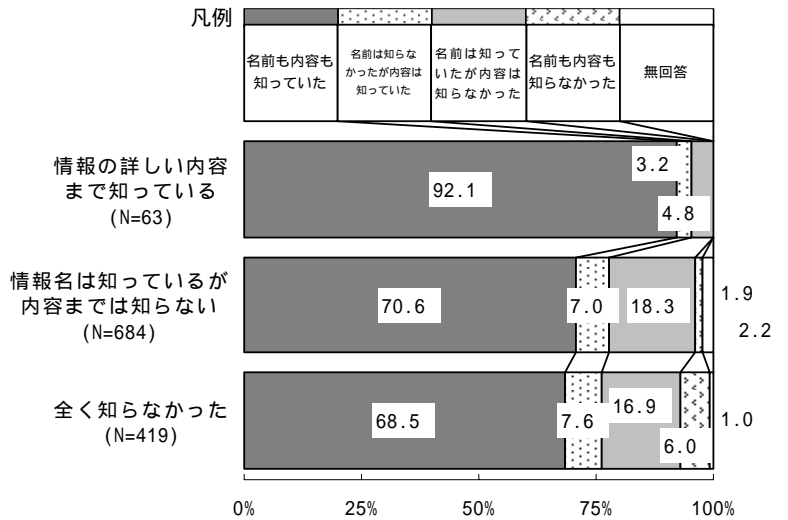
緊急地震速報についての認知  
 < 東海地震への関心度別 >

東海地震への関心度別で見ると、関心が高くなるにつれて「名前も内容も知っていた」は高くなっており、緊急地震速報についての認知と東海地震への関心度は関連している。



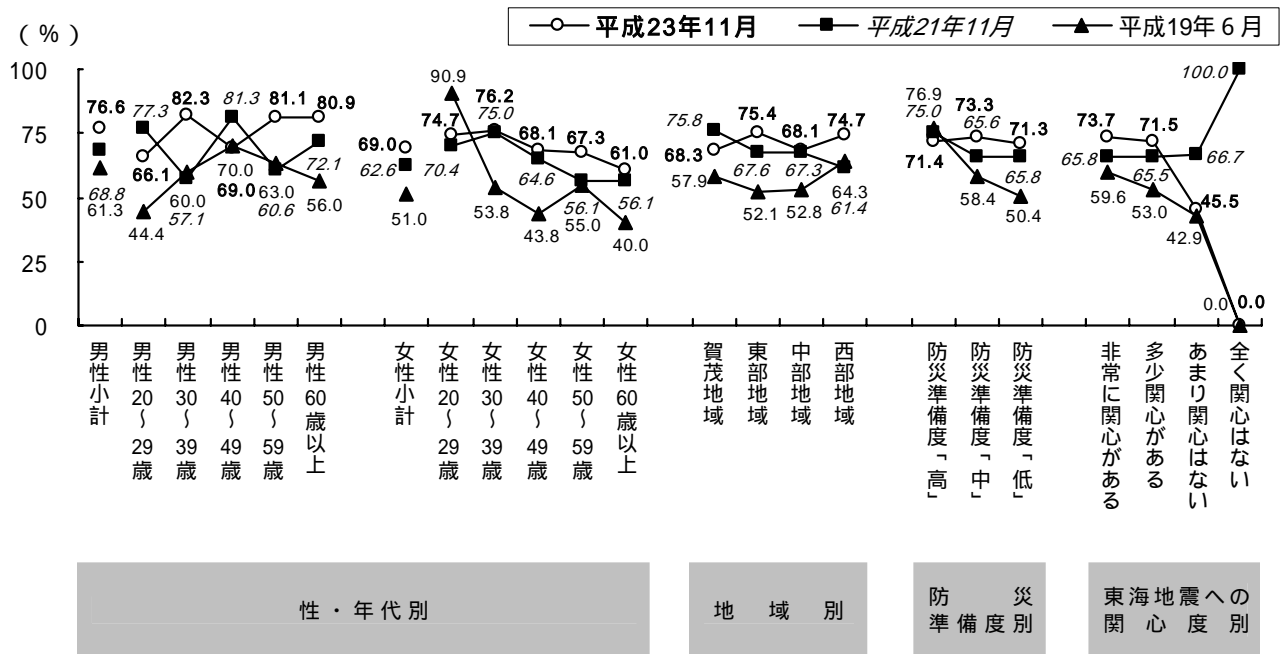
緊急地震速報についての認知  
 < 情報体系の認知別 >

情報体系の認知別で見ると、認知度が高くなるにつれて、緊急地震速報についての認知度も高くなっている。



緊急地震速報は、揺れの大きさの予測などに誤差が含まれる情報であることの認知度について地域別で見ると、最も高い『東部』(75.4%)と、最も低い『中部』(68.1%)では7.3ポイントの差が見られる。

緊急地震速報は、揺れの大きさの予測などに誤差が含まれる情報であることの認知度<属性別>

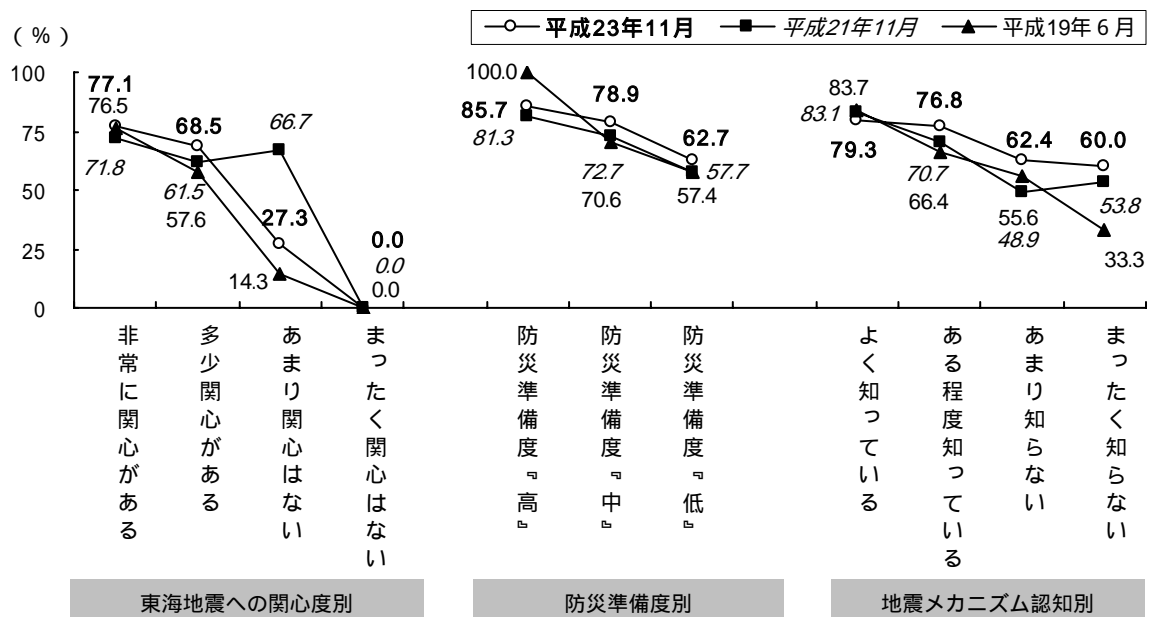


緊急地震速報を受け取ったとき、どのように行動すれば良いか考えたことについて属性別で見ると、東海地震への関心度別では、関心があるほど「考えたことがある」が高くなっている。

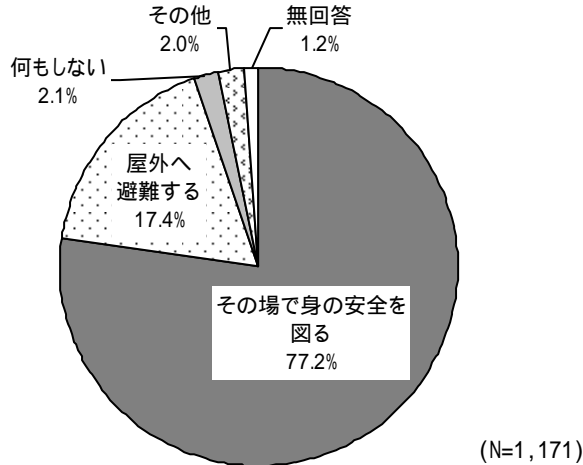
防災準備度別で見ると、『防災準備度「高」』ほど「考えたことがある」が高くなっている。

地震メカニズム認知別で見ると、『よく知っている』ほど「考えたことがある」が高くなっている。

どのように行動すれば良いか考えたことがあるか<属性別>



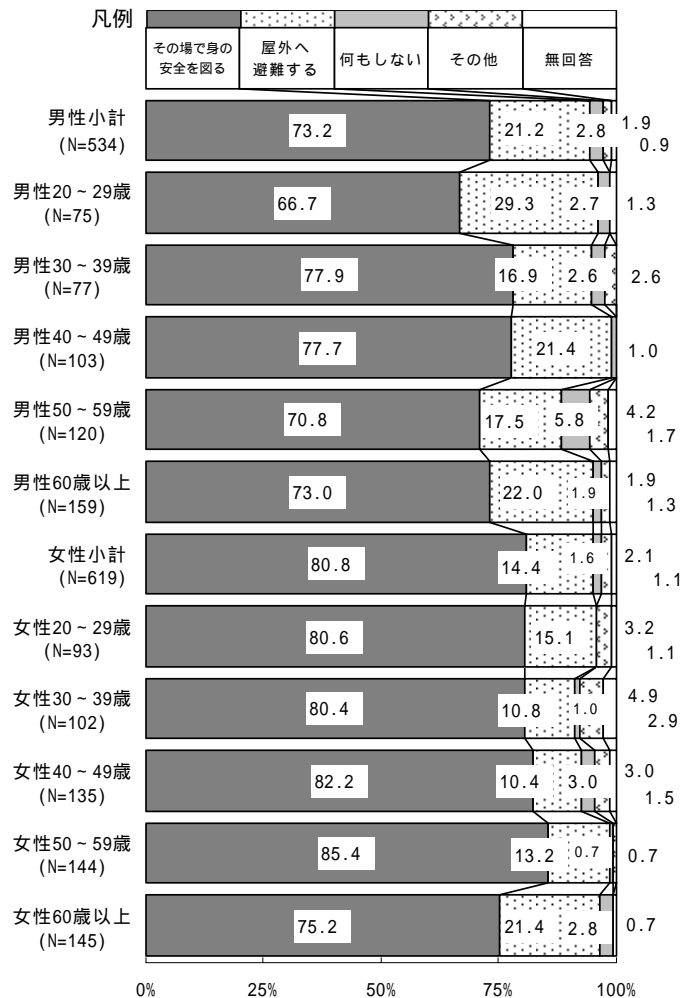
問37 あなたは、屋内で緊急地震速報を受け取ったとき、どのように行動しますか。



緊急地震速報入手時の行動についてたずねたところ、「その場で身の安全を図る」(77.2%)が最も高く、次いで「屋外へ避難する」(17.4%)、「何もしない」(2.1%)の順となっている。

緊急地震速報入手時の行動  
< 性・年代別 >

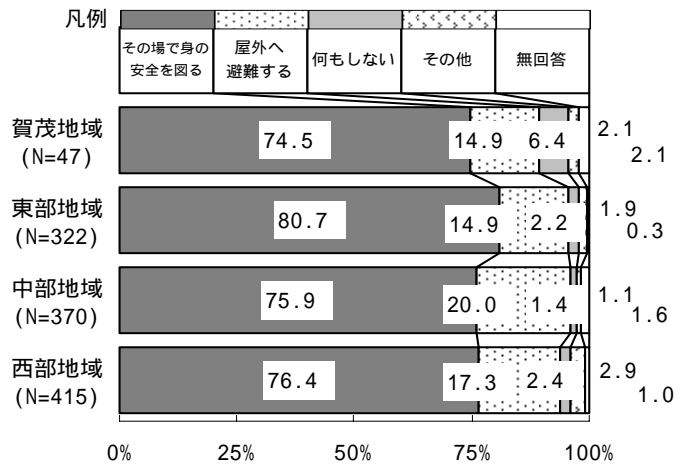
性・年代別でみると、いずれの性・年代においても「その場で身の安全を図る」が7割近くを超えている。



### 緊急地震速報入手時の行動

#### < 地域別 >

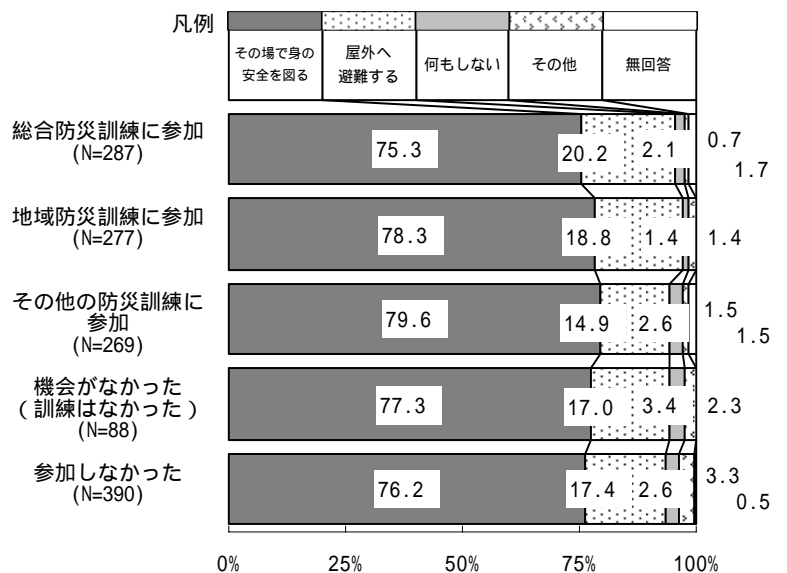
地域別でみると、「屋外へ避難する」は、『中部』(20.0%)で最も高くなっている。



### 緊急地震速報入手時の行動

#### < 防災訓練参加状況別 >

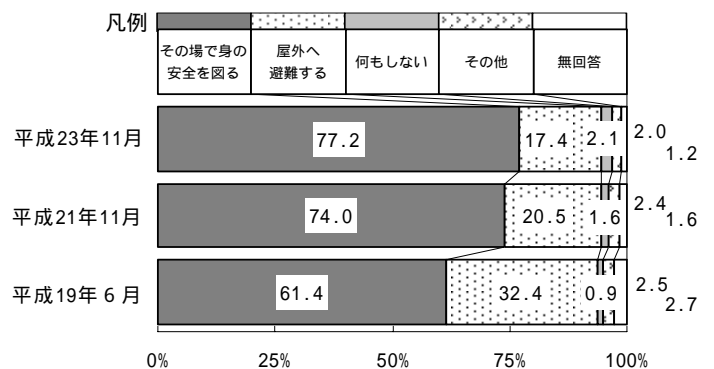
防災訓練参加状況別でみると、いずれも「その場で身の安全を図る」が7割を超えている。



### 緊急地震速報入手時の行動

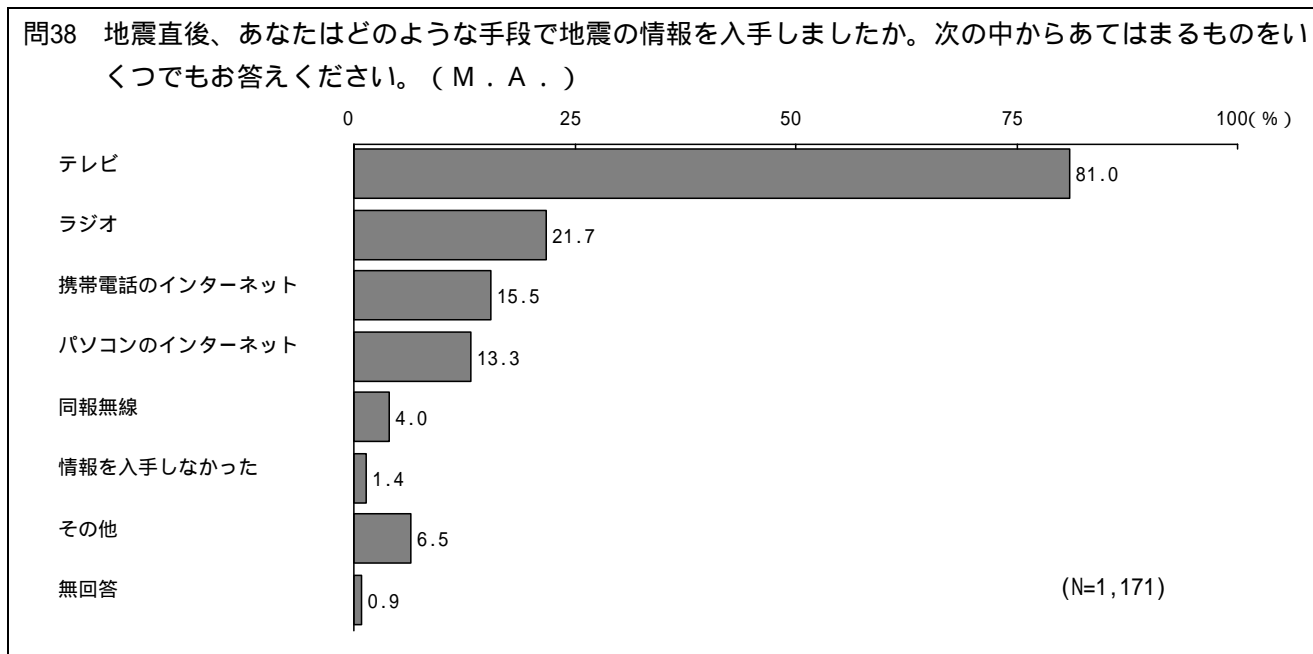
#### < 経年比較 >

経年比較でみると、「その場で身の安全を図る」は、今回調査(77.2%)と前回調査(74.0%)では3.2ポイントの差が見られ、「屋外へ避難する」は減少傾向が見られる。



## 9 東日本大震災に関することについて

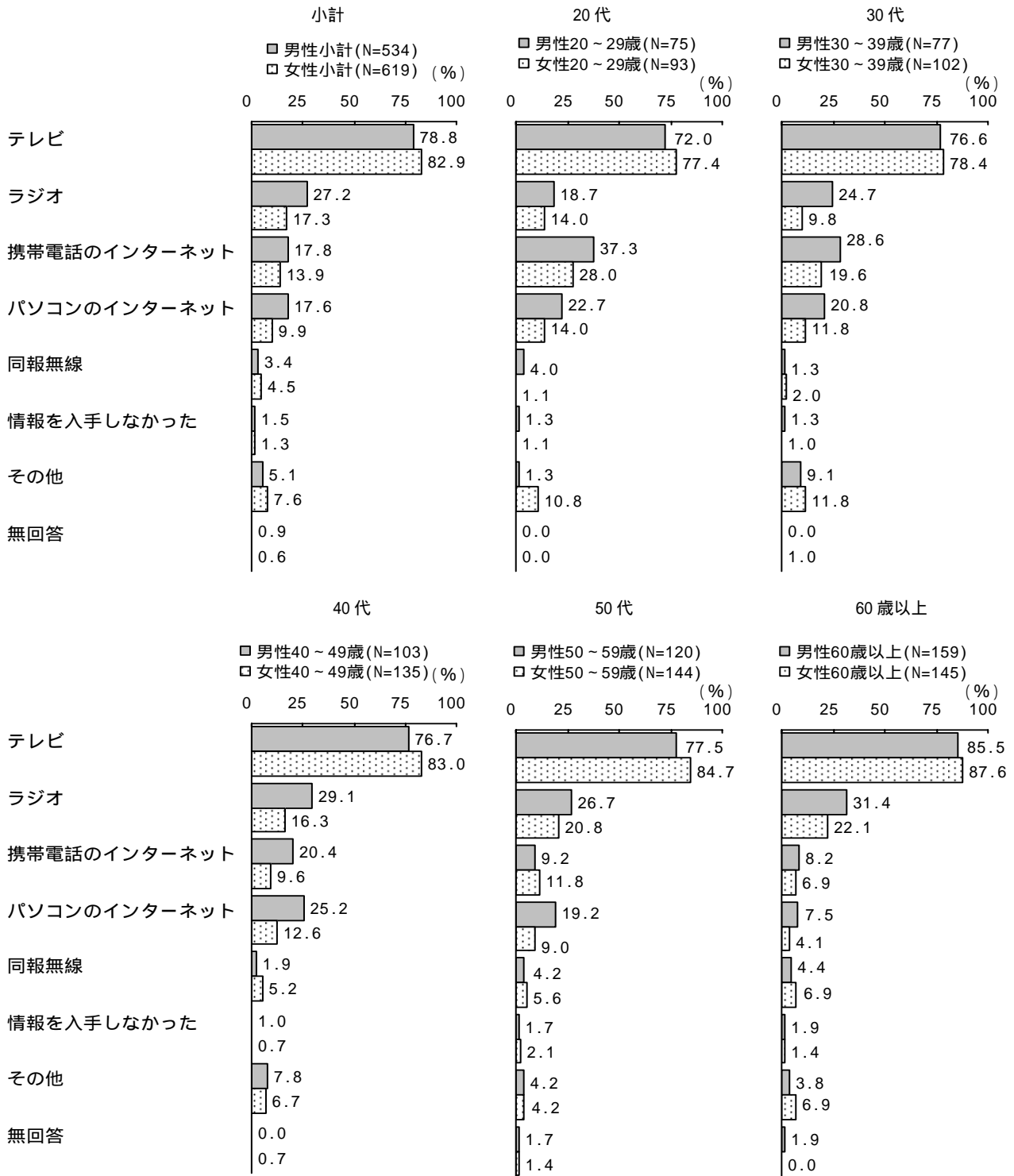
### 9 - 1 地震直後の情報入手手段



3月11日に発生した東日本大震災について地震直後の情報の入手手段についてたずねたところ、「テレビ」(81.0%)が最も高く、次いで「ラジオ」(21.7%)、「携帯電話のインターネット」(15.5%)、「パソコンのインターネット」(13.3%)の順となっている。

性・年代別でみると、いずれも「テレビ」が7割を超えて最も高くなっている。また、「パソコンのインターネット」、「携帯電話のインターネット」については、男性・女性ともに『20代』が高く、『60歳以上』が低い傾向にある。

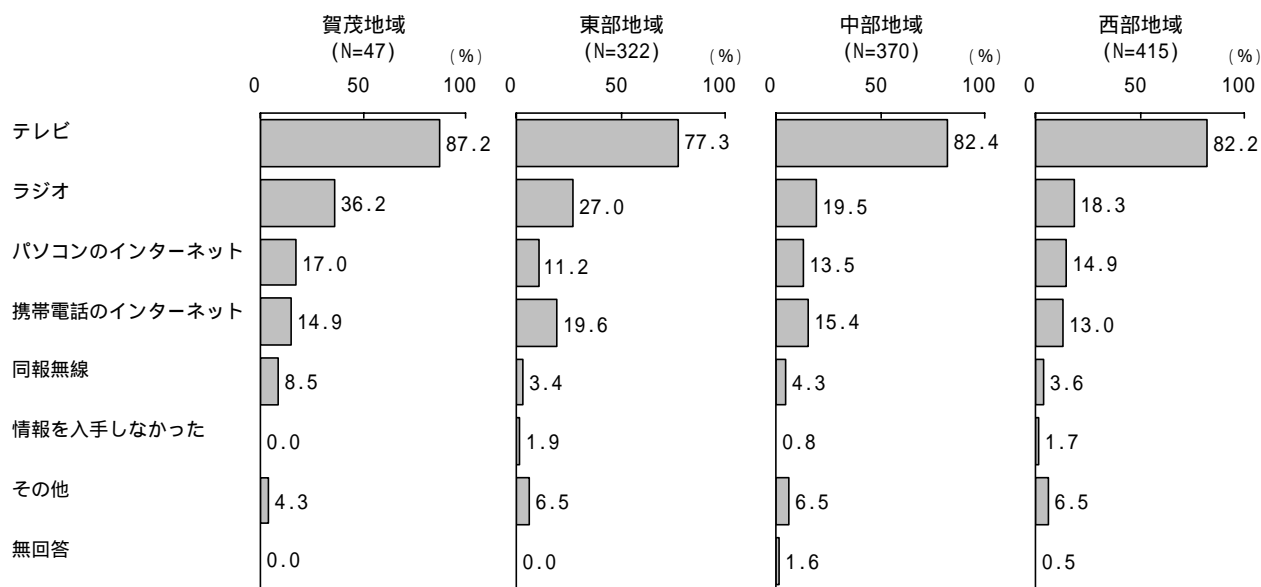
地震直後の情報入手手段 < 性・年代別 >



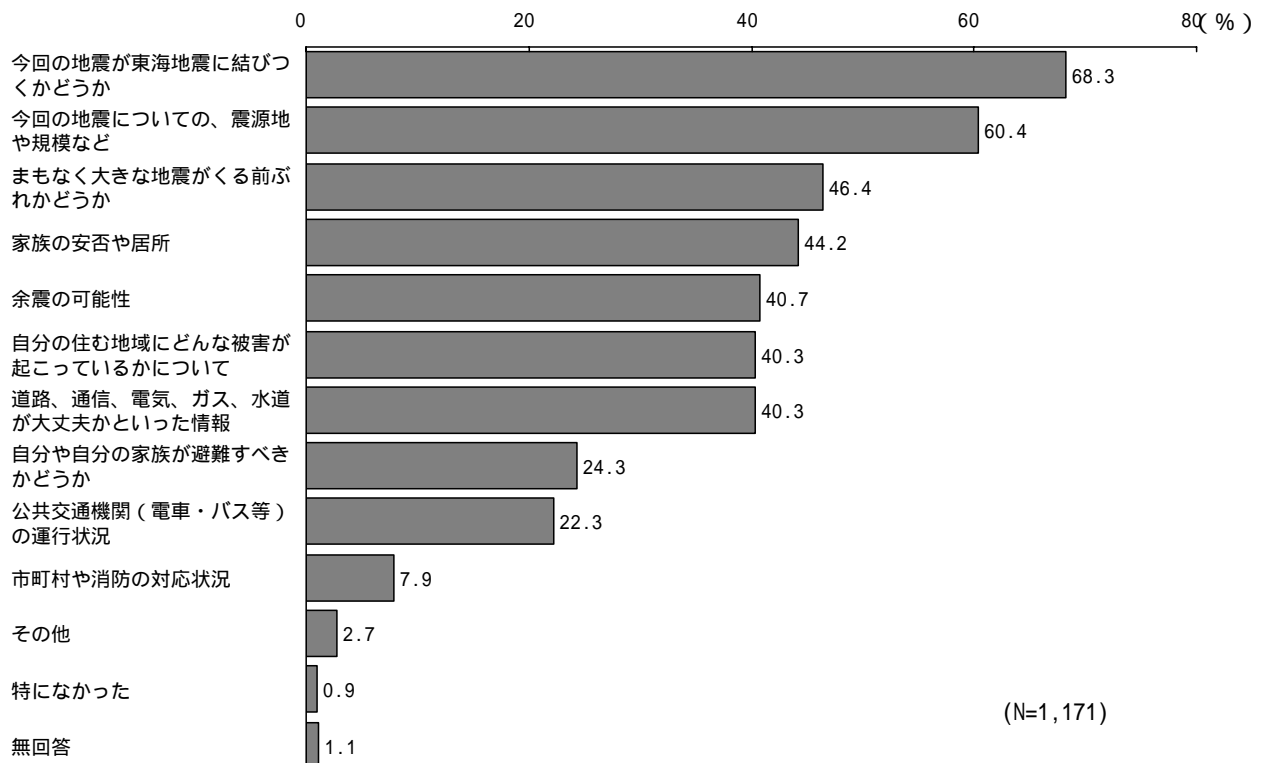


地域別でみると、「ラジオ」は、最も高い『賀茂』（36.2%）と、最も低い『西部』（18.3%）では17.9ポイントの差が見られる。

### 地震直後の情報入手手段 <地域別>



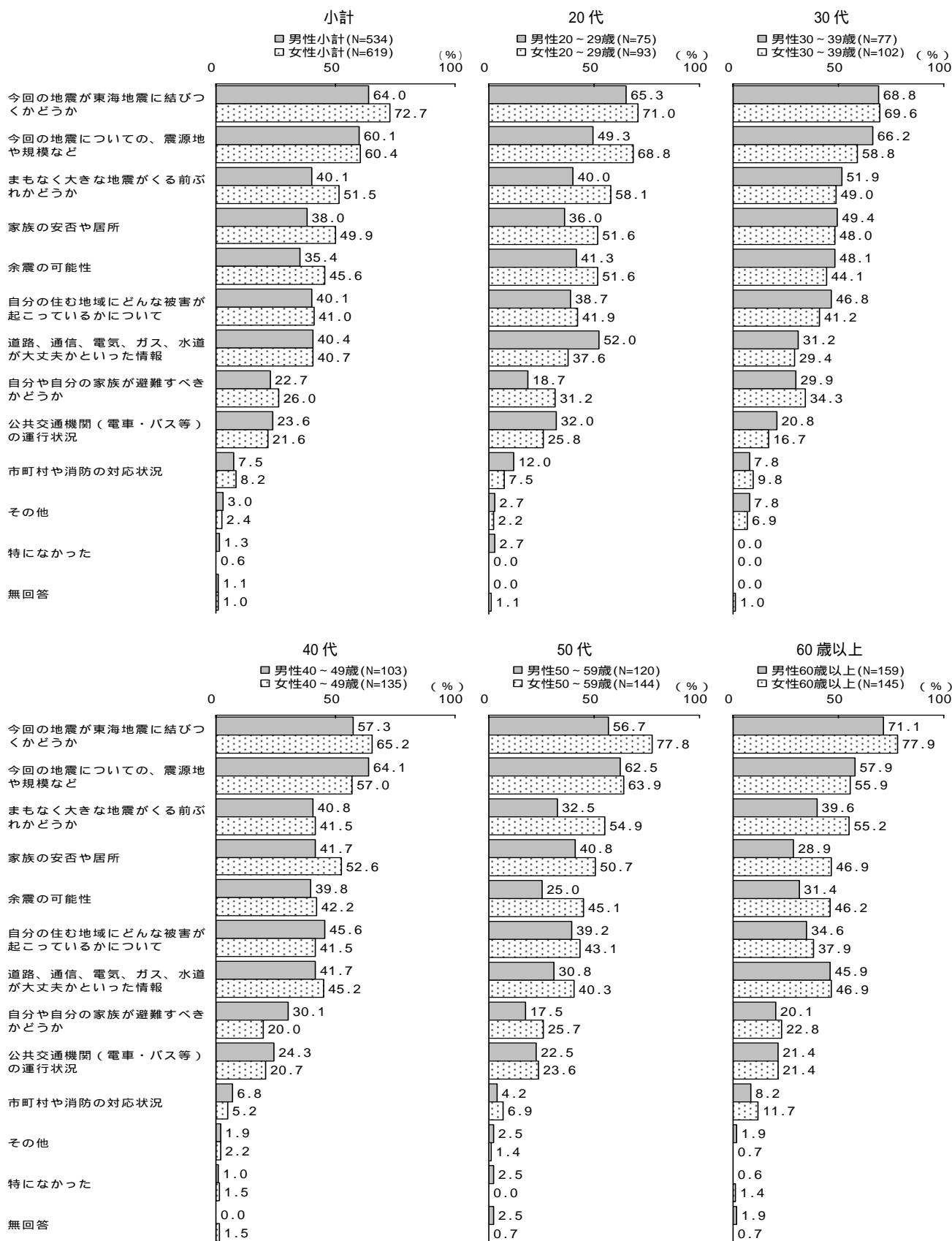
問39 地震直後、あなたはどのようなことを知りたかったですか。次の中からあてはまるものをいくつでもお答えください。(M.A.)



地震直後に知りたいと感じた情報についてたずねたところ、「今回の地震が東海地震に結びつくかどうか」(68.3%)が最も高く、次いで「今回の地震についての、震源地や規模など」(60.4%)となっており、「まもなく大きな地震がくる前ぶれかどうか」(46.4%)、「家族の安否や居所」(44.2%)、「余震の可能性」(40.7%)、「自分の住む地域にどんな被害が起こっているかについて」(40.3%)、「道路、通信、電気、ガス、水道が大丈夫といった情報」(40.3%)までが4割を超えている。

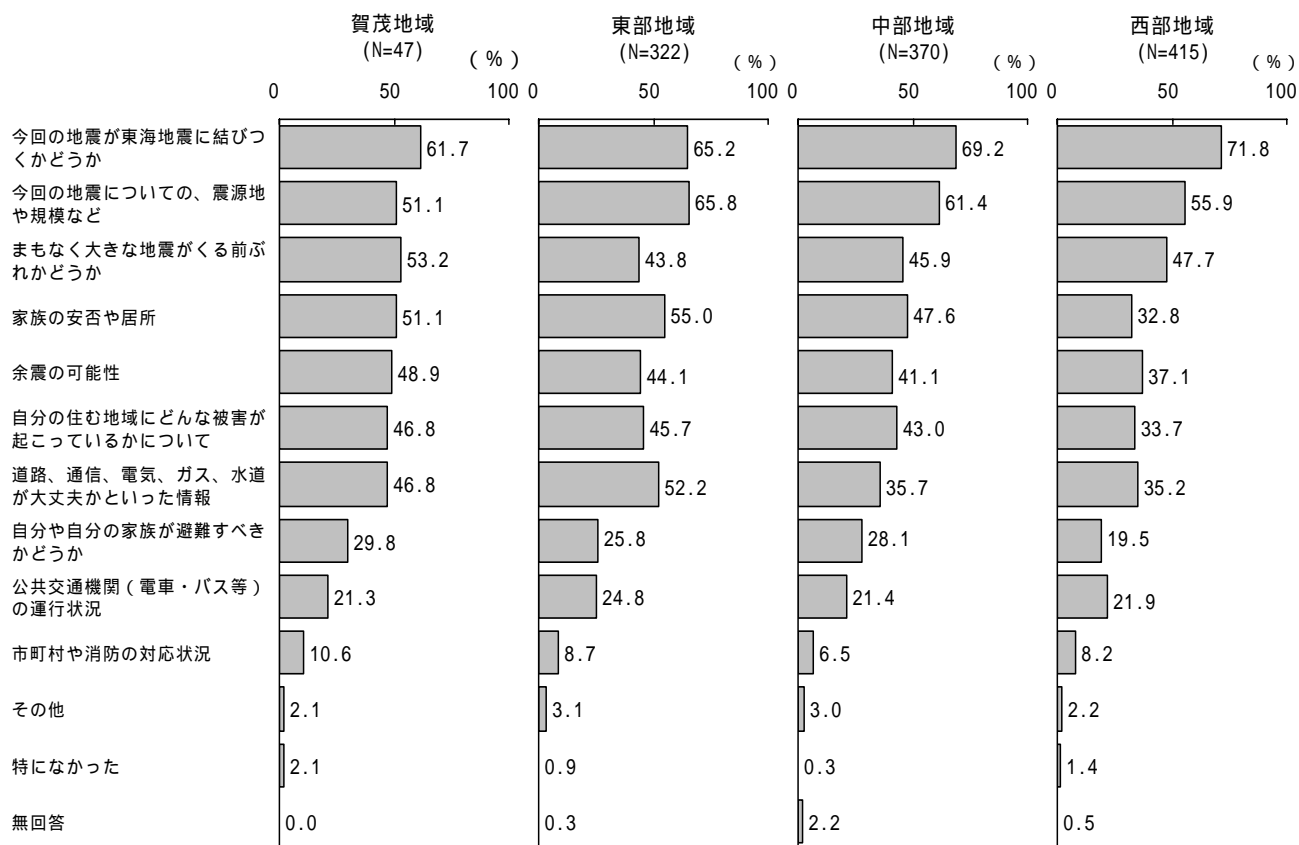
性・年代別でみると、大きな差異は見られないが、「今回の地震が東海地震に結びつくかどうか」、「まもなく大きな地震がくる前ぶれかどうか」、「余震の可能性」、「家族の安否や居所」と、不安要素になる項目に関しては、『男性』よりも『女性』の方が10ポイント以上高くなっている。

### 地震直後に入手したい情報 <性・年代別>

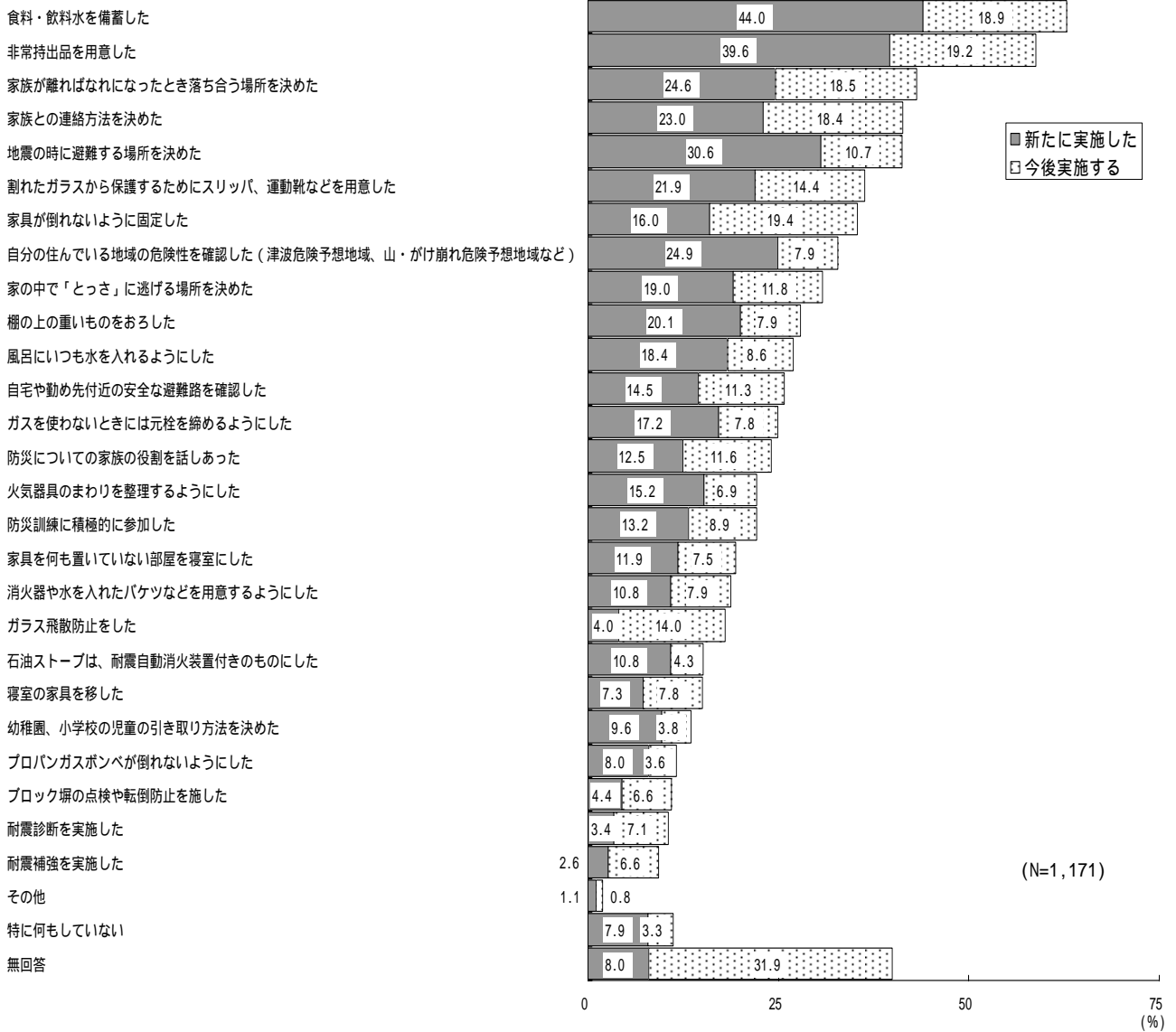


地域別でみると、「今回の地震についての、震源地や規模など」については、『東部』(65.8%)が最も高く、最も低い『賀茂』(51.1%)とは14.7ポイントの差、「家族の安否や居所」については、『東部』(55.0%)が最も高く、最も低い『西部』(32.8%)とは22.2ポイントの差、「道路、通信、電気、ガス、水道が大丈夫かといった情報」については、『東部』(52.2%)が最も高く、最も低い『西部』(35.2%)とは17.0ポイントの差がみられる。

### 地震直後に入手したい情報 <地域別>



問40 あなたは、3月11日の東日本大震災の後に、新たに実施した防災対策がありますか。次の中からあてはまるものをA欄にいくつでもお答えください。また、今後、1年間以内（平成24年10月まで）にあらためて実施しようと考えている防災対策がありますか。次の中からあてはまるものをB欄にいくつでもお答えください。（M・A・）



東日本大震災後に新たに実施した準備や行動について、「新たに実施した」の上位5項目をみると、「食料・飲料水を備蓄した」（44.0%）が最も高く、次いで「非常持出品を用意した」（39.6%）、「地震の時に避難する場所を決めた」（30.6%）、「自分の住んでいる地域の危険性を確認した（津波危険予想地域、山・崖崩れ）」（24.9%）、「家族が離ればなれになったとき落ち合う場所を決めた」（24.6%）の順となっている。

また、「今後1年間以内にあらためて実施する」の上位5項目をみると、「家具が倒れないように固定した」（19.4%）が最も高く、次いで「非常持出品を用意した」（19.2%）、「食料・飲料水を備蓄した」（18.9%）、「家族が離ればなれになったとき落ち合う場所を決めた」（18.5%）、「家族との連絡方法を決めた」（18.4%）の順となっている。

「新たに実施した」と「今後実施する」の数字を合わせた項目では、「食料・飲料水を備蓄した」（62.9%）、「非常持出品を用意した」（58.8%）の2項目が5割を超えている。

性・年代別でみると、新たに実施した準備や行動の中で、「食料・飲料水を備蓄した」は、全年代を通して『女性』のほうが高い傾向にあり、最も高い『女性30代』（61.8%）と、最も低い『男性20代』（32.0%）では29.8ポイントの差が見られる。

一方、今後実施する予定の準備や行動の中で、「非常持出品を用意した」は、全年代を通して『男性』の方が高い傾向にあり、「家族が離ればなれになったとき落ち合う場所を決めた」は、全年代を通して『女性』の方が高い。

新たに実施した準備や行動 上位5位 <性・年代別>

	男性小計	男性20代	男性30代	男性40代	男性50代	男性60歳以上
	女性小計	女性20代	女性30代	女性40代	女性50代	女性60歳以上
1位 食料・飲料水を備蓄した	37.8	32.0	42.9	39.8	39.2	35.8
	49.1	40.9	61.8	47.4	47.9	48.3
2位 非常持出品を用意した	34.1	26.7	44.2	37.9	30.0	33.3
	43.9	46.2	54.9	35.6	41.0	45.5
3位 地震の時に避難する場所を決めた	28.1	18.7	45.5	34.0	21.7	25.2
	33.1	40.9	39.2	33.3	31.3	25.5
4位 自分の住んでいる地域の危険性を確認した (津波危険予想地域、山・崖崩れ危険予想地域など)	23.0	18.7	27.3	23.3	21.7	23.9
	26.3	30.1	28.4	23.0	28.5	23.4
5位 家族が離ればなれになったとき落ち合う場所を決めた	21.2	14.7	33.8	24.3	16.7	19.5
	27.8	33.3	29.4	30.4	25.7	22.8

今後実施する予定の準備や行動 上位5位 <性・年代別>

	男性小計	男性20代	男性30代	男性40代	男性50代	男性60歳以上
	女性小計	女性20代	女性30代	女性40代	女性50代	女性60歳以上
1位 家具が倒れないように固定した	20.0	21.3	23.4	20.4	18.3	18.9
	18.9	19.4	23.5	18.5	20.1	14.5
2位 非常持出品を用意した	20.8	25.3	23.4	23.3	20.0	16.4
	18.4	19.4	13.7	29.6	16.7	12.4
3位 食料・飲料水を備蓄した	18.2	21.3	22.1	22.3	13.3	15.7
	19.7	17.2	14.7	20.7	22.9	20.7
4位 家族が離ればなれになったとき落ち合う場所を決めた	15.9	16.0	16.9	17.5	12.5	17.0
	20.7	17.2	22.5	23.0	20.1	20.0
5位 家族との連絡方法を決めた	16.5	20.0	11.7	20.4	14.2	16.4
	19.9	21.5	19.6	20.7	19.4	18.6

地域別でみると、新たに実施した準備や行動の中で、「食料・飲料水を備蓄した」は、最も高い『東部』（49.1%）と、最も低い『西部』（38.8%）では10.3ポイントの差がある。また、「地震の時に避難する場所を決めた」は、最も高い『賀茂』（46.8%）と、最も低い『西部』（27.0%）では19.8ポイントの差が見られる。

一方、今後実施する予定の準備や行動の中で、「家具が倒れないように固定した」は、最も高い『東部』（22.4%）と、最も低い『賀茂』（12.8%）では9.6ポイントの差が見られる。

新たに実施した準備や行動 上位5位 <地域別>

	賀茂	東部	中部	西部
1位 食料・飲料水を備蓄した	48.9	49.1	44.9	38.8
2位 非常持出品を用意した	46.8	46.9	37.0	35.2
3位 地震の時に避難する場所を決めた	46.8	28.3	35.1	27.0
4位 自分の住んでいる地域の危険性を確認した (津波危険予想地域、山・崖崩れ危険予想地域など)	40.4	21.4	28.1	22.9
5位 家族が離ればなれになったとき落ち合う場所を決めた	34.0	23.9	28.1	21.2

今後実施する予定の準備や行動 上位5位 <地域別>

	賀茂	東部	中部	西部
1位 家具が倒れないように固定した	12.8	22.4	17.3	19.8
2位 非常持出品を用意した	19.1	18.6	17.0	22.4
3位 食料・飲料水を備蓄した	17.0	19.6	15.1	22.2
4位 家族が離ればなれになったとき落ち合う場所を決めた	21.3	23.6	12.7	19.8
5位 家族との連絡方法を決めた	14.9	20.8	14.3	20.5

新たに実施した準備や行動 上位5位  
<経年比較>

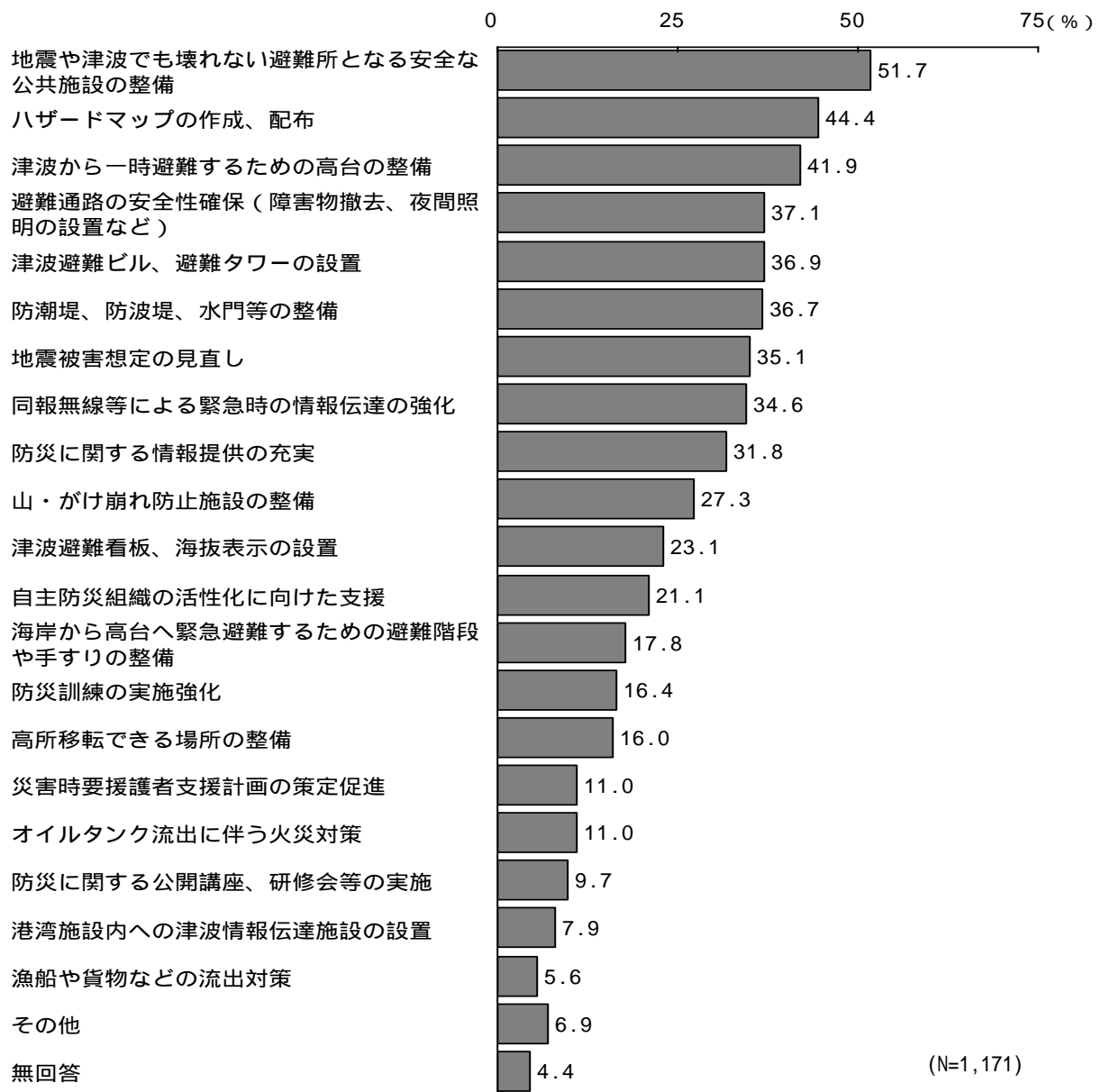
経年比較でみると、「食料・飲料水を備蓄した」は、前回（24.6%）と、今回（44.0%）では19.4ポイント上昇している。

また、「非常持出品を用意した」は、前回（16.9%）と、今回（39.6%）では22.7ポイント上昇している。

平成23年11月調査 上位5位	平成23年 11月	平成21年 11月
1位 食料・飲料水を備蓄した	44.0	24.6
2位 非常持出品を用意した	39.6	16.9
3位 地震の時に避難する場所を決めた	30.6	8.8
4位 自分の住んでいる地域の危険性を確認した (津波危険予想地域、山・崖崩れ危険予想地域など)	24.9	
5位 家族が離ればなれになったとき落ち合う場所を決めた	24.6	8.2

平成21年11月調査 上位5位	平成23年 11月	平成21年 11月
1位 食料・飲料水を備蓄した	44.0	24.6
2位 棚の上の重いものをおろした	20.1	17.1
3位 非常持出品を用意した	39.6	16.9
4位 家具が倒れないように固定した	16.0	16.0
5位 ガスを使わないときには元栓を締めるようにした	17.2	14.2

問41 あなたは、東日本大震災の状況を踏まえて、今後、県や市町に対して要望することがあります。次の中からあてはまるものをいくつでもお答えください（M・A・）



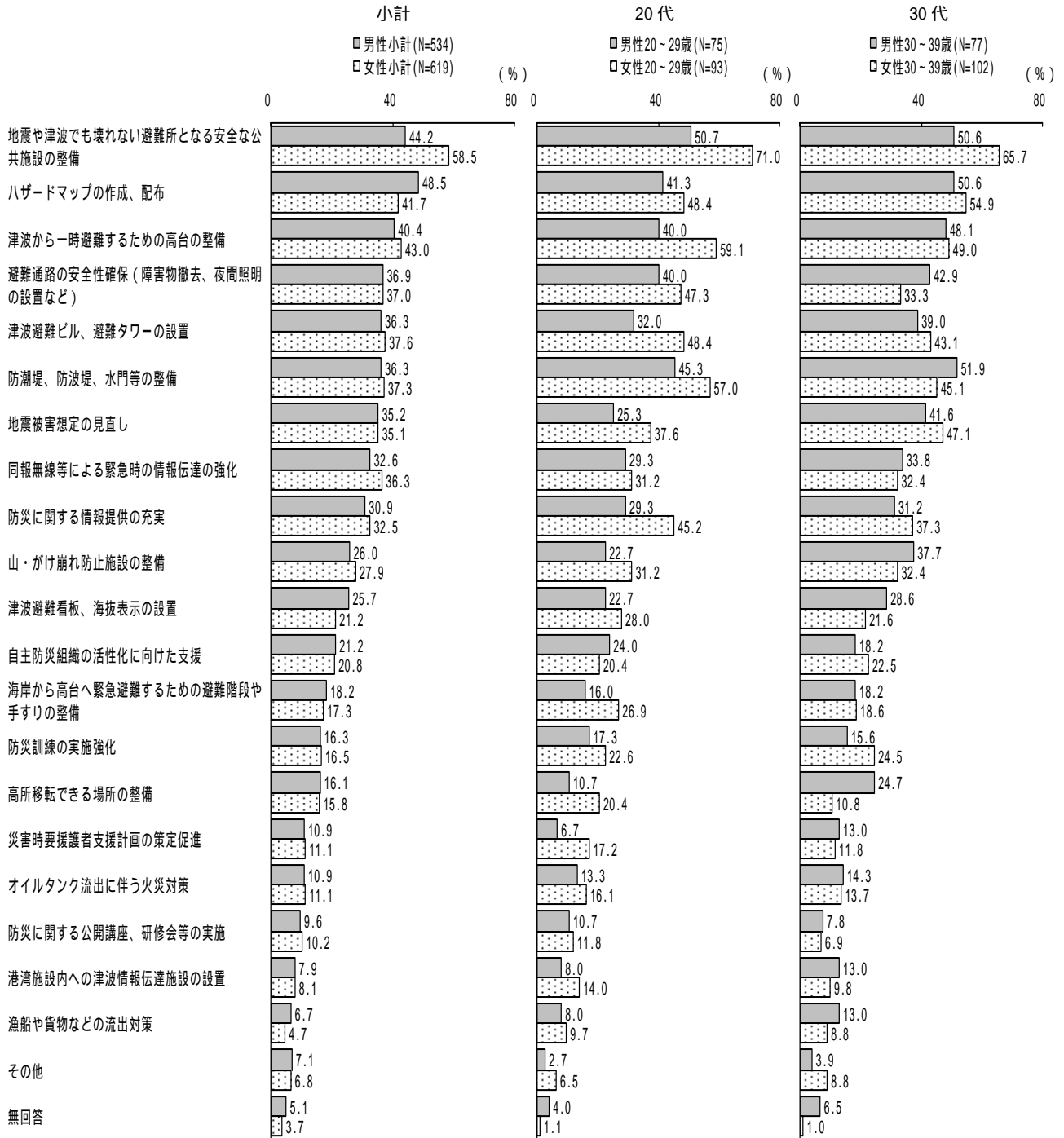
東日本大震災の状況を踏まえて、今後の行政に要望することをたずねたところ、「地震や津波でも壊れない避難所となる安全な公共施設の整備」(51.7%)が最も高く、次いで「ハザードマップの作成、配布」(44.4%)、「津波から一時避難するための高台の整備」(41.9%)、「避難通路の安全性確保(障害物撤去、夜間照明の設置など)」(37.1%)、「津波避難ビル、避難タワーの設置」(36.9%)の順となり、津波に関する要望が高くなっている。

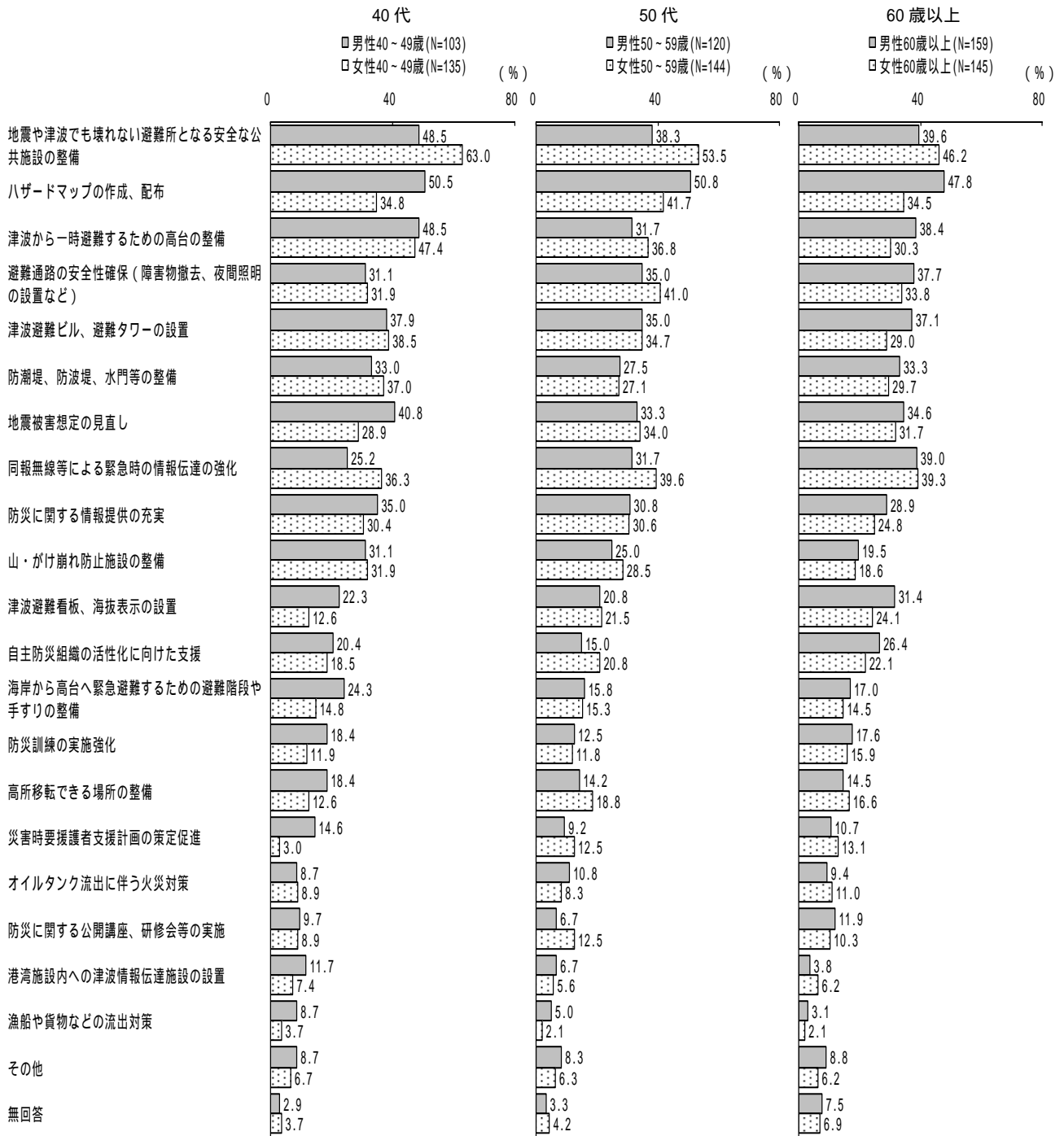


性・年代別では、いずれも「地震や津波でも壊れない避難所となる安全な公共施設の整備」が最も高いが、『男性』（44.2%）と『女性』（58.5%）では14.3ポイントの差が見られる。

「防潮堤、防波堤、水門などの整備」、「津波から一時避難するための高台の整備」、「地震や津波でも壊れない避難所となる安全な公共施設の整備」については、男性・女性いずれも年代が下がるにつれて要望が高くなる傾向にある。

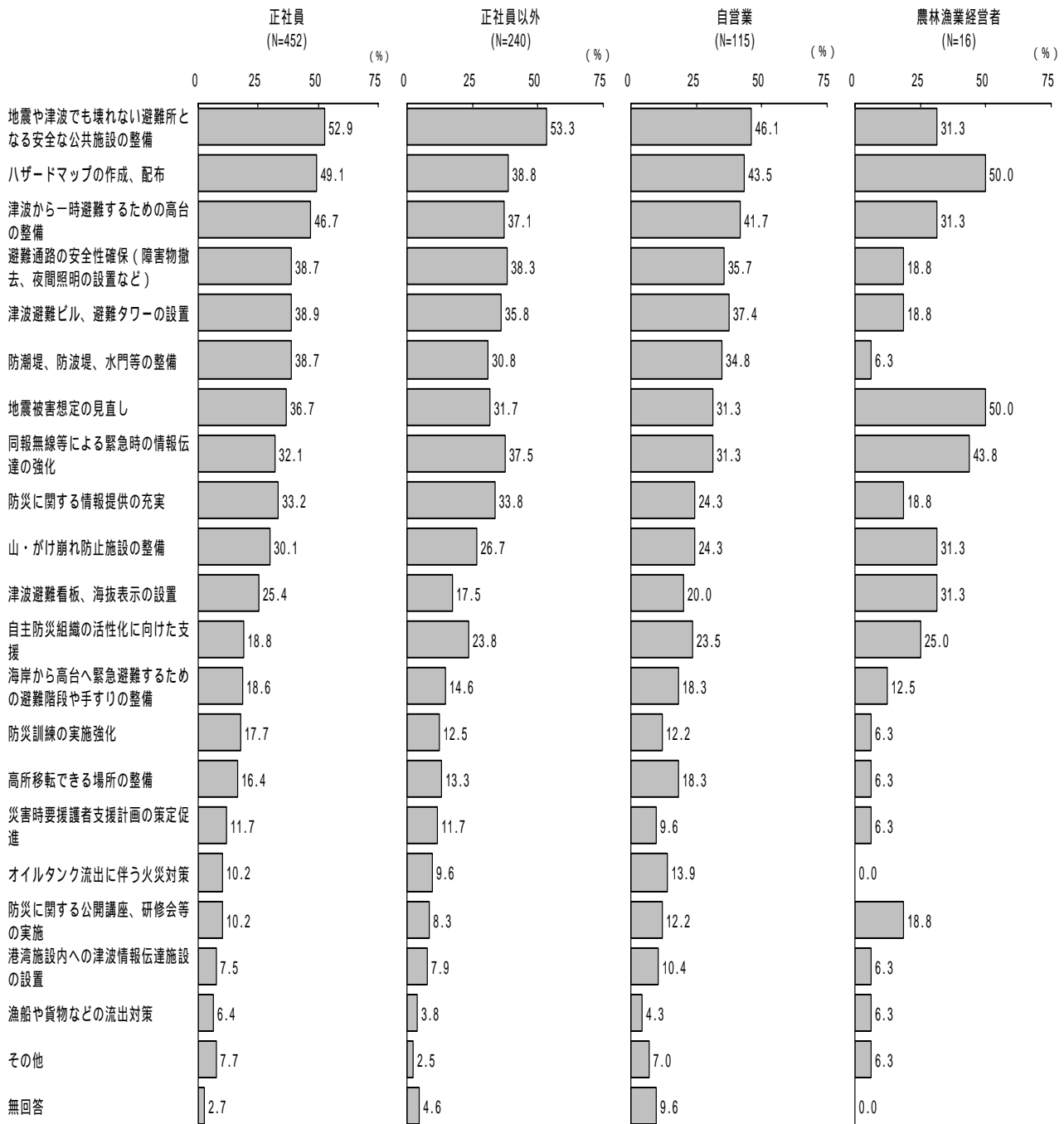
### 今後の行政への要望 < 性・年代別 >

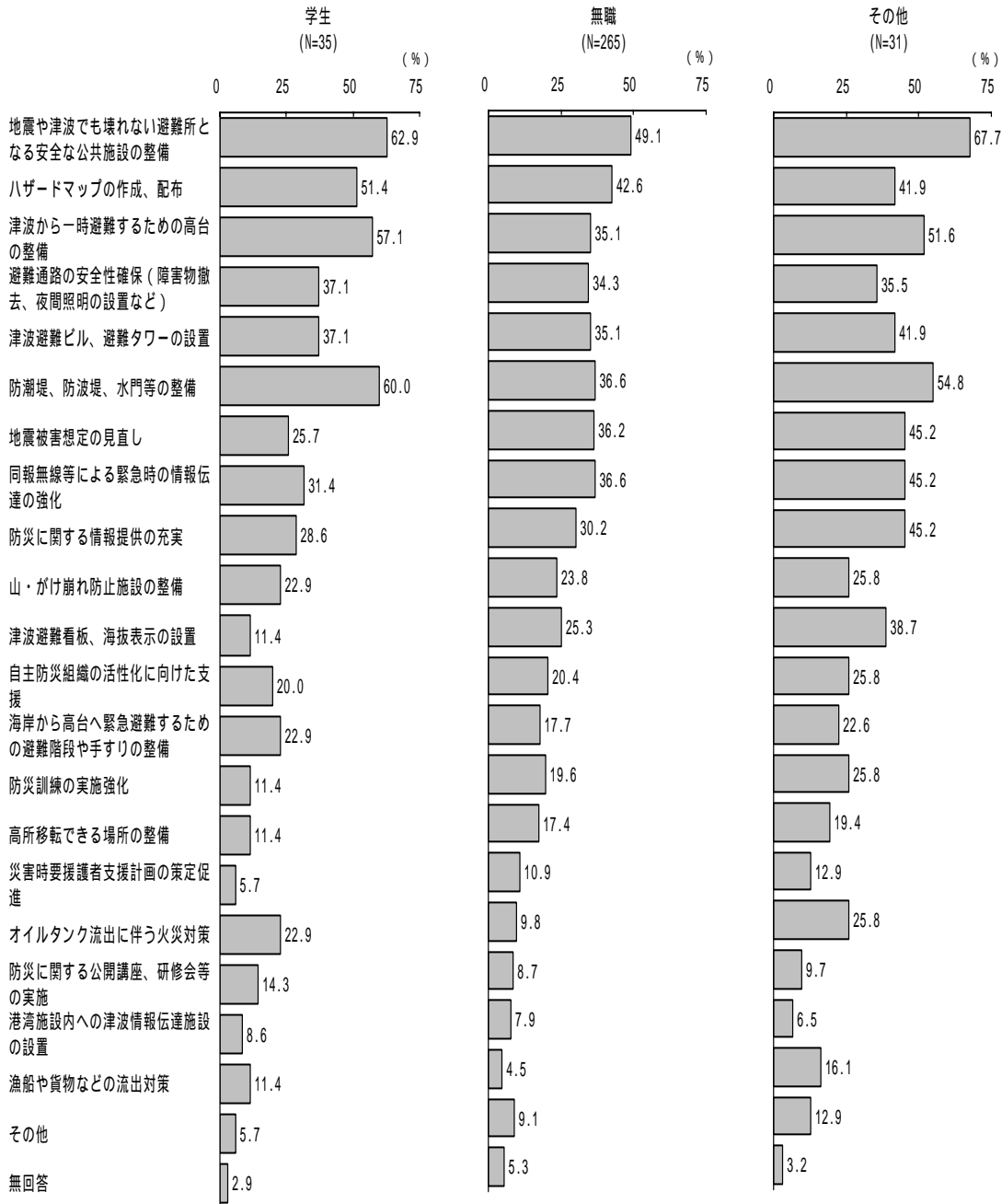




職業別でみると、「防潮堤、防波堤、水門などの整備」については、最も高い『学生』（60.0%）と、最も低い『農林漁業経営者』（6.3%）とは53.7ポイントの差が見られる。

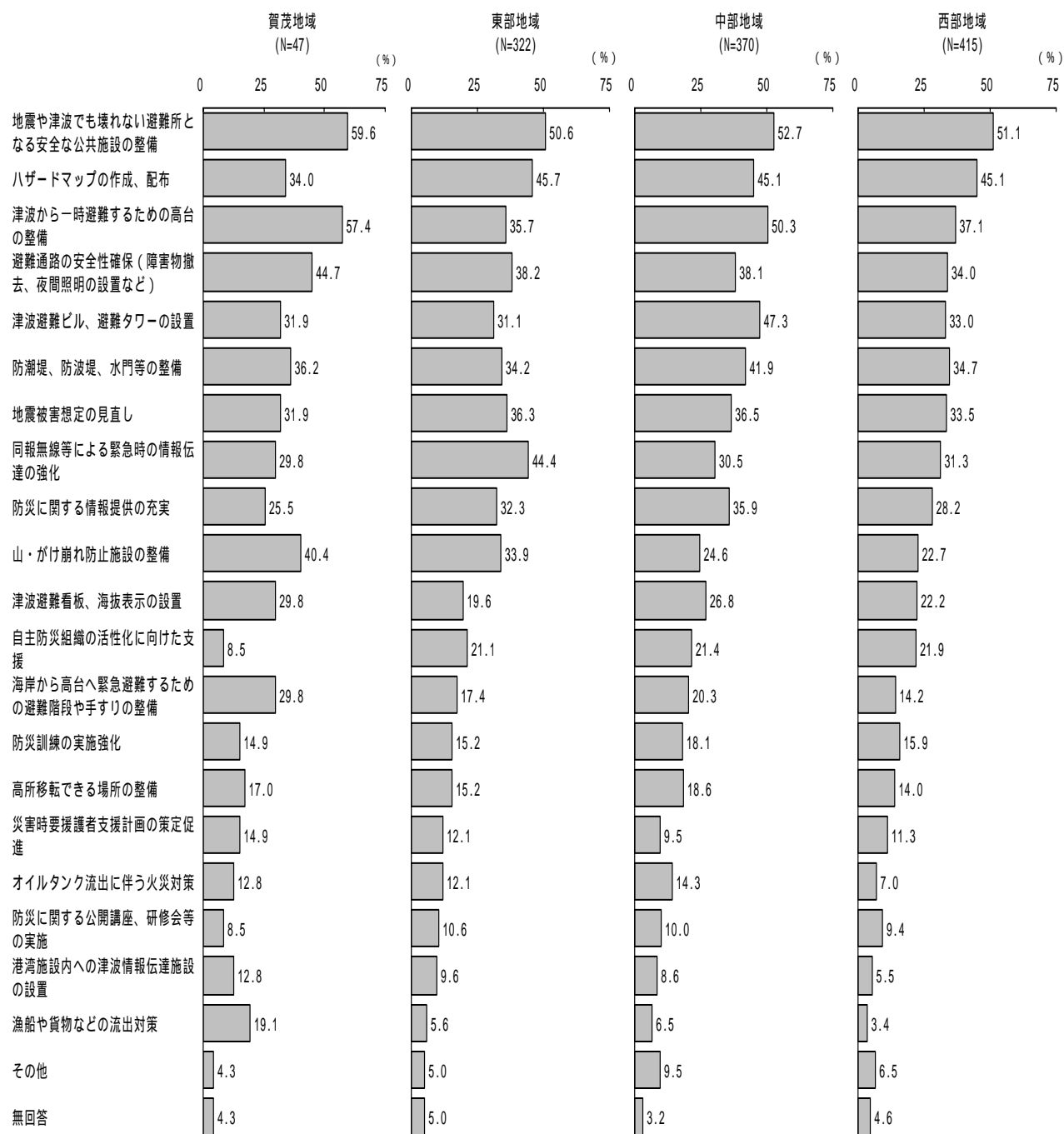
### 今後の行政への要望 < 職業別 >





地域別にみると、「津波から一時避難するための高台の整備」については、最も高い『賀茂』（57.4%）と、最も低い『東部』（35.7%）では21.7ポイントの差が見られる。

### 今後の行政への要望 <地域別>





---

---

付． 調査票（単純集計入り）

---

---





# 東海地震についての県民意識調査

ご記入にあたってのお願い

ご記入は、あなた様ご自身がなさるようお願いいたします。  
全体で20分程度かかります。記入へのご協力をお願いいたします。  
ご記入は、鉛筆又は黒のボールペンでお願いします。  
回答項目が用意されている質問では、当てはまる回答項目の番号を で囲んでください。  
また、「その他( )」に当てはまる場合には、ご面倒でも詳しくご記入ください。  
回答によっては、次の質問をとばしていくところがありますので、ご注意ください。  
回答は、すべてコンピューターにより集計・解析しますので、ご回答いただいた方に迷惑をかけることは決してありません。  
記入後の調査票は、誠に恐縮ですが 11月7日(月)までに、三つ折りにして同封の返信用封筒に入れ、切手を貼らずにご返送ください。  
調査についてのお問い合わせは、次のところをお願いします。

静岡県危機管理部危機情報課（担当：油井、山田）  
静岡市葵区追手町9番6号  
054-221-2644

## 1 東海地震について

<全ての方にお伺いします。>

問1 あなたは現在、東海地震にどの程度の関心を持っていますか。( は1つ)

1 非常に関心がある	63.8%	2 多少関心がある	33.6%
3 あまり関心はない	1.6%	4 全く関心はない	0.2%

0.9%

<全ての方にお伺いします。>

問2 あなたは、東海地震に対して、2～3年前に比べて関心を持つようになりましたか。( は1つ)

1 2～3年前よりも関心を持つようになった	79.2%	2 変わらない	19.1%
3 2～3年前よりも関心が薄くなった	0.6%	4 わからない	0.2%

0.9%

<全ての方にお伺いします。>

問3 あなたは、東海地震が発生する仕組み（メカニズム）を知っていますか。（は1つ）

1 よく知っている	8.2%	2 ある程度知っている	61.6%
3 あまり知らない	25.3%	4 まったく知らない	3.1%

1.9%

<問3で「1 よく知っている」「2 ある程度知っている」のいずれかを選んだ方にお伺いします。>

問3-1 その知識はどこから入手しましたか。（はいくつでも）

1 テレビ・ラジオ	89.1%	2 新聞	55.1%	3 雑誌・本	18.7%
4 自主防災組織	7.3%	5 事業所	1.3%	6 学校	6.5%
7 県・市町の広報誌・手引書・パンフレット等	19.0%	8 県・市町の講演会	2.4%		
9 県地震防災センター	6.1%	10 県のホームページ	1.2%	11 インターネット	10.8%
12 その他（具体的に		2.1%			

2.6%

<全ての方にお伺いします。>

問4 東海地震が起きた場合、あなたのお住まいの家は、どのような被害を受けるとお考えですか。（は1つ）

1 被害はほとんどない	6.0%	2 家の一部が壊れる	40.1%
3 家のほとんどが壊れる	28.9%	4 わからない	23.6%

1.5%

<全ての方にお伺いします。>

問5 駿河湾内で東海地震が発生した場合、津波は、一番はやいところでは地震発生後どのくらいの時間で沿岸に来ると思いますか。（は1つ）

1 5分以内	41.4%	2 10分以内	32.4%	3 20分以内	9.5%
4 30分以内	6.8%	5 1時間以内	1.5%	6 わからない	7.1%

1.4%

<全ての方にお伺いします。>

問6 東海地震を中心とした情報を定期的に皆様へ提供する方法について、確実に情報が手に入る方法は次のどれですか。（は3つまで）

1 新聞記事	45.9%	2 パンフレットの全戸配布	37.8%	3 新聞の折り込みチラシ	10.9%
4 インターネット	13.2%	5 Eメール(パソコン)での受信	5.0%	6 Eメール(携帯電話)での受信	23.7%
7 県や市町の広報誌	31.3%	8 テレビによる報道	68.3%	9 ラジオによる報道	18.8%
10 「自主防災」新聞	5.6%	11 その他（具体的に	0.9%		

1.1%

2 日ごろの防災対策について

<全ての方にお伺いします。>

問7 あなたのお宅では、非常持ち出し用を含めて家族の何日分の食料を用意していますか。( は1つ)

1	1日分	13.4%	2	2日分	24.7%	3	3日分	30.2%	4	4日分	1.1%
5	5日分	2.9%	6	6日分	1.2%	7	7日以上	4.2%	8	用意していない	21.2%

1.1%

<問7で「8 用意していない」を選んだ方にお伺いします。>

問7-1 食料はどのようにして確保するつもりですか。( は1つ) ←

1	地震が起きてから準備する	6.0%	2	東海地震注意情報発表や警戒宣言が発せられた後に準備する	17.3%
3	自主防災組織からもらう	5.2%	4	市町役場からもらう	6.9%
5	考えていない	41.9%	6	その他(具体的に	21.8%

0.8%

<全ての方にお伺いします。>

問8 あなたのお宅では、何日分の飲料水を備蓄していますか。ご家族ひとり1日あたり3リットルで計算してください。( は1つ)

1	1日分	19.6%	2	2日分	25.6%	3	3日分	22.2%
4	4日分	4.1%	5	5日以上	10.9%	6	備蓄していない	16.4%

1.2%

<問8で「6 備蓄していない」を選んだ方にお伺いします。>

問8-1 飲料水はどのようにして確保するつもりですか。( は1つ) ←

1	地震が起きてから準備する	5.2%	2	東海地震注意情報発表や警戒宣言が発せられた後に準備する	18.8%
3	自主防災組織からもらう	7.3%	4	市町役場からもらう	5.7%
5	考えていない	40.6%	6	その他(具体的に	19.3%

3.1%

<全ての方にお伺いします。>

問9 あなたのお宅では、地震に備えて家具類の固定をしていますか。( は1つ)

1	大部分固定している	14.4%	2	一部固定している	55.4%	3	固定していない	28.9%
---	-----------	-------	---	----------	-------	---	---------	-------

1.3%

<問9で「3 固定していない」を選んだ方にお伺いします。>

問9-1 なぜですか。( は1つ) ←

1	建物や家具を傷めるから	5.0%	2	手間がかかるから	19.2%
3	費用がかかるから	10.4%	4	家具類を置いていない安全な部屋があるから	17.5%
5	固定しなくても大丈夫だと思うから	7.4%	6	固定をしても被害は出ると思うから	18.3%
7	東海地震が起こると思わないから	0.6%	8	借家だから	3.8%
9	その他(具体的に	16.3%			

1.5%

<全ての方にお伺いします。>

問10 あなたのお宅では、ブロック塀や門柱などの安全性について点検していますか。( は1つ)

1 点検した	18.5%	2 点検していない	35.4%
3 ブロック塀や門柱などはない	43.8%	4 以前はあったが、危険なので取り壊した	1.4%

0.9%

<問10で「1 点検した」を選んだ方にお伺いします。>

問10-1 点検結果はいかがでしたか。( は1つ)

1 安全	64.5%	2 安全ではない	18.9%	3 わからない	15.2%
------	-------	----------	-------	---------	-------

1.4%

<問10で「2 点検していない」を選んだ方にお伺いします。>

問10-2 どのような理由からですか。( は1つ)

1 点検するまでもなく危険だから	6.7%	2 点検方法が分からないから	32.5%
3 費用がかかるから	11.3%	4 借家だから	6.0%
5 手間がかかるから	4.1%	6 点検しなくても大丈夫だと思うから	18.8%
7 防災対策をしても被害が出ると思うから	6.0%	8 東海地震が起こるとは思わないから	0.2%
9 その他(具体的に	11.6%	)	

2.7%

<全ての方にお伺いします。>

問11 次にあげるものの中で、東海地震に備えてあなたのお宅で行っているものについて、いくつでもお答えください。( はいくつでも)

1 防災についての家族の役割を決めている	3.7%	2 家族との連絡方法を決めている	28.4%
3 警戒宣言が発せられた時の家族の行動を決めている			17.6%
4 警戒宣言が発せられた時や突発地震の時に避難する場所を決めている			40.2%
5 家族が離ればなれになった時の落ち合う場所を決めている			27.8%
6 ガスを使わないときにはガス栓を閉めている			23.0%
7 火気器具の周りを整理している	17.2%	8 風呂にいつも水を入れている	23.5%
9 消火器などを用意している	39.8%	10 幼稚園や小学校と園児・児童の引き取り方法を決めている	13.1%
11 ガラス飛散防止をしている	6.7%	12 ガスボンベが倒れないようにしている	17.2%
13 非常持出品を用意している	50.8%		
14 その他(具体的に	1.8%	)	
15 特に備えていない	10.6%		

1.0%

問11-1(5ページ)へ進んでください。

<問11で「13 非常持出品を用意している」を選んだ方にお伺いします。>

問11 - 1 非常持出品として何を用意していますか。(はいくつでも)

1 携帯ラジオ	66.4%	2 懐中電灯	90.8%	3 予備の乾電池	51.8%
4 ヘルメット・防災頭巾	35.5%	5 非常食	75.0%	6 飲料水	76.1%
7 ティッシュペーパー・トイレトペーパー	55.3%	8 スプーン・はし・カップ	25.5%		
9 下着・くつ下	37.6%	10 救急薬品・常備薬	40.7%	11 お薬手帳	8.2%
12 タオル	56.3%	13 手ぶくろ	45.2%	14 現金	23.0%
15 雨具	22.5%	16 毛布又は寝袋	22.4%	17 ビニール袋	40.0%
18 リュックサック	56.5%	19 筆記用具・ノート	20.2%	20 ライター・マッチ	35.1%
21 ナイフ・缶切り	19.3%	22 生理用品・おむつ	25.0%	23 くつ・スリッパ	24.4%
24 その他(具体的に			9.6%	)	

0.0%

<全ての方にお伺いします。>

問12 あなたの住んでいる地域はどのような被害の発生が予想される地域ですか。(該当するものすべてに )

1 津波危険予想地域	31.3%	2 山・崖崩れ危険予想地域	16.5%
3 液状化危険度が高い地域	12.1%	4 延焼火災予想地域	9.6%
5 特にない	23.2%	6 わからない	22.9%

0.9%

### 3 住宅の耐震補強について

昭和56年以前の木造住宅は、古い耐震基準の建物で、予想される東海地震が発生した場合には、立地する地盤等にもよりますが、大きな被害が起こる可能性があると推測されます。このことを踏まえた上でお答えください。

<全ての方にお伺いします。>

問13 あなたの住まいの家は、次のどれにあたりますか。( は1つ)

1 木造住宅	77.6%	2 鉄骨造住宅	14.7%
3 鉄筋コンクリート造住宅	5.2%	4 その他(具体的に	1.4%

1.1%

木造住宅以外の方は、問14(8ページ)へ進んでください。

<問13で「1 木造住宅」を選んだ方にお伺いします。>

問13-1 あなたの住まいの「木造住宅」は、いつ建てられた住宅ですか。( は1つ)

1 昭和56年5月以前	37.6%	2 昭和56年6月以降	61.6%
-------------	-------	-------------	-------

0.8%

昭和56年6月以降の方は、問14(8ページ)へ進んでください。

<問13-1で「1 昭和56年5月以前」を選んだ方にお伺いします。>

問13-2 市町では、昭和56年5月以前に建てられた木造住宅の耐震診断を無料で実施していることを知っていますか。( は1つ)

1 知っている	63.2%	2 知らない	28.4%
---------	-------	--------	-------

8.5%

<問13-1で「1 昭和56年5月以前」を選んだ方にお伺いします。>

問13-3 耐震診断をしたことがありますか。( は1つ)

1 ある	25.4%	2 検討中	5.6%	3 ない	67.0%
------	-------	-------	------	------	-------

2.0%

問14(8ページ)へ進んでください。

<問13-3で「3 ない」を選んだ方にお伺いします。>

問13-3-1 耐震診断をしないのはなぜですか。( は1つ)

1 診断方法がわからないから	17.9%	2 手間がかかるから	7.9%
3 費用がかかるから	17.0%	4 診断しても大地震の被害は避けられないと思うから	32.8%
5 東海地震が起こると思わないから	0.9%	6 借家だから	7.9%
7 診断するまでもなく、住んでいる家は安全につくってあり必要だと思わないから	1.7%		
8 その他(具体的に	12.2%		

1.7%

回答後、問14(8ページ)へ進んでください。

問13-3-2(7ページ)へ進んでください。

<問13-3で「1 ある」を選んだ方にお伺いします。>

問13-3-2 結果はいかがでしたか。(は1つ)

1 補強が必要 77.0%	2 補強は不要 20.7%	→ 問14(8ページ)へ進んでください
---------------	---------------	---------------------

2.3%

<問13-3-2で「1 補強が必要」を選んだ方にお伺いします。>

問13-3-3 診断後、補強しましたか。(は1つ)

1 した 43.3%	2 検討中 25.4%	3 しない 31.3%
------------	-------------	-------------

→ 問14(8ページ)へ進んでください

0.0%

<問13-3-3で「3 しない」を選んだ方にお伺いします。>

問13-3-4 補強をしないのはなぜですか。(はいくつでも)

1 補強のやり方が分からないから 0.0%	2 費用がかかるから 71.4%
3 手間がかかるから 9.5%	4 工事をどこに頼んだらよいか分からないから 0.0%
5 補強しても大地震の被害は避けられないと思うから 19.0%	6 借家だから 0.0%
7 その他(具体的に 19.0%)	)

9.5%

<全ての方にお伺いします。>

問14 現在、静岡県では木造住宅の耐震化促進事業『プロジェクト“<sup>トウカイ</sup>TOUKAI（東海・倒壊）- 0（ゼロ）』を推進しています。この事業の内容は、**専門家による無料耐震診断** **耐震補強計画策定への補助** **耐震補強工事への補助**の3つの項目からなっています。あなたは、このことをご存知でしたか。（は1つ）

1 内容までよく知っている	4.4%	2 一部知っている	30.6%
3 名前だけしか知らない	16.3%	4 知らなかった	45.8%

-----▶ 問15へ進んでください

3.0%

<問14で「1 内容までよく知っている」「2 一部知っている」のいずれかを選んだ方にお伺いします。>

▶ 問14 - 1 あなたは『プロジェクト“<sup>トウカイ</sup>TOUKAI（東海・倒壊）- 0（ゼロ）』をどのようにして知りましたか。（はいくつでも）

1 新聞記事	31.3%	2 県や市町の広報誌	48.2%	3 県や市町のパンフレット	18.8%
4 役所に直接聞いた	2.4%	5 自主防災新聞	7.8%	6 テレビ・ラジオ	31.3%
7 回覧板	16.4%	8 県のホームページ	1.5%	9 市町のホームページ	2.2%
10 市町からのアンケート調査	1.2%	11 その他（具体的に	5.4%		

19.3%

<問14で「1 内容までよく知っている」「2 一部知っている」のいずれかを選んだ方にお伺いします。>

▶ 問14 - 2 あなたは『プロジェクト“<sup>トウカイ</sup>TOUKAI（東海・倒壊）- 0（ゼロ）』を知って、どのような行動をされましたか。（はいくつでも）

1 簡易耐震診断を自分で行った	7.6%	2 専門家による耐震診断を実施した	11.5%
3 耐震補強計画を作成した	0.7%	4 自宅の耐震補強工事を実施した	4.9%
5 今後、自宅の耐震補強をしたいと考えている	7.8%	6 今の自宅を建て替えることにした	3.4%
7 自宅は木造住宅であるが、特に何もしていない			32.0%
8 自宅は木造住宅であるが、耐震性は確保されているので特に何もしていない			22.7%
9 自宅は木造住宅ではないので、特に何もしていない			12.7%
10 その他（具体的に	8.1%		

8.3%

<全ての方にお伺いします。>

問15 今後、あなたのお住まいの家の耐震化をする場合、県や市町に対して要望することがありますか。次の中からあてはまるものをお選びください。（はいくつでも）

1 相談窓口の設置	33.5%	2 地区ごとの説明会の実施	23.1%
3 専門家の派遣	25.9%	4 耐震補強工事に対する助成制度の拡充	54.2%
5 低金利資金による貸付	24.3%	6 アパート等のオーナーに対する指導	5.1%
7 なぜ危険なのかを示した詳細な説明パンフレット	29.8%	8 その他（具体的に	3.1%

7.2%



#### 4 自主防災組織・防災訓練について

<全ての方にお伺いします。>

問16 あなたのお宅は、町内会（自治会）組織に入っていますか。（は1つ）

1 入っている	92.4%	2 入っていない	2.9%
3 町内会（自治会）組織はない	0.9%	4 わからない	3.0%

0.8%

<全ての方にお伺いします。>

問17 あなたのお宅は、地域の自主防災組織に入っていますか。（は1つ）

1 入っている	69.1%	2 入っていない	7.9%
3 自主防災組織はない	1.1%	4 わからない	20.2%

1.6%

<問17で「1 入っている」を選んだ方にお伺いします。>

問17-1 あなたの地区の自主防災組織の活動は活発ですか。（は1つ）

1 活発である	13.3%	2 まあまあ活動している	60.4%	3 あまり活動していない	18.2%
4 活動していない	1.5%	5 わからない	5.7%		

0.9%

<全ての方にお伺いします。>

問18 自主防災組織の活動をさらに高めるには、県や市町はどのようにすればよいと思いますか。（はいくつでも）

1 自主防災組織の活動内容をもっと住民にPRする	61.0%	2 自主防災組織に活動の場所や施設を提供する	24.5%
3 自主防災組織の指導者に対して教育を行う	25.8%		
4 自主防災組織の会長の委任を受け、研修を受けた人が指導する体制をすすめる	18.5%		
5 消防団・近隣事務所など、他の消防関係機関との連携を進める	35.9%		
6 助けが必要な人に関する情報を自主防災組織に伝える	33.6%		
7 その他（具体的に	3.9%		）

3.4%

<全ての方にお伺いします。>

問19 あなたは、過去1年間に、地域や職場の地震防災訓練に参加したことがありますか。(はいいくつでも)

1 総合防災訓練(9月1日)に参加した	24.5%	2 地域防災訓練(12月第一日曜日)に参加した	23.7%
3 その他の防災訓練に参加した	23.0%	4 機会がなかった(訓練はなかった)	7.5%
5 参加しなかった	33.3%		

1.0%

<問19で「1 総合防災訓練(9月1日)に参加した」「2 地域防災訓練(12月第一日曜日)に参加した」「3 その他の防災訓練に参加した」のいずれかを選んだ方にお伺いします。>

問19-1 その防災訓練はどちらで参加しましたか。(はいいくつでも)

1 自主防災組織(町内会)での訓練に参加した	69.4%	2 職場や学校での訓練に参加した	36.0%
3 その他(訓練の実施主体を具体的に	1.0%	)	

5.4%

<問19で「5 参加しなかった」を選んだ方にお伺いします。>

問19-2 参加しなかった理由は何ですか。(はい1つ)

1 仕事や用事があったから	59.7%	2 訓練実施を知らなかったから	9.7%
3 面倒だったから	4.9%	4 参加の必要性を感じないから	4.6%
5 毎回同じ訓練内容だから	7.7%	6 その他(具体的に	12.1%

1.3%

<全ての方にお伺いします。>

問20 東海地震が予知され警戒宣言が発せられたときや、突然、東海地震が起きたときの避難のため、市町はあらかじめ避難地を指定していますが、あなたはそのことをご存知ですか。(はい1つ)

1 どこが避難地であるか知っている	71.5%	2 避難地があることは知っている	19.9%
3 知らない	7.3%		

1.3%

<全ての方にお伺いします。>

問21 あなたは避難所で避難生活を送る場合、どのようなことが心配ですか。次の1～12について、あてはまる項目にそれぞれ**1つずつ**をつけてください。

質 問 項 目	非常に心配	ある程度心配	あまり心配はない	全く心配していない (該当しない)	
1 食料や水の問題	50.8%	38.7%	8.5%	0.4%	1.6%
2 日用品(毛布や下着など)の問題	38.9%	48.0%	10.4%	0.5%	2.1%
3 自分や家族が病気になったときの医療問題	63.2%	28.0%	4.5%	0.8%	3.5%
4 乳幼児、高齢者、体の不自由な者がいるので、一般の人と一緒に生活できるか心配	27.6%	25.2%	17.7%	24.6%	5.0%
5 洗濯や入浴の問題	41.2%	46.4%	9.4%	0.6%	2.5%
6 トイレの問題	65.2%	27.0%	5.1%	0.6%	2.0%
7 応急の仮設住宅がいつ建設されるか心配	35.9%	44.7%	14.4%	2.3%	2.6%
8 不安や精神的なストレスのため体調を崩してしまいそうで心配	37.6%	39.2%	18.7%	2.1%	2.4%
9 プライバシーの問題	45.3%	39.3%	11.1%	1.9%	2.4%
10 離ればなれになった家族や親戚などの安否が気になる	69.5%	22.8%	4.0%	1.6%	2.0%
11 ペット(犬や小鳥など)の問題	22.5%	15.0%	8.9%	48.2%	5.3%
12 避難する場所が少なく(狭く)全ての避難者を収容できるか心配	39.7%	40.6%	12.8%	2.7%	4.1%
その他、心配なことがありましたら具体的にお書きください。					

## 5 東海地震が突然発生したときの行動について

以下の質問は、突然、震度6強（固定していない家具類はほとんど倒れ、足元がさらわれ、立っていることができない状態）以上の地震が起こった場合を想定しておたずねします。

<全ての方にお伺いします。>

問22 平日の午前11時頃に突然地震が起こった場合、揺れがおさまったらあなたがまず最初にすることを下記の項目の中から1つ選び、A欄に をつけてください。また、その次にすることを3つ選んでB欄に をつけてください。

選 択 項 目	A欄 まず最初にすること ( は1つ)	B欄 その次にすること ( は3つ)
1 テレビやラジオで正確な情報を得る	48.3%	39.5%
2 電話で情報を確認する	0.5%	4.2%
3 インターネットで情報を確認する	1.4%	6.6%
4 非常持出品の準備をしたり、身軽な服装に着替える	5.5%	48.0%
5 家の中の整理や火の始末をする	13.7%	31.7%
6 飲料水の用意や風呂に水をためる	0.3%	19.1%
7 家族の安否を確認する（災害用伝言ダイヤルや携帯電話メール等）	12.2%	51.6%
8 子供を学校や幼稚園へ迎えに行く	2.4%	12.6%
9 買出しに行く	0.1%	2.0%
10 預金を引き出しに行く	0.0%	2.1%
11 帰宅する	3.2%	15.3%
12 自主防災組織や職場で決められた防災上の役割をする	3.8%	10.8%
13 指定された避難先又は安全と思われる場所へ避難する	6.1%	35.4%
14 その他	0.8%	1.9%
15 何もしない	0.2%	0.5%
	1.7%	2.9%

<全ての方にお伺いします。>

問23 突然、地震が起こった場合、あなたは自主的に地域の防災活動に参加しますか。( は1つ)

1 参加する	36.9%	2 参加しない	6.3%	3 わからない	53.5%
					3.2%

<全ての方にお伺いします。>

問24 突然、地震が起こった場合、あなた自身の安全についてどう考えていますか。( は1つ)

1 まず無事だと思う	15.7%	2 軽いけががぐらいいはするかもしれない	41.8%
3 大けがをする危険があると思う	13.5%	4 死ぬ恐れもあると思う	25.9%
			3.2%

<全ての方にお伺いします。>

問25 あなたがご自宅にいるときに、突然地震が起こった場合、あなたやご家族は避難しますか。また、避難する場合はどこに避難しますか。( は1つ)

1 避難しない	29.5%	2 市町が指定した避難地	44.8%
3 自宅周辺の広場など指定された避難地以外の場所	17.8%	4 親戚、知人宅	1.8%
5 その他(具体的に	3.8%		)
			2.1%

<問25で「1 避難しない」以外を選んだ方にお伺いします。>

問25-1 避難する理由は何ですか。( は1つ)

1 自宅又はその周辺は、津波や山・がけ崩れのいずれかの危険が予想されるから	25.5%
2 自宅の周辺が住宅密集地で、延焼火災の危険が予想されるから	4.9%
3 自宅の耐震性がないから(自宅が倒壊またはその危険があるから)	16.3%
4 自宅の倒壊の危険はないが、不安だから	23.5%
5 その他(具体的に	4.6%
	25.3%

## 6 警戒宣言が発せられたときの行動について

<全ての方にお伺いします。>

問26 あなたが平日の午前11時頃に警戒宣言が発せられたと仮定して、まず最初にすることを下記の項目の中から1つ選び、A欄に をつけてください。また、その次にすることを3つ選んでB欄に をつけてください。

選 択 項 目	A欄 まず最初にすること ( は1つ)	B欄 その次にすること ( は3つ)
1 テレビやラジオで正確な情報を得る	57.6%	30.9%
2 電話で情報を確認する	0.4%	4.3%
3 インターネットで情報を確認する	1.9%	8.3%
4 非常持出品の準備をしたり、身軽な服装に着替える	6.7%	53.7%
5 家の中の整理や火の始末をする	8.0%	35.4%
6 飲料水の用意や風呂に水をためる	0.8%	24.8%
7 家族と電話で連絡をとる	7.5%	50.6%
8 子供を学校や幼稚園へ迎えに行く	2.9%	12.0%
9 買出しに行く	0.0%	4.3%
10 預金を引き出しに行く	0.0%	4.1%
11 帰宅する	3.8%	14.4%
12 自主防災組織や職場で決められた防災上の役割をする	4.2%	8.9%
13 指定された避難先又は安全と思われる場所へ避難する	3.5%	28.7%
14 その他	0.7%	1.9%
15 何もしない	0.3%	0.8%
	1.8%	2.8%

<全ての方にお伺いします。>

問27 あなたのお宅は、警戒宣言が発せられたとき、避難が必要な地域ですか。( は1つ)

1 避難が必要な地域	30.2%	2 避難する必要のない地域	24.2%	3 わからない	43.6%
------------	-------	---------------	-------	---------	-------

2.0%

<全ての方にお伺いします。>

問28 あなたやご家族は、自宅にいて警戒宣言が発せられた場合、避難しますか。( は1つ)

1 市町で指定した避難地	49.1%	2 指定された避難地以外の安全な場所	10.8%		
3 親戚、知人宅	2.3%	4 自宅にいる	34.8%	5 その他(具体的に	1.5%

1.6%

<問28で「1 市町で指定した避難地」「2 指定された避難地以外の安全な場所」「3 親戚、知人宅」のいずれかを選んだ方にお伺いします。>

問28-1 避難するときの交通手段は何ですか。( は1つ)

1 徒歩	75.7%	2 自転車	4.4%	3 原付・バイク	0.7%	4 自家用車	12.1%
5 公共交通機関(電車・バス・タクシー等)	0.0%	6 その他(具体的に	0.1%				

7.0%

<問28-1で「4 自家用車」を選んだ方にお伺いします。>

問28-1-1 なぜ自家用車で避難するのですか。( は1つ) ←

1 避難地が遠いから	26.1%	2 子供や高齢者がいるから	36.4%	3 早く避難できるから	14.8%
4 荷物も運びたいから	11.4%	5 その他(具体的に	8.0%		

3.4%

<問28で「1 市町で指定した避難地」を選んだ方のみにお伺いします。>

問28-2 避難地での生活はどのようになるとお思いますか。(屋外・屋内など)( は1つ)

1 屋外でのテント生活になると思う	3.8%
2 体の丈夫な人は屋外になると思うが、お年寄りや病人は屋内での生活になると思う	12.0%
3 体育館や学校校舎など屋内での生活になると思う	67.8%
4 わからない	13.6%

2.8%

<問28で「2 指定された避難地以外の安全な場所」「3 親戚、知人宅」「4 自宅にいる」のいずれかを選んだ方にお伺いします。>

問28-3 市町で指定した避難地へ避難しない理由は何ですか。( は1つ) ←

1 避難地が遠すぎるから	6.4%	2 避難地へ行く途中の道に危険なところがあるから	5.9%
3 避難地自体が安全だと思わないから	20.0%	4 避難地での生活が野外のテント生活になると思うから	2.0%
5 どこが避難地なのか知らないから	3.4%	6 避難の際、住民の間でパニックなどの混乱が予想されるから	9.8%
7 高齢者や病人がいるから	9.6%	8 自主防災組織などの避難誘導體制が不十分であるから	0.5%
9 避難地ではプライバシーが守れないから	5.2%	10 避難所が狭いから	4.3%
11 その他(具体的に	13.2%		

19.6%

## 7 地震に関する情報について

<全ての方にお伺いします。>

問29 東海地震に関連する情報として「東海地震に関連する調査情報」「東海地震注意情報」「東海地震予知情報（警戒宣言）」の3つがあります。あなたは、このことをご存知でしたか。（は1つ）

- |                   |       |                       |       |
|-------------------|-------|-----------------------|-------|
| 1 情報の詳しい内容まで知っている | 5.4%  | 2 情報名は知っているが内容までは知らない | 58.4% |
| 3 全く知らなかった        | 35.8% |                       |       |

0.4%

<全ての方にお伺いします。>

問30 あなたは、現時点で東海地震は予知できると思いますか。（は1つ）

- |                     |       |                           |       |
|---------------------|-------|---------------------------|-------|
| 1 完全に予知できると思う       | 0.4%  | 2 8割以上の確率で予知できると思う        | 7.8%  |
| 3 5割くらいの確率で予知できると思う | 20.2% | 4 全くできないとは思わないが、予知は難しいと思う | 58.8% |
| 5 予知はできないと思う        | 12.4% |                           |       |

0.4%

<全ての方にお伺いします。>

問31 平成23年3月24日午後1時から、「東海地震観測情報」は「東海地震に関連する調査情報」に変更されました。あなたは、このことをご存知でしたか。（は1つ）

- |                   |       |                       |       |
|-------------------|-------|-----------------------|-------|
| 1 情報の詳しい内容まで知っている | 3.0%  | 2 情報名は知っているが内容までは知らない | 28.4% |
| 3 全く知らなかった        | 68.1% |                       |       |

0.6%

<地震に関する情報について>

### 東海地震に関連する 調査情報

【定例】毎月の定例の判定会の調査結果を発表する情報。  
 【臨時】観測データに通常とは異なる変化が観測された場合、その変化の原因についての調査状況を発表する情報。  
 家庭では・・・  
 防災対応は特にありません。平常どおり生活しよう。



危険度アップ

### 東海地震注意情報

観測された現象が前兆現象である可能性が高まった場合に発表される情報。  
 家庭では・・・  
 地元のテレビ、ラジオなどの情報に注意し、念のために家の中や非常持ち出し品の再点検をしよう。



危険度アップ

### 東海地震予知情報 (警戒宣言)

東海地震の発生のおそれがあると判断した場合に発表される情報。  
 家庭では・・・  
 地元のテレビ、ラジオなどの情報に注意するとともに、東海地震の発生に十分に警戒しよう。津波や山・崖崩れの危険予想地域内であれば、すみやかに指定避難地に避難しよう。

<全ての方にお伺いします。>

問32 「警戒宣言」を発するには至らないが、東海地震の前兆現象が起きている可能性が高いと認められたとき、気象庁から「東海地震注意情報」が発表されます。このような場合に、まず最初にすることを下記の項目の中から1つ選び、A欄に をつけてください。また、その次にすることを3つ選んでB欄に をつけてください。

選 択 項 目	A欄 まず最初にすること ( は1つ)	B欄 その次にすること ( は3つ)
1 テレビやラジオで正確な情報を得る	64.3%	25.0%
2 電話で情報を確認する	0.3%	3.0%
3 インターネットで情報を確認する	2.9%	11.1%
4 非常持出品の準備をしたり、身軽な服装に着替える	7.4%	60.8%
5 家の中の整理や火の始末をする	4.4%	36.6%
6 飲料水の用意や風呂に水をためる	1.1%	34.0%
7 家族と電話で連絡をとる	6.7%	46.7%
8 子供を学校や幼稚園へ迎えに行く	3.2%	10.2%
9 買出しに行く	1.0%	12.2%
10 預金を引き出しに行く	0.5%	8.3%
11 帰宅する	2.9%	11.3%
12 自主防災組織や職場で決められた防災上の役割をする	1.8%	6.7%
13 指定された避難先又は安全と思われる場所へ避難する	0.6%	13.9%
14 その他	0.1%	1.6%
15 何もしない	0.3%	1.1%
	2.4%	3.4%

<全ての方にお伺いします。>

問33 「東海地震注意情報」が発表された場合、県や市町にどのような対応を望みますか。( は2つまで)

1 情報発表後に予想される社会的混乱(交通・通信・物価等)を防止してほしい	45.1%
2 地震発生までの県民のとるべき行動の広報・啓発をしてほしい	36.7%
3 地震が発生した後の県民のとるべき行動の広報・啓発をしてほしい	22.5%
4 避難所の開設準備をすすめてほしい	20.2%
5 緊急物資(食料・飲料水・医薬品等)を準備してほしい	50.7%
6 消防水利や山・がけ崩れ等、地域の安全点検を実施してほしい	6.1%
7 その他(具体的に	0.6%
	4.5%



<全ての方にお伺いします。>

問34 次の1～19の項目について「はい」「いいえ」の欄に をつけてください。

質 問 項 目	はい	いいえ	
1 「自主防災」新聞を読んだことがある	52.1%	45.9%	2.0%
2 自主防災組織の研修会に参加したことがある	16.8%	81.0%	2.2%
3 市町が避難対象地区の指定をしていることを知っている	50.6%	46.0%	3.4%
4 避難地・避難路の整備がされていることを知っている	32.0%	64.5%	3.5%
5 防潮堤、防波堤、山崩れ防止工事など防災施設の整備がされていることを知っている	39.6%	56.7%	3.7%
6 市町が津波避難ビルの指定をしていることを知っている	32.3%	64.4%	3.3%
7 避難誘導板、海拔表示板、津波警告板を見たことがある	50.3%	46.8%	2.9%
8 町内の防火のための水利（いざというときに利用する水源）を知っている	36.2%	61.1%	2.6%
9 町内の防災倉庫がある場所を知っている	70.5%	27.3%	2.1%
10 地震防災ビデオを見たことがある	38.7%	59.0%	2.3%
11 地震体験車（起震車）などで地震の疑似体験をしたことがある	40.4%	57.3%	2.3%
12 地震防災に関する講演会等に参加したことがある	20.1%	77.4%	2.6%
13 静岡県地震防災センター（静岡市葵区駒形分通）に行ったことがある	14.3%	83.5%	2.1%
14 建物の耐震対策について市町や県の土木事務所に相談窓口があることを知っている	31.2%	66.3%	2.6%
15 災害用伝言ダイヤル「171」や携帯電話のメールサービス「災害伝言板」を知っている	75.2%	22.6%	2.1%
16 地震防災に関するパンフレットを読んだことがある	66.0%	31.9%	2.1%
17 11月が地震防災強化月間であることを知っている	19.3%	77.6%	3.1%
18 「静岡県地震対策推進条例」があることを知っている	13.9%	83.2%	2.9%
19 「命のパスポート」を知っている	11.1%	86.1%	2.8%

<全ての方にお伺いします。>

問35 現在、「自主防災」新聞は原則回覧としていますが、全戸配布して欲しいと思いますか。（ は1つ）

1 全戸配布してほしい	59.8%	2 全戸配布でなくてもよい	37.3%
-------------	-------	---------------	-------

2.9%

## 8 緊急地震速報について

緊急地震速報とは、地震の強い揺れが来ることを、揺れる前にお知らせする情報です。  
平成19年10月1日から、気象庁からテレビ、ラジオ、エリアメールなどを通じて提供されています。

<全ての方にお伺いします。>

問36 あなたは、緊急地震速報について知っていましたか。( は1つ)

1 名前も内容も知っていた	71.0%	2 名前は知らなかったが内容は知っていた	7.0%
3 名前は知っていたが内容は知らなかった	17.0%	4 名前も内容も知らなかった	3.2%

1.8%

<問36で「1 名前も内容も知っていた」「2 名前は知らなかったが内容は知っていた」のいずれかを選んだ方にお伺いします。>

→ 問36 - 1 緊急地震速報は、揺れの大きさの予想などに誤差が含まれる情報であることをご存知ですか。( は1つ)

1 知っている	72.6%	2 知らない	17.7%
---------	-------	--------	-------

9.6%

<問36で「1 名前も内容も知っていた」「2 名前は知らなかったが内容は知っていた」のいずれかを選んだ方にお伺いします。>

→ 問36 - 2 あなたは、緊急地震速報を受け取ったとき、どのように行動すれば良かったか考えたことはありますか。( は1つ)

1 考えたことがある	73.6%	2 考えたことがない	20.3%
------------	-------	------------	-------

6.1%

<全ての方にお伺いします。>

問37 あなたは、屋内で緊急地震速報を受け取ったとき、どのように行動しますか。( は1つ)

1 その場で身の安全を図る	77.2%	2 屋外へ避難する	17.4%
3 何もしない	2.1%	4 その他(具体的に	2.0%

1.2%

## 9 東日本大震災に関することについて

平成 23 年 3 月 11 日（金）午後 2 時 46 分頃、三陸沖を震源（深さ 24km）とするマグニチュード 9.0 の地震が発生しました。その地震に関することについておたずねします。

< 全ての方にお伺いします。 >

問38 地震直後、あなたはどのような手段で地震の情報を入手しましたか。

次のなかからあてはまるものをいくつでもお答えください。（はいくつでも）

1 テレビ	81.0%	2 ラジオ	21.7%
3 同報無線	4.0%	4 パソコンのインターネット	13.3%
5 携帯電話のインターネット	15.5%	6 情報を入手しなかった	1.4%
7 その他（具体的に	6.5%		）

0.9%

< 全ての方にお伺いします。 >

問39 地震直後、あなたはどのようなことを知りたかったですか。

次のなかからあてはまるものをいくつでもお答えください。（はいくつでも）

1 今回の地震が東海地震に結びつくかどうか	68.3%
2 まもなく大きな地震がくる前ぶれかどうか	46.4%
3 今回の地震についての、震源地や規模など	60.4%
4 余震の可能性	40.7%
5 自分や自分の家族が避難すべきかどうか	24.3%
6 自分の住む地域にどんな被害が起こっているかについて	40.3%
7 家族の安否や居所	44.2%
8 市町村や消防の対応状況	7.9%
9 道路、通信、電気、ガス、水道が大丈夫かといった情報	40.3%
10 公共交通機関（電車・バス等）の運行状況	22.3%
11 その他（具体的に：	2.7%
12 特になかった	0.9%

1.1%

<全ての方にお伺いします。>

問40 あなたは、3月11日の東日本大震災の後に、新たに実施した防災対策がありますか。次の中からあてはまるものをA欄にいくつでもお答えください。  
また、今後、1年間以内（平成24年10月まで）にあらためて実施しようと考えている防災対策がありますか。次の中からあてはまるものをB欄にいくつでもお答えください。（はA・Bの欄にいくつでも）

質 問 項 目	A 欄 実施した	B 欄 今後実施する予定
1 家具を何も置いていない部屋を寝室にした	11.9%	7.5%
2 寝室の家具を移した	7.3%	7.8%
3 ガスを使わないときには元栓を締めるようにした	17.2%	7.8%
4 火気器具のまわりを整理するようにした	15.2%	6.9%
5 石油ストーブは、耐震自動消火装置付きのものにした	10.8%	4.3%
6 風呂にいつも水を入れるようにした	18.4%	8.6%
7 消火器や水を入れたバケツなどを用意するようにした	10.8%	7.9%
8 ガラス飛散防止をした	4.0%	14.0%
9 プロパンガスボンベが倒れないようにした	8.0%	3.6%
10 家具が倒れないように固定した	16.0%	19.4%
11 ブロック塀の点検や転倒防止を施した	4.4%	6.6%
12 防災訓練に積極的に参加した	13.2%	8.9%
13 非常持出品を用意した	39.6%	19.2%
14 耐震診断を実施した	3.4%	7.1%
15 耐震補強を実施した	2.6%	6.6%
16 棚の上の重いものをおろした	20.1%	7.9%
17 食料・飲料水を備蓄した	44.0%	18.9%
18 割れたガラスから保護するためにスリッパ、運動靴などを用意した	21.9%	14.4%
19 防災についての家族の役割を話しあった	12.5%	11.6%
20 自分の住んでいる地域の危険性を確認した（津波危険予想地域、山・崖崩れ危険予想地域など）	24.9%	7.9%
21 家の中で「とっさ」に逃げる場所を決めた	19.0%	11.8%
22 家族との連絡方法を決めた	23.0%	18.4%
23 地震の時に避難する場所を決めた	30.6%	10.7%
24 家族が離ればなれになったとき落ち合う場所を決めた	24.6%	18.5%
25 自宅や勤め先付近の安全な避難路を確認した	14.5%	11.3%
26 幼稚園、小学校の児童の引き取り方法を決めた	9.6%	3.8%
26 その他（具体的に： )	1.1%	0.8%
27 特に何もしていない	7.9%	3.3%
	8.0%	31.9%

<全ての方にお伺いします。>

問41 あなたは、東日本大震災の状況を踏まえて、今後、県や市町に対して要望することがありますか。  
次の中からあてはまるものをいくつでもお答えください。(はいいくつでも)

1	防潮堤、防波堤、水門等の整備	36.7%
2	津波から一時避難するための高台の整備	41.9%
3	津波避難ビル、避難タワーの設置	36.9%
4	海岸から高台へ緊急避難するための避難階段や手すりの整備	17.8%
5	避難通路の安全性確保(障害物撤去、夜間照明の設置など)	37.1%
6	地震や津波でも壊れない避難所となる安全な公共施設の整備	51.7%
7	高所移転できる場所の整備	16.0%
8	津波避難看板、海拔表示の設置	23.1%
9	山・がけ崩れ防止施設の整備	27.3%
10	自主防災組織の活性化に向けた支援	21.1%
11	防災に関する公開講座、研修会等の実施	9.7%
12	防災訓練の実施強化	16.4%
13	災害時要援護者支援計画の策定促進	11.0%
14	ハザードマップの作成、配布	44.4%
15	地震被害想定の見直し	35.1%
16	同報無線等による緊急時の情報伝達の強化	34.6%
17	防災に関する情報提供の充実	31.8%
18	漁船や貨物などの流出対策	5.6%
19	オイルタンク流出に伴う火災対策	11.0%
20	港湾施設内への津波情報伝達施設の設置	7.9%
21	その他(具体的に )	6.9%

4.4%

## 10 あなたやお宅のことについて

<全ての方にお伺いします。>

F 1 性別 ( は1つ)

1 男性	45.6%	2 女性	52.9%
------	-------	------	-------

1.5%

<全ての方にお伺いします。>

F 2 年齢 ( は1つ)

1 20~29歳	14.3%	2 30~39歳	15.3%	3 40~49歳	20.4%	4 50~59歳	22.5%	5 60歳以上	26.0%
----------	-------	----------	-------	----------	-------	----------	-------	---------	-------

1.5%

<全ての方にお伺いします。>

F 3 職業 ( は1つ)

1 正社員として勤務 (会社員、公務員、医療関係を含む)	38.6%						
2 正社員以外として勤務 (パート、フリーターを含む)	20.5%						
3 自営業	9.8%	4 農林漁業経営者	1.4%	5 学生	3.0%	6 無職	22.6%
7 その他 (具体的に	2.6%	)					

1.5%

<全ての方にお伺いします。>

F 4 あなたは、現在のところにお住みになって何年くらいになりますか。( は1つ)

1 1年未満	3.1%	2 1~10年未満	18.0%	3 10年以上	77.5%
--------	------	-----------	-------	---------	-------

1.5%

<全ての方にお伺いします。>

F 5 あなたのお宅は、次のどれにあたりますか。( は1つ)

1 持家	90.6%	2 借家	4.3%	3 分譲マンション	0.3%
4 賃貸マンション・アパート	2.2%	5 その他 (具体的に	1.2%	)	

1.5%

<全ての方にお伺いします。>

F 6 あなたのお宅はどのような建物や家財に関わる保険に加入していますか。( はいくつでも)

1 火災保険	66.5%	2 地震保険	35.7%	3 農協の建物更生共済 (建更)	23.1%
4 家財等の保険	28.7%	5 加入していない	7.2%	6 わからない	8.6%

1.6%

<全ての方にお伺いします。>

F7 あなたのお宅には次に該当する方がおられますか。( はいいくつでも)

1 小学校に入学する前の子供	12.9%	2 小学生	16.1%	3 65歳以上の方	50.9%
4 日常生活に介護を必要とする方	7.3%	5 妊産婦	1.3%	6 いない	27.8%

4.2%

<全ての方にお伺いします。>

F8 あなたは、近所づきあいをどのようにしていますか。( は1つ)

1 ほとんどつきあいが無い	3.1%	2 挨拶をする程度	32.5%
3 ときどき立ち話をする程度	45.2%	4 留守を頼んだり、親しく話をする	17.6%

1.7%

<全ての方にお伺いします。>

F9 あなたのお住まいの市町はどちらですか。( は1つ)

1 下田市	7.9%	2 東伊豆町	4.8%	3 河津町	0.0%		
4 南伊豆町	0.0%	5 松崎町	1.5%	6 西伊豆町	0.0%		
7 沼津市	17.3%	8 熱海市	3.3%	9 三島市	10.6%	10 富士宮市	11.8%
11 伊東市	4.8%	12 富士市	20.9%	13 御殿場市	7.3%	14 裾野市	3.6%
15 伊豆市	2.1%	16 伊豆の国市	3.9%	17 函南町	1.0%	18 清水町	0.9%
19 長泉町	1.4%	20 小山町	0.0%				
21 静岡市	19.4%	22 島田市	2.6%	23 焼津市	4.4%	24 藤枝市	3.2%
25 牧之原市	1.5%	26 吉田町	0.7%	27 川根本町	0.0%		
28 浜松市	21.5%	29 磐田市	5.2%	30 掛川市	3.2%	31 袋井市	2.0%
32 湖西市	1.2%	33 御前崎市	0.8%	34 菊川市	1.0%	35 森町	0.4%

1.5%

お疲れ様でした。

質問は以上で終了です。ご協力ありがとうございました。

**平成23年度 東海地震についての県民意識調査  
報告書**

印刷・発行 平成24年1月

発行：静岡県危機管理部危機情報課  
静岡市葵区追手町9番6号  
TEL (054) 221-2644

分析：株式会社e-エントリー  
静岡市駿河区池田274番地の2  
TEL (054) 263-5690